

高等専門学校機関別認証評価

# 自己評価書

平成19年6月

近畿大学工業高等専門学校



目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	5
	基準2 教育組織（実施体制）	19
	基準3 教員及び教育支援者	47
	基準4 学生の受入	75
	基準5 教育内容及び方法	91
	基準6 教育の成果	157
	基準7 学生支援等	185
	基準8 施設・設備	207
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	219
	基準10 財務	247
	基準11 管理運営	267



## I 高等専門学校の現況及び特徴

### 1 現況

(1) 高等専門学校名：近畿大学工業高等専門学校

(2) 所在地：三重県熊野市

(3) 学科等の構成

学 科：総合システム工学科、機械システム工学科、  
電気情報工学科、建設システム工学科

専攻科：生産システム工学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成19年5月1日現在）

学生数		単位：人				
準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	計
総合システム工学科	121	143	135			399
機械システム工学科				55	55	110
電気情報工学科				91	87	178
建設システム工学科				31	41	72
計	121	143	135	177	183	759

専攻科課程	1年	2年	計
生産システム工学専攻	5	9	14

専任教員数		単位：人				
準学士課程	教授	准教授	講師	助教	助手	計
一般教養科	4	4	8	3	0	19
機械システム工学科	3	5	0	0	0	8
電気情報工学科	5	7	2	0	0	14
建設システム工学科	3	2	4	0	0	9
計	15	18	14	3	0	50

### 2 特徴

近畿大学工業高等専門学校は近畿大学の併設校として中堅技術者の育成という産業界の要望により、昭和37年4月に設置された。当時の校名は熊野高等専門学校で機械工学科と電気工学科でスタートした。翌年に土木工学科が増設され、以降3工学科体制が続いた。昭和42年に熊野工業高等専門学校、更に平成12年には近畿大学工業高等専門学校と校名変更を行い同時に機械システム工学科、電気情報工学科、建設システム工学科と名称変更した。電気情報工学科では電気電子コースと情報通信コースの2コース制を取りこの年より男女共学となった。平成17年4月には3工学科を統合した総合システム工学科へ改組し、また専攻科「生産システム工学専攻」を設置して更に高度な専門教育がスタートした。

本校は設立以後教員の入れ替えや設備の増強・更新等がほとんどなく産業技術の高度化に対応できず入学者数は平成3年をピークに減少し平成11年には入学定員の1/3

以下まで減少して廃校寸前まで追い込まれた。

平成12年からの学校改革ではまず大胆な人事刷新を実施した。60歳早期退職によっておよそ70%の教員を入れ替え、改革前わずか2名だった博士取得者は現在23名に増加、産業界第一線にいた企業出身者の大量採用と相まって実学教育による高度技術者育成の体制が出来上がった。人件費を抑制した分研究費を充実させ研究実績に基づく傾斜配分によって研究活動の活性化を図った。その他、学費の低減、特待生制度による優秀な学生の確保、全国レベルの指導者採用による課外活動の活性化、寮施設や独自奨学金制度等の学生支援の充実などによって、本校は息を吹き返し入学者数は増加に転じた。

近畿大学の教育理念は建学の精神に基づく「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成する」であり、本校は人格教育を重視しその上に技術者として必要な教育を行っている。

本校の特徴を以下に列挙する。

(1) 本校は特長のある学生を入学させている関係上学生の学力の幅が広いと、それぞれ学習到達目標の異なる習熟度別クラス編成や定期試験ごとに再試験を実施することによって落ちこぼれを作らない教育を展開している。

(2) 1年次から情報処理教育を開始し、その要としてノートパソコンを全学生に無償貸与している。また寮全室にLANコンセントを完備し情報処理教育センターの時間外開放等によって自学自習の環境を整備している。

(3) 本校は地域に開かれた学校を目指して、地域との産官学共同研究を進めている。地元特産の那智黒石加工や魚アラや廃材のエネルギー再利用など地域に密着した研究活動を展開している。またIT講習会、小学生対象サイエンススクール等市民講座を積極的に開催している。

(4) 学生支援に関しては、各種相談体制、学生寮の整備、編入生・留学生の学習・生活支援、本校独自奨学金制度、進路指導等、教員自らが学生支援業務に当たっている。

(5) 課外活動は体育施設の充実、全国レベルの指導者の採用、給付奨学金制度による優秀な学生の確保、各方面からの支援によって活性化を図り好成績を収めている。

(6) 国際交流事業としては、中国シンセン外国語学校、山西師範大学外国語学院、黄山日語職業学校に加え平成18年10月に英国ミッドチェシャーカレッジと国際交流協定を締結し、国際交流を展開している。

## II 目的

近畿大学工業高等専門学校の目的とは、教育理念、学則で規定された目的、育成する技術者像、学習・教育目標、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を包括した教育目標をいう。

### 1. 近畿大学学園の教育理念

近畿大学では創設者「世耕弘一」初代総長によって示された実学の精神と人格教育からなる「建学の精神」に沿って、次の教育理念を定めている。

「教育の目的は、人に愛される人 信頼される人 尊敬される人 を育成することにある」

本校は近畿大学の併設校であり、これを踏襲して本校の教育理念としている。

### 2. 学則に規定された本校の目的

準学士課程の目的が学則第1条に「本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」と規定されている。また専攻科課程の目的は第26条に「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする」と規定されている。

### 3. 育成する技術者像

それぞれの課程で次のような技術者を育成することを目指している。

#### ○準学士課程

「社会に貢献するための広い視野からもの創りを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者」

#### ○専攻科課程

「社会の技術発展に貢献するための広い視野からもの創りを考え、それぞれの専門分野の高度な知識と幅広い工学的素養をもって、考えたものを実現していく開発型技術者」

### 4. 学習・教育目標

このような技術者の育成を実施するにあたり、次の5項目の学習・教育目標を掲げ教育活動の中でその目的達成を図っている。

- (A) 工学の基礎となる学力や技術を身につける。
- (B) 実践的なデザイン能力を身につける。
- (C) 技術者としての健全な価値観や倫理観を養う。
- (D) 幅広い教養に基づく豊かな人間性の養成
- (E) コミュニケーション能力の養成

### 5. 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

具体的にそれぞれの課程・学科を卒業または修了するとき身に付けてほしい事柄を次のように定めている。それぞれの記号は上述の学習・教育目標に対応している。

#### ○準学士課程

##### 総合システム工学科

- (A-G1) 数学、物理などの工学基礎科目における基礎学力を身につける。
- (A-G2) 実験データの集計や報告書作成にコンピュータが活用できる。
- (B-G1) 専門分野の基礎知識を修得するとともに、関連する他の分野の基礎知識を修得する。
- (B-G2) 実践的な問題に対し、修得した専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身につける。

- (B-G3) 構想したものを具体的な形に表現する CAD ソフトウェアが活用できる。
- (C-G1) 自国および世界の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した視点からものごとを考えることができる。
- (C-G2) 社会人としての健全な人格を有し、技術者に要求される倫理観を身につける。
- (D-G1) 人文科学、社会科学、自然科学の分野の基礎学力を身につける。
- (D-G2) 課外活動、特別活動、学校行事などへ参加することで豊かな人間性を身につける。
- (E-G1) 得られた結果を日本語でまとめ、プレゼンテーションができる。
- (E-G2) 英語の基礎知識を修得し、英語の読解、記述、簡単な会話ができる能力を身につける。

#### 機械システム工学科・電気情報工学科・建設システム工学科

- (A-T1) 数学、物理などの工学基礎科目における基礎学力を身につける。
- (A-T2) 実験データの集計や報告書作成にコンピュータが活用できる。
- (B-T1) それぞれの専門分野の基礎知識を修得する。
- (B-T2) 実践的な問題に対し、修得した専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身につける。
- (B-T3) 構想したものを具体的な形に表現する CAD ソフトウェアが活用できる。
- (C-T1) 自国および世界の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した視点からものごとを考えることができる。
- (C-T2) 社会人としての健全な人格を有し、技術者に要求される倫理観を身につける。
- (D-T1) 人文科学、社会科学、自然科学の分野の基礎学力を身につける。
- (D-T2) 課外活動、特別活動、学校行事などへ参加することで豊かな人間性を身につける。
- (E-T1) 得られた結果を日本語でまとめ、プレゼンテーションができる。
- (E-T2) 英語の基礎知識を修得し、英語の読解、記述、簡単な会話ができる能力を身につける。

#### ○専攻科課程

- (A-1) 数学、物理など工学の基礎となる学力を身につける。
- (A-2) 情報リテラシーを習得し、情報を収集、分析し活用する能力を身につける。
- (B-1) 専門分野の基礎知識をベースに、より深い専門知識を修得するとともに、関連する他の専門分野の基礎知識を修得する。
- (B-2) 実践的な問題に対し、習得した知識を活用して、解決に向けて計画を立案し、継続的にそれらを実行できる能力を身につける。
- (B-3) コンピュータを活用して自らの創造性を具現化するデザイン能力を身につける。
- (C-1) 最新の技術や物事に対する探求心を持ち、自主的、継続的に学習できる能力を身につける。
- (C-2) 自然と生命の尊厳を正しく理解し、併せて互いの人権を重んじ、共生の理念を育む。
- (C-3) 知的財産権などの基礎知識を理解し、社会的ニーズへの即応性を身につける。
- (D-1) 人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い教養を身につける。
- (D-2) 身近な問題から地球規模の問題まで関心を持ち、物事を考えることができる能力を身につける。
- (E-1) 日本語で論理的に記述、発表、討議できる能力を身につける。
- (E-2) 外国語によってコミュニケーションがとれる基礎能力を身につける。





### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び、養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点に係る状況) 学校法人近畿大学の創立は大正14年の日本大学専門学校の開校に始まり、法律科、商科、政治科の3科でスタートした。昭和18年の大阪理工科大学の設立によって理工系学科が開設され、この2校を母体として統合し、昭和24年新制近畿大学が誕生して今日に至っている。この近畿大学の発足に際して、世耕弘一初代総長より次のような「建学の精神」(資料1-1-①-1)が示された。

##### 資料 1-1-①-1

###### 建学の精神

東洋一の産業都市大阪を地元としている本学は、本邦産業界の養成する人材を、教育することに努めている。

そのために教育は真理探究の一点にのみ走ることなく、常に学問と実際との調和により、実際社会に役立つ高い教養と、知識の育成に努め、学問・実際一如の有機的教育の徹底を建学の精神とし、特に魂の啓培に力を注ぎ、堅実な思想をもつ有為の人材養成を目的とする。

(出典：近畿大学創設当時の入学案内)

純理論的な分野よりも社会への直接的応用を視野においた「実学」に重きをおく「建学の精神」が示され、現在でも教育研究の両面において綿々と受け継がれている。ここで言う「実学」とは決して理論的側面の軽視を意味するのではなく、社会のニーズを視野におき未来を志向した実践的学問を意味している。また人格の陶冶に注力し健全な精神と心豊かな人間性を育てることを含めている。

近畿大学学園の教育理念は資料1-1-①-2の学校法人近畿大学寄附行為第3条に示されているように「人に愛され、信頼され、尊敬される人を育成する」という言葉に明確に示されている。これら近畿大学学園の理念・目的は資料1-1-①-3に示す「近畿大学相互評価書(平成13年7月)」に詳しく書かれている。

##### 資料 1-1-①-2

###### 学校法人近畿大学寄附行為

###### 第1章 総則

第1条 この法人は、学校法人近畿大学と称する。

第2条 この法人は、事務所を大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号に置く。

###### 第2章 目的及び設置する学校

第3条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従って学校教育を行い、建学の精神に沿って、教育理念である「人に愛され、信頼され、尊敬される人」を育成することを目的とする。

(以下、省略)

(出典：近畿大学学園例規集)

## 資料 1-1-①-3

本学の教育理念は、昭和 24 年新制近畿大学の発足にさいして、世耕弘一初代総長が示された「本学における教育の目的は、人に愛され、信頼され、尊敬される人を育成することにある」という言葉に明確に示されている。「人に愛され、信頼され、尊敬される」ためには、その人格に深い根源的な力が備わっていなければならない。他人の心を思いやり、社会に対する深い洞察力があり、自然・環境に対して優しい姿勢をもち、正しい歴史観や世界に広く開かれた視野を持つことによって、はじめて、人に愛され、信頼され、尊敬される人格を養い得ると考えられるからである。つまり、この本学の教育理念は、教養教育、リベラル・エデュケーションの重要性を指摘したものである。

昭和 40 年、世耕政隆第 2 代総長はその着任にさいして、「本学は先例にとらわれず自主独往の気概に充ちた未来志向性の総合大学を目指す」という教育理念とその目指すべき方向性を明確に示された。「自主独往の気概に充ちた未来志向」は大学そのものの指向する方向を示す言葉であるが、学生個人のレベルにおいても他人に迎合せず、つねに自己の主体性を失わないことが肝要であり、自主独往の気概とは、このような主体性の確立を教育目標とすることをも意味している。

さきに述べたように、本学は、法律学、商学、政治学など文系学科を中心とした日本大学専門学校と、理工学系を中心学科とした大阪理科大学に源を発している。これらはいずれも純理論的な分野よりも、社会への直接的応用を視野においた「実学」に重きをおいて設立されたものである。この実学の精神は、総合大学の形態になった現在でも、教育・研究の両面において綿々と受け継がれて、本学の特徴的な個性を形づくっている。ここで言う「実学」とは決して理論的側面の軽視を意味しているのではなく、社会のニーズを視野においた実践的な学問を意味しているのである。人文、社会、自然科学の各分野において、応用面のウエイトが相対的に大きい点はその特徴となっている。

(中略)

以上述べた、本学の建学精神、教育理念、教育目標を要約すれば、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもち、つねに未来を指向した実践的な学問、実学を旨とする」ということができる。このことによっ

(出典：近畿大学相互評価書（平成13年7月）より抜粋)

([http://ccpc01.cc.kindai.ac.jp/honbu/menu/about/hyo\\_ka/pdf/02/2\\_01.pdf](http://ccpc01.cc.kindai.ac.jp/honbu/menu/about/hyo_ka/pdf/02/2_01.pdf))

本校は昭和 37 年に近畿大学学園に併設して設立された高等専門学校であるが、創設者である世耕弘一初代総長直筆の創立趣意書（資料 1-1-①-4）が示された。

## 資料 1-1-①-4

近畿大学熊野高等専門学校

「高専の性格と本校設立の趣旨」

近代科学の進歩は、世界の産業経済を急激に刺げきして人類生活状況を改変させようとしている。日本の国情も、此の風潮に従ひ学問、技術においても幾多の進歩発展を遂げつゝあるが、最近特に

世論として問題とされていることは、新時代を担ふ中堅技術者の著しく不足していることである。そこで我が熊野高等専門学校は此の時代の要望を果たすために創立したものである。

入学資格は中学校卒業程度であつて在学年限は五ヶ年である。

「本校の特徴」

(人格教育を主眼とするための特殊教育)

本校は学生に新しい学問技術を習得せしむることは勿論であるが、特に人格教育を重視し是れが完成を期するために原則として、(家庭の事情上やむを得る場合は別として) 全員学生を寄宿舎生活をさせて訓育を行ひ厳重な監督の下に日本人としての傳統に輝く規律と道徳を基本に薰陶をする。

又、技術指導と学問と實際を身につけた社会的に人間的に経験の深い人格者を指導陣に加えて実地指導にあてることとしている。

(出典：近畿大学熊野高等専門学校 設立趣意書)

この中で当時の日本における産業経済の進歩発展を推し進める「新時代を担う中堅技術者の育成」という時代の要請を果たすため本校が創設され、学問技術の習得はもちろんであるが寮生活や人間的に経験の深い人格者を指導に当てることなどの施策によって人格教育を重視することが述べられている。この設立趣意書によって、本校の教育理念もまた人格形成と実学に重きをおく近畿大学の建学の精神を受け継いだものであることがわかる。

本校の目的および専攻科の目的は本校学則第 1 条 (資料 1-1-①-5) および第 26 条 (資料 1-1-①-6) に定められている。

資料 1-1-①-5

本校の目的

本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典：近畿大学工業高等専門学校学則第 1 条)

資料 1-1-①-6

専攻科の目的

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(出典：近畿大学工業高等専門学校学則第 26 条)

次に、本校が目指す技術者像は準学士課程と専攻科課程のそれぞれに対して次の資料 1-1-①-7 のように定められている。

資料 1-1-①-7

育成する技術者像

○準学士課程

社会に貢献するための広い視野からもの創りを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者

○専攻科課程

社会の技術発展に貢献するための広い視野からもの創りを考え、それぞれの専門分野の高度な知識と幅広い工学的素養をもって、考えたものを実現していく開発型技術者

(出典：平成 19 年度近畿大学工業高等専門学校学生便覧)

このような技術者を育成し輩出するため、次の資料 1-1-①-8 に示す学習・教育目標を掲げている。

資料 1-1-①-8

学習・教育目標

- (A) 工学の基礎となる学力や技術を身につける。
- (B) 実践的なデザイン能力を身につける。
- (C) 技術者としての健全な価値観や倫理観を養う。
- (D) 幅広い教養に基づく豊かな人間性の養成
- (E) コミュニケーション能力の養成

(出典：平成 19 年度近畿大学工業高等専門学校学生便覧)

上述の学習・教育目標を具体化し準学士課程卒業または専攻科課程修了時に身に付けてほしい事柄を次の資料 1-1-①-9 のように定めている。それぞれの項目に付けられた記号は学習・教育目標の記号に対応している。

資料 1-1-①-9

卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

○準学士課程

総合システム工学科

- (A-G1) 数学、物理などの工学基礎科目における基礎学力を身につける。
- (A-G2) 実験データの集計や報告書作成にコンピュータが活用できる。
- (B-G1) 専門分野の基礎知識を修得するとともに、関連する他の分野の基礎知識を修得する。
- (B-G2) 実践的な問題に対し、修得した専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身につける。
- (B-G3) 構想したものを具体的な形に表現する CAD ソフトウェアが活用できる。
- (C-G1) 自国および世界の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した視点からものごとを考えることができる。
- (C-G2) 社会人としての健全な人格を有し、技術者に要求される倫理観を身につける。
- (D-G1) 人文科学、社会科学、自然科学の分野の基礎学力を身につける。

- (D-G2) 課外活動、特別活動、学校行事などへ参加することで豊かな人間性を身につける。
- (E-G1) 得られた結果を日本語でまとめ、プレゼンテーションができる。
- (E-G2) 英語の基礎知識を修得し、英語の読解、記述、簡単な会話ができる能力を身につける。

機械システム工学科・電気情報工学科・建設システム工学科

- (A-T1) 数学、物理などの工学基礎科目における基礎学力を身につける。
- (A-T2) 実験データの集計や報告書作成にコンピュータが活用できる。
- (B-T1) それぞれの専門分野の基礎知識を修得する。
- (B-T2) 実践的な問題に対し、修得した専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身につける。
- (B-T3) 構想したものを具体的な形に表現する CAD ソフトウェアが活用できる。
- (C-T1) 自国および世界の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した視点からものごとを考えることができる。
- (C-T2) 社会人としての健全な人格を有し、技術者に要求される倫理観を身につける。
- (D-T1) 人文科学、社会科学、自然科学の分野の基礎学力を身につける。
- (D-T2) 課外活動、特別活動、学校行事などへ参加することで豊かな人間性を身につける。
- (E-T1) 得られた結果を日本語でまとめ、プレゼンテーションができる。
- (E-T2) 英語の基礎知識を修得し、英語の読解、記述、簡単な会話ができる能力を身につける。

○専攻科課程

- (A-1) 数学、物理など工学の基礎となる学力を身につける。
- (A-2) 情報リテラシーを習得し、情報を収集、分析し活用する能力を身につける。
- (B-1) 専門分野の基礎知識をベースに、より深い専門知識を修得するとともに、関連する他の専門分野の基礎知識を修得する。
- (B-2) 実践的な問題に対し、習得した知識を活用して、解決に向けて計画を立案し、継続的にそれらを実行できる能力を身につける。
- (B-3) コンピュータを活用して自らの創造性を具現化するデザイン能力を身につける。
- (C-1) 最新の技術や物事に対する探求心を持ち、自主的、継続的に学習できる能力を身につける。
- (C-2) 自然と生命の尊厳を正しく理解し、併せて互いの人権を重んじ、共生の理念を育む。
- (C-3) 知的財産権などの基礎知識を理解し、社会的ニーズへの即応性を身につける。
- (D-1) 人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い教養を身につける。
- (D-2) 身近な問題から地球規模の問題まで関心を持ち、物事を考えることができる能力を身につける。
- (E-1) 日本語で論理的に記述、発表、討議できる能力を身につける。
- (E-2) 外国語によってコミュニケーションがとれる基礎能力を身につける。

(出典：平成 19 年度近畿大学工業高等専門学校学生便覧)

(分析結果とその根拠理由) 近畿大学学園の建学の精神に則った学園の教育理念が規程書に明確に定められている。また本校の目的、育成する技術者像、学習・教育目標、卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力が学則その他によって定められている。

以上のことから、本校は高等専門学校としての目的を明確に定めているといえる。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況) 学校教育法第 70 条の 2 には高等専門学校の目的が「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」と定められており、本校の目的も資料 1-1-①-5 に示したようにこの二項目としている。本校の「育成する技術者像」および「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」はこれらと関連した形で策定されている。2 項目の目的との関連は次の資料 1-1-②-1 の通りである。なお、学習・教育目標の個々の項目は両者にまたがるためこの表には記載していない。

資料 1-1-②-1		
	「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
育成する技術者像	<p>準学士課程</p> <p>「それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって」</p>	<p>準学士課程</p> <p>「社会に貢献するための広い視野からもの創りを考え」</p>
	<p>専攻科課程</p> <p>「それぞれの専門分野の高度な知識と幅広い工学的素養をもって」</p>	<p>専攻科課程</p> <p>「社会の技術発展に貢献するための広い視野からもの創りを考え」</p>
	<p>準学士課程 (総合システム工学科)</p> <p>(A-G1) 数学、物理などの工学基礎科目における基礎学力を身につける。</p> <p>(B-G1) 専門分野の基礎知識を修得するとともに、関連する他の分野の基礎知識を修得する。</p> <p>(C-G1) 自国および世界の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した視点からものごとを考えることができる。</p> <p>(D-G1) 人文科学、社会科学、自然科学の分野の基礎学力を身につける。</p>	<p>準学士課程 (総合システム工学科)</p> <p>(A-G2) 実験データの集計や報告書作成にコンピュータが活用できる。</p> <p>(B-G2) 実践的な問題に対し、修得した専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身につける。</p> <p>(B-G3) 構想したものを具体的な形に表現する CAD ソフトウェアが活用できる。</p> <p>(C-G2) 社会人としての健全な人格を有し、技術者に要求される倫理観を身につける。</p> <p>(D-G2) 課外活動、特別活動、学校行事などへ参加することで豊かな人間性を身につける。</p> <p>(E-G1) 得られた結果を日本語でまとめ、プレゼンテーションができる。</p> <p>(E-G2) 英語の基礎知識を修得し、英語の読解、記述、簡単な会話ができる能力を身につける。</p>

<p>卒業・修了時に身に付けるべき学力や資質・能力</p>	<p>準学士課程（三工学科）</p> <p>（A-T1）数学、物理などの工学基礎科目における基礎学力を身につける。</p> <p>（B-T1）それぞれの専門分野の基礎知識を修得する。</p> <p>（C-T1）自国および世界の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した視点からものごとを考えることができる。</p> <p>（D-T1）人文科学、社会科学、自然科学の分野の基礎学力を身につける。</p>	<p>準学士課程（三工学科）</p> <p>（A-T2）実験データの集計や報告書作成にコンピュータが活用できる。</p> <p>（B-T2）実践的な問題に対し、修得した専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身につける。</p> <p>（B-T3）構想したものを具体的な形に表現する CAD ソフトウェアが活用できる。</p> <p>（C-T2）社会人としての健全な人格を有し、技術者に要求される倫理観を身につける。</p> <p>（D-T2）課外活動、特別活動、学校行事などへ参加することで豊かな人間性を身につける。</p> <p>（E-T1）得られた結果を日本語でまとめ、プレゼンテーションができる。</p> <p>（E-T2）英語の基礎知識を修得し、英語の読解、記述、簡単な会話ができる能力を身につける。</p>
	<p>専攻科課程</p> <p>（A-1）数学、物理など工学の基礎となる学力を身につける。</p> <p>（B-1）専門分野の基礎知識をベースに、より深い専門知識を修得するとともに、関連する他の専門分野の基礎知識を修得する。</p> <p>（C-1）最新の技術や物事に対する探求心を持ち、自主的、継続的に学習できる能力を身につける。</p> <p>（D-1）人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い教養を身につける。</p>	<p>専攻科課程</p> <p>（A-2）情報リテラシーを習得し、情報を収集、分析し活用する能力を身につける。</p> <p>（B-3）コンピュータを活用して自らの創造性を具現化するデザイン能力を身につける。</p> <p>（C-2）自然と生命の尊厳を正しく理解し、併せて互いの人権を重んじ、共生の理念を育む。</p> <p>（C-3）知的財産権などの基礎知識を理解し、社会的ニーズへの即応性を身につける。</p> <p>（D-2）身近な問題から地球規模の問題まで関心を持ち、物事を考えることができる能力を身につける。</p> <p>（E-1）日本語で論理的に記述、発表、討議できる能力を身につける。</p> <p>（E-2）外国語によってコミュニケーションがとれる基礎能力を身につける。</p>

（出典：平成 19 年度近畿大学工業高等専門学校内部資料）

(分析結果とその根拠理由) 本校の目的は本校設立趣意書にある「新時代を担う中堅技術者の育成」と学校教育法における高等専門学校の目的を踏まえて策定されたものである。本校の「育成する技術者像」および「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」は学校教育法 70 条の2の「深く専門の学芸を教授し」と「職業に必要な能力を育成」という目的に対応するよう策定されている。

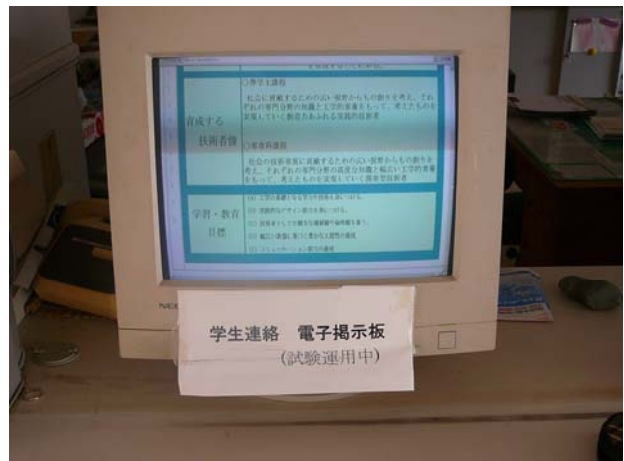
以上のことから、本校の目的は学校教育法で規定された高等専門学校の目的からはずれものではない。

**観点 1-2-①: 目的が、学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。**

(観点に係る状況) 本校の目的は、毎年学年初めに学生および教職員に配布される学生便覧や本校ホームページ (<http://www.ktc.ac.jp/kyouiku1.htm>) で学生や教職員に公開している。また各ホームルーム教室、校舎玄関、図書館、体育館にパネル掲示されており学生や教職員はもちろん学外の来訪者も目にする事ができる。また、本館玄関および新館玄関に設置された電子掲示板(資料 1-2-①-1)に一定時間ごとに教育理念が表示され学生に周知している。また学年初めのガイダンスの中で学生便覧をテキストとして学校の目的を説明している。

項目ごとの掲載の有無を資料 1-2-①-2 にまとめている。

資料 1-2-①-1



出典：本館玄関の電子掲示板

資料 1-2-①-2

	学生便覧	学内掲示	電子掲示板	シラバス	ホームページ
学園の教育理念	有	有	有	有	有
目的	有	有	無	有	有
育成する技術者像	有	有	有	有	有
学習・教育目標	有	有	有	有	有
卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力	有	有 (該当課程のみ)	無	有	有

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)



近畿大学学園の建学の精神や教育理念はホームルームの時間や入学式・始業式などの全校集会時の校長の式辞や訓話などによって学生に周知を図っている。資料1-2-①-3はその例として入学式における校長の式辞あり、近畿大学学園の教育理念と本校の学生指導方針について言及している。

資料1-2-①-3

入学式校長式辞

「近畿大学高専」への入学おめでとうございます。

本校の設置者は学校法人近畿大学です。

(中略)

本校は、「人に愛され、信頼され、尊敬される人を育成する」という「近畿大学学園」の「教育目的」を重視しています。

近年、自殺、殺人、暴力、いじめなど、人間を思いやる気持ちが薄れ、挨拶、言葉遣い、身だしなみ、生活習慣が乱れてきており、学校における生活指導はもちろんのこと、倫理教育、礼節教育が重要になってきていると言えます。

本校は、「いじめ暴力」の加害学生に対しては、退学処分を言い渡します。

喫煙はもちろんのこと、服装・頭髪の乱れについても、生活指導の対象としています。

「登校拒否」「保健室登校」「精神不安」などの相談は、専門の臨床心理学博士をカウンセリング室に配置し、その任に当たっていただいています。

「学生相談」については、新設の「コミュニケーションセンター」に一般教員のみならず、非常勤教員も配置し、その任に当たっていただきます。

「特別教育活動」は、「ロング・ホームルーム」や「教養セミナー」だけでなく、宗教家による「心の教育」なども予定しています。

「寮生活」のみならず「クラブ」「ものづくり」「学園祭」「ボランティア」等のコミュニケーションを通して、規律、礼儀、身だしなみ、人を思いやる心などを養うことを目指します。

入学生の皆さん、「新時代を担う技術者」となるための研鑽と、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」になれるよう、生き生きと学校生活を過ごして下さい。

皆さんの、今後の成長を期待します。

(出典：平成19年度入学式校長式辞)

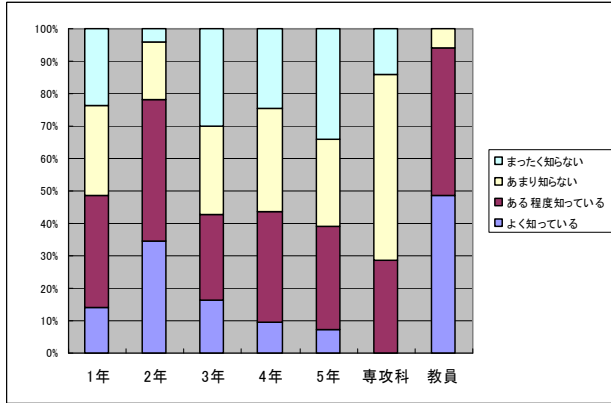
学校の目的の教職員・学生の周知状況を把握するためにアンケート調査を行なった。その結果(資料1-2-①-4)は、教職員のおよそ9割、専攻科学生の7~8割が学校の目的を知っているが、準学士課程については学年によってばらつきがあるがおよそ5割弱の学生に周知されているに過ぎないことを示している。

(分析結果とその根拠理由) 学校の教育目的は学生便覧や本校ホームページ、各教室や校舎内の掲示パネル、本館玄関および新館玄関に設置された電子掲示板で周知を図っている。また入学式など全校集会等の行事の機会に校長より建学の精神や本校の教育目的に関する訓話を行っている。アンケート調査の結果では、教職員・専攻科学生へは十分周知されているが、準学士課程学生への周知度は十分とはいえない。

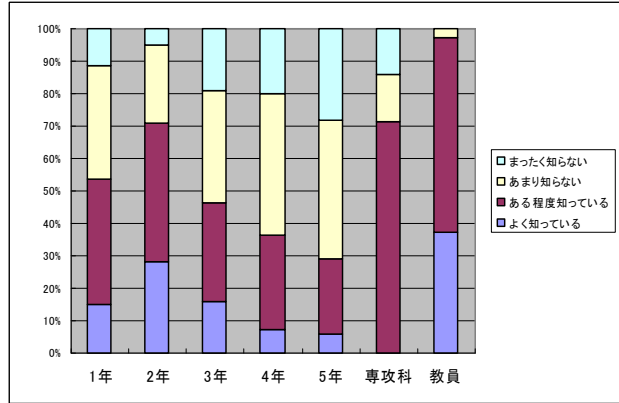
資料 1-2-①-4

学校の目的の周知度に関するアンケート調査結果

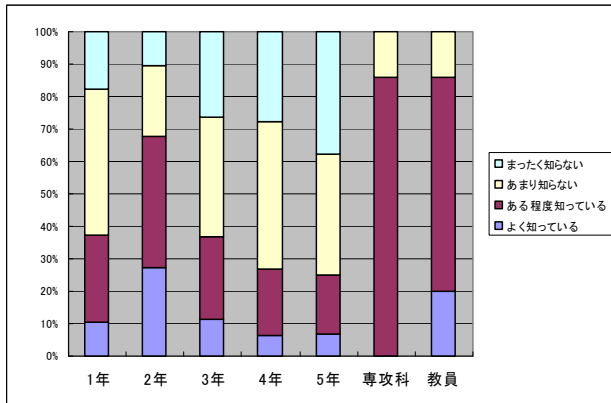
近畿大学学園の教育理念



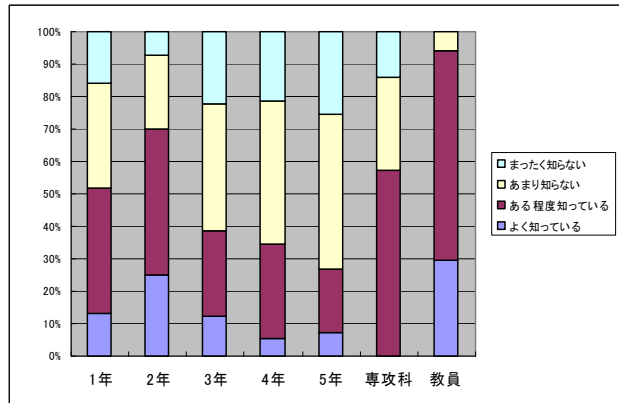
本校の目的



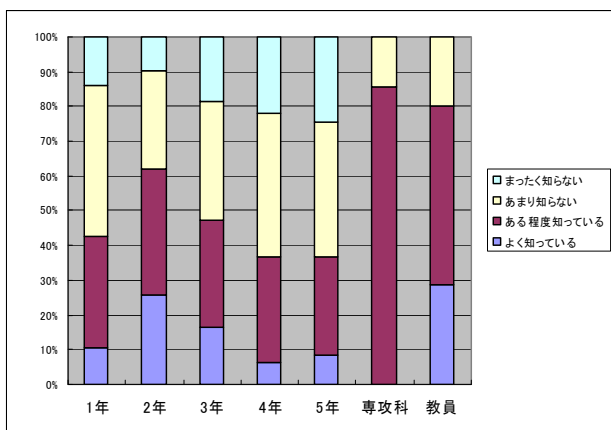
育成する技術者像



学習・教育目標



卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力



(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況) 近畿大学の教育理念や本校の目的等は本校ホームページ

(<http://www.ktc.ac.jp/kyouiku1.htm>)にて公開しているほか、本校の学校案内(資料 1-2-②-1)には近畿大学の教育理念や近畿大学高専の教育の目的が明確に記述され、本校受験生やその保護者、教育機関関係者に広く公表している。中学校や高等学校訪問時にはこの学校案内を用い

て本校の目的を説明している。

資料 1 - 2 - ② - 1

近畿大学高専には  
近畿大学学園の「建学の精神」が息づいています

**教育の目的は**  
人に愛される人、  
信頼される人、  
尊敬される人  
を育成することにある

**育成する技術者像**  
社会に貢献するための広い視野からもの創りを考え、  
それぞれの専門分野の知識と工学の素養をもって、  
考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者

**学習・教育目標**  
(A) 工学の基礎となる学力や技術を身につける。  
(B) 実践的なデザイン能力を身につける。  
(C) 技術者としての健全な価値観や倫理観を養う。  
(D) 幅広い職業に基づき豊かな人間性の養成。  
(E) コミュニケーション能力の養成。

世耕 弘昭  
神野 登

(出典：平成20年度学校案内)

本校では近畿大学高専新聞を、保護者、熊野市・南牟婁郡地区の各家庭、学校法人近畿大学内の全ての学校、全国の高専、三重県内の全ての学校と官公庁等へ、7万部配布している。高専新聞は、平成12年7月25日創刊の年4回発行の季刊紙で、平成19年3月までに27号が発行されている。高専新聞第27号には近畿大学学園の教育理念、本校の目的、育成する技術者像、学習・教育目標、卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力を掲載し(資料1-2-②-2)、社会に広く公表した。

資料 1 - 2 - ② - 2

**近畿大学工業高等  
専門学校の目的**

近畿大学高専は平成19年度に高等専門学校機関別認証評価とJABEE（日本技術者教育認定機構）認定審査を受審する予定です。機関別認証評価は教育機関が行う教育研究活動の質の保証およびその改善へ役立てることと社会への公表によって国民の理解と支持を得ることを目的に、一定期間ごとに第三者評価を受けることが法律で決められています。JABEEとは高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが社会の要求を満たしているかを専門認定する制度で大学学部に対応する高専4・5年と専攻科1・2年を対象となります。

ここでは本校の教育の目的について紹介します。

近畿大学は、創設者「世耕弘二先生」によって日本大学専門学校（のちの大阪専門学校）と大阪理工科大学を統合して昭和24年に新制大学として設置されました。創設当初創設者より示された美学の精神と人格教育からなる「建学の精神」に沿って、次の教育理念が定められています。

**近畿大学学園の教育理念**  
 「教育の目的は、人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成することにある」

近畿大学工業高等専門学校は昭和37年4月に新時代を担う中堅技術者の不足という当時の産業界の問題を解消すべく全国の国立高等専門学校と同時に開校されました。本校の目的は本校学則に次のように示されています。

**本校の目的**  
 「本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」

本校には中学校卒業生に対して5年間一貫教育を行う準学士課程と、平成17年5月に設置された大学3・4年に相当する専攻科課程があります。それぞれの課程において次のような技術者を育成することを目指しています。

**育成する技術者像**  
 ○準学士課程  
 「社会に貢献するための広い視野からもの創りを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者」  
 ○専攻科課程  
 「社会の技術発展に貢献するための広い視野からの創りを考え、それぞれの専門分野の高度な知識と幅広い工学的素養をもって、考えたものを実現していく開発型技術者」

このような技術者の育成を実施するにあたり、次のような学習・教育目標を設け教育活動を行っています。

**学習・教育目標**  
 (A) 工学の基礎となる学力や技術身に付ける。  
 (B) 実践的なデザイン能力を身に付ける。  
 (C) 技術者としての健全な価値観や倫理観を養う。  
 (D) 幅広い教養に基づく豊かな人間性の養成  
 (E) コミュニケーション能力の養成

具体的にそれぞれの課程を卒業または修了するときに身に付けてほしい事柄を次のように定めています。それぞれの記号は学習・教育目標に対応しています。

**卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力**  
 ○準学士課程  
 総合システム工学科  
 (A1G) 数学、物理などの工学基礎科目における基礎学力を身につける。

(出典：近畿大学高専新聞 第27号(平成19年3月31日)より抜粋)

(分析結果とその根拠理由) 本校の教育理念をはじめとする教育の目的の社会への広報活動は、ホームページや学校案内の配布に加え、近畿大学高専新聞を関係学校や地元の各家庭に計7万部も配布することによって行っており、学校の目的を広く社会に公表している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 本校は近畿大学学園に併設する高等専門学校であることから、近畿大学の建学の精神および学園の教育理念を基本として、本校の教育の目的がしっかりと定められている。また、育成する技術者像およびこれを達成するための学習・教育目標と卒業または修了時の到達目標が明確に定められている。これらは学生便覧やホームページ、学内掲示等によって教職員や学生に周知が図られている。アンケート調査では学生の周知度は十分とは言えないが教職員にはよく理解されているという結果が得られている。また学校の目的が学校案内や高専新聞等によって社会に広く公表されている。

(改善を要する点) 準学士課程学生への学校の目的の周知度が十分とは言えない。周知度を上げるための取り組みが必要である。

(3) 基準1の自己評価の概要

本校は近畿大学の併設校であるが、近畿大学には実践的な学問の教授に重きをおく実学の精神と人格教育を重視するという「建学の精神」がある。これに基づき「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」が近畿大学学園の教育理念である。

本校はこの建学の精神を踏まえ中堅技術者の育成という社会の要望に応えるために設立されたものである。本校の目的は学校教育法の高等専門学校の目的を踏襲する形で学則に定められており、課程ごとに育成する技術者像、学習・教育目標、卒業または修了時に身に付けるべき学力や資質・能力を定めている。これらは学校教育法の規定に従って策定されたものである。

上述の本校の目的等は学生・教職員に対して、学生便覧、ホームページ、電子掲示板、学内掲

示、学年始めのガイダンス、全校集会等の行事時の機会によって周知を図っている。周知状況はアンケート調査によって把握しており、教職員、専攻科学生への周知度は高いが、準学士課程学生への周知は不十分である。

また本校の目的はホームページ、受験生、中学校、高等学校、塾等に配布する学校案内、地域の一般家庭を含めて7万部配布している高専新聞などによって広く社会に公表している。

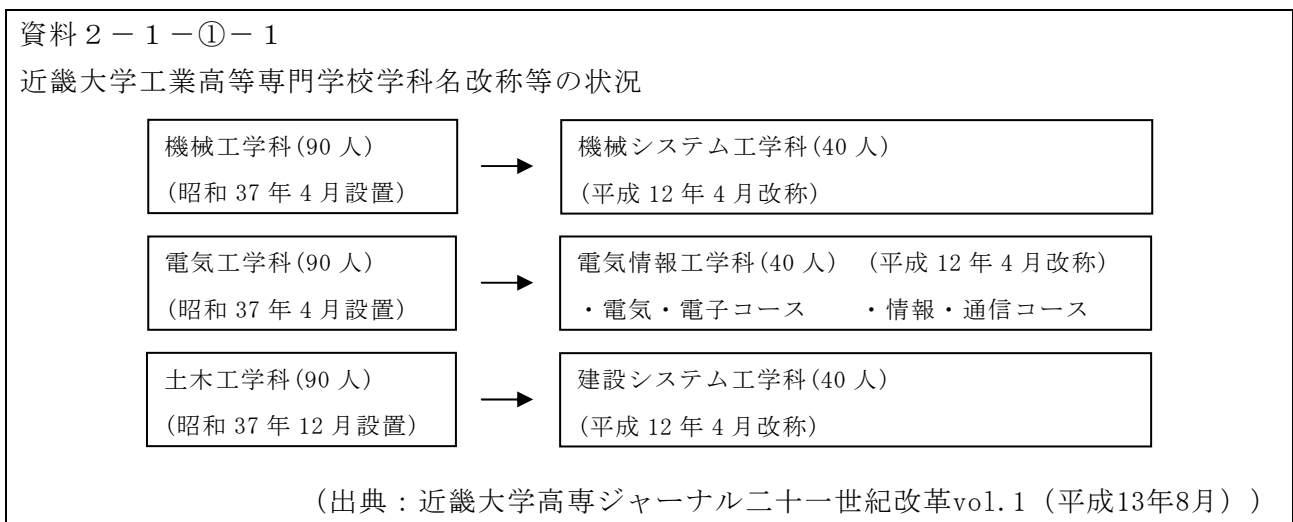


基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの自己評価

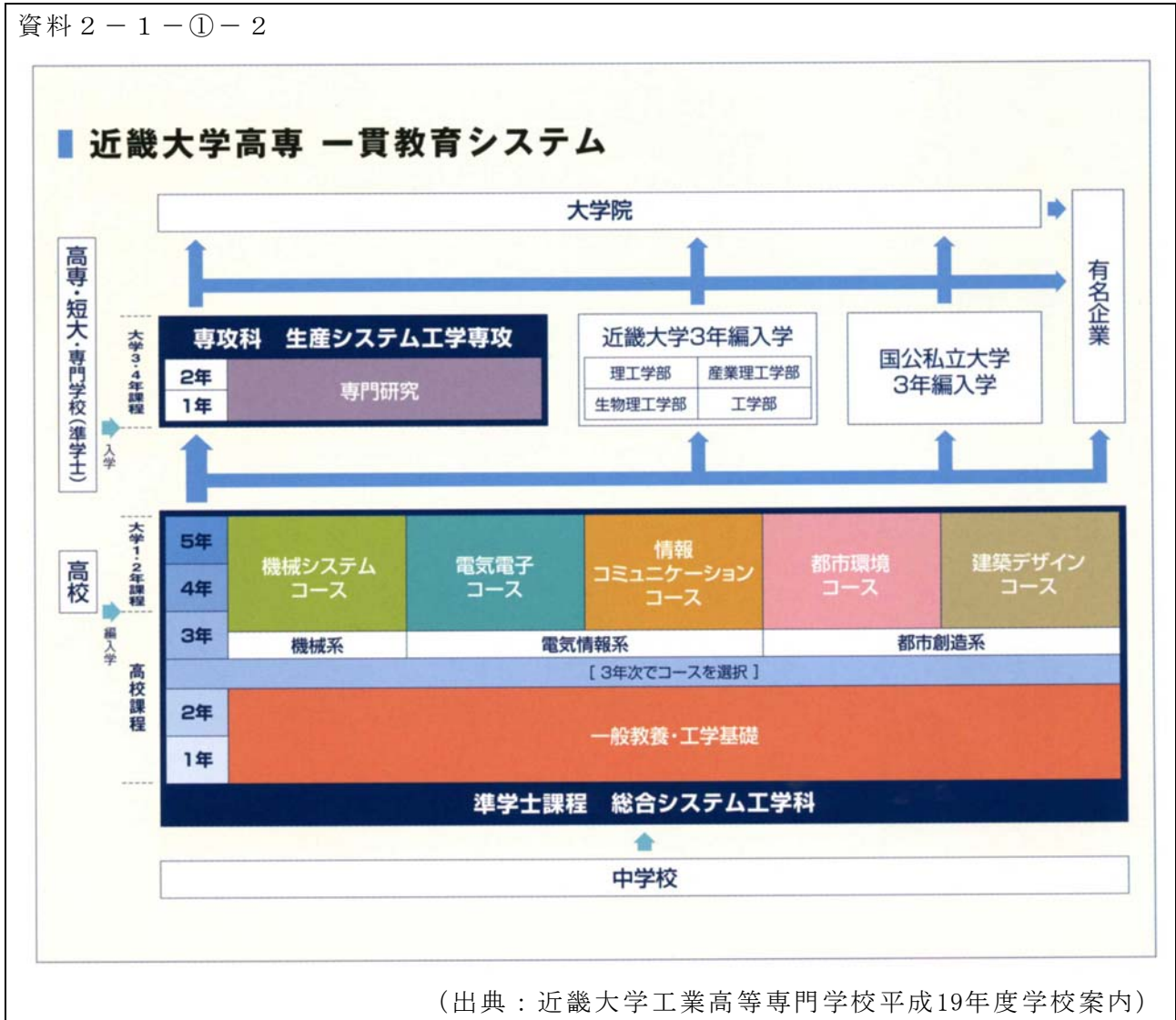
観点2-1-①：学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況） 本校は、資料1-1-①-4に示された創立趣意書に書かれてあるように産業の進歩発展を推し進める「新時代を担う中堅技術者の育成」を目的として昭和37年4月に設立されたが、まずあらゆる産業の基礎となる工学分野として機械工学科および電気工学科が設置された。翌年には土木分野が国土開発・経済流通のために必要であるという社会的要請から土木工学科が併設された。平成12年に学科名改称および情報化時代に対応するため電気情報工学科内に情報・通信分野のコース新設（資料2-1-①-1）があったが、長らくこの3工学科時代が続いた。



近年の産業界では、メカトロニクス、燃料電池自動車、デジタル家電のように複合的・融合的な製品を研究開発できる技術者を求めている。このような時代のニーズに応えるために、平成17年度に3つの工学科を統合した「総合システム工学科」を設置した。総合システム工学科では、1、2年次に共通の幅広い分野の工学基礎科目を習得するとともに、3年次より機械システムコース、電気電子コース、情報コミュニケーションコース、都市環境コース、建築デザインコースの中から自分に適した専門コースに分かれる（資料2-1-①-2）。

資料 2 - 1 - ① - 2



平成18年度には、本校の建学の精神等創設時の資料を基に本校の目的「教育基本法の精神にのっとり、――職業に必要な能力を育成する」と、この目的に沿った準学士課程における技術者像「社会に貢献するための広い――想像力あふれる実践的技術者」を改めて掲げた。このような目的・技術者像を実現するために、本校では、基準1に示した3工学科・総合システム工学科にそれぞれ適した学習・教育目標や卒業に身に付けるべき資質・能力を具体的に掲げ、これらを達成するための授業計画（シラバス）を構成しており、これらは教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。例えば、総合システム工学科の構成は、準学士課程で育成する技術者像の「広い視野からもの創りを考え」の部分にしっかり合致している。

（分析結果と根拠理由） 本校設立当初より機械、電気、土木の3工学科体制で学科運営されてきたが、平成17年度より3工学科を統合した「総合システム工学科」が設置され、現代産業界のニーズに合った総合的な対応力をもった技術者の養成が行えるようになった。

観点 2 - 1 - ②：専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。



（観点に係る状況） 本校の専攻科生産システム工学専攻は平成17年4月に設置された。専攻科設置の主旨は（資料2-1-②-1）の大学評価・学位授与機構提出資料に述べられている。

近年の科学技術の著しい進歩により、研究開発能力も備えた創造型技術者の必要性が高まっている。このことは、そこで、工業高等専門学校の5年一貫教育の特長を活かしながら、準学士課程を卒業した学生に更に2年間高度な専門工学に関する専門的学術を教授して研究開発能力を有する技術者を育成する専攻科が設置された。専攻の名称「生産システム工学専攻」は、複合的・融合的技術を求める産業界のニーズに応えるために自らの専門分野と他の専門分野との融合を図り、専門技術を基盤として他分野の問題にも柔軟に対応できる技術者の育成を目指すことを意図している。

### 資料2-1-②-1

#### <専攻科設置の趣旨等>

##### （1）専攻科の趣旨

本校に専攻科を設置する趣旨は、工業高専としての教育システムを充実することに加え、以下に述べる様々な分野に貢献できるからである。

##### <産業界への貢献>

近年、産業界においては技術革新と産業構造の変革が急速に進んだ結果、新たに研究開発能力も備えた創造型、複合・融合型技術者養成に対する期待が高まってきた。このことは、最近の科学技術の著しい進歩により、従来の高専卒業生のもつ実践的技術者養成を目的とした実践型技術では、産業界の要請に対応出来なくなってきたことを意味する。

また日本の産業界を支えている中小企業でも、より高度な専門的技術・研究開発技術を有する技術者が急務となってきたが、大企業と異なり社内教育で育成できる時間的・経済的余裕がないのが実状である。

そこで、工業高等専門学校の5年一貫教育の特長を活かしながら、本科を修了した学生に対し更に高度な専門工学に関する専門的学術を教授し、創造性・研究開発能力を有する技術者を育成するために、本校に専攻科を設置する必要があると判断した。

##### <地域社会の活性化への貢献>

三重県は、全国の中でも高等教育機関が脆弱な県のひとつである。特に三重県の松阪市以南では、本校が唯一の高等教育機関である。隣接する和歌山県側から見ても、御坊市以南の地域には、高等教育機関は皆無である。大学進学を希望するこの地域の学生は他地域へ出ざるを得ず、学費に加え多額な生活費が必要となる。進学を希望しているが、経済的理由により大学進学を断念する場合も多々ある。本校の学生アンケートでは、20%以上の学生が専攻科進学を希望している。このように本校に専攻科を設置することは、高等教育の機会を与えることで地域社会の活性化につながる。

##### <技術者教育への貢献>

専攻科の設置により、技術者教育認定機構（JABEE）の認定審査を受審できる。受審過程を通して、社会的、国際的に通用する教育システムへの見直しが図られる。認定されれば、専攻科修了生は国際的に通用する技術者として処遇される。専攻科のない本科だけの高専では、JABEE審査すら受審できず、JABEE認定大学への編入学やJABEE認定技術者を採用する企業への就職等が閉ざされる可能性が高い。学生にとっても、国際的に通用する技術者になるために、あるいは進学・就職のために、専攻科設置は必須である。

(2) 専攻科を複合的・融合的な生産システム工学専攻とする理由

メカトロニクス、燃料電池自動車、デジタル家電のように、これからの産業界では複合的・融合的な製品を研究開発できる技術者を求めている。

このような時代のニーズに応えるために、本校では専攻科設置に合わせて、本科の改組も同時に行っている。従来の3工学科体制（機械システム工学科、電気情報工学科、建設システム工学科）を、平成17年4月から1工学科体制（総合システム工学科）に改組する。

1工学科の本科では、幅広い分野の工学基礎科目と実験・実習を修得し、3年次より機械、電気電子、情報通信、建設の中から自分に適した専門コースを選択する。専門コースでは、共通科目に加えて、専門工学分野の知識と技術を深めることで、異なる技術分野を融合・複合・システム化する基礎的能力を養成する

専攻科では、さらに自らの専門分野の進化と他の専門分野との融合を図り、専門技術を基盤として、他分野の問題に対しても柔軟に対応できる能力を育成する。

以上のような本科・専攻科を通じた複合的・融合的分野の一貫教育により、従来とは異なる視点で問題を発見し解決する能力のある、時代のニーズにあった新しい技術者を養成することができる。

(出典：近畿大学工業高等専門学校専攻科設置に関する学位授与機構提出書類)

専攻科の教育方針は（資料2-1-②-2）に書かれている。

## 資料 2 - 1 - ② - 2

## &lt;専攻科の教育方針等&gt;

## (1) 専攻科の教育方針

## 【生産システム工学専攻】

本専攻科では、社会に貢献するための広い視野からもの創りを考え、国際的に通用する研究開発能力をもって、考えたものを実現していく創造力・実現力あふれる技術者の育成を教育方針とする。

## (2) 専攻科の教育課程の編成方針、特色、履修方法等

## 【生産システム工学専攻】

開講科目は、一般科目、関連科目（専門基礎科目）、および共通専門科目と専攻区分別専門科目（機械工学、電気電子工学、土木工学）の4つに大別できる。

一般科目は、語学や人文・社会科学に関連した科目からなる。コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を養成するとともに、社会人としての健全な価値観と豊かな教養を持ち国際的に活躍できる能力を身につけさせる。

関連科目は、数学や物理・化学及びインターンシップからなる。専門科目の本質を理解するための工学基礎知識を修得させる。

共通専門科目は、機械工学・電気電子工学・土木工学の各専攻区分に横断的な専門科目、および生産システム工学特別研究からなる。講義では、複合的・融合的な専門分野について対応できるような応用知識を習得する。特別研究では、実践的な問題に対し自発的に考え、解決に向けて計画を立案し、継続的にそれらを実行することで、当該分野の先端的な研究開発能力を養成する。

専攻区分別専門科目は、本科および専攻科関連科目・共通専門科目で修得した専門分野の基礎知識をベースに、より深い専門知識を与える講義科目、および実験と演習からなる。当該専門分野の先端技術に即応できる能力を育成する。

履修方法について、一般科目では全て必修であり10単位を履修する。関連科目では、選択科目から8単位以上履修する。共通専門科目では、生産システム工学特別研究12単位は必修とする。専門区分別の専門科目では、工学実験2単位と工学演習2単位は必修とする。その他の共通専門科目と専門区分別の専門科目については、全て選択科目とし、合わせて28単位以上履修する。自分が選択した専門区分以外の専門科目を履修した場合は、関連科目として単位を認める。

近畿大学工業高等専門学校専攻科設置に関する学位授与機構提出書類

専攻科教育課程では、準学士課程の教育成果を踏まえ、より幅広い視野と高度な専門技術・知識の修得を目指し、可能なかぎり学生自身の自主性を重んじた教育の実践ができるよう配慮している。専門的な技術教育（技術の開発・設計・製作）に加えて、専攻科では「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する」ことを目指している。特に、学術的な研究を指導して、研究開発能力、問題解決能力を備え、広く産業の発展に寄与することができる高度な能力を持つ技術者を育成するために、実験・実習を重視するとともに、創造性豊かな研究開発技術者を養成する上で必要となる基礎学力を身につけられるように教育課程を編成す

る。

教育課程は一般科目、関連科目、共通専門科目、専攻区分専門科目で構成する（資料2-1-②-3）。

各科目の配置は、1年次で基礎分野を、2年次で専門分野を多く配し、学期の進行に伴って各自が専門分野を習熟し、創造性・自発的問題解決能力・研究開発能力を高めるよう配慮する。一般科目で実践的な英語能力、日本語表現能力を高め、プレゼンテーション技術とディスカッション能力を養成している。また関連科目で工学の最先端分野に関する数学や理学に関する基礎を学ぶ。さらに専攻区分専門科目で関連科目・共通専門科目で修得した専門分野の基礎知識をベースに、より深い専門知識を教授する講義科目、および実験・演習により専門分野の先端技術への基礎的能力の育成を目標とする。そして特別研究を通じて実践的な問題に対し自発的に考え、解決に向けて計画を立案し、先端的技術者の指導の下、継続的にそれらを実行することで、当該分野の先端的な研究開発が遂行できる基礎的能力の育成ができる。

資料2-1-②-3

<専攻科教育課程>

科目種類	授業科目名	単位数		学年別配当			
		必修	選択	1前期	1後期	2前期	2後期
一般科目	日本語表現法	2		2			
	総合英語	2		2			
	人間と環境	2			2		
	技術者倫理	2				2	
	国際社会の中の日本	2					2
関連科目	応用数学特論		2	2			
	解析力学		2	2			
	離散数学		2		2		
	化学特論		2		2		
	統計力学		2			2	
	物理学特論		2				2
	インターンシップ		1-2	1-2			
専門科目	共通専門科目	生産システム工学特別研究	12		6		6
		知的情報処理		2	2		
		計算力学		2	2		
		知能システム		2			2
		生産環境工学		2		2	
		信頼性工学		2			2
		材料物理		2			2
	機械工学専門科目	機械工学実験	2			1	1
		機械工学演習	2				1
		生産加工学		2	2		
		応用流体力学		2	2		
		伝熱概論		2	2		
		構造信頼性理論		2		2	
		振動工学		2		2	
エネルギー変換工学		2		2			
流体工学特論		2		2			
材料力学特論		2			2		
工業材料		2				2	
システム制御工学		2				2	
マトリクス構造解析		2				2	

科目種類	授業科目名	単位数		学年別配当				
		必修	選択	1 前期	1 後期	2 前期	2 後期	
専 門 科 目	電 気 電 子 工 学 専 門 科 目	電気電子工学実験	2			1	1	
		電気電子工学演習	2				1	1
		エネルギー変換論		2	2			
		電子回路特論		2	2			
		半導体デバイス工学		2	2			
		電磁気学特論		2		2		
		メディア情報処理		2		2		
		技術英語講読		2		2		
		絶縁設計工学		2			2	
		電子物性特論		2			2	
		半導体シミュレーション工学		2				2
		並列計算法		2				2
		故障物理学		2				2
	土 木 工 学 専 門 科 目	土木工学実験	2			1	1	
		土木工学演習	2				1	1
		構造力学特論		2	2			
		土質工学特論		2	2			
		都市地域計画学特論		2	2			
		水理学特論		2		2		
		交通計画学特論		2		2		
		都市環境生態工学特論		2			2	
		都市交通計画学特論		2			2	
		水工学特論		2			2	
		建設材料学特論		2				2
環境地盤工学特論		2				2		
農村地域計画学特論		2				2		

(出典：近畿大学工業高等専門学校専攻科設置に関する学位授与機構提出書類)

(分析結果と根拠理由) 本校の専攻科は複合的・融合的技術に対応できる技術者の育成を目指し設置されており、準学士課程に続き、より幅広い視野と高度な専門技術・知識の修得ができるよう教育課程が構成されている。平成18年度より具体的な学習・教育目標の策定と専攻科学生への周知により、教育の目的を達成する上でより適切なものとなっている。

観点2-1-③：全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況） 本校では工学の基礎となる情報処理技術習得のために情報処理教育センターが設置されている。平成18年8月に高度なシステムへと設備が一新され情報セキュリティも強化された。情報処理教育センターの設備は（資料2-1-③-1）に示す通りである。

資料2-1-③-1

情報処理教育センター設備（各室ともライブカメラ設置）

- ・マルチメディア教室（110名収容，120インチスクリーン，映像・音響設備設置）  
情報系や各種セミナーの集合教育に利用する。
- ・情報リテラシーCAI室（学生50台，教員1台端末設置，80インチスクリーン，教育補助システム導入）  
基礎的な情報教育を行う。
- ・コンピュータ製図CAD室（学生50台，教員1台端末設置、専用ソフト・教育補助システム導入）  
設計製図の教育を主に行う。構造解析やデザイン系の学習も行う。
- ・コンピュータ言語CAE室（学生50台，教員1台端末設置，教育補助システム導入）  
WindowsとLinuxのOSを用いて、主にプログラミング言語とOSの取り扱いを学習する。  
授業がない時間帯は学生に開放。

（出典：近畿大学工業高等専門学校入学案内資料（平成16年4月））  
（近畿大学高専新聞第5号（平成13年9月25日））

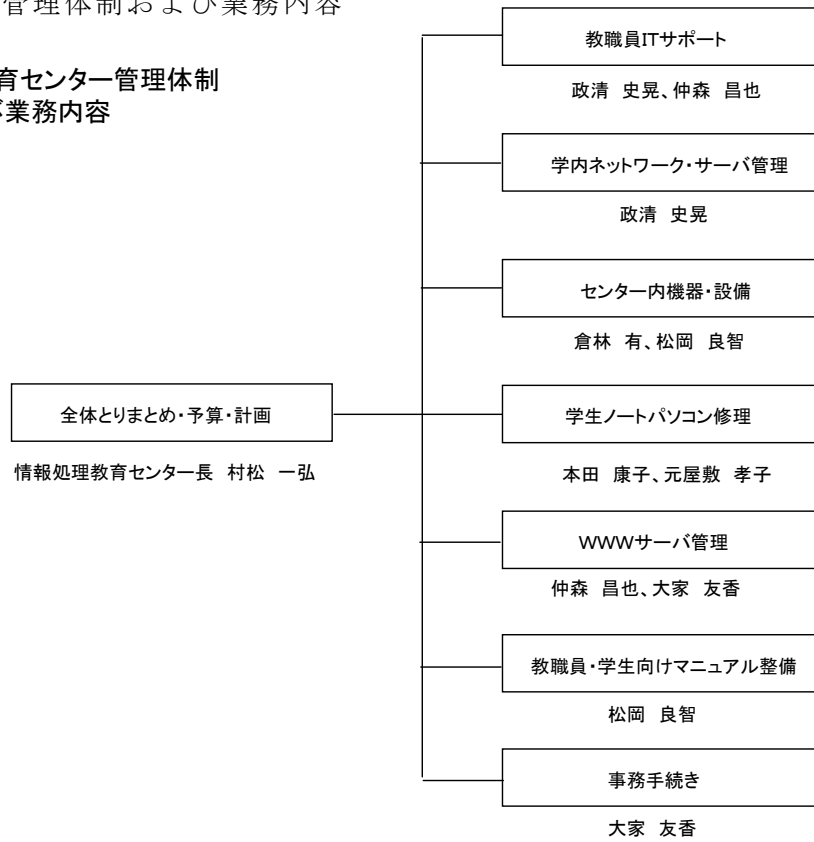
また本校の特長として、希望学生全員にノートパソコンを無償貸与している。このノートパソコンは自宅や寮に持ち帰ることが可能で、レポートの作成等の課題に使用できる。学生寮全室や新館の各教室ではLANが使用可能な環境にあるため、ノートパソコンを用いてインターネットに接続し、勉強資料や就職資料等の収集が学生自身で出来る。平成17年度からは、e-Learning（Web-Class）の導入、情報処理試験対策セミナーの実施、学生への電子的告知の推進など更なる質の向上を行っている。

情報処理教育センターの組織体制および主な業務は資料2-1-③-2のようになっており、情報処理教育センター長を責任者とし、センター長補佐1名、教員5名、事務職員2名を配置して、センター内設備・機器の保守・更新、学内ネットワーク・サーバーの管理、学生貸与ノートパソコンの配布・点検・修理、教職員のITサポートなどを担当している。各業務はセンター構成員に分担され、週に1回ミーティングを行い各自の業務状況について確認を行っている。

資料2-1-③-2

情報ネットワークの管理体制および業務内容

情報処理教育センター管理体制  
および業務内容



(出典：近畿大学工業高等専門学校情報処理教育センター資料)



資料 2 - 1 - ③ - 3 情報処理教育センター利用状況

グループ: 情報処理教育センター

2007年 6月 17日 (日)

	17(日)	18(月)	19(火)	20(水)	21(木)	22(金)	23(土)
CAE		9:00-10:35 4EBC情報コミュニケーション論Ⅱ(夕崎まこと)の 10:40-12:15 5EB 確率統計(倉林 有)の	9:00-10:35 数値計算法(4EBC/CAD)(渡邊志)の 13:40-15:25 プログラミング言語Ⅲ(中西 弘一)の	9:00-10:35 5EB 確率統計(倉林 有)の	9:00-10:35 データベース演習(中西 弘一)の 10:40-12:15 2 工学概論Ⅰ(倉林 有)の 13:00-14:35 情報処理(2-1)(本田 康子)の	9:00-10:35 データ構造とアルゴリズム(4EBC)(政清 史晃)の 10:40-12:15 2 工学概論Ⅰ(倉林 有)の 13:50-15:25 電気電子計測Ⅲ(嶋野 彰夫)の	
CAD		9:00-12:15 工学実験(2年)(仲森 昌也)の 13:00-16:15 工学実験(1年)(仲森 昌也)の	9:00-10:35 5EB2 Web ContentsⅡ(中谷 英十)の 10:40-12:15 プレゼンテーション技法Ⅲ(5EB2)(本田 康子)の 15:30-17:05 コンピュータ処理(福田)(嶋野 彰夫)の	9:00-10:35 数値計算法(4EBC/CAD)(渡邊志)の 10:40-12:15 CADⅠ(福田)(嶋野 彰夫)の 14:40-16:15 3D プレゼンテーション技法Ⅰ(夕崎まこと)の	9:00-10:35 4EBC2 プレゼンテーション技法Ⅱ(夕崎まこと)の 10:40-12:15 5EB2 情報コミュニケーション演習Ⅲ(夕崎まこと)の 14:40-16:15 CAD(仲森 昌也)の	9:00-10:35 3D 情報コミュニケーション演習(夕崎まこと)の 13:00-14:35 情報コミュニケーション演習Ⅱ(久保)(嶋野 彰夫)の	
CAI		9:00-12:15 2年 実験実習(情報)(政清 史晃)の 13:00-16:15 1年 工学実験(情報系)(嶋野 彰夫)の	9:00-10:35 プログラミング言語Ⅲ(中西 弘一)の 10:40-12:15 2-3 情報処理Ⅱ(倉林 有)の 13:00-14:35 4EAI データ処理Ⅰ(村松 一弘)の 14:40-16:15 3D-CAD パス演習(嶋野)(嶋野 彰夫)の	9:00-10:35 1年 4組 情報処理(北本 順彦)の 10:40-12:15 3D CAD(神田)(神田 駿)の 14:40-16:15 プログラミング言語Ⅲ(A/CAD)(渡邊志)の 16:20-17:30 2年 情報処理Ⅱ 再試(倉林 有)の	10:40-12:15 情報処理Ⅰ(片岡)(嶋野 彰夫)の	9:00-10:35 1年 1組 情報処理(北本 順彦)の 10:40-12:15 2年 4組 情報処理Ⅱ(夕崎まこと)の 15:30-16:15 教養セミナー(Whirlwind/Java)(倉林 有)の	
マルチメディア教室		9:00-10:35 5EB2 情報メディア論(倉林 有)の 10:35-12:20 コンピュータシミュレーションⅡ(西 謙二)の 13:00-14:30 確率統計(5EA)(本田 康子)の 14:30-15:30 再試 西4EBCompSim(西 謙二)の		13:00-13:45 2A2 English(サイモン ハンプリーズ)の	10:35-12:20 2年 工学概論(西 謙二)の 13:00-13:45 C English(サイモン ハンプリーズ)の	13:00-13:45 3A2 English(サイモン ハンプリーズ)の 13:50-14:35 1E(サイモン ハンプリーズ)の 15:30-16:30 教養セミナー(海の生き物)(岡山 伸訓)の	9:00-12:15 中国語の授業(伊藤 豊治)の

(出典：近畿大学工業高等専門学校イントラネット画面)

情報教育科目の授業はもちろんのことコンピュータを用いた設計技術（CAD）教育や視聴覚機器を使用した特徴ある授業等にも使用されている。本校で情報処理教育センターを利用するには、イントラネットによる予約システムを採用しており（資料 2 - 1 - ③ - 3）、情報処理教育センター教室の利用率はかなり高い。

（分析結果と根拠理由） 本校には情報処理教育センターが設置されており、コンピュータを用いた情報教育および視聴覚施設を使用したさまざまな授業が行われている。また希望学生全員にノートパソコンが無償貸与され、十分な情報教育を受けられる環境がそろっている。これらは、学習・教育目標を達成する上で適切なものとなっている。

観点 2 - 2 - ①：教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

（観点に係る状況） 本校は資料 2 - 2 - ① - 1 の各種委員会組織で運営されている。教育課程に関わる事項は主として教務委員会、教育評価委員会、学科会議等で審議され、上位組織として執行委員会や運営委員会に上げて審議・決定される。これら組織運営での審議事項は、イントラネットにより連絡・報告され、全教職員に徹底すべき事項は月 1 回程度開催される教職員会議で伝達され徹底が図られる。また毎朝 10 分間全専任教職員による打ち合わせを行い、日常の徹底事項、行事予定、学生への連絡事項等の伝達を行っており教育課程を運営するに当た



で調査した（資料2-2-②-1）。調査結果を総合すると現在の数学教育と工学科の要望にミスマッチが存在することが明らかとなった。3工学科からの要求を満足すべく、数学の講義内容と履修年次について検討した結果（資料2-2-②-2）に基づき平成18年度から数学の講義内容を変更し、更に19年度から2年次数学を1単位増やし「微積分学」と「線形代数学」に分離して並行進行に変更した。

後者については、学習・教育目標にある「コミュニケーション能力」、「日本語でまとめる文章能力を身に付ける」ために、国語科と工学科との連携により実現した。

本校の教員の部屋は個室ではなく、校務組織ごとの大部屋制を採用している。これにより、各業務の遂行や情報の周知などが円滑に行われるだけでなく、一般科目担当教員と専門科目担当教員が同じ部屋にいて情報の交換の場として活用され、連携が機能的に行われている。



(資料2-2-②-2) 工学的数学5年間一貫教育 打ち合わせ経過と結論

工学数学5年間一貫教育打ち合わせ経過.2005.08.31.txt  
 工学数学5年間一貫教育打ち合わせ経過

第1回、2005年6月8日 10:00~11:00、西,嶋野,橋本,神田,(欠:五十石)  
 第2回、2005年7月30日 10:00~11:00、西,嶋野,五十石,神田,(欠:村田)  
 第3回、2005年8月26日 2:00~5:10、西,嶋野,村田,五十石,向井,伊藤,神田,(欠:乗本)

- 「工学のための数学」という問題意識が必要との考えから、現状の数学のカリキュラムを見直したいというのが、この会の主旨である。
- 第1回、2回は、各工学科からの要望を集めることを中心に進めた。第3回は、数学科担当教員も含めて、現実問題も含めて意見を出し合った。
- その結果、以下の案ができた。
  - ・2年生で「微分積分」、「線形代数」と2科目設けて3単位ずつとし、並行して進むという案ができた。(案2)
  - ・微積分が線形代数より先になりそう。
  - ・確率統計は入れない。

現状	案1	案2	教科書	単元	
1年	1年	1年	基礎数学 1章	数と式の計算	深さ
1年	1年	1年	基礎数学 2章	方程式と不等式	
1年	1年	1年	基礎数学 3章	関数とグラフ	集合・命題を略す?
1年	1年	1年	基礎数学 4章	指数関数と対数関数	無理関数、分数関数を流す?
1年	1年	1年	基礎数学 5章	三角関数	
1年	2年	2年微分積分	基礎数学 6章	図形と式	2次曲線を流す?
2年	1年	1年	基礎数学 7章	場合の数と数列( $\Sigma$ 、 $\Pi$ )	二項定理、漸化式を流す?
2年	2年	2年線形代数	線形代数 1章	ベクトル	空間ベクトルを流す?
2年	3年	2年線形代数	線形代数 2章	行列(4*4の行列含む)	
2年	3年	2年線形代数	線形代数 3章	行列式	
2年	3年	2年線形代数	線形代数 4章	行列の応用	
2年	2年	2年微分積分	微分積分I 1章	微分法	流す?
3年	2年	3年	微分積分I 2章	微分法の応用	大学レベルのものを一部略す?
3年	2年	2年微分積分	微分積分I 3章	積分法	速度・加速度を略す?
3年	3年	3年	微分積分I 4章	積分法の応用	大学レベルのものを一部略す?
3年	3年	3年	微分積分II 1章	関数の展開	
4年	4年	4年	微分積分II 2章	偏微分法	流す?
4年	4年	4年	微分積分II 3章	重積分	
4年	4年	4年	微分積分II 4章	微分方程式	
4年	4年	4年	微分積分II 補章	(続)関数の展開	
なし	なし	なし	応用数学 1章	ベクトル解析	略す?
なし	なし	なし	応用数学 2章	複素関数	
4年	4年	4年	応用数学 3章	ラプラス変換	
なし	なし	なし	応用数学 4章	フーリエ級数とフーリエ変換	流す?

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

(分析結果と根拠理由) 各教員は、授業計画書(シラバス)により他の教員の講義内容と進行状況について知ることができ、また学生の成績・出席状況を共有するで、教育・指導における協力体制が出来ている。工学の基礎科目である数学では、工学科教員と具体的な講義内容と履修時期についての議論がなされ、カリキュラムや講義内容の変更に結びついた。このように基礎と応用をつなぐ教員間の連携体制が取れている。更に、校務組織ごとに1つの部屋で学校運営・教育活動を行うことで、学校運営や学生指導における連携体制が向上し機能している。

**観点 2-2-③：教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。**

(観点到に係る状況) 専任教員は全員いずれかの校務分掌組織に属しており資料 2-2-③-1の校務分掌規定に従ってそれぞれの学校運営業務に携わり、学生への教育・支援活動を行っている。これらの業務遂行を通じて教員と学生の接する多くの機会を得ることできめ細かな教育活動が可能となる。

平成17年度から相談マップ(資料 2-2-③-2)を作成し掲示している。これは学業面および学業以外で教員が相談に乗れる内容を記載したもので、学生が簡単に相談相手を見つけ問題解決に導くためのものである。

## ○近畿大学工業高等専門学校校務分掌規程

（平成5年7月1日）

最近改正 平成17年4月1日

（目的）

**第1条** この規定は、学校法人近畿大学職制第4章第25条から第30条までに定めるもののほか、学校法人近畿大学職制第38条に基づき本校の校務分掌を定めたものである。

（組織）

**第2条** 本校に、専攻科（生産システム工学専攻）、総合システム工学科、機械システム工学科、電気情報工学科、建設システム工学科、一般教養科、教務部、学生部、寮務部、図書館、情報処理教育センター、リエゾンセンター、進路指導部、危機管理部、入試部、学習指導部、研究相談室、研究開発部、技術教育部、地域政策部、保健管理部、教育相談室、教育評価室、寮生相談室、国際交流室、企画広報室、人権教育室、カウンセリング室、学生相談室及び事務部の各部門を置く。

2 校長は、法人の承認を得て各部門に必要な役職員をおくことができる。

3 前1項に定めるもののほか、校長は必要に応じて委員会等をおくことができる。委員会に関する事項は、必要に応じて別に定める。

4 本校の公務分掌組織は、別表のとおりとする。

**第3条** 各部門に次の係りを置くほか、校長の承認を得て必要な係を置くことができる。

- (1) 専攻科に学級係を置く。
- (2) 総合システム工学科に1、2年の学級係を置く。
- (3) 機械システム工学科に3、4、5年の学級係を置く。
- (4) 電気情報工学科に3、4、5年の学級係を置く。
- (5) 建設システム工学科に3、4、5年の学級係を置く。
- (6) 教務部に学年係、庶務係、日課教科係、教科書係を置く。
- (7) 学生部に生活指導係、下宿指導係、学生会係、厚生係、交通安全係を置く。
- (8) 寮務部に寮務係を置く。
- (9) 図書館に図書係、視聴覚係を置く。
- (10) 情報処理教育センターに電算係を置く。
- (11) 進路指導部に進路指導係を置く。
- (12) 入試部に入試係を置く。
- (13) 企画広報室に企画広報係を置く。
- (14) 保健管理部にウェルネス係と保健室係を置く。
- (15) 人権教育室に人権教育係を置く。
- (16) 事務部に庶務会計課を置く。

（分掌）

**第4条** 各学科、各部門、係等の分掌は次のとおりとする。

専攻科

- (1) 専攻科の教務に関する事項

第15章 併設学校（近畿大学工業高等専門学校校務分掌規程）

- (2) 専攻科の実験室の施設、設備に関する事項
- (3) 専攻科生の進路指導、幹旋に関する事項
- (4) 専攻科生の生活指導に関する事項
- (5) 専攻科生の学外研修に関する事項
- (6) 専攻科に係る予算の申請、執行管理に関する事項
- (7) 専攻科の学級係（学生指導、教室管理、諸表簿整備等）に関する事項
- (8) その他専攻科に属する事項

総合システム工学科

- (1) 総合システム工学科の教務に関する事項
- (2) 総合システム工学科の実験室の施設、設備に関する事項
- (3) 総合システム工学科生の生活指導に関する事項
- (4) 総合システム工学科生の学外研修に関する事項
- (5) 総合システム工学科の1、2年の学級係（学生指導、教室管理、諸表簿整備等）に関する事項
- (6) その他総合システム工学科に属する事項

機械システム工学科

- (1) 機械システム工学科の教務に関する事項
- (2) 機械システム工学科の実験室の施設、設備に関する事項
- (3) 機械システム工学科生の進路指導、幹旋に関する事項
- (4) 機械システム工学科生の生活指導に関する事項
- (5) 機械システム工学科生の学外研修に関する事項
- (6) 機械システム工学科に係る予算の申請、執行管理に関する事項
- (7) 機械システム工学科の3、4、5年の学級係（学生指導、教室管理、諸表簿整備等）に関する事項
- (8) その他機械システム工学科に属する事項

電気情報工学科

- (1) 電気情報工学科の教務に関する事項
- (2) 電気情報工学科の実験室の施設、設備に関する事項
- (3) 電気情報工学科生の進路指導、幹旋に関する事項
- (4) 電気情報工学科生の生活指導に関する事項
- (5) 電気情報工学科生の学外研修に関する事項
- (6) 電気情報工学科に係る予算の申請、執行管理に関する事項
- (7) 電気情報工学科の3、4、5年の学級係（学生指導、教室管理、諸表簿整備等）に関する事項
- (8) その他電気情報工学科に属する事項

建設システム工学科

- (1) 建設システム工学科の教務に関する事項
- (2) 建設システム工学科の実験室の施設、設備に関する事項
- (3) 建設システム工学科生の進路指導、幹旋に関する事項
- (4) 建設システム工学科生の生活指導に関する事項
- (5) 建設システム工学科生の学外研修に関する事項
- (6) 建設システム工学科に係る予算の申請、執行管理に関する事項

5064

D  
〔近大七〕  
五〇六四



第15章 併設学校（近畿大学工業高等専門学校校務分掌規程）

(7) 建設システム工学科の3、4、5年の学級係（学生指導、教室管理、諸表簿整備等）に関する事項

(8) その他建設システム工学科に属する事項

一般教養科

(1) 一般教養科の教務に関する事項

(2) 一般教養科の実験室の施設、設備に関する事項

(3) 一般教養科学生の生活指導に関する事項

(4) 一般教養科学生の学外研修に関する事項

(5) 一般教養科に係る予算の申請、執行管理に関する事項

(6) 一般教養科の1、2年の学級係（学生指導、教室管理、諸表簿整備等）に関する事項

(7) その他一般教養科に属する事項

教務部

(1) 教務部に係る予算の申請、執行管理に関する事項

学年係

(1) 学年に関する事項

庶務係

(1) 普通教室の配置に関する事項

(2) 諸統計、学校要覧、会議記録に関する事項

(3) 在校生の学籍簿の整備・保管、学級編成に関する事項

(4) 転学、入学、退学、休学に関する事項

(5) 教務関係書類の保管及び諸用紙類の整備に関する事項

(6) その他庶務係に属する事項

日課教科係

(1) 教科編成、授業計画、時間割り編成に関する事項

(2) 各種考査の実施に関する事項

(3) 行事計画、日課計画に関する事項

(4) 年間履修計画に関する事項

(5) その他日課教科係に属する事項

教科書係

(1) 教科書の選定に関する事項

(2) 教科書販売に関する事項

(3) 教員用指導書に関する事項

(4) その他教科書係に属する事項

学生部

(1) 学生部に係る予算の申請、執行管理に関する事項

生活指導係

(1) 訓育、生活指導に関する事項

(2) 学生の補導に関する事項

(3) 防災計画に関する事項

(4) 生活指導上の外部団体との渉外に関する事項

D  
〔近大六〕  
五〇六五

第15章 併設学校（近畿大学工業高等専門学校校務分掌規程）

(5) その他生活指導係に属する事項

下宿指導係

(1) 学生の下宿指導に関する事項

学生会係

(1) 学生会活動に関する事項

(2) クラブ活動に関する事項

(3) その他学生会係に属する事項

厚生係

(1) 校内の美化、清掃に関する事項

(2) 学生の遺失物、拾得物に関する事項

(3) 学生のアルバイトに関する事項

(4) 学生の食堂、売店の利用に関する事項

(5) その他厚生係に属する事項

交通安全係

(1) 交通安全教育の計画に関する事項

(2) 交通事故、交通違反に関する事項

(3) 自転車・50cc自動二輪通学生の指導に関する事項

(4) 交通安全指導上の外部団体との連携に関する事項

(5) その他交通安全係に属する事項

寮務部

(1) 寮務部に係る予算の申請、執行管理に関する事項

寮務係

(1) 学生寮の運営に関する事項

(2) 寮生の生活指導に関する事項

(3) 寮生の安全対策に関する事項

(4) 寮生の衛生管理に関する事項

(5) 寮生の入寮、退寮に関する事項

(6) 寮生の行事に関する事項

(7) その他寮生の厚生補導に関する事項

(8) 日直寮監への連絡に関する事項

(9) その他寮務部に属する事項

図書館

(1) 図書館に係る予算の申請、執行管理に関する事項

図書係

(1) 図書館運営の企画に関する事項

(2) 図書の選択、発注及び受入に関する事項

(3) 図書の分類及び目録に関する事項

(4) 図書の閲覧及び帯出に関する事項

(5) 図書台帳の作成及び目録に関する事項

(6) 図書資料の製本等に関する事項

5066

D  
〔近大六〕  
五〇六六

第15章 併設学校（近畿大学工業高等専門学校校務分掌規程）

(7) 図書館に係る他校との交流に関する事項

(8) 書庫及び閲覧室の管理に関する事項

(9) その他図書係に属する事項

視聴覚係

(1) 視聴覚教育の年間計画に関する事項

(2) 視聴覚教育の指導に関する事項

(3) 視聴覚教室の管理に関する事項

(4) 視聴覚教育の教材及び教具の整備保管に関する事項

(5) その他視聴覚教育に属する事項

情報処理教育センター

(1) 情報処理教育センターに係る予算の申請、執行管理に関する事項

電算係

(1) 情報処理教育に関する事項

(2) コンピュータ機器の管理運営に関する事項

(3) 情報関連の国家試験及び公開講座に関する事項

(4) その他電算係に属する事項

リエゾンセンター

(1) リエゾンに係る予算の申請、執行管理に関する事項

(2) その他、リエゾン業務に関する事項

進路指導部

(1) 進路指導部に係る予算の申請、執行管理に関する事項

進路指導係

(1) 求人の受付に関する事項

(2) 卒業予定者への進路指導に関する事項

(3) 進路指導の資料の整備、諸統計資料の作成に関する事項

(4) 求人先の開拓に関する事項

(5) その他進路指導室に属する事項

危機管理部

(1) 防災計画に関する事項

(2) その他危機管理業務に関する事項

入試部

(1) 入試部に係る予算の申請、執行管理に関する事項

入試係

(1) 学生募集計画に関する事項

(2) 学生募集に係る資料の作成に関する事項

(3) その他学生募集に属する事項

学習指導部

(1) 進学・就職のための学習に関する事項

(2) 基礎学力向上に関する事項

(3) 習熟度別教育に関する事項

D  
〔近大六〕  
五〇六七

5067

第15章 併設学校（近畿大学工業高等専門学校校務分掌規程）

(4) 学習指導部に係る予算の申請、執行管理に関する事項

(5) その他学習指導部に属する事項

研究開発部

(1) 研究開発部に係る予算の申請、執行管理に関する事項

(2) 産官学等に関する研究開発に関する事項

(3) 教材研究に関する事項

(4) 研究紀要に関する事項

(5) 研究会、学会に関する事項

(6) 学外研究費募集の取りまとめに関する事項

(7) 学内研究資料の取りまとめに関する事項

(8) その他研究開発室に関する事項

技術教育部

(1) もの作り・創造教育に関する事項

(2) その他技術開発業務に関する事項

地域政策部

(1) 地域政策部に係る予算の申請、執行管理に関する事項

(2) 地域政策に関する事項

保健管理部

(1) 保健管理部に係る予算の申請、執行管理に関する事項

保健室係

(1) 学校保健法に基づく教職員、学生の健康管理、指導助言に関する事項

(2) 学生に係る健康診断書の作成に関する事項

(3) 保健室の管理に関する事項

(4) 結核予防費補助金に関する事項

(5) 健康診断の計画、実施に関する事項

(6) その他保健室に属する事項

ウェルネス係

(1) 学生健保共済会に関する事項

(2) 学生健保共済会手続き及び活動に関する事項

(3) その他ウェルネス係に属する事項

教育相談室

(1) 在校生の学籍簿の整備に関する事項

(2) その他教育相談に関する事項

教育評価室

(1) 公開授業の実施・評価に関する事項

(2) その他教育評価に属する事項

寮生相談室

(1) 寮生の相談に関する事項

国際交流室

(1) 国際交流に係る予算の申請、執行管理に関する事項

(2) その他、国際交流に関する事項

5068

D  
〔近大六〕  
五〇六八

第15章 併設学校（近畿大学工業高等専門学校校務分掌規程）

企画広報室

- (1) 高専新聞の発行
- (2) 学校紹介に係る広報活動の企画に関する事項
- (3) 学校案内の作成に関する事項
- (4) 学生募集に係る広報に関する事項
- (5) 企画広報に係る資料の作成に関する事項
- (6) その他企画・新聞雑誌広報に属する事項

人権教育室

- (1) 人権教育室に係る予算の申請、執行管理に関する事項

人権教育係

- (1) 教職員の人権教育研修に関する事項
- (2) 人権教育資料の整備、閲覧に関する事項
- (3) その他人権教育推進に属する事項

カウンセリング室

- (1) 学生及び教職員のヘルスカウンセリングに関する事項
- (2) その他カウンセリング室に属する事項

学生相談室

- (1) 入学時の物品販売の業者選定の助言に関する事項
- (2) アルバム写真、クラス写真の業者選定の助言に関する事項
- (3) 研修旅行（2年、4年）の業者選定の助言に関する事項
- (4) 寮生の生活必需品の販売業者選定の助言に関する事項
- (5) 自動販売機からの手数料還元の助言に関する事項
- (6) 教科書販売手数料還元の助言に関する事項
- (7) 教育用実験機器納入業者の選定の助言に関する事項
- (8) 寮の施設備品の業者選定の助言に関する事項

事務部

庶務会計課

- (1) 法人本部への決裁手続きに関する事項
- (2) 校長印、学校印、その他公印の作成申請、保管及び使用に関する事項
- (3) 儀式及び諸行事に関する事項
- (4) 諸規定・内規の制定改廃に関する事項
- (5) 公文書の收受、発送に関する事項
- (6) 郵便物の受付、発送に関する事項
- (7) 官公庁に対する申請報告に関する事項
- (8) 法人本部への報告連絡に関する事項
- (9) 諸経費・旅費・研究費等の支払いに関する事項
- (10) 構内の取締・警備及び清掃に関する事項
- (11) 校舎等の使用及び学外貸与に関する事項
- (12) 電話設備の配置・管理等に関する事項
- (13) 学内売店、物品販売、出入業者の選定・監督に関する事項
- (14) 教職員の採用、昇格、異動等の報告申請に関する事項

D  
〔近大六〕  
五〇六九

第15章 併設学校（近畿大学工業高等専門学校校務分掌規程）

- ⑮ 教職員の給与・諸手当の申請に関する事項
- ⑯ 教職員の服務に係る諸届けの受理・報告に関する事項
- ⑰ 教職員の諸証明に関する事項
- ⑱ 教職員の履歴書の整備保管に関する事項
- ⑲ 私学教職員共済組合及び社会保険に関する事項
- ㉑ その他教職員の人事・給与・福利厚生に関する事項
- ㉒ 金銭の出納・現金の保管に関する事項
- ㉓ 学費等学生納付金及びその他納付金の収納に関する事項
- ㉔ 会計帳簿の記帳及び同付属書類の作成・保管に関する事項
- ㉕ 予算の編成・管理統制及び決算書の作成に関する事項
- ㉖ 予算書・決算書の保管に関する事項
- ㉗ 補助金事務に関する事項
- ㉘ 固定資産・流動資産に係る取得、処分、契約の申請に関する事項
- ㉙ 固定資産及び用品の取得・処分・修理・使用・管理・契約に関する事項
- ㉚ 減価償却に関する事項
- ㉛ 物品の調達及び印刷物の発注に関する事項
- ㉜ 公認会計士等の監査に関する事項
- ㉝ 学生募集及び入学試験に関する事項
- ㉞ 卒業生等（在校生は除く。）の学籍簿の保管に関する事項
- ㉟ 学生に係わる証明書等の発行に関する事項
- ㊱ 委託業務、委託業者の選定・監督及び契約に関する事項
- ㊲ 災害防止に係る事項
- ㊳ 寮施設の管理に関する事項
- ㊴ その他事務部に属する事項

附 則

- 1 この規程は、平成5年7月1日から施行する。
- 2 昭和51年7月3日制定の熊野工業高等専門学校校務分掌規定は、廃止する。

附 則

この規程の改正は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成13年10月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成16年9月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成17年4月1日から施行する。

5070(-5120)

D  
〔近大六〕  
五〇七〇(一五二〇)

(出典：近畿大学学園例規集)

資料2-2-③-2

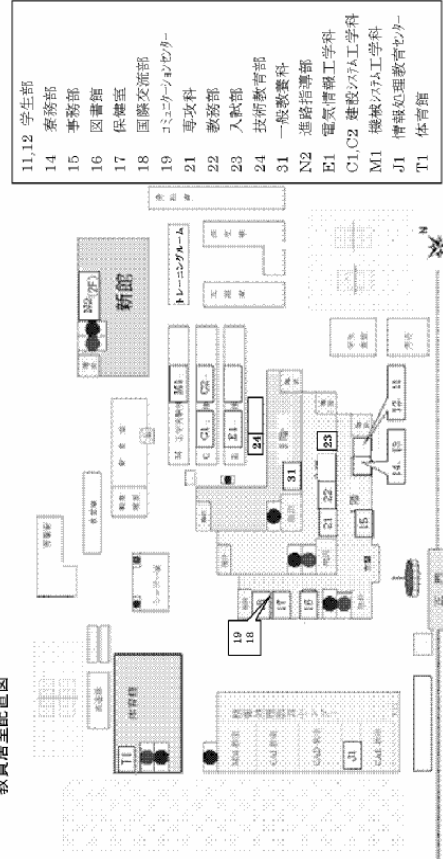
平成19年度相談マップ (昼休みや放課後など、相談に来てください)

部署(地図)	教員氏名	学習面で指導できる科目	学習面以外で相談にのれること
<b>機械系</b>			
機械棟 (M1)	奥田 昇也	製図、材料力学、工学実習	何でも可
新館 2F (N2)	村田 圭治	熱工学、伝熱工学、3次元工学	機械系学生の進路指導
技数部 (24)	久貝 克弥	計測、制御関係の科目、C言語	人生・進路相談
本館 1F (11)	熊野 伸也	材料学	就職に関する相談
技数部 (24)	山本 広樹	力学	電子工作、海外旅行
機械棟 (M1)	中村 信広	加工全般	機械工学科での進路とその対策
新館 2F (N2)	荒賀 浩一	木力学、流体工学、FORTRAN	就職・進学に関する相談
<b>電気情報系</b>			
本館 2F (21)	西 謙二	数学、英語、半導体	米国事情、登山、77の音楽
本館 2F (22)	嶋野 彰夫	物理、電子回路、情報系電機機器	進路相談、特許関連、釣り
電気棟 (E1)	園井 康夫	回路網、電気数学、電気機器	鉄道模型、園芸、ガラス工芸品
電気棟 (E1)	大島 茂	電子材料、通信工学、高周波回路	光の話、77のギター、特許の書き方
情報センター (J1)	村松 一弘	コンピュータ、C言語、物理、英会話	海外留学、進路
電気棟 (E1)	中西 弘一	自動制御、制御工学	ソーラーカー、無線
本館 1F (23)	山川 昌文	CAD、Excel、マイクロソフト	進路相談、カフェ
情報センター (J1)	仲森 昌也	電気情報系の全般と資格	電子工作、喫茶、バス、ボウリング
情報センター (J1)	政清 史晃	情報通信関係科目	資格取得、進路相談
本館 1F (14)	岸 純男	電気電子系資格試験	電気工事士・工事担任者・電験3種
情報センター (J1)	本田 康子	物理、情報77	大学での研究活動、就職課程
情報センター (J1)	倉林 有	工学の数学、Java、C言語	人生、関東のこと
本館 2F (22)	神田 毅	数学、C/C++言語	囲碁
本館 2F (22)	渡邊 志	情報処理関係科目・化学系科目	人生・進路相談
電気棟 (E1)	汐崎まこと	プログラミング、シーケンサ	アマチュア無線
電気棟 (E1)	片岡 壽一	パソコン、商業デザイン	キャリアアセスメント
<b>都市環境系</b>			
建設棟 (C2)	表 寿一	景観学、生体学、環境デザイン	留学、恋愛、人生、進路相談
建設棟 (C2)	青木 繁	建築・都市・農村計画	空手道、町並み、建築士受験対策
本館 1F (15)	中西 祐啓	水理学、土木施工管理方法	風景写真、旅行、土木系資格試験
本館 1F (14)	五十石 浩	地震、耐震、数学	進路相談
本館 2F (22)	林 泰弘	地盤(土質)工学	進路、鉄道、旅行、オランダ
本館 1F (17)	和田 孝志	鉄筋コンクリート、構造力学 I	何でもいけます
本館 1F (19)	倉本 進郎	測量、情報基礎	進路相談、ワープロ検定、悩み相談
本館 2F (23)	中平 恭之	測量学、交通計画学、土木系科目	なんでも
情報センター (J1)	松岡 良智	建築学全般	進路相談
<b>理数系</b>			
本館 1F (23)	向井 康恩	数学	進路相談
本館 2F (23)	乗本 学	数学	進路相談
本館 2F (22)	伊藤 豊治	数学	進学相談
本館 3F (31)	木瀬 利和	数学	ソフトボール・ゴルフ
本館 3F (31)	堀 一詞	数学	園芸関係、ゴルフ

(出典：近畿大学工業高等専門学校教務部資料)

本館 3F (31)	山下 秀夫	数学	つり
本館 1F (16)	今野 理喜男	物理、応用物理	図書、編入学試験 (物理)
本館 2F (21)	鈴木 隆	化学、生物、数学	危険物取扱者試験、吹奏楽部、乗物
本館 1F (19)	知山 伸訓	物理、応用物理	楽学盆、大卒編入 (物理)、ボウ
<b>語学(英語、国語、中国語)、社会、体育</b>			
本館 1F (16)	健一 健一	経済学、英語	アメリカ大学留学、東南アジア情報
本館 3F (31)	竹内 幸輔	英語	文化及び風土論、外国映画、鉄道
本館 1F (18)	瀬口 博幸	国語	海外留学
本館 1F (11)	上田 透	英語	学校生活、学生会活動
本館 1F (18)	サイ モン	英語	海外旅行、サッカー、ハイキング
本館 2F (23)	大内 清司	国語	小説、カメラ、履歴書の書き方
本館 1F (19)	園田 紀子	国語、絵画	奈良・京都観光、美術品
本館 1F (18)	酒井 宗和	中国語	中国事情、留学相談
本館 1F (11)	辻本 修	武道 (柔道)	トレーニング、怪我
本館 2F (23)	中澤 良文	野球	健康食品
本館 1F (11)	齋藤 彰	ソフテニス	スポーツ心理
本館 1F (11)	松尾 大介	日本史、陸上	ダイエツ心理
本館 1F (11)	相野 智裕	サッカー	トレーニング
本館 1F (14)	小西 大亮	地理、武道 (剣道)	武道関係
本館 1F (23)	重村 博美	倫理	何でも
本館 1F (14)	島 敏彦	体育、スポーツ (競技)	野球、悩み相談
体育館 (T1)	坪内 希輔	ソフテニス	人生相談
本館 1F (14)	後呂 宏雄	公民 (政治・経済)、体育	バスケットボール、人生・進路相談
体育館 (T1)	榎本 昭徳	サッカー	スノーボード、サッカー関係
本館 1F (14)	森岡 圭	ラグビー	ラグビー、悩み相談
本館 1F (14)	佐伯 祐子	柔道、球技、陸上	体育関係、悩み相談

教員居室配置図



平成19年度の各学年の担任表は資料2-2-③-3の通りである。各学年に任命された学年主任は各学年の行事・学生の成績・生活面指導の統括を行い、学年副主任は担任が不在のときの代行を務める。また、定期的に担任会を開き学生の状況等の情報を共有し、1人ひとりの学生を学年団としてサポートしている。

資料2-2-③-3 平成19年度担任表

	1組		2組		3組		4組		学年主任	学年副主任
1年	倉本		渡邊		重村		竹内		倉本	本田
2年	大内		鈴木		園田		齊藤		大内	今野
3年	乗本		畑山		溝口		栢野		乗本	松尾
	機械システム工学科		電気情報工学科		建設システム工学科		学年主任		4,5年副主任	
	A組	B組	A組	B組	A組	B組			奥田	
4年	中村	久貝	仲森	神田	松岡	/		中村	中西弘	
5年	荒賀	山本	大島	倉林	中平			和田	和田	青木

(出典：近畿大学工業高等専門学校平成19年度担任表)

また、平成17年度11月からは、各科目担当教員が毎時間欠席学生を直ちに担任に連絡できるようなシステムを導入し(資料2-2-③-4)、朝ホームルームのみならずその日1日の学生の状況を把握している。

資料2-2-③-4

**欠課等連絡**

科目名 \_\_\_\_\_

担当者名 \_\_\_\_\_ 月 日 曜日

学年	クラス	工学科	番号	氏名	欠課、遅刻、早退の種別	累積欠課数

出典：近畿大学工業高等専門学校教務部資料(平成17年11月)

特に補助が必要な部署に対しては、適性に応じた契約・定時職員の配置を行っている。図書



館定時職員1名、実験棟技術員2名、情報処理教育センター契約職員、定時職員各1名、教務部契約職員1名、学生寮契約職員1名、学生寮主任3名による寮務業務、臨床心理学博士カウンセラー1名、非常勤クラブ講師（和太鼓、茶道、着付け、剣道、バスケットボール、空手など）、専攻科生による実験補助、情報科目補助等があり、専任教員の教育活動の支援を行っている。

（分析結果と根拠理由） 専任教員は全員いずれかの校務分掌組織に属してそれぞれの学校運営業務に携わり、これらの業務遂行を通じて教員と学生の接する多くの機会を得ることできめ細かな教育活動を行っている。

平成17年度から相談マップ（資料2-2-③-2）を作成し掲示している。

全学年でクラス毎に担任が配置されており、欠課等がある場合はその情報が教科担当教員より担任に提供される体制が取られている。また契約職員、定時職員、専攻科生が常勤教員の教育活動をサポートする体制が整っている。

## （2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点） 本校の教育の目的に対応した学科の各組織の構成は、学習・教育目標の具体化と授業計画とのリンク、更に各会議や教員大部屋方式によって、教育の目標を達成し学生を支援・教育する上で十分な体制になっている。更に、情報処理教育センター施設を活用した教育支援体制の向上により、社会のニーズに応える学生の育成が可能となっている。また、一般科目と専門科目の連携に対しても、授業内容・毎朝、各部屋での情報交換によって実現している。

（改善を要する点） 一般科目と専門科目の連携に対しても、数学・国語だけではなく、更に他の科目でも実現が必要である。

## （3）基準2の自己評価の概要

本校は設立当初より機械、電気、土木の3工学科体制で学科運営されてきたが、平成17年度より3工学科を統合した「総合システム工学科」が設置され、現代産業界のニーズに合った総合的な対応力をもった技術者の養成が行えるようになった。本校の専攻科は複合的・融合的技術に対応できる技術者の育成を目指し設置されており、準学士課程に続き、より幅広い視野と高度な専門技術・知識の修得ができるよう教育課程が構成されている。平成18年度より具体的な学習・教育目標の策定と専攻科学生への周知により、教育の目的を達成する上でより適切なものとなっている。

全学的センターとして情報処理教育センターが設置されており、コンピュータや視聴覚施設を使用した情報教育はじめ様々な授業が実施されている。また希望学生全員にノートパソコンが無償貸与され、十分な情報教育を受けられる環境が揃っている。これらは、学習・教育目標を達成する上で適切なものとなっている。

本校は各種委員会によって運営されており、教育課程のための検討・運営は各委員会や学科会議レベルでの審議を経て学校的意思決定がなされ教職員全体へ周知される。それらはイントラネットによる議事録の配信によって議事内容・決定事項が開示されている。日常の教育活動は毎朝の教職員打ち合わせで連絡事項が伝達され円滑に実施されている。

教員間の連携については、授業計画書（シラバス）により他の教員の講義内容と進行状況につ

いて知ることができ、また学生の欠課連絡や成績・出席状況の閲覧による情報の共有によって、教育・指導の協力体制が出来ている。工学の基礎科目である数学では、工学科教員と具体的な講義内容と履修時期についての議論がなされ、カリキュラムや講義内容の変更に結びついた。

専任教員は全員いずれかの校務分掌組織に属して校務組織ごとに1つの部屋でそれぞれの学校運営業務に携わっている。これらの業務遂行を通じて教員と学生の接する多くの機会を得るとともに、教員間の連携を取ることできめ細かな教育活動を行う体制が整っている。

全学年でクラス毎に担任が配置されており、欠課等がある場合はその情報が教科担当教員より担任に即座に提供される体制が取られている。また契約職員、定時職員、専攻科生が常勤教員の教育活動をサポートする体制が整っている。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況) 観点1-1-①の具体的な教育目標等を達成するため、一般科目を担当する教員の配置人数は資料3-1-①-1に示す通りである。この教員配置は専任教員19名、客員教授・非常勤講師22名の合計41名である。本校は学校教育法に定める入学定員に係る学生を四の学級より編制しており、一般科目を担当する専任教員数は高等専門学校設置基準を満足している。一般科目の理科系科目、社会系科目には博士号取得教員を配置している。語学については、目的に掲げた「コミュニケーション能力の養成」を達成するため、イギリス人教員を専任採用し、実践力な英語コミュニケーション教育を提供している(資料3-1-①-2)。

資料3-1-①-1 平成19年度一般教養科目担当教員の数

	数学	外国語	国語	理科	社会	体育	音楽 美術	その他	合計
教授	0	1	1	1	1	0	0	0	4
准教授	1	1	1	0	0	1	0	0	4
講師	2	1	0	1	1	3	0	0	8
助教	0	0	1	0	1	1	0	0	3
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>計</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>19</b>
客員・ 非常勤	4	5	2	1	0	5	3	2	22
<b>合計</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>10</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>41</b>

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料3-1-①-2 平成19年度一般教養科目担当教員の専門分野と担当授業科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	今井健一	経済学 Ph.D	環境経済学 都市経済学	5年環境システム工学 5年外国語文献講読 4年経済学 4年英語 4年社会環境システム学
教授	竹内春樹	英語教育修士	英語教育	4年英語 3年英語 2年英語 1年英語

教授	今野理喜男	理学博士	固体物理学	4年応用物理（機械） 4年応用数物演習 4年応用物理（建設） 3年物理 2年物理
教授	溝口博幸	博士(日本文学)	日本語学 日本語教育学	3年国語 1年国語
准教授	大内清司	文学修士	現代日本文学	4年国語
准教授	辻本 修	学士	柔道	2年保健体育 1年保健体育
准教授	伊藤豊治	博士(数理学)	代数的組合せ 論	4年応用数学 2年微積分学 I 2年線形代数学 1年基礎数学
准教授	上田 透	修士	英語	4年英語 3年英語 2年英語 1年英語
講師	向井康恩	理学学士	数学	4年応用数学 2年線形代数学
講師	乗本 学	理学学士	数学	4年応用数学 3年数学 2年微積分学 I 1年基礎数学
講師	畑山伸訓	修士(理学)	物理学	4年電気応用 3年物理 2年物理 2年実験・実習2
講師	サイモン・ハフ ース	修士	英語	5年英語特講 4年英語 3年英語 2年英語 1年英語
講師	斎藤 彰	学士	ソフトテニス	4年保健体育 2年保健体育 1年保健体育
講師	松尾大介	学士	社会・陸上	4年保健体育 3年保健体育 1年日本史

講師	中澤良文	学士	野球	5年保健体育 2年保健体育
講師	栢野智裕	修士	サッカー	4年保健体育 3年保健体育 1年保健体育
助教	重村博美	修士(法学)	公法学	4年経済学 3年倫理
助教	小西大亮	学士	剣道	4年保健体育 2年保健体育 1年保健体育
助教	園田紀子	学士(文学)	国文学	3年国語 2年国語

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

(分析結果とその根拠理由) 適切な配置となっている。一般科目を担当する教員の配置は高等専門学校設置基準を満たしている。一般科目を担当する専任教員19名の内、4名が博士号取得者、7名が修士号取得者で構成されている。この教員配置は高等教育機関としての役割を十分に果たすよう考えられた配置である。

**観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況) 観点1-1-①の具体的な教育目的を達成するため、専門3学科の教員を資料3-1-②-1に示す通りに配置している。その数は専任教員31名、非常勤講師14名の合計45名であり(資料3-1-②-2～資料3-1-②-4)、高等専門学校設置基準を満足している。また専門科目を担当する教授および准教授は計25名で全専任教員50名の半数を下回ることはない。各工学科とも、専門分野、実務・教育経験から専門科目を担当するにふさわしい教員が配置されている。

	機械システム工学科	電気情報工学科	建設システム工学科	合計
教授	3	5	3	11
准教授	5	7	2	14
講師	0	2	4	6
助教	0	0	0	0
助手	0	0	0	0
計	8	14	9	31
非常勤講師	3	7	4	14

合計	11	21	13	46
----	----	----	----	----

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料3-1-②-2 平成19年度専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（機械システム工学科および機械システムコース）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験・教育経験等の状況
教授	奥田昇也	博士(工学)	材料力学	5年卒業研究 5年創造製作実習 4年材料力学Ⅰ 4年力学演習 4年材料力学Ⅱ	ターボチャージャー研究 開発 7年
教授	村田圭治	博士(工学)	熱工学	5年工学実験 5年卒業研究 5年創造製作実習 5年エネルギー変換システム工学 5年資源環境エネルギー論 4年工業熱力学 4年物質移動工学 3年コンピュータ概論Ⅰ	エネルギー・環境機器 の研究開発 21年 特許取得6件
教授	久貝克弥	博士(工学)	ロボット工学 メカトロニクス 制御工学	5年工学実験 5年卒業研究 5年創造製作実習 5年計測システム工学 5年制御システム工学Ⅱ 4年メカトロニクス 4年創造工学演習 4年制御システム工学Ⅰ 3年コンピュータ概論Ⅰ	株式会社ダイヘン 24年 特許取得(国内18 件, 海外2件)
准教授	熊埜御堂茂	工学修士	材料学	4年工学実験 3年工学実験3 3年工学実習3 3年機械システム設計製図 3年金属材料 2年工学概論Ⅰ 1年実験・実習1	

准教授	山本広樹	博士(工学)	計測・信号処理	5年卒業研究 5年創造製作実習 5年機械力学 4年工学実験 3年工学実験3 3年工業力学	特許庁2年 科学警察研究所13年
准教授	鈴木 隆	博士(理学)	物性物理 化学	5年電気応用 2年実験・実習2 2年化学 2年生物 1年化学	
准教授	中村信広	博士(工学)	加工学	5年工学実験 5年卒業研究 5年創造工学演習 5年新素材工学 5年工作機械 4年材料力学 I 4年力学演習 4年機械工作法 2年図学	
准教授	荒賀浩一	博士(工学)	流体力学	5年流体力学 II 5年機械システム設計製図 5年工学実験 5年卒業研究 5年創造製作実習 4年流体力学 I	

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料3-1-②-3 平成19年度専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（電気情報工学科および電気電子コース、情報コミュニケーションコース）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験・教育経験等の状況
教授	西 謙二	工学博士	半導体工学	5年卒業研究 5年半導体工学 5年科学技術英語 4年コンピュータシミュレーション 2年工学概論 I 1年芸術	半導体研究開発 30年 特許取得3件
教授	嶋野彰夫	工学博士	半導体工	5年卒業研究	半導体研究開発

			学	5年工学実験 4年通信工学 3年電気電子計測	25年 特許取得(国内11件, 海外11件)
教授	園井康夫	博士(工学)	レクター-大気物理学	5年電気工学概論 5年卒業研究 5年送配電工学 5年発変電工学 5年パワーエレクトロニクス 5年企業論 4年電気機器 4年電気数学演習 4年電気磁気学演習 4年回路演習	雷の予測・対策の研究 15年 特許取得2件
教授	大島 茂	博士(工学)	光通信工学	5年卒業研究 5年電子回路Ⅱ 4年工学実験 4年電気電子材料 4年電子デバイス工学 3年電気電子材料	光通信研究開発 29年 特許取得40件
教授	村松一弘	理学博士	情報処理	5年卒業研究 5年工学実験 5年システムプログラム 5年言語理論とオートマトン 4年データ処理 3年計算機システム	公務員(ソフト開発) 6年4ヶ月 企業(ソフト開発) 3年2ヶ月 IELTS(英語版 TOEFL) 6.5
准教授	中西弘一	工学修士	電子材料	5年制御工学 5年データベース演習 4年工学実験 4年回路網理論 4年プログラミング言語Ⅲ 4年通信工学 4年情報演習 1年実験・実習Ⅰ	超音波顕微鏡のデバイス開発 4年 特許取得2件
准教授	山川昌文	工学修士	計測工学	5年卒業研究 5年自動制御 5年電子設計製図 3年機械工学概論 2年図学 2年実験・実習2	計測メーカー 10年



				1年実験・実習1	
准教授	仲森昌也	工学修士	電子工学	5年卒業研究 5年工学実験 5年電気応用 4年電子回路 I 3年CAD 2年実験・実習2 1年実験・実習1	特許取得2件
准教授	政清史晃	修士(工学)	情報工学	5年卒業研究 5年ネットワーク工学 5年ソフトウェア演習 5年Webインタラクティブコンテンツ製作 5年言語理論とオートマトン 4年データ構造とアルゴリズム 3年工学実験3 2年実験・実習2	情報通信関係(システム設計) 11年 技術士(電気電子部門)
准教授	本田康子	博士(理学)	宇宙物理	5年卒業研究 5年確率統計 5年プレゼンテーション技法Ⅲ 5年電気情報工学特論 3年工学実験3 3年電気磁気学 I 2年情報処理Ⅱ 2年実験・実習2	研究機関 1年 他大学等教育機関 1年
准教授	神田 毅	博士(工学)	数理工学	5年卒業研究 3年CAD 3年情報数学 3年数学 2年線形代数学 2年実験・実習2	ソフトウェア開発 2年7ヶ月 実用数学技能検定 1級
准教授	倉林 有	博士(工学)	画像解析 コンピュータ ビジョン	5年卒業研究 5年確率統計 5年情報メディア論 5年マルチメディア工学 3年工学実験3 3年コンピュータ概論 2年工学概論 I 2年情報処理Ⅱ	他大学等教育機関 3年

講師	岸 純男	工学学士	電子回路	5年工学実験 5年電気設計製図 5年電気法規・施設管理 4年パルス・デジタル回路 3年電気回路Ⅰ（電気電子） 3年電気回路Ⅰ（情報） 2年図学 1年実験・実習1	テレビチューナーの設計製作及び信頼性試験 6年
講師	渡邊 志	修士(工学)	情報処理	5年卒業研究 5年ソフトウェア工学 4年工学実験 4年数値計算法 3年プログラミング言語Ⅰ	他大学等教育機関 14年

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料3-1-②-4 平成19年度専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（建設システム工学科および都市環境コース，建築デザインコース）

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験・教育経験等の状況
教授	表 寿一	博士	環境生態学	5年卒業研究 5年環境衛生工学 5年外国文献講読 5年エコロジカルデザイン 4年生態多様性学 4年アーキテチャー環境設備学 4年ドイツ語 3年建築史 3年ドイツ語 1年生物	他大学等教育機関 16年
教授	青木 繁	博士(工学)	建築計画学	5年卒業研究 5年景観環境デザイン 5年建築設計製図 5年建築概論 5年インテリアデザイン 4年建築設計製図 4年建築デザイン 3年造詣デザイン演習 3年建設・建築製図	1級建築士 他大学等教育機関 23年

教授	中西祐啓	博士(工学)	水理学	5年卒業研究 5年河川環境工学 4年水理学 4年建設システム工学実験Ⅱ 4年水理学演習 3年水理学	総合建設業 12年 技術士 他大学等教育機関 4年
准教授	五十石浩	工学学士	構造力学	5年構造力学Ⅱ 5年卒業研究 5年耐震工学 5年建築構造 5年耐震工学演習 5年橋梁工学 5年建築構造設計 5年スチールストラクチャー 4年構造力学Ⅰ 4年建設システム工学実験Ⅱ 2年図学	公務員(建設省建築研究所) 11年
准教授	林 泰弘	博士(工学)	地盤工学	5年卒業研究 5年技術と倫理 4年土質工学 4年建設システム工学実験Ⅱ 4年土質工学演習 4年専門基礎 3年地盤工学 2年工学概論Ⅰ	宅地開発 3年 他大学等教育機関 10年
講師	和田孝志	学士	建設	5年コンクリート構造学 5年卒業研究 5年建設設計製図 4年コンクリート構造学 4年建設設計製図 4年施工管理学 3年建設材料学 3年建設・建築製図 1年実験・実習1	コンクリート橋の 設計・施工および 一般土木工事 4年
講師	倉本逸郎	学士(工学)	測量学	5年情報処理Ⅱ 5年卒業研究 4年建設システム工学実験Ⅱ 3年測量実習 2年実験・実習2	

				1年実験・実習1 1年情報処理 I	
講師	中平恭之	修士(工学)	交通計画学	5年測量実習 5年卒業研究 5年土木計画学 5年交通工学 4年測量学 3年測量学 3年測量実習	建設関係(施工管理) 2年
講師	松岡良智	修士(工学)	構造学	5年情報処理 II 5年卒業研究 5年建築法規 5年建築構法 3年構造力学 2年実験・実習2 1年実験・実習1 1年情報処理 I	

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

平成12年度以降のリストラクチャリング（再構築）による人事刷新で、平成19年5月1日現在、専門科目担当教員の博士号取得者19名、技術士2名となった。平成13年度以降、有名企業等における各分野の第一人者を多く採用した。平成17年度より、専門3学科を統合した総合システム工学科を新設し、総合的な工学の実学教育を行う体制を構築した（資料3-1-②-5）。

資料3-1-②-5 専門科目担当教員の学位取得者及び企業経験者の配置状況

学科名	学位取得者数		企業経験者数	全教員数
	修士	博士		
機械システム工学科 機械システムコース	1	7	4	8
電気情報工学科 電気電子コース 情報コミュニケーションコース	5	8	10	14
建設システム工学科 都市環境コース 建築デザインコース	2	4	4	9

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

(分析結果とその根拠理由) 専門科目担当教員の構成は、高等専門学校設置基準を満たしつつ、

各教員の専門分野を考慮し配置している。また、観点1-1-①の具体的な教育目標等に掲げた高度な教育を学生に提供するため、学位取得者、企業経験者を各学科に配置し、実践的教育に配慮した構成になっている。

**観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況) 専攻科の教育課程では資料3-1-③-1に基づき、一般科目、関連科目、共通専門科目、専攻区分別専門科目を置き、新規に教員を採用するなどそれぞれに適切な教員を配置している。

資料3-1-③-1 専攻科の目的・特色

専攻科の目的

【生産システム工学専攻】

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

専攻科の教育課程の編成方針、特色、履修方法等

【生産システム工学専攻】

開講科目は、一般科目、関連科目（専門基礎科目）、および共通専門科目と専攻区分別専門科目（機械工学、電気電子工学、土木工学）の4つに大別できる。

一般科目は、語学や人文・社会科学に関連した科目からなる。コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を養成するとともに、社会人としての健全な価値観と豊かな教養を持ち国際的に活躍できる能力を身につけさせる。

関連科目は、数学や物理・化学及びインターンシップからなる。専門科目の本質を理解するための工学基礎知識を修得させる。

共通専門科目は、機械工学・電気電子工学・土木工学の各専攻区分に横断的な専門科目、および生産システム工学特別研究からなる。講義では、複合的・融合的な専門分野について対応できるような応用知識を習得する。特別研究では、実践的な問題に対し自発的に考え、解決に向けて計画を立案し、継続的にそれらを実行することで、当該分野の先端的な研究開発能力を養成する。

専攻区分専門科目は、本科および専攻科関連科目・共通専門科目で修得した専門分野の基礎知識をベースに、より深い専門知識を与える講義科目、および実験と演習からなる。当該専門分野の先端技術に即応できる能力を育成する。

(出典：近畿大学工業高等専門学校専攻科認定申出書抜粋)

専攻科の一般科目は、観点1-1-①に掲げた学習・教育目標のうち、(C)技術者としての健全な価値観や倫理観を養う。(D)幅広い教養に基づく豊かな人間性の養成 (E)コミュニケーション

能力の養成 に対応し、国連英検1級取得者や国際協力機構（JICA）出身教員を配置している。  
（資料3-1-③-2）。

資料3-1-③-2 専攻科の一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	今井健一	経済学Ph. D (JICA出身)	環境経済学 都市経済学	人間と環境, 国際社会の中の日本
教授	竹内春樹	英語教育修士 (国連英検1級)	英語教育	総合英語
准教授	山本広樹	博士(工学)	計測・信号処 理	技術者倫理
教授	嶋野彰夫	工学博士	半導体工学	技術者倫理
教授	青木 繁	博士(工学)	建築計画学	技術者倫理
教授	溝口博幸	博士(日本文学)	日本語学 日本語教育学	日本語表現法
准教授	大内清司	文学修士	現代日本文学	日本語表現法

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

関連科目は、学習・教育目標のうち、(A)工学の基礎となる学力や技術を身につける。 に対応して  
ており、これらを実現するため学位取得者を中心に教員配置を行っている。（資料3-1-③-3）。

資料3-1-③-3 専攻科の関連科目担当教員の専門分野と担当授業科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
准教授	伊藤豊治	博士(数理学)	代数的組合せ 論	応用数学特論, 離散数学
准教授	山本広樹	博士(工学)	計測・信号処 理	解析力学
教授	今野理喜男	理学博士	固体物理学	統計力学
准教授	鈴木 隆	博士(理学)	物性物理化学	化学特論
講師	畑山伸訓	修士(理学)	物理学	物理学特論

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

共通専門科目は、学習・教育目標のうち、(A)工学の基礎となる学力や技術を身につける。(B)  
実践的なデザイン能力を身につける。 に対応し、機械工学・電気電子工学・土木工学の各専攻区  
分に横断的な専門科目を教授して複合融合的専門分野に対応した応用知識の修得を目指している。  
このため専攻区分にとらわれず、担当教員がそれぞれの専門分野に関連付けた授業を展開している  
(資料3-1-③-4)。

資料3-1-③-4 専攻科の共通専門担当教員の専門分野と担当授業科目

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	久貝克弥	博士(工学)	ロボット工学 メカトロニクス 制御工学	知能システム
教授	嶋野彰夫	工学博士	半導体工学	信頼性工学
教授	村松一弘	理学博士	情報処理	計算力学
准教授	倉林 有	博士(工学)	画像解析 コンピュータビジョン	知的情報処理
教授	今野理喜男	理学博士	固体物理学	材料物理
教授	表 寿一	博士	環境生態学	生産環境工学

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

専門科目は、学習・教育目標のうち、(B)実践的なデザイン能力を身につける。(C)技術者としての健全な価値観や倫理観を養う。に対応して配置されている。準学士課程および専攻科関連科目・共通専門科目で修得した専門分野の基礎知識をベースに、より深い専門知識を与える講義科目であることを踏まえ、担当授業科目と教員の専門分野を対応させ適切に配置している(資料3-1-③-5~7)。

資料3-1-③-5 専攻科の専門担当教員の専門分野と担当授業科目 (機械工学)

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験・教育経験等の状況
教授	奥田昇也	博士(工学)	材料力学	機械工学実習 機械工学演習 材料力学特論 構造信頼性理論	ターボチャージャー研究 開発 7年
教授	村田圭治	博士(工学)	熱工学	機械工学実習 機械工学演習 伝熱概論 エネルギー変換工学	エネルギー・環境機器 の研究開発 21年 特許取得6件
教授	久貝克弥	博士(工学)	ロボット工学 メカトロニクス 制御工学	機械工学実習 機械工学演習 システム制御工学	株式会社ダイヘン 24年 特許取得(国内18 件, 海外2件)
准教授	山本広樹	博士(工学)	計測・信号処理	機械工学実験 機械工学演習 解析力学 振動工学 マトリクス構造解析	特許庁2年 科学警察研究所13 年
准教授	中村信広	博士(工学)	加工学	機械工学実験	

				機械工学演習 生産加工学 工業材料	
准教授	荒賀浩一	博士(工学)	流体力学	機械工学実験 機械工学演習 応用流体力学 流体工学特論	

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料3-1-③-6 専攻科の専門担当教員の専門分野と担当授業科目 (電気電子工学)

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験・教育経験等の状況
教授	西 謙二	工学博士	半 導 体 工 学	電気電子工学演習 半導体デバイス工学 技術英語講読 半導体シミュレーション工学 故障物理学	半 導 体 研 究 開 発 30年 特許取得18件
教授	嶋野彰夫	工学博士	半 導 体 工 学	電気電子工学演習 電子回路特論	半 導 体 研 究 開 発 25年 特許取得(国内11件, 海外11件)
教授	園井康夫	博士(工学)	レーザ-大気物理学	電気電子工学実験 エネルギー変換論 絶縁設計工学	雷の予測・対策の研究 15年 特許取得2件
教授	村松一弘	理学博士	情報処理	電気電子工学実験 並列計算法	公務員(ソフト開発) 6年4ヶ月 企業(ソフト開発) 3年2ヶ月 IELTS(英語版 TOEFL) 6.5
准教授	倉林 有	博士(工学)	画像解析 コンピュータビジョン	電気電子工学実験 メディア情報処理	他大学等教育機関 3年
教授	大島 茂	博士(工学)	光 通 信 工 学	電気電子実験 電子物性特論	光通信研究開発 29年 特許取得40件
准教授	仲森昌也	工学修士	電子工学	電気電子実験	特許取得2件
准教授	本田康子	博士(理学)	宇宙物理	電気電子演習 電磁気学特論	研究機関 1年 他大学等教育機関



					1年
講師	渡邊 志	修士(工学)	情報処理	電気電子演習	他大学等教育機関 14年

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料3-1-③-7 専攻科の専門担当教員の専門分野と担当授業科目 (土木工学)

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目	実務経験・教育経験等の状況
教授	表 寿一	博士	環境生態学	都市環境生態学特論	他大学等教育機関 16年
教授	青木 繁	博士(工学)	建築計画学	土木工学演習 都市地域計画学特論 農村地域計画学特論	1級建築士 他大学等教育機関 23年
教授	中西祐啓	博士(工学)	水理学	土木工学実験 土木工学演習 水工学特論 水理学特論	総合建設業 12年 技術士 他大学等教育機関 4年
准教授	林 泰弘	博士(工学)	地盤工学	土木工学実験 土木工学演習 土質工学特論 環境地盤工学特論	宅地開発 3年 他大学等教育機関 10年
講師	中平恭之	修士(工学)	交通計画学	土木工学実験 土木工学演習 都市交通計画学 交通計画学特論	建設関係(施工管理) 2年
講師	松岡良智	修士(工学)	構造学	土木工学実験 土木工学演習 構造力学特論 建設材料学特論	

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

専攻科の特別研究では、「実践的な問題に対し自発的に考え、解決に向けて計画を立案し、継続的にそれらを実行することで、当該分野の先端的な研究開発能力を養成する。」を達成するため、指導する教員は、博士の学位を有する、あるいは同等の十分な研究業績をもつ教員を配置している(資料3-1-③-8)。

資料3-1-③-8 特別研究指導教員の学位取得状況および研究実績一覧

氏名	専攻区分	学位取得状況	主な研究実績
----	------	--------	--------

奥田昇也	機械工学	博士(工学)	構造システムの破損確率の研究
久貝克弥	機械工学	博士(工学)	ロボットの知能化の研究
山本広樹	機械工学	博士(工学)	四元数表現によるスペクトル解析の研究
中村信広	機械工学	博士(工学)	光触媒の製作方法に関する研究
荒賀浩一	機械工学	博士(工学)	界面活性剤水溶液の抵抗低減流れに関する実験的研究
西 謙二	電気電子工学	工学博士	半導体シミュレーションの研究
嶋野彰夫	電気電子工学	工学博士	化合物半導体高速デバイスの設計に関する研究
神田 毅	電気電子工学	博士(工学)	効率的な幾何計算アルゴリズムに関する研究
仲森昌也	電気電子工学	修士(工学)	超伝導薄膜をはじめとする電子デバイスの開発に関する研究
中西祐啓	土木工学	博士(工学)	河川機能(治水・利水・環境保全技術)に関する研究
林 泰弘	土木工学	博士(工学)	土質安定処理の研究
松岡良智	土木工学	修士(工学)	鉄筋コンクリート製構造物の弾塑性性状に関する研究

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

(分析結果とその根拠理由) 専攻科生産システム工学専攻は、専攻科の目的を成し遂げるため、国際的に活躍している人材、企業出身者、大学研究職出身者を新規に採用し、専攻科学生の教育にあたる体制が整っている。

**観点3-1-④：** 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

(観点に係る状況) 平成19年5月1日現在の教員組織の年齢構成は資料3-1-④-1の通りである。平成12年4月の時点では、34歳未満ゼロ、50歳以上が70%以上という逆ピラミッド型の年齢構成(資料3-1-④-2)であった。このような状況を解消するために、早期退職優遇制度を導入し31名の教職員が早期退職した。この結果、多くの新教員の採用が可能となり、教員の年齢構成は現在の状況に至った。教員採用の公募時に年齢制限を加えることはしていないが、年齢構成バランスを考慮した選考を行うことで適正化を図っている。また、平成12年度にはわずか2名であった博士号取得者は、平成19年度には23名(他博士課程在籍者4名)となり、全体のほぼ半数を占めるに至った。博士号取得者の年齢構成は(資料3-1-④-3)に示す通りである。博士号取得者のうち半数以上の13名が企業勤務経験者である。このため、先端技術を取得した教員による教育を提供することが可能となり、民産官学共同研究等も進み、教員の活動が活発化した。また、採用した教員の教育経歴や実務経歴を配慮し、適切な職務を与えている(資料3-1-④-4)。

資料3-1-④-1 平成19年度専任教員の年齢構成

	～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
一般教養科	3	5	6	5	0	19
機械システム工学科	0	4	1	3	0	8
電気情報工学科	0	5	4	5	0	14
建設システム工学科	0	3	1	5	0	9
計	3	17	12	18	0	50

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料3-1-④-2 改革前の教員の年齢構成（平成12年4月1日現在）

	～29	30～39	40～49	50～59	60～	計
一般教養科	0	3	2	9	5	19
機械システム工学科	0	0	2	5	2	9
電気情報工学科	0	1	2	4	3	10
建設システム工学科	0	0	3	4	2	9
計	0	4	9	22	12	47

(出典：近畿大学高専新聞 特集号（平成12年10月）より集計)

資料3-1-④-3 平成19年度、博士号取得者（博士課程在籍者）の年齢構成

	～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
一般教養科	0	0(1)	2	2	0	4(1)
機械システム工学科	0	4	1	2	0	7
電気情報工学科	0	3(2)	1(1)	4	0	8(3)
建設システム工学科	0	1(2)	1	2	0	4(2)
計	0	8(5)	5(1)	10	0	23(6)

※( )内は博士課程在籍教員数を示す。

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料3-1-④-4 平成19年度採用教員の経歴と教員職務

教員氏名	前 職	配置部署
大島 茂	東芝研究開発センター研究主幹	総合システム工学科長・進路指導主事補
溝口博幸	立命館アジア太平洋大学上級講師	国際交流部長
久貝克弥	㈱ダイヘンシステムエンジニアリング課長	技術教育部長
倉林 有	東京理科大学嘱託助手（情報）	情報処理教育センター主任
渡邊 志	県立浜松工業高校教諭（情報）	教務部担当
重村博美	近畿大学非常勤講師（法学）	企画広報担当
小西大亮	近畿大学高専非常勤講師（剣道）	寮務部担当

(出典：近畿大学工業高等専門学校「平成19年度教員人事」)

(分析結果とその根拠理由) 年齢構成を考慮した人事刷新の結果、現在はバランスのとれた年齢構成となっている。また博士号取得者も全体のほぼ半数を占め、業界の第一線で活躍していた企業経験者の大量採用によって学校が非常に活性化してきた。採用者の職務配置については、本人の教

育経歴・実務経歴等を考慮して適切な部署に配置している。

**観点 3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。**

（観点に係る状況） 現在、教員の採用は完全公募制を採っており、求人情報はJREC-IN研究者人材データベースにも登録されインターネットを通して世界中から広く応募者を募り、基準を満たす応募者の中から優秀な人材を採用している。現在の教員選考・昇格基準は（資料3-2-①-1）、教員選考・昇格基準内規は（資料3-2-①-2）に示す通りであり、校内イントラネットでの公表、教職員会議での連絡により、全教員が周知している。新規教員採用選考は書類審査と書類審査合格者に対して行う面接審査からなり、面接審査は校長、副校長、教務主事、事務長代理、当該学科長が面接官となっており、研究業績のみならず高等専門学校の教育上の能力を有するかを教育経験、実務経験、人物評価によって授業を行う能力、学生指導の能力があるかを判断している。また、本校教員に対して、教員の教育研究に対する活性化を継続的に図ることを目的とした「資格任期基準」を設け、任期期間中の「教員業績評価」を行っている（資料3-2-①-3）。

資料 3-2-①-1 教員選考・昇格基準

近畿大学工業高等専門学校教員選考・昇格基準

制定 平成17年3月31日

1. 教授の資格

- ① 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）もしくはそれに準ずる資格（技術士等）を有し、教員選考・昇格基準内規（以下「内規」という。）で定める研究業績を満たすとともにその他の業績（教育業績、管理運営活動・社会活動）が伴う者。
- ② 一般教養科教員においては、修士以上の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、内規で定める研究業績を満たすとともにその他の業績（教育業績、管理運営活動・社会活動）が伴う者。
- ③ 文化・スポーツ・技術教育に係わる教員評価については、学位・A論文に替わるものとして、全国的競技大会等での受賞を考慮する。

2. 助教授の資格

- ① 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）もしくはそれに準ずる資格（技術士等）を有し、内規で定める研究業績を満たすとともにその他の業績（教育業績、管理運営活動・社会活動）が伴う者。
- ② 一般教養科教員においては、修士以上の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、内規で定める研究業績を満たすとともにその他の業績（教育業績、管理運営活動・社会活動）が伴う者。
- ③ 文化・スポーツ・技術教育に係わる教員評価については、学位・A論文に替わるものとして、全国的競技大会等での受賞を考慮する。

3. 講師の資格

- ① 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）もしくはそれに準ずる資格（技術士等）を有し、内規で定める研究業績を満たすとともその他の業績（教育業績、管理運営活動・社会活動）が伴う者。
- ② 一般教養科教員においては、学士以上の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、教員選考・昇格基準内規で定める研究業績を満たすとともその他の業績（教育業績、管理運営活動・社会活動）が伴う者。
- ③ 文化・スポーツ・技術教育に係わる教員評価については、学位・A論文に替わるものとして、全国的競技大会等での受賞を考慮する。

4. 助手の資格

修士もしくは学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者。

附則 この基準は、平成17年4月1日から施行する。

（出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料）

（資料3-2-①-2）教員選考・昇格基準内規

近畿大学工業高等専門学校教員選考・昇格基準内規

制定 平成17年3月31日

1. 研究業績

被審査教員の 所属	工学科			一般教養科		
	講師	助教授	教授	講師	助教授	教授
研究業績 （A論文又は 専門著書数）	6	9	12	1	3	6
（全論文数）	（9）	（13）	（18）	（6）	（9）	（12）
著書	学術論文より専門著書の方が重視される分野において著書があることが望ましい。					

（注）

- （1） A論文とは、審査機関のある権威ある学術誌に掲載された論文をいう。
- （2） 研究業績は、論文数のみならず研究に対する第一貢献者であることを重視する。
- （3） 次のものは学術論文とは認めない。

- ① 国内学会、国際学会での予稿（ただし、審査機関があり、優れた内容を持つものはA論文相当と認める）
  - ② 講演会、セミナーなどの講演別刷
  - ③ 口頭およびポスター発表
- (4) 次に掲げるものは、研究業績の評価の参考とする。
- ① 招待講演
  - ② 各種受賞
  - ③ 文部科学省科学研究費採択、各種研究奨励費採択
  - ④ 特許取得
- (5) 次に掲げるものは、その都度業績を審査して評価する。
- ① 技術報告書、総説、紀要等
  - ② 機械・装置の設計、計画、デザイン等
- (6) デザイン系の昇格基準として、学位、A論文に替わるものとして、権威ある雑誌に掲載された建築作品コンペ等での受賞を考慮する。

A論文相当の受賞規定の基準は

- ① 入選以上
- ② 応募点数が多い
- ③ 審査員の知名度が高いなどである。

- (7) 文化・スポーツ・技術教育に係わる教員評価については、学位・A論文に替わるものとして、全国的競技大会等での受賞を考慮する。

## 2. 教育業績

以下に示す教員自身の教育活動において、顕著な業績がある時、教育業績として評価する。

- ① 教科書の執筆
- ② 授業改善方法の提起・実践
- ③ 学生実験の装置開発・工夫等
- ④ 授業改善目的の実践授業の公開
- ⑤ 授業方法を提起した論文（教育ジャーナル・学会誌への投稿等）
- ⑥ 学内外のFD（教育開発セミナー）などへの積極的参加・発表
- ⑦ 課外活動の指導等
- ⑧ その他の教育活動

## 3. 管理運営活動

学校業務において、積極的な協力・提案・問題提起などの、顕著な業績があるとき、管理運営活動として評価する。

## 4. 社会活動

工業高等専門学校の社会的評価、知名度の向上に積極的に寄与する以下に示すような活動において顕著な業績があるとき、学外活動業績として評価する。

- (1) 学会・協会での活動（役員・委員等）
- (2) 公的委員会活動
- (3) テレビ・新聞・雑誌等への寄与
- (4) 小学生や中学生との教育的交流（サイエンススクールなど）
- (5) 広報活動（中学校・塾等）
- (6) 地域社会への奉仕
- (7) その他

附則 この内規は、平成17年4月1日から施行する。

（出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料）

（資料3-2-①-3）資格任期基準

### 近畿大学工業高等専門学校教員資格任期規程

制定 平成17年3月31日

改訂 平成19年3月31日

（目的）

第1条 この規程は、近畿大学工業高等専門学校教員に資格任期を設け、任期期間中の「教員業績評価」を行うことにより、教員の教育研究に対する活性化を継続的に図ることを目的とする。

（資格任期）

第2条 資格任期は、別表のとおりとする。

- 2 顕著なる業績もしくは学園に対する貢献が多大な教授については、資格任期を定めない。なお、資格任期を定めない教授を上席教授と呼称するものとする。

（資格審査）

第3条 資格任期の更新にあたっては、校長を委員長とする3名以上からなる資格審査委員会により、当該教員の任期中の業績審査を行うものとする。

- 2 教員の業績審査は、近畿大学評価委員会が定める「教員業績評価」の教育業績・研究業績・管理運営活動・社会活動の総合評価に基づくものとする。
- 3 「教員業績評価」の総合評価がSと判定された場合は、表彰等の伴う任期更新を行う。
- 4 「教員業績評価」の総合評価がA・Bと判定された場合は、任期更新をする。
- 5 「教員業績評価」の総合評価がCと判定された場合は、任期更新をするが、次回の任期更新までの課題を明示し、その克服なき場合は、次回の任期更新時にD判定を下す旨を通告する。
- 6 「教員業績評価」の総合評価がDと判定された場合は、降格もしくは職種変更を行う。

（雑則）

第4条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、運営会議の議を経て、近畿大学理事長の承認を得るものとする。

職名	任期	備考
教授	資格任期3年 上席教授は資格任期を定めない	高齢者雇用安定法に定める年齢 まで特任教授として再雇用可
准教授	資格任期3年	高齢者雇用安定法に定める年齢 まで特任講師として再雇用可
講師	資格任期3年	

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

(分析結果とその根拠理由) 適切な採用基準・昇格基準が設けられており、運用されている。平成12年度以降の高専改革による人事刷新時に、教員採用の明確な基準が示され、完全公募制により、教育経験や実務経験の豊富な教員を全国的レベルで採用している。また、昇格基準も明確となったため、「能力登用主義」を前面に出した人事が可能となった。

**観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。**

(観点に係る状況) 本校は近畿大学学園に属する高等専門学校である。近畿大学学園では年1回、学園一斉に「近畿大学教員業績評価自己申告表」(資料3-2-②-1)をもとにした教員評価が毎年行われている。これは各教員が(1)教育業績(2)研究業績(3)管理運営活動(4)社会活動について自己評価し、これを基に校長を部会長として副校長、校長補佐、学科長からなる評価部会によって業績評価が行うもので、総合評価でC(劣る)と判定された者には改善指導がなされる。この評価結果を「基本給」「資格給」「職務給」で構成される高専独自の「人事・給与システム」に反映させている。「基本給」は実年齢を反映し、「資格給」は教員資格を反映し、「職務給」は教員の学内業務における責任の度合い・業務負担度を反映するものとなっているが、この三構成で従来の「本俸」と同じ扱いをしている。また、本校独自に「資格任期制度」を平成17年4月に制定した(資料3-2-②-2)。これは任期更新時の業績評価により、昇格・昇給、降格・降給を含めた契約関係の見直しを行う制度である。



資料 3-2-②-1

(大学・短大・高等専修学校用)

教員業績評価自己申告表

所 属	工業高等専門学校総合システム工学科	記入月	平成19年5月
職 位		職員番号	
		氏 名	印

評価項目	成果・活動内容	自己評価
(1) 教育業績	①授業評価の成績	
	②就職・進路指導の実績	
	③入試・学生募集等業務への貢献	
	④教育システム、教育法の改善などの教育活動への貢献	
	教育業績評価 (各成果・活動全体での評価)	
(2) 研究業績	①著書、学術論文、評論総説、製作、演出、スポーツ等の特殊技能など	
	②科研費、学外研究助成金獲得の実績	
	③特許出願、研究成果の実用化	
	④学会、シンポジウム、展覧会、文化行事、プロジェクト事業等の組織運営、主宰	
	⑤学術雑誌の編集委員、審査委員、学協会役員としての活動	
	⑥学会表彰(受賞、入選)などの研究成果	
研究業績評価 (各成果・活動全体での評価)		
(3) 管理運営活動	①法人の役職、学内の委員会委員長、委員等としての管理運営上の貢献	
	②学内の管理運営業務、諸行事、改善企画等への参加実績	
	管理運営活動評価 (各成果・活動全体での評価)	
(4) 社会活動	①本学の社会的知名度、評価水準の向上に寄与する社会活動の成果	
	②公職、学外の委員会委員等の活動実績	
	社会活動評価 (各成果・活動全体での評価)	
総合評価 (評価項目を総合して自己評価してください)		

自己評価した理由(簡潔に記入してください)	
	部会評価 (1)
	部会評価 (2)
	部会評価 (3)
	部会評価 (4)

※評価項目の自己評価対象期間  
 ・研究業績(平成14年4月1日～平成19年3月31日)  
 ・その他業績(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

※自己項目  
 S:極めてすぐれている A:すぐれている B:標準 C:やや劣る D:劣る

評価委員長印	総合評価

評価部会長印	総合評価

出典：近畿大学教員業績評価自己申告書

資料 3-2-②-2 資格任期制度の制定

1. 資格任期制度の制定 (17. 4～)

(ア) 資格任期制度の制定理由

工業高専は60歳早期退職の運用により、60%に及ぶ教員人事の刷新を実現したことにより、博士2名だった構成から博士24名の構成に変わっただけでなく、新規採用教員の半分以上は民間企業のトップクラスの先端技術者等を採用したことにより、共同研究、受託研究、特許取得、外部からの研究費取得等が増えてきているだけでなく、招待講演、公開講座等への招聘も増えている。

人事改革の仕上げとなる資格(教授・助教授・講師・助手)の見直し審査を行った。

資格見直しの理由と内容は次の通りである。

- ① 13年度以降、20歳代の者については、教育経験があり、かつ、博士の学位を有している者について正採用しており、それ以外は助手もしくは特任講師としての1年任期の契約である。
- ② 12年度以前の教授・助教授の中には、現行の資格基準だけでなく、過去の昇格基準にも到達していない者がいる。
- ③ 現在、職務(役職)については、教育・研究面での評価をせず、年齢・能力・適正に相

応しいポストを与えている。

- ④ 13年度以降の教員採用条件は、博士号取得もしくは取得見込を原則としており、任期雇用の特任講師から正講師への任用換えは、博士号取得を条件としている。
- ⑤ 上記の者に比して研究業績が希少で、教育（課業・課外）・行政・社会的活動での顕著な実績がないのに、教授もしくは助教授のポストを得、さらに部長職等を得ている者との調整が必要となっている。
- ⑥ 教授・助教授にある者については、博士号・修士号もしくはそれに準ずる業績を近年取得可能な者については、部長・室長等の重責を外れ、研究できる環境を整備し、業績が整った段階で部長等の重責に戻るか、部長等のままで、現行学位および研究業績に相応しい資格に就くことが望まれる。
- ⑦ 12年度以前からいる教員については、高専設置基準が定める教授は博士、助教授は修士以上、講師は学士以上、助手は準学士以上という資格を有する者、もしくはそれに準ずる業績のある者が、それ相応の資格につき、職務（役職）についても年齢・能力・適正に相応しいポストに就くこととする。
- ⑧ 博士であるから即教授になるということではなく、年齢・教育指導能力さらなる研究業績等の蓄積が必要であり、職務について言うなら、教授であっても行政的手腕が低ければ、部長などになれるものではない。
- ⑨ 従来型教員の資格見直しの基準は、11年度以前に定められた昇格基準とする。  
講師B論文3、助教授A論文1+B論文2、教授A論文6（各資格からの昇格は3年以上経過後とする。A論文1はB論文2と計算する。逆計算はない。A論文6編は学位取得の最小論文数である。ただし、A論文とは日本の学術機関が発行する学術機関誌掲載の査読付論文のことである。「高専教育」は学術機関誌の範疇にはない。）
- ⑩ 資格昇格については、研究業績に教育業績・学内業務・課外活動・社会的活動等を加味して評価されていたが、学士を博士・修士、修士を博士に評価替えするには、それら見合った業績が望まれる。
- ⑪ 上記を実行するため、3年間の任期制を制定する。  
3年間経過すれば契約関係を解消するというものではないが、任期更新時の業績評価により、昇格・昇給、降格・降給を含めた契約関係の見直しを行う。

（出典：「近畿大学高専」の人事給与改革より抜粋）

また、学生への授業アンケートも定期的実施しており、学生の意見を学校運営・教育指導に反映しようとしている。さらに、教員同士の意見交換を行うため、各教員が他教員に対して授業を公開する期間を設けている。その結果について、授業した本人が総括し、校長に提出している。

（分析結果とその根拠理由） 教員の教育活動をはじめとする業績評価が学園全体で毎年実施され、「資格能力給」を導入している高専教員には業績評価が給与に反映される。このシステムは教員の能力発揮、スキルアップ意欲向上に十分効果がある。また、教員同士で互いの授業についての発表、意見交換をする場を設けることにより、よりよい授業を展開しようとする意識が教員間に高まり、授業の質の向上につながっている。

**観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況) 大学本部にある法人事務局が総務、人事、経理、管理等を統括的に行っている。本校は学生の指導は教員自らが行うことを基本としており、教学系を中心とした事務の多くを教員が処理している。このため本校の事務職員の業務は定型業務を主とした端末処理と本校独自の業務処理である。事務職員、技術職員等のリストを資料3-3-①-1に示す。本校の事務組織は事務職員19名(うち専任職員2名、嘱託職員2名、契約職員10名、定時職員5名)、技術職員2名、クラブ講師14名、校務主事1名、校医2名で構成され、事務部、情報処理教育センター、寮務部などに配置され、専任教員の業務をサポートしている。また、専攻科の学生を学生補助員(SA)として採用し、準学士課程の実験実習補助や業務補助等に従事している(資料3-3-①-2)。これは専攻科生にとって教育的配慮と経済的支援の両面を考慮した取り組みで、平成18年度は9名の専攻科生が延べ290時間従事した。

(資料3-3-①-1) 事務職員・技術職員等一覧

事務職員任用・職務内容

専任教員 (48) 事務長代理	専任職員 (51) 庶務・会計
嘱託職員 (48) 庶務・外渉	嘱託職員 (34) 管理
契約職員 (63) 用務	契約職員 (58) 技術員
契約職員 (37) 会計	契約職員 (36) 技術員
契約職員 (34) 寮務	契約職員 (28) 会計
契約職員 (28) 看護師	契約職員 (28) 会計
契約職員 (27) 教務	契約職員 (27) 情報処理教育センター
契約職員 (23) 管理	契約職員 (32) 進路
定時職員 (50) 寮務	定時職員 (41) 受付
定時職員 (37) 情報処理教育センター	定時職員 (36) 校長室
定時職員 (33) 図書館司書	クラブ講師 (61) (茶道部)
クラブ講師 (58) (空手道部)	クラブ講師 (58) (日本文化・着付け礼法)
クラブ講師 (51) (軽音楽部)	クラブ講師 (51) (イラスト部)
クラブ講師 (42) (和太鼓)	クラブ講師 (32) (硬式野球部)
クラブ講師 (28) (硬式野球部)	クラブ講師 (27) (吹奏楽部)
クラブ講師 (27) (ソフトテニス部)	クラブ講師 (24) (バスケットボール部)
クラブ講師 (23) (サッカー部)	クラブ講師 (23) (ラグビー部)
クラブ講師 (22) (柔道部)	校務主事 (66)
校 医 (64)	歯科校医 (51)

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

## (資料3-3-①-2) 専攻科学生学生補助業務振分

## 平成19年度学生補助員一覧表

種類	業務内容	担当教員
4年実験手伝い	実験補助	林
5年工学実験補助	実験補助	荒賀
4年実験手伝い	実験準備及び実験補助	山本
3年実験手伝い	実験準備及び実験補助	山本
5年工学実験補助	実験補助	中村
図書館補助	データ入力	今井
1年実験建設分野手伝い	実験準備及び実験補助	松岡
2年実験建設分野手伝い	実験準備及び実験補助	松岡
5年創造実習補助	実習準備及び実習補助	奥田
4年生コンピュータシミュレーション	コンピュータ使用方法の指導補助	西
3年コンピュータ概論補助	実習補助	村田
4年創造工学演習	ロボット組み立ての補助	久貝
5年工学実験	シミュレーションプログラムの作成補助	久貝
大学院入試方法調査	web 検索して、各大学院の入試方法を決められた書式 (excel) にまとめる	西

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

(分析結果とその根拠理由) 本校の事務職員は情報処理教育センター、図書館、学生寮等に配属され、教員の実施する教育研究活動を効率的にサポートしている。また、近畿大学法人本部の事務職員研修会に参加しており、事務職員を高いレベルに保つ取り組みを行っている。

また、専攻科学生が学生補助員として実験・実習科目の補助業務に当たっている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 平成12年度からの学校改革により、「早期退職優遇制度」による人事刷新を実行した結果、多くの博士号取得者や企業経験者が新教員として採用された。この人事刷新により、逆ピラミッド型だった教員の年齢構成が大幅に改善され、若い活力ある教員が増えたことにより、本校は活性化した。また、改革前には博士号取得教員が校長を含め2名であったが、全教員のほぼ半数が博士号取得者という高等教育機関に相応しい教員構成となった。また、この学校改革の際に教員採用基準や昇格基準が明確に定められ、これに従った新規教員の採用、職位昇格によって、適切な教員構成が実現された。学内での教員評価についても、定期的な業績評価において給与に反映させる等のシステムを構築し、学内を活性化させるための環境を作り出している。

(改善を要する点) 該当なし。

### (3) 基準3の自己評価の概要

一般科目を担当する教員の配置は、専任教員19名、客員教授・非常勤講師22名で学校教育法に定められた高等専門学校設置基準を満たしている。専任教員のうち、5名が博士号取得者、7名が修士号取得者で構成されており、高等教育機関としての役割を十分に果たす様考えられた配置である。

専門科目担当教員の配置は、専任教員31名、非常勤講師14名で、専任教員のうち教授11名、准教授14名でこれらは高等専門学校設置基準を満たしつつ、各教員の専門分野を考慮して配置している。また、教育の目的を達成するため、学位取得者、企業経験者を各学科に配置し、学生の教育に配慮した構成を取っている。

専攻科生産システム工学専攻は、その目的に沿って国際的に活躍している人材、第一線で活躍していた企業出身者、大学研究職出身者を新規に採用し、専攻科学生の教育にあたる体制が整っている。

教員年齢構成は50歳以上が70%、34歳未満がゼロという状況であったものが、早期退職優遇制度の導入に伴い年齢構成を考慮した人事刷新を行った結果、現在はバランスのとれた年齢構成となっている。また博士号取得者も全体のほぼ半数を占め、企業経験者の採用とともに学校の活性化に寄与している。

適切な採用基準・昇格基準が設けられており運用されている。平成12年度以降の高専改革時に、教員採用基準および昇格基準が明確が示され、完全公募制による教育経験・実務経験の豊富な教員の採用および「能力登用主義」を前面に出した人事が可能となった。

教員の教育研究活動等に関する評価が学園全体で行われているが、「資格能力給」を導入している高専教員には業績評価が給与に反映される。このシステムは教員の能力発揮、スキルアップ意欲向上に十分効果があると考えられる。

教育支援者については、本校の事務職員が情報処理教育センター、図書館、学生寮等に配属され、教員の実施する教育研究活動を効率的にサポートしている。また、専攻科学生が学生補助員として実験・実習科目の補助業務に当たっている。



基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの自己評価

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点にかかる状況） 本校の入学者受入方針は、準学士課程入学者選抜、編入学選抜、専攻科入学者選抜に対してそれぞれ明確に定められている（資料4-1-①-1）。

この入学者受入方針は、次の方法で公開されている。

- ①本校ホームページ (<http://www.ktc.ac.jp/nyu-jou/adl.htm>) （資料4-1-①-1）
- ②学校案内（資料4-1-①-2）、（資料4-1-①-3）
- ③進学説明会（資料4-1-①-5）
- ④オープンキャンパスおよび学校見学会（資料4-1-①-6）

資料4-1-①-1

【準学士過程アドミッションポリシー】

近畿大学工業高等専門学校は人格教育と実社会に役立つ教養と専門的知識の育成に努め、創造力あふれる技術者の養成を目指しています。この目標を達成するために、次のような人の入学を期待します。

- (1)人々のくらしや環境に関心のある人
- (2)ものづくりや実験が好きな人
- (3)部活動、ボランティア活動、寮生活などを通して仲間づくりをしたい人

【専攻科アドミッションポリシー】

専攻科「生産システム工学専攻」では社会に貢献するための広い視野からものづくりを考え、高度な専門知識と工学的素養をもって考えたものを実現していく、創造力あふれる技術者の育成をめざしています。この目標を達成するために、専攻科では次のような人の入学を期待します。

- (1)新しい技術の修得や学理の探求を進めたい人
- (2)工学の基礎的学力を有し、ものづくりに意欲をもって取り組める人
- (3)専門性の高い仕事に就き、専門的技術者として社会で活躍したい人

【編入学アドミッションポリシー】

本科の4,5年次では実社会に役立つ教養と専門的知識の育成によって創造力あふれる技術者の養成をめざしています。この目標を達成するために、それぞれの工学科では次のような人の編入学を期待します。

【機械システム工学科】

機械システム工学科ではすべての「ものづくり」のベースとなる基礎技術からCAD、計測・制御・ロボット、エネルギー・環境などを体系的に学びます。本工学科では次のような人の入学を期待します。

- (1)エネルギー・材料・ロボット・情報などに興味のある人
- (2)機械の「からくり」に興味があり、ものづくりが好きな人
- (3)機械工学分野の仕事を通して豊かな社会を築きたい人

【電気情報工学科】

電気情報工学科には電気電子コースと情報コミュニケーションコースがあります。電気電子コースでは電気エネルギーの発生から応用、電気電子材料・デバイス、情報機器のしくみ、電子制御まで幅広い分野の理論と技術を学びます。本コースでは次のような人の入学を期待します。

- (1)電気、家電、情報機器などに興味のある人
- (2)科学や自然現象に関心を持ち好奇心旺盛な人
- (3)電気電子分野の仕事を通して豊かで幸福な社会づくりに貢献したい人

情報コミュニケーションコースでは高度情報化社会に対応したハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、プログラミングなどのコンピュータ技術、あるいは文書処理やデータベースなどビジネス向けコンピュータ活用技術を学びます。本コースでは次のような人の入学を期待します。

- (1)コンピュータのしくみや情報ネットワーク、プログラミング技術に興味のある人
- (2)コンピュータの操作、データ作成・整理、インターネットでの情報検索に興味のある人
- (3)将来コンピュータを活用して豊かな社会を築きたい人

【建設システム工学科】

建設システム工学科には都市環境コースと建築デザインコースがあります。都市環境コースでは道路、橋、港湾、トンネル、上下水道などの社会の基盤となる構造物の建設、防災、自然との共生に配慮した都市づくりなどを学びます。本コースでは次のような人の入学を期待します。

- (1)道路などの建設、防災、環境保全などに興味のある人
- (2)調査・観測や実験・実習が好きで活動的な人
- (3)社会基盤構造物の建設を通じて豊かな国土づくりに貢献したい人

建築デザインコースでは建築学のみならず、関係の深い芸術学・環境学などの分野も幅広く学習し、快適な建築空間をつくるための技術を学びます。本コースでは次のような人の入学を期待します。

- (1)住宅・オフィスビルなどの建築のしくみに興味のある人
- (2)インテリアなど空間デザインに関心のある人
- (3)安心して暮らせる建物づくりをしたい人

(出典：本校ホームページ)

資料 4 - 1 - ① - 2

# きらめく未来へナビ

## トップ水準の就職・進学を保証する 一貫教育システム

### アドミッション・ポリシー (入学者受入方針)

#### 【準学士課程 1 年】

近畿大学工業高等専門学校は人格教育と実社会に役立つ教養と専門的知識の育成に努め、創造力あふれる技術者の養成を目指しています。この目標を達成するために、次のような人の入学を期待します。

- ① 人々のくらしや環境に関心のある人
- ② ものづくりや実験が好きな人
- ③ 部活動、ボランティア活動、  
寮生活などを通して仲間づくりをしたい人

(出典：平成19年度学校案内)



資料 4 - 1 - ① - 3



# 近畿大学工業高等専

近畿大学工業高等専門学校は、新時代を担う、人間性豊かなエンジニアの育成によって創造力あふれる技術者の養成をめざしています。この目標を達成するために、それぞれの工学科では次のような人の編入学を期待します。

## アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

### ■ 準学士課程：4年編入学

準学士課程の4、5年次では実社会に役立つ教養と専門的知識の育成によって創造力あふれる技術者の養成をめざしています。この目標を達成するために、それぞれの工学科では次のような人の編入学を期待します。

#### ▶ 機械システム工学科

機械システム工学科ではすべてのものづくりのベースとなる基礎技術からCAD、計測・制御・ロボット、エネルギー・環境などを体系的に学びます。本工学科では次のような人の入学を期待します。

- ・ (1) エネルギー・材料・ロボット・情報などに興味のある人
- ・ (2) 機械の「からくり」に興味があり、ものづくりが好きな人
- ・ (3) 機械工学分野の仕事を通して豊かな社会を築きたい人

#### ▶ 電気情報工学科

電気情報工学科には電気電子コースと情報コミュニケーションコースがあります。

電気電子コースでは電気エネルギーの発生から応用、電気電子材料・デバイス、情報機器のしくみ、電子制御まで幅広い分野の理論と技術を学びます。本工学科では次のような人の入学を期待します。

- (1) 電気、家電、情報機器などに興味のある人
- (2) 科学や自然現象に関心を持ち好奇心旺盛な人
- (3) 電気電子分野の仕事を通して豊かで幸福な社会づくりに貢献したい人

情報コミュニケーションコースでは高度情報化社会に対応したハードウェア、ネットワーク、プログラミングなどのコンピュータ技術、あるいは文書処理やデータベースなどビジネス向けコンピュータ活用技術を学びます。本コースでは次のような人の入学を期待します。

- (1) コンピュータのしくみや情報ネットワーク、プログラミング技術に興味のある人
- (2) コンピュータの操作、データの作成・整理、インターネットでの情報検索に興味のある人

#### ▶ 建設システム工学科

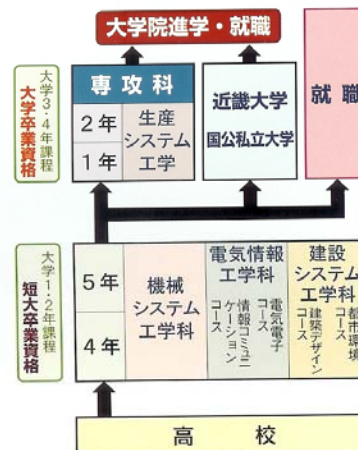
建設システム工学科には都市環境コースと建築デザインコースがあります。

都市環境コースでは道路、橋、港湾、トンネル、上下水道などの社会の基礎となる構造物の建設、防災、自然との共生に配慮した都市づくりなどを学びます。本コースでは次のような人の入学を期待します。

- (1) 道路などの建設、防災、環境保全などに興味のある人
- (2) 調査・観測や実験・実習が好きで活動的な人
- (3) 社会基盤構造物の建設を通じて豊かな国土づくりに貢献したい人

建築デザインコースでは建築学のみならず、関係の深い芸術学・環境学などの分野も幅広く学習し、快適な建設空間をつくるための技術を学びます。本コースでは次のような人の入学を期待します。

- (1) 住宅・オフィスビルなどの建築のしくみに興味のある人
- (2) インテリアなど空間デザインに関心のある人
- (3) 安心して暮らせる建物づくりをしたい人



(出典：平成19年度第4学年編入学案内)

本校の構成員に関しては、学校ホームページ、学校案内で詳細を確認できる。教員の入学者受入方針の内容を徹底するために、入学者受入方針をクイズ形式にして、各教員に回答してもらった（資料4-1-①-4）。平成19年度4月に赴任した5名の教員以外では、何も見ずに回答した人が殆どであり、その正答率は82%と良い数字であった。またこの機会に入学者受入方針の内容がさらに徹底された。

資料4-1-①-4

アドミッションポリシー アンケート(クイズ)

名前: 林 辰弘

所属: 本科、専攻科、機械システム、電気電子、

(所属は必要であれば複数に○) 情報コミュニケーション、都市環境、建築デザイン

下記 左のアドミッションポリシーが、右の本科、専攻科、編入(各コース)のどれに対応するか○をしてください。

その後に、自分が所属する学科においての、対応するアドミッションポリシーを3つ確認してください

なおアドミッションポリシーは、本高専のホームページにあります。一番下のアンケートもよろしく。

アドミッションポリシー 各項目	本科	専攻科	編入			
			機械システム	電気電子	情報コミュニケーション	都市環境 建築デザイン
科学や自然現象に関心を持ち好奇心旺盛な人 (書き方例)				○		
ものづくりや実験が好きな人	○					
安心して暮らせる建物づくりをしたい人						○
工学の基礎的学力を有し、ものづくりに意欲をもって取り組める人		○				
機械の「からくり」に興味があり、ものづくりが好きな人			○			
社会基盤構造物の建設を通じて豊かな国土づくりに貢献したい人						○
新しい技術の修得や学理の探求を進めたい人		○				
人々のくらしや環境に関心のある人	○					
機械工学分野の仕事を通して豊かな社会を築きたい人			○			
電気、家電、情報機器などに興味のある人				○		
インテリアなど空間デザインに関心のある人						○
電気電子分野の仕事を通して豊かで幸福な社会づくりに貢献したい人				○		
コンピュータのしくみや情報ネットワーク、プログラミング技術に興味のある人					○	
専門性の高い仕事に就き、専門的技術者として社会で活躍したい人		○				
将来コンピュータを活用して豊かな社会を築きたい人					○	
エネルギー・材料・ロボット・情報などに興味のある人			○			
調査・観測や実験・実習が好きで活動的な人						○
部活動、ボランティア活動、寮生活などを通して仲間づくりをしたい人	○					
住宅・オフィスビルなどの建築のしくみに興味のある人						○
コンピュータの操作、データ作成・整理、インターネットでの情報検索に興味のある人					○	
道路などの建設、防災、環境保全などに興味のある人						○

最後に上記の○をつける(回答する)のに、  
 (1)高専ホームページを全面的にみた  
 (2)一部参照した、他人に教えてもらった。  
 (3)何も見なかった。

(どれかに○)

(出典：近畿大学高専内部資料)

学外の方は、入学者受入方針を、本高専のホームページで確認できるほか、各地で行われる進学説明会（資料4-1-①-5）、オープンキャンパス・学校見学会（資料4-1-①-6）で詳細な説明が受けられる。

進学説明会は、平成18年度（平成19年度入試）には、大阪、和歌山、田辺、橋本、伊勢、松阪、名張、大津、名古屋、尾鷲と、近畿東海地区において、各地で精力的に開催した。進学説明会の場で本校入学者受入方針を説明することは勿論である。

本校地元の生徒、保護者向けには、夏休み期間中および10月の熊野祭（学園祭）期間中に学校見学会、オープンキャンパスを開催し、その中で入学者受入方針を説明している。

資料 4 - 1 - ① - 5

平成19年度 中学生のための進学説明会		
地区	日時	会場
本校	平成18年11月10日(金) 19:00～	近畿大学工業高等専門学校
新宮	平成18年11月17日(金) 19:00～	新宮市福祉センター
本校	平成18年12月6日(水) 19:00～	近畿大学工業高等専門学校
地区	日時	会場
田辺	平成18年9月29日(金) 19:00～	職業訓練センター
和歌山	平成18年9月30日(土) 10:00～	ビッグ愛
橋本	平成18年9月30日(土) 14:00～	橋本市教育文化会館
大阪	平成18年10月1日(日) 10:00～	近畿大学会館
伊勢	平成18年10月6日(金) 19:00～	ハートプラザみその
松阪	平成18年10月7日(土) 10:00～	松阪グリーンホテル
大津	平成18年10月7日(土) 11:00～	アヤハレークサイドホテル
津	平成18年10月7日(土) 14:00～	ベルセ島崎
名張	平成18年度10月7日(土) 19:00～	名張シティホテル
名古屋	平成18年度10月8日(日) 10:00～	名古屋ガーデンパレス
尾鷲	平成18年度10月8日(土) 13:00～	尾鷲市中央公民館

(出典：本校ホームページ)

資料 4 - 1 - ① - 6

第1回 H18. 8/26(土)  
学校見学会

第2回 H18. 10/14(土)  
オープンキャンパス

11:05に熊野市駅より送迎バスを運行します。

- ◎11:30～ 学校説明会
  - ①全体説明
  - ②コース説明 (機械システムコース、電気電子コース、情報(ビジネス)コース、情報(エンジニア)コース、都市環境コース、建築デザインコース)
- ◎12:30～ 寮食堂試食会(参加者全員)
- ◎13:00～ 寮見学(希望される方のみ)
- ◎13:30～ 講演会(中尾美樹氏)
- ◎14:30～ 工学体験コーナー

第3回 H18. 10/29(日)  
学校見学会(熊野祭期間中)

(出典：本校ホームページ)

(分析結果と根拠理由) 入学者受入方針は明確に定められており、本校ホームページ、学校案内、進学説明会、オープンキャンパスおよび学校見学会を通して学校内外に周知されている。本校に関心のある生徒およびその保護者は、近畿東海の各地区にて開催されている進学説明会を通して詳細な説明を受けることができる。

**観点4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。**

(観点にかかる状況) 平成19年度の1年生入学試験要項、編入学、専攻科入学試験要項をそれぞれ資料4-2-①-1、資料4-2-①-2、資料4-2-①-3に示す。

資料 4 - 2 - ① - 1

## 【平成19年度 入学試験要項】

**募集人員 総合システム工学科 180名**

3年次から機械システムコース、電気電子コース、情報コミュニケーションコース、都市環境コース、建築デザインコースに分かれます。

### 【受験資格に関して】

<b>① 中学校長推薦入学試験( 専願/A日程 )</b>	
学業推薦	平成19年3月中学校を卒業見込みであり、次の要件を満たし在籍中学校長が推薦できる生徒 1. 志望学科に対して適性を有し、志望の動機が適切である生徒 2. 学業に対する意欲がある生徒 3. 1年生から3年生2学期までの9教科の評定平均が5段階評定3.0以上の生徒
課外活動推薦	平成19年3月中学校を卒業見込みであり、次の要件を満たし在籍中学校長が推薦できる生徒 1. 志望学科に対して適性を有し、志望の動機が適切である生徒 2. 課外活動等に優秀で各種大会で活躍し、学業と課外活動とが両立できる生徒
<b>② 自己推薦入学試験( 専願/A, B, C 日程 )</b>	
平成19年3月中学校を卒業見込みであり、あるいはすでに卒業しており、次の要件を満たしている生徒 1. 志望学科に対して適性を有し、志望の動機が適切である生徒 2. 自己をアピールできる者 例(ア)スポーツに優秀で各種大会で入賞した者 (イ)一芸に優れそれを証明できる者 (ウ)将来に対する希望を強く持ち、自己を強くアピールできる者	
<b>③ 給付奨学金制度入学試験( 専願/A 日程 )</b>	
平成19年3月中学校を卒業見込みであり、次の要件(1、2、3または1、2、4)を満たしている生徒 1. 志望学科に対して適性を有し、志望の動機が適切である生徒 2. 人物良好で他の学生の模範となる生徒 3. 成績優秀な生徒 1年生から3年生2学期までの5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の評定平均が ※給付奨学金A 5段階評定 3.8以上で 年間10万円給付 ※給付奨学金B 5段階評定 4.1以上で 年間15万円給付 ※給付奨学金C 5段階評定 4.5以上で 年間25万円給付 ※給付奨学金D 5段階評定 4.9以上で 年間35万円給付 4. 学業と課外活動が両立でき、課外活動が優秀な生徒 課外活動等の成績を証明できるものがあれば添付すること	
<b>④ 帰国生徒入学試験( 専願/11月帰国入試 )</b>	
2007(平成19)年3月外国の日本人学校を卒業見込み、または外国の学校に2年以上在籍し帰国後1年以内で2007(平成19)年3月中学校を卒業見込みであり、次の要件を満たし在籍中学校長が推薦できる生徒 1. 志望学科に対して適性を有し、志望の動機が適切である生徒 2. 学業に対する意欲がある生徒 ※ 本校が指定する日本人学校の学校長が推薦する生徒に対して、指定校推薦があります。 詳しくは本校入試部までお問合せ下さい。	
<b>⑤ 一般入学試験( 併願/一般入試 )</b>	
1. 平成19年3月中学校卒業見込みの生徒 2. 中学校を卒業した者 ※ 一般入学試験において、成績優秀者については給付奨学金制度があります。	

### 【選考方法】

①・②・③・④入学試験の場合	提出書類、面接などによって総合判定を行います。
⑤(一般入学試験)の場合	学科試験(国語・社会・数学・理科・英語)、調査書、面接等によって総合判定を行います。

(出典：近畿大学高専平成19年度入学試験要項)

資料 4 - 2 - ① - 2

## 【平成19年度 第4学年編入学試験要項】

平成19年3月高等学校を卒業見込みの生徒および高等学校を卒業した生徒対象

募集人員	機械システム工学科	15名
	電気情報工学科	15名
	建設システム工学科	15名

### 【受験資格等】

推薦…平成19年3月高等学校を卒業見込みで在籍高等学校長が責任をもって推薦できる生徒			
推薦編入学試験	区分	日程	受験資格
①学業推薦	専願	A 日程 B 日程	学業に対する意欲があり、5段階評定による成績の平均が3.3以上の生徒 (但し、数学の評定が3.0以下の生徒を除く)
②課外活動推薦	専願	A 日程 B 日程	課外活動に秀でて県大会等に入賞し、学業に対する意欲があり5段階評定による成績の平均が3.0以上の生徒(但し、数学の評定が3.0以下の生徒を除く)
③指定校推薦	専願	A 日程 B 日程	本学が指定する高等学校長の推薦する生徒(書類審査のみ)
④学園附属校推薦	専願	C 日程	平成19年3月近畿大学学園附属高等学校卒業見込みの生徒、および近畿大学学園附属高等学校を卒業した者で、出身高等学校長から推薦を受けた生徒
⑤ A O 社会人	専願 専願	C 日程	平成19年3月高等学校を卒業見込みの生徒または高等学校を卒業した者で、次の要件をすべて満たす者 (1)志望学科に対して適性を有し、志望の動機が適切である生徒 (2)一芸に秀でて自分自身を強くアピールすることができ(自己推薦書提出)、学業に対する意欲があり5段階評定による成績の平均が3.0以上の生徒 (但し、数学の評定が3.0以下の生徒を除く) <参考例>各種コンクール等で優秀な成績を収めた者 情報処理に関する深い知識を有している者 技術・技能に関して興味を持ち、実践・実績がある者

※給付奨学金制度……①・②において、県インターハイ優勝等の成績を収めた生徒は、給付奨学金を受けることができる。

### 【日程に関して】

日程	出願開始	出願締切	入学試験日	合格発表日	入学手続開始	入学手続締切日
A日程	6/22(木)	6/28(水)	7/1(土)	7/8(土)	7/10(月)	7/19(水)
B日程	10/31(火)	11/ 8(水)	11/11(土)	11/18(土)	11/20(月)	11/27(月)
C日程	11/20(月)	H19/3/22(木)	本学より通知	試験1週間後	合格通知後10日以内	

※入学試験は本校での実施となります。ただし、指定校推薦は面接不要のため来校の必要はありません。

A日程・B日程の試験時間…集合9:00/面接9:30～。(③の指定校推薦入試は書類審査のみの判定)

選考方法…書類審査・面接等によって総合判定を行います。

C日程に関しては書類審査後面接日時を通知します。

(出典：平成19年度第4学年編入学試験要項)

資料 4 - 2 - ① - 3

**【平成 19 年度 専攻科入学試験要項】**

募集人員 生産システム工学専攻 18 名

(機械工学/電気電子工学/土木工学)

【出願資格等】

専攻科入学試験	区分	日程	受験資格
①学校長推薦	専願	A 日程 B 日程	次のいずれかに該当する者とし、 在学または出身の学校長の推薦を得た者とします。 (1)高等専門学校を卒業した者、または平成 19 年 3 月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者、または平成 19 年 3 月卒業見込みの者 (3)専修学校を修了した者のうち学校教育法第 82 条の 10 の規定により、 大学に編入学することができる者、または平成 19 年 3 月修了見込みの者
②社会人特別	専願	A 日程 B 日程	次のいずれかに該当し出願時に社会人として 1 年以上の職歴を 有するものとします。 (1)高等専門学校を卒業した者 (2)短期大学を卒業した者 (3)専修学校を修了した者のうち学校教育法第 82 条の 10 の規定により、 大学に編入学することができる者 (4)外国で学校教育 14 年の課程を修了した者 (5)大学に 2 年以上在学し、62 単位以上を取得した者
③学 力	併願	A 日程 B 日程	次のいずれかに該当する者とします。 (1)高等専門学校を卒業した者、または平成 19 年 3 月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者、または平成 19 年 3 月卒業見込みの者 (3)専修学校を修了した者のうち学校教育法第 82 条の 10 の規定により、 大学に編入学することができる者、または平成 19 年 3 月修了見込みの者 (4)外国で学校教育 14 年の課程を修了した者 (5)大学に 2 年以上在学し、62 単位以上を取得した者
④A O	専願	O 日程	次のいずれかに該当し、自分自身を強くアピールすることができ、 学業に対する意欲がある者(自己推薦書提出)とします。 (1)高等専門学校を卒業した者、または平成 19 年 3 月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者、または平成 19 年 3 月卒業見込みの者 (3)専修学校を修了した者のうち学校教育法第 82 条の 10 の規定により、 大学に編入学することができる者、または平成 19 年 3 月修了見込みの者 (4)外国で学校教育 14 年の課程を修了した者 (5)大学に 2 年以上在学し、62 単位以上を取得した者

(出典：近畿大学高専平成19年度専攻科入学試験要項)

1年生では、学業推薦入試、課外活動推薦入試、自己推薦入試、給付奨学金制度入試、帰国生徒入試、一般入試と、多彩な入試方法を採用している。入学者受入方針の中の

- (1) 人々のくらしや環境に関心のある人
- (2) ものづくりや実験が好きな人

に対応して、すべての入試方法において、志望学科に対して適性を有する生徒を募集することになっている。

(3) 部活動、ボランティア活動、寮生活などを通して仲間づくりをしたい人  
に対応して、課外活動推薦、自己推薦の入試方法において、そのような生徒を募集することになっている。

本校4年生への編入学、専攻科への入試に関しても、同様に多彩な入試方法を採用している。それぞれ入学者受入方針に対応したものになっている。

本校では、編入学指定校推薦を除き、すべての入試方法に対して、面接試験を行う。面接試験の前に、まず出願書類審査により、評定平均が基準を満たしているかをチェックする。更に書類から出席状況や課外活動状況、入学者受入方針に関する特記事項等をあらかじめチェックしておき、入学試験当日の面接試験に備える。面接試験では資料4-2-①-4の面接官注意事項に従い、本校の志望動機、入学後の抱負・意欲などを話してもらい志望学科に適性を有しているかを判断する。その他服装や受験態度、言葉遣いなどをチェックして面接結果の評定を行っている。面接結果の例を資料4-2-①-5に示す。それぞれの受験者に対して服装・言語・態度の観点からA・B・Cの3ランクの採点を実施している（評価A：本校入学生として問題ない、評価B：本校入学生として一部問題がある、評価C：本校入学生としてふさわしくない）。面接結果とあらかじめ調査した出願書類の審査とあわせて、合否判定を入試判定会議の場で行う。



資料 4 - 2 - ① - 4

4. 調査書審査・面接試験実施要項

(1) 調査書による事前調査事項

イ、学習記録については評価 1 のある者、学業推薦の場合 3 年次の評価平均が 5 段階で 3 以下の者。

ロ、出欠状況に特記事項のある者。

ハ、行動・性格については特記事項のある者。

ニ、身体状況について特記事項のある者。

ホ、アドミッションポリシーに関して特記事項のあるもの

\* 調査事項の面接表記入について、特記すべき事項のある場合、該当欄に要点を記入し、総合評価して下さい。

(2) 面接事項

イ、欠席者については、面接表の備考欄に欠席と記し判定欄に赤色で斜線を引いて下さい。

ロ、試問に際しては丁寧な言葉で慎重に質問して下さい。

ハ、試問中は服装・言語・態度に留意し、問題がある場合には該当欄へ覚え書きをするとともに、備考欄へ補足説明を付けて下さい。

ニ、個人調査の事項については特別な理由のない限り試問しないで下さい。

ホ、次の事項については試問しないで下さい。

本籍・家庭環境・家族の職業・収入・宗教その他直接本人の能力と関係のないこと。

例えば、読書の習慣を問うのは良いですが、書名や内容を問うことは思想調査になりかねないので、ダメです（新聞も同じ）。自分の長所を問うのはいいのですが、短所は自分の悪いところを自分で言わせることになるので、ダメです。

ヘ、試験場や控室での態度にも留意して、特記すべき事項があれば備考欄に記入して下さい。

(3) 面接試問事項（例）……（特記事項は備考欄へ記入）

◎ 受験番号、氏名、生年月日を言って下さい。

◎ 本校を志望したのは何故ですか。

◎ 併願している高校はどこですか。さしつかえなければ話して下さい。←一般入試の時に  
（どちらを優先・……） 確認してください。

◎ 寮に入りますかそれとも通学しますか。（寮生活の覚悟は……）←必ず、確認してください。

◎ 本校の学則（規則）はきびしい面がありますが、どう思いますか。

◎ 他人をいじめる又は他人からいじめられることについてどう思いますか。

◎ 君の趣味や好きなスポーツについて話して下さい。

○ 本校をどのようにして知りましたか。

○ 5 コースのうち第 1 志望コースはどのコースですか。←必ず、確認してください。

○ 将来どんな方面に進みたいと考えていますか。

○ 簡単に自分を PR してみてください。

(4) 判定

イ、判定記号は A. B. C の 3 種とし判定欄に記入して下さい。

ロ、各記号の定義は次の通りです。

A：特に問題がない者。

B：やや問題があると思われる者。

C：本校生としてふさわしくないと思う者。

ハ、面接判定は観察項目を評価して決めて下さい。

（出典 近畿大学高専内部資料）

資料 4 - 2 - ① - 5

担当 青木 第 第 中 中 弘 一 第

平成18年7月1日 記  
近畿大学工業高等専門学校

平成18年度 編入学入試(A日程)面接表

試験種別	受験番号	受験場所	志望工学科	欠席	入寮希望	受験者名	性別	生年月日	出身学校	調査事項				判定		
										人物概要	各種簿書	備考	服装		言語	態度
校長推薦(課外)	8271	本校			○		男				4	B	A	A	A	A

志望動機 ... 土木士の育成、自身  
 進路 ... 近畿大学 建築環境学科 → 土木関係の仕事、教授 (JAL)

コー入 土木

自己PR ... 算術(長短記)や木子、  
 ・努力  
 ・交通(117)一以 (OK)  
 ・環境(117) (OK)  
 ・環境(117) (OK)  
 ・環境(117) (OK)

(出典：編入学試験面接結果)

(分析結果と根拠理由) 公開された方法に沿って入学者としてふさわしいかのチェックが実施され入学者の選抜が行われている。入学者受入方針との対応も取れている。

**観点 4-2-②：** 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。

(観点にかかる状況) 受験者の資料に関しては、内部文書として教務部・事務部に保管している。入試段階で、書類調査、面接により、本校の入学者受入方針に沿った学生であるかどうかのチェックは実施している。

入学後に、本校の入学者受入方針に沿った学生かどうかを検証するのは非常に困難ではあるが、比較的容易に検証可能な例として、準学士課程入学者受入方針の「部活動、ボランティア活動、寮生活などを通して仲間づくりをしたい人」に関して、課外活動推薦で入学した者の追跡調査を行った（資料 4-2-②-1）。

資料 4-2-②-1

課外活動推薦入学者と入学後の経緯			
学年	1年生	2年生	3年生
入学年度	H19	H18	H17
入学者数	45	73	37
部継続者数	45	67	32
継続者数割合(%)	100	92	86

(出典：近畿大学高専内部資料)

入学後、学年とともに部を離れるものも増えるが、それでも3年生で86%という多数が部活動を継続していることがわかる。また「グッドジョブ」と呼ばれる本校ボランティアグループに平成19年5月現在で33名もの学生が参加しており、このような学生も受け入れていることがわかる。

(分析結果と根拠理由) 入学者受入方針に沿った学生を実際に受け入れているかどうかは、全員（編入学指定校推薦を除く）に面接を実施することにより、入学選抜時には十分検証されている。入学後の課外活動推薦入学者の部活動継続率は良好である。

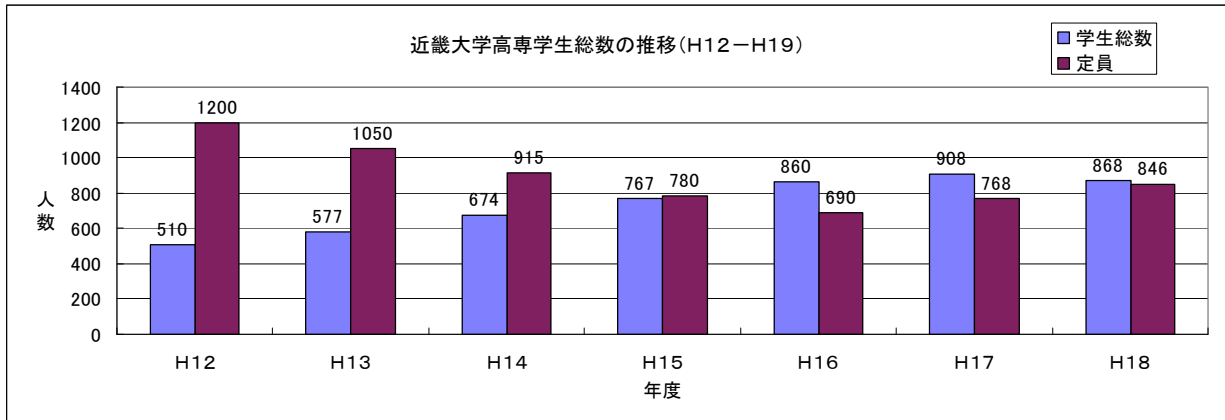
**観点 4-3-①：** 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点にかかる状況) 過去7年の定員数、在籍学生数のグラフを資料 4-3-①-1 に示す。平成12年以前には大幅な定員割れがあったが、学校改革によって在籍学生数は増加しており、平成16年度からは在籍学生数の方が総定員を若干上回る状況となっている。

一方準学士課程1年生の入学者数は、平成16年度の170名をピークに、17、18年度は30名あまり減少した。これは地元中学校からの進学が、16年度の100名以上から17年度、18年度と半減したからである。全国的な少子化、地域的な原因での人口減と非常に厳しい環境

にある。さらに拍車をかけるのは、地元の公立高校との競争である。同じ教育委員会管轄ということで、統廃合の危機にある公立高校の存続のために、地元中学の進路指導では、文部科学省管轄化の高専に対してややもすれば冷たく扱われていることを非常に危惧している。といっても、教育費用の相当部分を税金で賄っている公立高校の安価な教育費用に対して、自ら教育費用を捻出しなければならない

資料 4 - 3 - ① - 1



(出典：近畿大学高専入試部資料)

私学では、学費そのものでは競争が困難である。対策として、成績優秀者、部活動優秀者には給付奨学金を与え、実質的な学費軽減、もしくは5か年のうち、高校部分にあたる3年間は授業料を安くするという傾斜授業料制をとるなど行っているが今後も続けていく。また過去も、定員そのものを削減するという方法も取ったが、それも選択肢の一つである。普通高校に対する高専の優位性PR、地元以外からの入学生募集、4年編入生募集という活動をさらに拡大していく。

(分析結果と根拠理由) 平成13年度からの改革によって、入学者が定員を大幅に下回る状況を改善してきた。その改革により平成16～18年度には、総学生数が総定員を上回る状況になっている。入試方法などの改善は、不断に実行している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 入学者受入方針を明確に定めている。入学者受入方針に沿って、「平均的な学力がある」というだけでなく、スポーツ、特定能力などで秀でたものも選抜している。ほぼすべての入試に面接試験を実施し入学者受入方針を満たしているかチェックしている。

ものづくりに要求される「独創性」を育てていくために、「学問一辺倒」の学生だけでなく、スポーツあるいはその他特殊な能力を持った多種多様な学生を入学させ、自己とは異なる考え方に接することが重要である。

入学後の検証は困難であるが課外活動推薦入学者の部活動継続率は良好で、ボランティア活動参加学生の多数いることは把握している。

(改善を要する点) 入学者受入方針に沿った学生が実際に入学したかを検証する方法を考え

ていく必要がある。

### (3) 基準4の自己評価の概要

学生の受け入れのための入学者受入方針は、準学士課程1年、第4学年編入学、専攻科とそれぞれ明確に定められている。これらは、本校のホームページ、学校案内で学校内外に公開されている。入学者受入方針を学内に周知させる工夫を行っている。また学外の生徒、学生、およびその保護者に対しては、各地で行う進学説明会、あるいは本校で開催する学校見学会、オープンキャンパスで説明し、周知させている。

入学者受入方針に沿って、各課程への入学試験要項を定めている。単に学業だけでなく、課外活動推薦、自己推薦など、多彩な入試方法を実施しており、入学者受入方針に沿った、多様な学生を受け入れている。学生の入学後も、入学者受入方針に沿った学生かどうかを検証する努力を続けている。

入学者数は、平成13年度以降、不断の改善によって、定員をわずかに超える程度になっている。ただ過疎地、少子化による生徒数の減少は、今後定員割れをおこさないために更なる努力が必要である。



基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

平成12年度から平成16年度までは、機械システム工学科、電気情報工学科、建設システム工学科の三工学科制の教育課程であった。近年の技術者は複合的・融合的領域の知識も要求されることから平成17年度より3つの工学科を統合した「総合システム工学科」が設置された。総合システム工学科では1、2年次に工学基礎科目を学び、自分の興味、適性を理解したうえでコースを選択し、3年次に各専門コース（機械システム、電気電子、情報コミュニケーション、都市環境、建築デザイン）に分かれる。各学科ともに低学年時において一般科目を多く配置し、高学年に専門科目を多く配置している（資料5-1-①-1～11）。一般科目では、教育目標である人格教育と専門を学ぶための基礎学力の習得を目指しており、専門科目では実践的技術者の育成を目指した教育を行っている。

資料5-1-①-1

機械システム工学科・電気情報工学科・建設システム工学科授業科目一覧（一般科目）

別表5 一般科目に関する授業科目等(機械システム工学科、電気情報工学科、建設システム工学科)

科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置				備考	
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教		助手
一般科目	国語	10			3	3	2	2						1	
	英語	19			6	5	5	3		1		2			
	数学	19			8	6	5				1	2			
	物理	6				3	3			1		1			
	化学	5				3	2				1				
	経済学	2						2		1					
	倫理	2						2							
	政治経済	2					2								
	日本史	2				2								★	
	世界史	2					2								
	地理	1				1									
	保健体育	10				3	3	2	1	1		1	3	1	
	芸術	1				1					★				
	法学			2						2					
	英語特論			2						2					★
	中国語			5	1	1	1	1	1						
	独語			4			2	2			★				
	ホリスティック健康学			1					1						
	生物			3	1	2						★	★		
	課題研究			1					1						
創造工学演習			1					1			★				

(出典 平成19年度学則)

資料5-1-①-2

機械システム工学科授業科目一覧（専門科目）

別表6 専門科目に関する授業科目等(機械システム工学科、電気情報工学科、建設システム工学科)

科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置					備考
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教	助手	
機械システム工学科専門科目	流体力学Ⅱ	2							2					1	
	機械システム設計製図	4							4					★	
	工学実験	3							3	★				★	
	卒業研究	8							8	★				★	
	創造製作実習	3							3	★				★	
	エネルギー変換システム工学	2							2	1					
	環境システム工学	2							2	★					
	材料力学Ⅱ	2							2		★				
	機械力学	2							2	★					
	工作機械	1							1					★	
	制御システム工学Ⅱ	1							1	★					
	応用数学	4						4			★	★			
	応用物理	3						3			★	★			
	応用数物演習	1						1		★					
	材料力学Ⅰ	2						2			1				
	工業熱力学	2						2		★					
	流体力学Ⅰ	2						2				★			
	力学演習	1						1			★				
	機械工作法	1						1				★			
	電気工学概論	2						2			★				
	物質移動工学	1						1		★					
	制御システム工学Ⅰ	1						1		1					
	機械システム設計製図	2						2						★	
	工学実験	3						3		★	★				
	機構学	1					1							★	
	材料学	2					2				1				
	工業力学	1					1			1					
	材料力学Ⅰ	1					1				★				
	工業熱力学	1					1				★				
	力学演習	1					1				★				
	機械工作法	1					1				★	★			
	機械システム設計製図	2					2				★				
	工学実験	2					2				★				
	機械工作実習	3					3							★	
	プログラミング基礎	1					1				★				
	工業力学	1					1				★				
	機械工作法	1					1							★	
	機械システム設計製図	2					2					★			
	CAD	1					1					★			
	機械工作実習	3					3				★	★			
プログラミング基礎	1					1							★		
機械工学概論	1			1							★				
CAD	1			1							★				
機械システム設計製図	1			1							★				
機械工作実習	3			3							★				
基礎機械システム			1			1					★				
CAD特論		3				1	1	1					★		
インターンシップ		2						1	1	★					
マイクロ		2					2				1				
コンピュータ処理		1					1					★			

(出典 平成19年度学則)



資料5-1-①-3

電気情報工学科授業科目一覧（専門科目）

別表6 専門科目に関する授業科目等(機械システム工学科、電気情報工学科、建設システム工学科)

科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置					備考
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教	助手	
電気情報工学科専門科目	卒業研究	6							6	★	★				履修方法 ・一般科目は、各学年に配当されている共通の必修科目および選択科目から選択して履修する。 ・専門科目は、各学年に配当されている共通の必修科目と各コースごとの選定科目、および選択科目を選択して履修する。 ・情報コミュニケーションコースの選定科目のうち、A群またはB群はいずれか一方を履修する。 ・特別活動、工学実験、および卒業研究は必ず履修する。 卒業要件 1. 167単位以上履修(ただし一般科目: 81単位以上、専門科目: 86単位以上修得) 2. 工学実験、卒業研究は修得。 3. 特別活動90単位時間履修。
	工学実験	6							6	★	★				
	確率・統計	2								2	★				
	工学実験	6							6	★	★	★			
	工学実験	5					5			★	★	★			
	電気磁気学Ⅰ	2			2						★				
	電気回路Ⅱ	2			2							★			
	情報基礎	2			2							★			
	電気回路Ⅰ	2			2							★			
	電気電子製図	2			2							★			
	電気数学演習		2					2				★			
	情報演習		1					1				★			
	回路演習		1					1					★		
	電気磁気学演習		1					1					★		
	電気情報工学特論		2						2				★		
	科学技術英語		2							2			★		
	インターシップ			2~4					1~2	1~2			★		
	電気設計製図	2							2				★		
	電気応用	2							2				★		
	半導体工学	1							1	1					
	自動制御	2							2			1			
	電子回路Ⅱ	2							2			1			
	パワーエレクトロニクス	2							2	1					
	高電圧工学	1							1	★					
	発変電工学	1							1	★					
送配電工学	2							2	★						
電気法規・電気施設管理	2							2				★			
応用数学	4							4			★	★			
応用物理	2							2			★	★			
通信工学	2							2		★					
電気電子材料	2							2			1				
回路網理論	2							2				★			
電子回路Ⅰ	2							2		★					
電気機器	2							2		★					
データ処理	2							2			1				
電気電子計測	2					2					★				
電気磁気学Ⅱ	2					2					1				
電気回路Ⅲ	2					2						★			
コンピュータ概論	2					2				★					
電子工学	2					2					★				
電子機器	2					2					★				
情報処理	2				2						★				
機械工学概論	2				2						★				
電気情報工学科専門科目	マルチメディア工学	2							2	1					
	ネットワーク工学	2							2		1				
	数値計算法	2						2				★			
	プログラミング言語Ⅲ	2						2				★			
	データ構造とアルゴリズム	2						2				1			
	プログラミング言語Ⅱ	2						2				★			
	計算機システム	2						2			★				
	プログラミング言語Ⅰ	2						2				★			
	コンピュータ概論	2						2					★		
	電子設計製図	2							2			1			
	制御工学	2							2			★			
	ソフトウェア演習	3							3		★				
	言語理論とオートマトン	2							2				★		
	システムプログラム	2							2		★				
	ソフトウェア工学	2							2				★		
	応用数学	4							4			★	★		
	応用物理	2							2			★	★		
	通信工学	2							2		★				
	電子デバイス工学	2							2			1			
	ハルズ・デジタル回路	2							2				★		
	情報数学	2					2						★		
	電気電子計測	2					2						★		
	電気磁気学Ⅱ	2					2						★		
	電気回路Ⅲ	2					2						★		
	情報コミュニケーションⅢ	2							2			★			
プレゼンテーション技法Ⅲ	2							2		★					
情報メディア論	2							2				★			
企業論	2							2					★		
Webコンテンツ制作Ⅱ	2							2					★		
Webインタラクティブコンテンツ制作	1							1					★		
データベース演習	2							2				★			
コンピュータシミュレーション	2							2				★			
情報コミュニケーションⅡ	2							2				★			
プレゼンテーション技法Ⅱ	2							2			★				
情報コミュニケーション演習Ⅱ	2							2				★			
Webコンテンツ制作Ⅰ	4							4					★		
情報コミュニケーション論Ⅰ	2							2				★			
情報コミュニケーション演習Ⅰ	2							2				★			
プレゼンテーション技法Ⅰ	2							2			★				
デザイン演習	2							2				★			
応用数学		4						4				★	★		
応用物理		2						2				★	★		

(出典 平成19年度学則)

資料5-1-①-4

建設システム工学学科授業科目一覧（専門科目）

別表6 専門科目に関する授業科目等(機械システム工学、電気情報工学、建設システム工学)

科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置					備考	
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教	助手		
建設システム工学学科専門科目	情報処理Ⅱ	2							2				1			
	構造力学Ⅱ	2							2				1			
	コンクリート構造学	2							2				★			
	測量実習	3							3				★			
	卒業研究	6							6	★	★	★				
	景観環境デザイン	2							2	★						
	環境衛生工学	2							2	1						
	耐震工学	1							1				★			
	応用数学	4							4				★			
	応用物理	3							3		★					
	構造力学Ⅰ	4							4				★			
	水理学	2							2	1						
	測量学	2							2						★	
	土質工学	2							2				★			
	コンクリート構造学	2							2						★	
	建設システム工学実験Ⅱ	3							3		★	★	★			
	構造力学Ⅰ	3					3								★	
	水理学	3							3		★					
	測量学	2					2								★	
	土質工学	2					2						★			
	建設・建築製図	2					2						★			
	測量実習	3					3						★	★		
	建設システム工学実験Ⅰ	3					3						★	★		
	情報処理Ⅰ	1				1							★			
	建設材料学	1				1							★			
	測量学	1				1					★					
	建設・建築製図	2				2									★	
	測量実習	2				2					★	★				
	情報処理Ⅰ	1			1										★	
	建設材料学	1			1								★			
	測量学	1			1								★			
	建設・建築製図	2			2										★	
	建設システム工学概論	1			1								★			
	技術と倫理			2						2			★	★		
	耐震工学演習			1						1			★			
	エコロジカルデザイン			1						1	★					
	3D-CAD、パース演習			1						1	★					
	外国文献購読			1						1	★					
	水理学演習			2					2		★					
	土質工学演習			2					2				★			
	生態多様性学			1					1		★					
	アーキテクチャー環境設備学			1					1		★					
	社会環境システム学			1					1		1					
	コンピュータデザイン演習			1					1		★					
	インターンシップ			1					1		★					
都市創造工学			1			1				★						
造形デザイン演習			1			1				★						
建設設計製図		3							3				★			
橋梁工学		1							1			1				
土木計画学		1							1				★			
交通工学		2							2				1			
河川環境工学		2							2	★						
建設設計製図		2						2					★			
施工管理学		2						2					★			
建設設計製図		3							3	★						
建築概論		1							1	★						
建築構造		1							1				1			
建築構造設計		2							2				★			
建築構造設計		2							2				★			
建築設計製図		2						2		★						
建築デザイン		2						2		1						
インテリアデザイン				1					1	★						
スチールストラクチャー				1					1				★			
建築法規				1					1	★						

(出典 平成19年度学則)

資料5-1-①-5

総合システム工学科授業科目一覧（一般科目）

別表1 一般科目に関する授業科目等(総合システム工学科)

科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置					備考			
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教	助手				
一般科目	国語	10			3	3	2	2										履修方法 ・一般科目は、各学年に配当されている必修科目のすべておよび選択科目から選択して履修する。 ・特別活動90単位時間履修。
	英語	19			6	5	5	3		1		2	1					
	微積分学Ⅱ	5					5				1							
	微積分学Ⅰ	4				4					★	★						
	線形代数学	3				3							1					
	基礎数学	8			8						★		1					
	物理	6				3	3			1			1					
	化学	5			3	2						1						
	経済学	2						2		1								
	倫理	2					2											
	政治経済	2				2										★		
	日本史	2			2													
	世界史	2				2												
	地理	1			1													
	保健体育	10			3	3	2	1	1			1	3	1				
	芸術	1			1						★							
	法学		2							2								
	英語特論		2							2						★		
	中国語			5	1	1	1	1	1									
	独語			4			2	2			★							
	ホリスティック健康学			1				1										
	生物			3	1	2					★	★						
	課題研究			1				1										
創造工学演習			1				1			★								

(出典 平成19年度学則)

資料5-1-①-6

総合システム工学科授業科目一覧（工学基礎）

別表2 専門科目に関する授業科目等(総合システム工学科)

科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置					備考
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教	助手	
工学基礎	工学概論Ⅰ	2				2					★	★			
	情報処理Ⅱ	2				2					★	★			
	図学	2				2					★				
	工学実験・実習2	4				4					★		★		
	情報処理Ⅰ	2			2						★	★			
	工学実験・実習1	4			4						★				

(出典 平成19年度学則)

資料5-1-①-7

総合システム工学科機械システムコース授業科目一覧（専門科目）

別表2 専門科目に関する授業科目等(総合システム工学科)

科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置					備考		
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教	助手			
機械システムコース専門科目	制御工学	2							2		1						
	計測工学	2							2	★							
	材料力学Ⅱ	1							1								
	工業熱力学Ⅱ	2							2	1							
	流体力学Ⅱ	2							2		1						
	機械力学	2							2		1						
	加工プロセスⅡ	2							2		1						
	物質移動工学	2							2		★						
	機械システム設計製図Ⅲ	3							3		★						
	工学実験5	3							3	★	★					履修方法 ・専門科目は、各学年に配当されている工学基礎科目とコースごとの必修科目のすべておよび選択科目の中から選択した科目を履修する。	
	卒業研究	8							8	★	★						
	創造製作実習			2						2	1	★					
	新素材	1								1		★					
	コンピュータ概論Ⅱ			2						2	★						
	応用数学	2						2				★					
	工業数学	2						2				★					
	応用物理	3						3			★						
	応用物理	2						2			★						
	材料力学Ⅰ	2						2			★						
	力学演習	1						1				★				卒業要件 1. 167単位以上履修(ただし一般科目:81単位以上、専門科目:86単位以上修得) 2. 工学実験、卒業研究は修得。 3. 特別活動90単位時間履修。	
	工業熱力学Ⅰ	2						2			★						
	流体力学Ⅰ	2						2				★					
	加工プロセスⅠ	2						2				1					
	電気工学概論	2						2				★					
	機械システム設計製図Ⅱ	2						2				★					
	工学実験4	3						3			★	★					
	工作実習4			2				2			★	★					
CADⅡ			2				2										
インターンシップ			2~4				1~2	1~2		★							
機構学	1					1											
金属材料	2					2						1					
コンピュータ概論Ⅰ	2					2											
CADⅠ	2					2											
工業力学	2					2						★					
機械システム設計製図Ⅰ	2					2					★						
工学実験3	2					2						★					
工作実習3	3					3						★					

(出典 平成19年度学則)

資料5-1-①-8

総合システム工学科電気電子コース授業科目一覧（専門科目）

別表2 専門科目に関する授業科目等(総合システム工学科)

科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置					備考		
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教	助手			
電気電子コース専門科目	制御工学	2							2		1						
	電気電子設計製図	2							2		★						
	送配電工学	1							1		1						
	パワーエレクトロニクス	2							2		★						
	高電圧工学	1							1		★						
	発変電工学	1							1		★						
	電気法規・施設管理	1							1				1				
	通信工学Ⅱ	2							2			★					
	電子回路Ⅱ	2							2			1					
	卒業研究	6							6	★	★					履修方法 ・専門科目は、各学年に配当されている工学基礎科目とコースごとの必修科目のすべておよび選択科目の中から選択した科目を履修する。	
	工学実験5	6							6	★	★	★					
	半導体工学	2							2		1						
	数値計算法			2						2							
	電気回路Ⅲ			2						2	★						
	電気情報工学特論			2						2		★					
	応用数学	2						2				★					
	応用物理	2						2					★				
	データ処理	2						2			★						
	計測工学	2						2				★					
	電気磁気学Ⅱ	2						2				1				卒業要件 1. 167単位以上履修(ただし一般科目:81単位以上、専門科目:86単位以上修得) 2. 工学実験、卒業研究は修得。 3. 特別活動90単位時間履修。	
	電気回路Ⅱ	2						2				1		★			
	電気機器	2						2			★						
	通信工学Ⅰ	2						2				★					
	電子回路Ⅰ	2						2			1						
	工学実験4	6						6			★	★					
	電子工学	2						2				1					
	工業数学			2				2				★					
回路演習	1						1						★				
電気磁気学演習	1						1						★				
情報演習	1						1						★				
インターンシップ			2~4				1~2	1~2		★							
コンピュータ概論	2					2				★							
CAD	2					2								★			
機械工学概論	2					2						★					
電気磁気学Ⅰ	2					2					★						
電気電子材料	2					2					★						
電気回路Ⅰ	2					2				★							
工学実験3	4					4				★	★						

(出典 平成19年度学則)

資料5-1-①-9

総合システム工学科情報コミュニケーションコース授業科目一覧（専門科目）

別表2 専門科目に関する授業科目等(総合システム工学科)

科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置					備考	
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報コミュニケーションコース専門科目	制御工学	2							2			★				
	言語理論とオートマトン	2							2			1				
	ネットワーク工学	2							2			1				
	マルチメディア工学	2							2		1					
	システム工学	2							2		★					
	卒業研究	6							6		★	★				
	工学実験5	6							6		★	★				
	電気回路Ⅱ			2					2				★			
	電子回路Ⅱ			2					2				★			
	計測工学	2						2					★			
	数値計算法	2						2					★			
	情報工学	4						4					★			
	通信工学	2						2					★			
	電子回路Ⅰ	2						2			★					
	工学実験4	6							6		★	★				
	工業数学			2					2				★			
	回路演習			1					1					★		
	電気磁気学演習			1					1					★		
	情報演習			1					1					★		
	インターンシップ			2~4				1~2	1~2					★		
	CAD	2					2							★		
	電気回路Ⅰ	2					2						★			
	電気電子計測	2					2						★			
計算機システム	4					4						1				
工学実験3	4					4						★	★			
プログラミング言語Ⅲ	2							2				★				
ソフトウェア工学	2							2				★				
ソフトウェア演習	2							2				★				
プログラミング言語Ⅱ	2						2					★				
プログラミング演習	2						2					★				
データ構造とアルゴリズム	2						2					★				
プログラミング言語Ⅰ	2						2					★				
情報数学	2					2						1				
情報メディア論	2							2			★					
Webインタラクティブコンテンツ制作	2							2								
データベース演習	2							2								
プレゼンテーション技法Ⅱ	2						2									
Webコンテンツ制作	2						2					★				
情報コミュニケーション演習Ⅱ	2						2					★				
プレゼンテーション技法Ⅰ	2						2					★				
情報コミュニケーション演習Ⅰ	2						2					★				

(出典 平成19年度学則)

資料5-1-①-10

総合システム工学科都市環境コース授業科目一覧（専門科目）

別表2 専門科目に関する授業科目等(総合システム工学科)

科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置					備考	
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教	助手		
都市環境コース専門科目	構造力学	6				2	2	2				1				
	景観環境デザイン	2						2				★				
	環境工学	1						1			1					
	交通工学	2						2						1		
	建設設計製図	6						3	3					★		
	建設工学実験	3							3			★	★	★		
	施工管理学	1							1					★		
	測量実習	7					3		4					1		
	卒業研究	6							6			★	★	★		
	耐震工学	2							2				★			
	コンクリート構造学			2					2					★		
	エコジカル多様性学	2							2				★			
	技術と倫理	2							2				★			
	外国文献読解	2							2				★			
	橋梁工学	1							1				★			
	河川環境工学			2					2				★			
	応用数学	2							2				★			
	応用物理	3							3				★			
	コンクリート構造学	2							2					1		
	測量学	4					2		2					★		
	衛生工学	1							1			★				
	水理学	4					2		2			1				
	水理学演習	2							2			★				
地盤工学	4						2	2				1				
地盤工学演習	2							2				★				
土木計画学	2							2					★			
都市工学実験	3							3				★	★	★		
社会環境システム学			1					1				★				
工業数学			2					2				★				
インターンシップ			2~4				1~2	1~2				★				
建設材料学	2						2						★			
建設・建築製図	3						3						★			

(出典 平成19年度学則)

資料 5-1-①-11

総合システム工学科建築デザインコース授業科目一覧（専門科目）

別表2 専門科目に関する授業科目等(総合システム工学科)

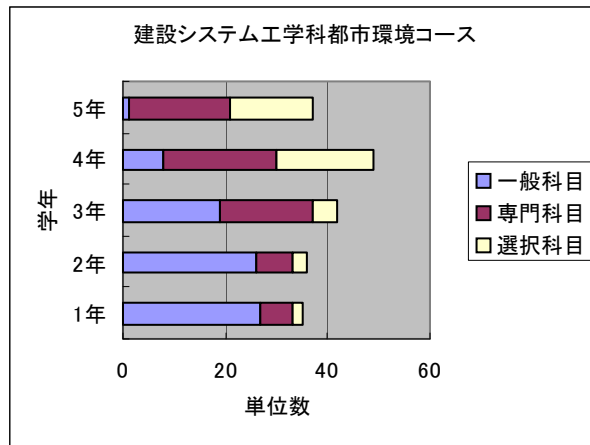
科目種類	授業科目名	単位数			学年別配当					専任教員配置					備考
		必修	選定	選択	1	2	3	4	5	教授	准教授	講師	助教	助手	
建築デザインコース専門科目	構造力学	6				2	2	2			★	★			
	景観環境デザイン	2						2			★				
	環境工学	1							1		★				
	建築構法	1							1		1				
	建築設計製図	6						3	3				1		
	建築設備	2							2			★			
	建築施工	1							1			★			
	測量実習	7					3		4					★	
	卒業研究	6							6			★	★	★	
	コンピュータ・デザイン演習(CA)	4						2	2						
	耐震工学	2							2			★			
	コンクリート構造学		2						2					★	
	エコシカル多様性学		2						2			★			
	技術と倫理		2						2				★		
	外国文献購読		2						2			★			
	インテリアデザイン		1						1			★			
	スチールストラクチャー		1						1				★		
	建築構造設計		2						2				★		
	応用数学	2							2				★		
	応用物理	3							3				★		
	コンクリート構造学	2							2					★	
	測量学	4					2		2					★	
	衛生工学	1							1				★		
	建築計画・デザイン	2							2				★		
	建築計画・デザイン演習	2							2				★		
	建築環境	1							1					★	
	建築構造	2							2					★	
	建築法規	1							1					★	
	都市工学実験	3							3				★	★	
	社会環境システム学			1					1					★	
工業数学			2					2					★		
インターンシップ			2~4				1~2	1~2				★			
地盤工学	2						2						★		
建設材料学	2						2							★	
建設・建築製図	3						3							★	
建築史	1						1						★		
造形デザイン演習	1						1						★		

(出典 平成 19 年度学則)

科目構成は、一般科目、専門科目、選択科目、工学基礎（総合システム工学科のみ）に分けられ、低学年時は一般科目が多く、学年進行に伴って専門科目が多くなるくさび形のカリキュラムとなっている。総合システム工学科では1、2年次に工学基礎科目が配置されている。学年別の割合について建設システム工学科都市環境コース及び総合システム工学科都市環境コースの例を（資料5-1-①-12、13）に示す。第1、2学年ではおよそ8割が一般科目、残りが専門科目もしくは工学基礎であり、第3学年以降は一般科目から専門科目へと移行していく。選択科目は全学年にわたる一般科目と高学年での専門科目から構成されており、学生がそれぞれ目指す進路、興味分野に合わせて自由に選択して履修できるよう開講されている。

資料5-1-①-12

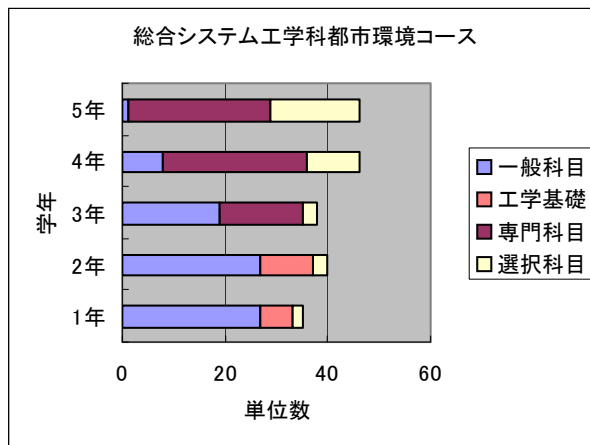
建設システム工学科都市環境コースにおける一般科目／専門科目／選択科目の割合



(出典 教務部内部資料)

資料5-1-①-13

総合システム工学科都市環境コースにおける一般科目／専門科目／選択科目／工学基礎の割合



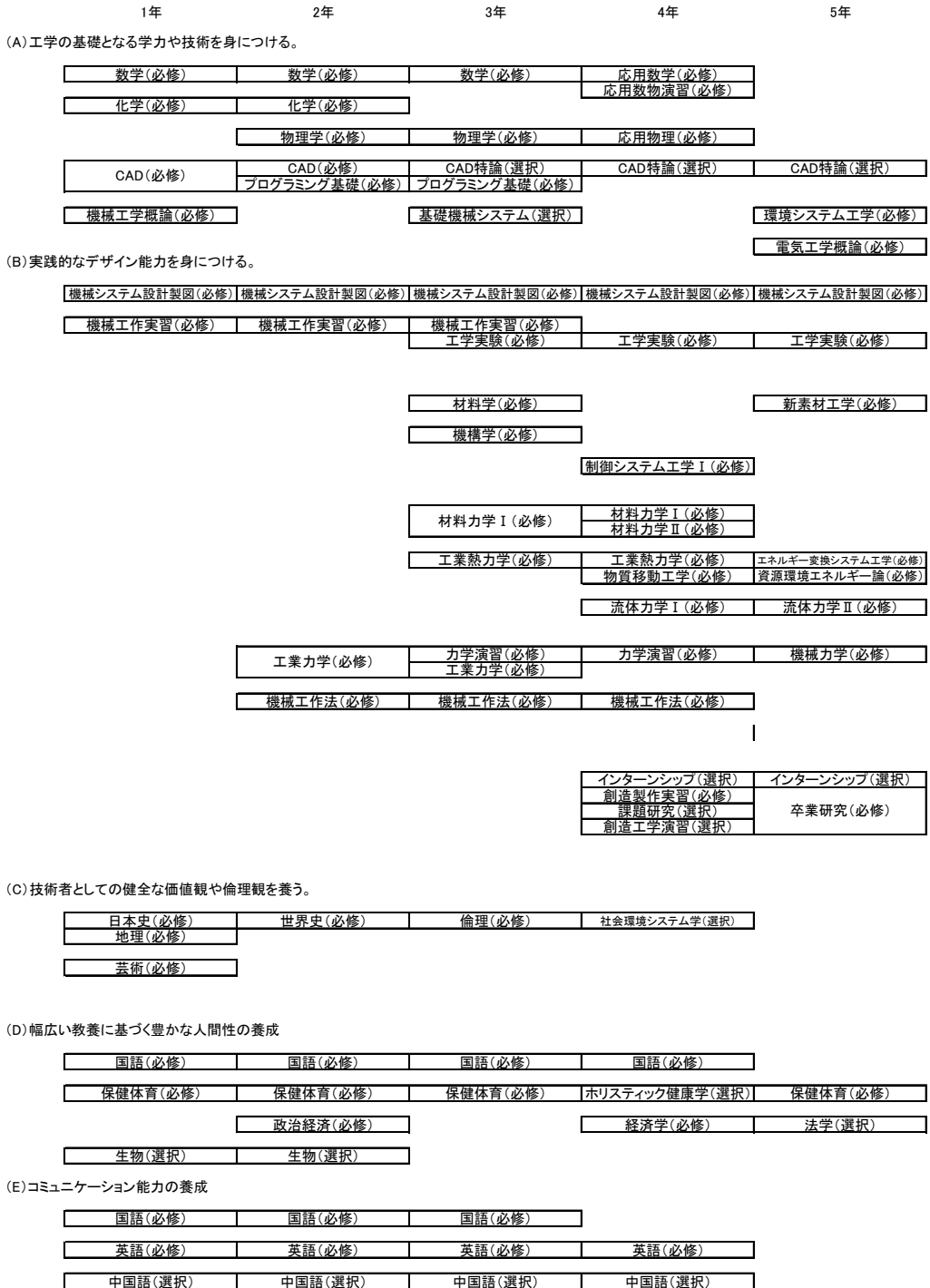
(出典 教務部内部資料)

教育課程については、「学習・教育目標」に対応して体系的に科目を編成している。各工学科教育課程の科目系統図を資料5-1-①-14～26に示す。

資料 5-1-①-14

機械システム工学科（設計コース）の教育課程の科目系統図

機械システム工学科(設計コース)科目系統図



(出典 教務部内部資料)



資料 5-1-①-15

機械システム工学科（制御コース）の教育課程の科目系統図

機械システム工学科(制御コース)科目系統図



(出典 教務部内部資料)

資料 5-1-①-16

電気情報工学科（電気電子コース）の教育課程の科目系統図

電気情報工学科(電気電子コース)科目系統図

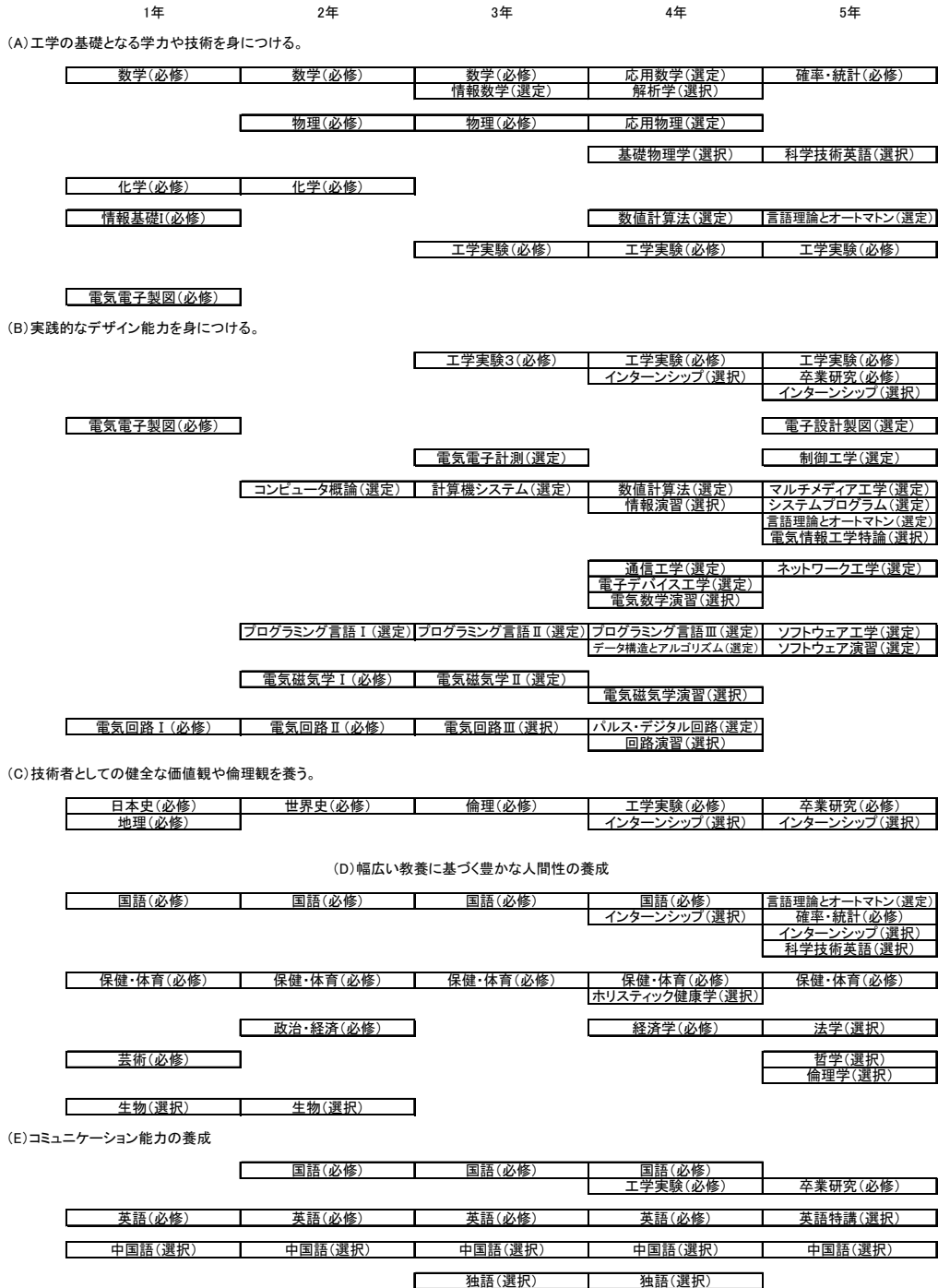
1年	2年	3年	4年	5年
(A)工学の基礎となる学力や技術を身につける。				
数学(必修)	数学(必修)	数学(必修)	応用数学(選定) 解析学(選択)	確率・統計(必修)
	物理(必修)	物理(必修)	応用物理(選定)	
			基礎物理学(選択)	科学技術英語(選択)
化学(必修)	化学(必修)			
情報基礎I(必修)	情報処理(選定)		データ処理(選定)	
		工学実験(必修)	工学実験(必修)	工学実験(必修) 半導体工学(選定)
電気電子製図(必修)				
(B)実践的なデザイン能力を身につける。				
		工学実験3(必修)	工学実験(必修) インターンシップ(選択)	工学実験(必修) 卒業研究(必修) インターンシップ(選択)
電気電子製図(必修)				電気設計製図(選定)
	機械工学概論(選定)	電気電子計測(選定)		
		コンピュータ概論(選定)	データ処理(選定) 情報演習(選択)	電気情報工学特論(選択)
	電気磁気学Ⅰ(必修)	電気磁気学Ⅱ(選定)	電気電子材料(選定) 電気磁気学演習(選択)	電気応用(選定)
電気回路Ⅰ(必修)	電気回路Ⅱ(必修)	電気回路Ⅲ(選択)	回路網理論(選定) 電気機器(選定) 回路演習(選択)	送配電工学(選定) パワーエレクトロニクス(選定) 高電圧工学(選定) 発変電工学(選定) 電気法規・施設管理(選定)
			電子工学(選定)	半導体工学(選定)
		電子機器(選定)	電子回路Ⅰ(選定)	電子回路Ⅱ(選定)
			通信工学(選定) 電気数学演習(選択)	
(C)技術者としての健全な価値観や倫理観を養う。				
日本史(必修) 地理(必修)	世界史(必修)	倫理(必修)	工学実験(必修) インターンシップ(選択)	卒業研究(必修) インターンシップ(選択)
(D)幅広い教養に基づく豊かな人間性の養成				
国語(必修)	国語(必修)	国語(必修)	国語(必修) インターンシップ(選択)	半導体工学(選定) 確率・統計(必修) インターンシップ(選択) 科学技術英語(選択)
保健・体育(必修)	保健・体育(必修)	保健・体育(必修)	保健・体育(必修) ホリスティック健康学(選択)	保健・体育(必修)
	政治・経済(必修)		経済学(必修)	法学(選択)
芸術(必修)				哲学(選択) 倫理学(選択)
生物(選択)	生物(選択)			
(E)コミュニケーション能力の養成				
	国語(必修)	国語(必修)	国語(必修) 工学実験(必修)	卒業研究(必修)
英語(必修)	英語(必修)	英語(必修)	英語(必修)	英語特講(選択)

(出典 教務部内部資料)

資料5-1-①-17

電気情報工学科(情報コミュニケーションコースA群)の教育課程の科目系統図

電気情報工学科(情報コミュニケーションコースA群)科目系統図

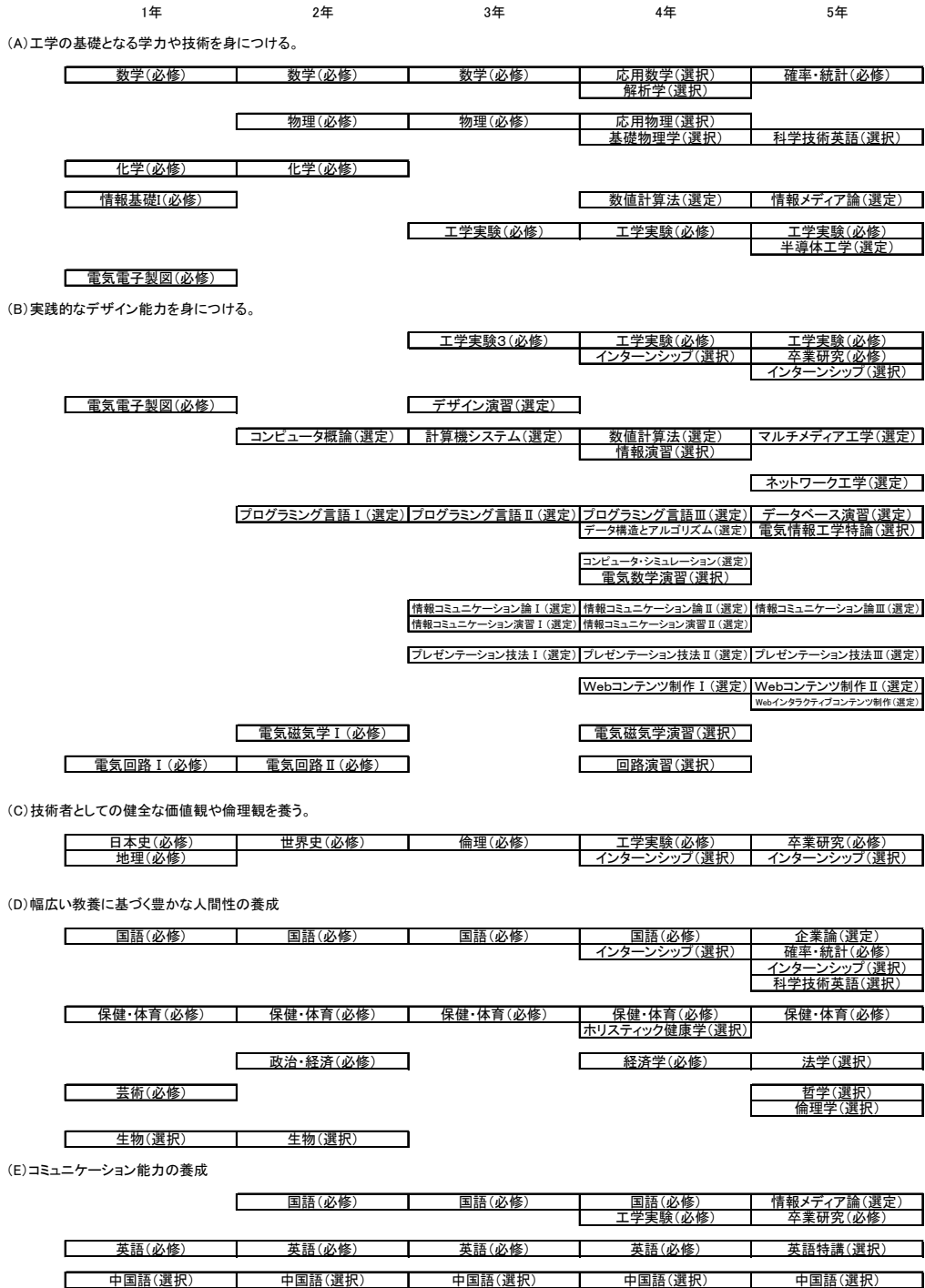


(出典 教務部内部資料)

資料 5-1-①-18

電気情報工学科 (情報コミュニケーションコース B 群) の教育課程の科目系統図

電気情報工学科 (情報コミュニケーションコース B 群) 科目系統図

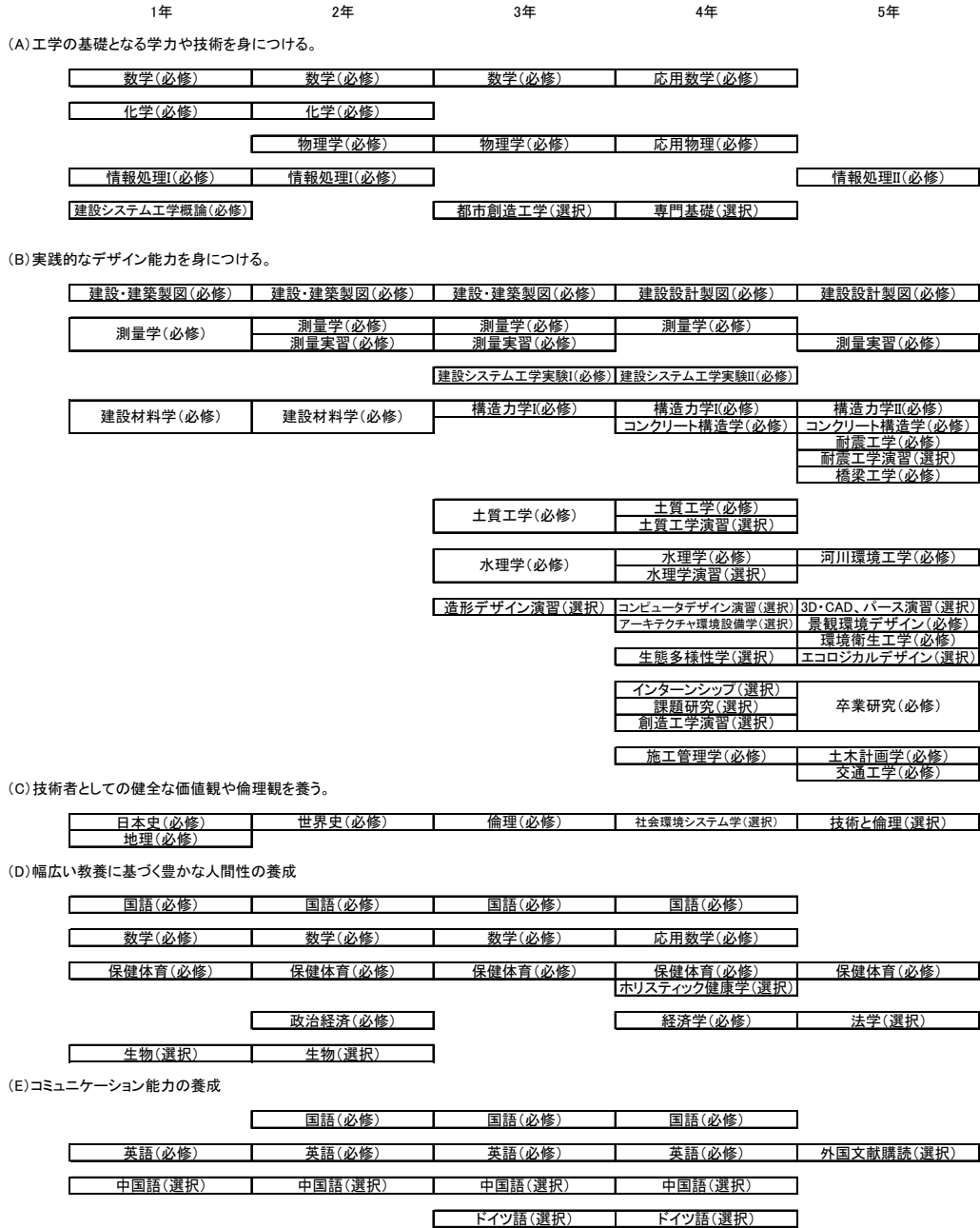


(出典 教務部内部資料)

資料5-1-①-19

建設システム工学科（都市環境コース）の教育課程の科目系統図

建設システム工学科（都市環境コース）科目系統図

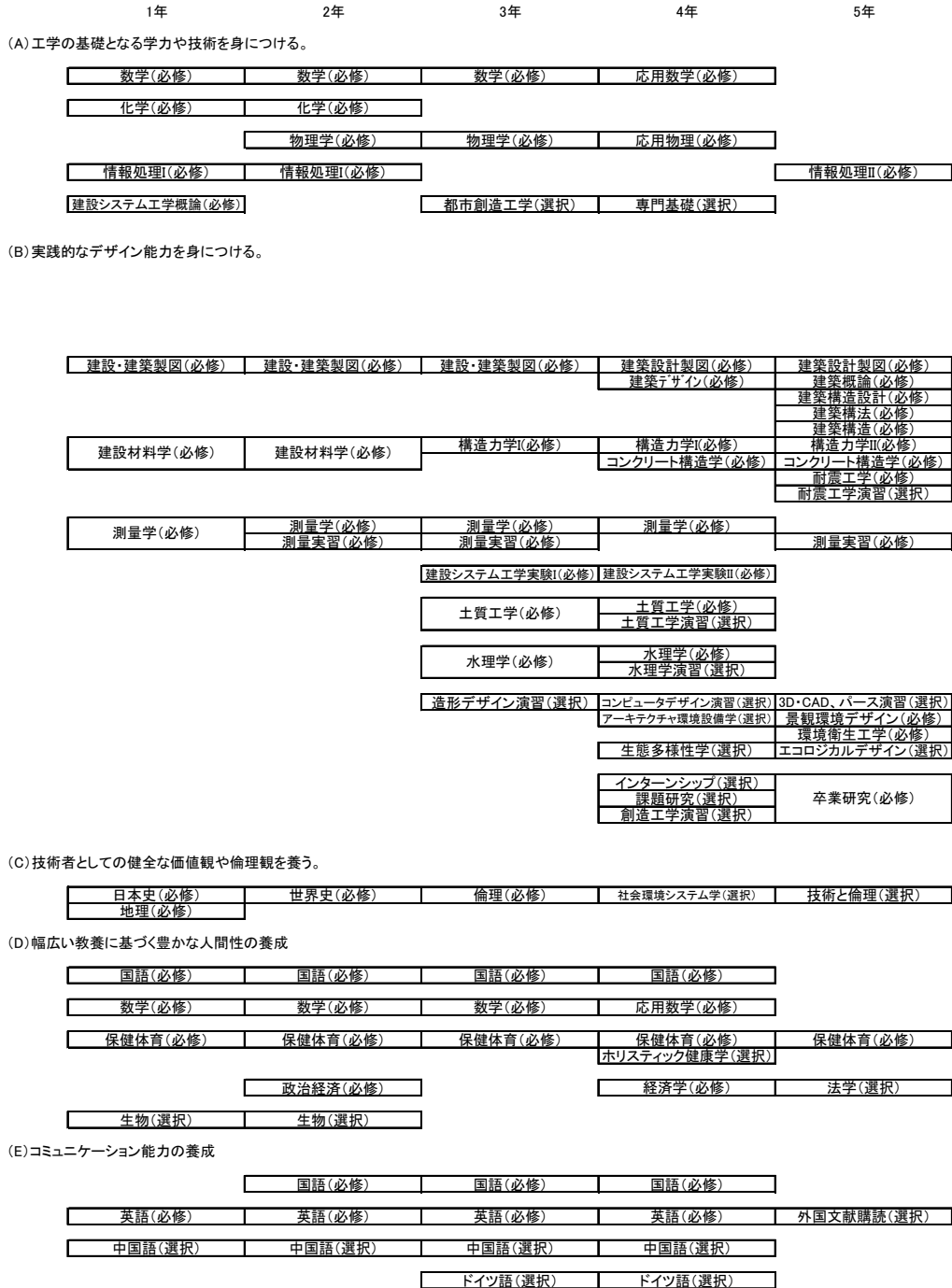


(出典 教務部内部資料)

資料 5-1-①-20

建設システム工学科（建築デザインコース）の教育課程の科目系統図

建設システム工学科（都市環境コース）科目系統図

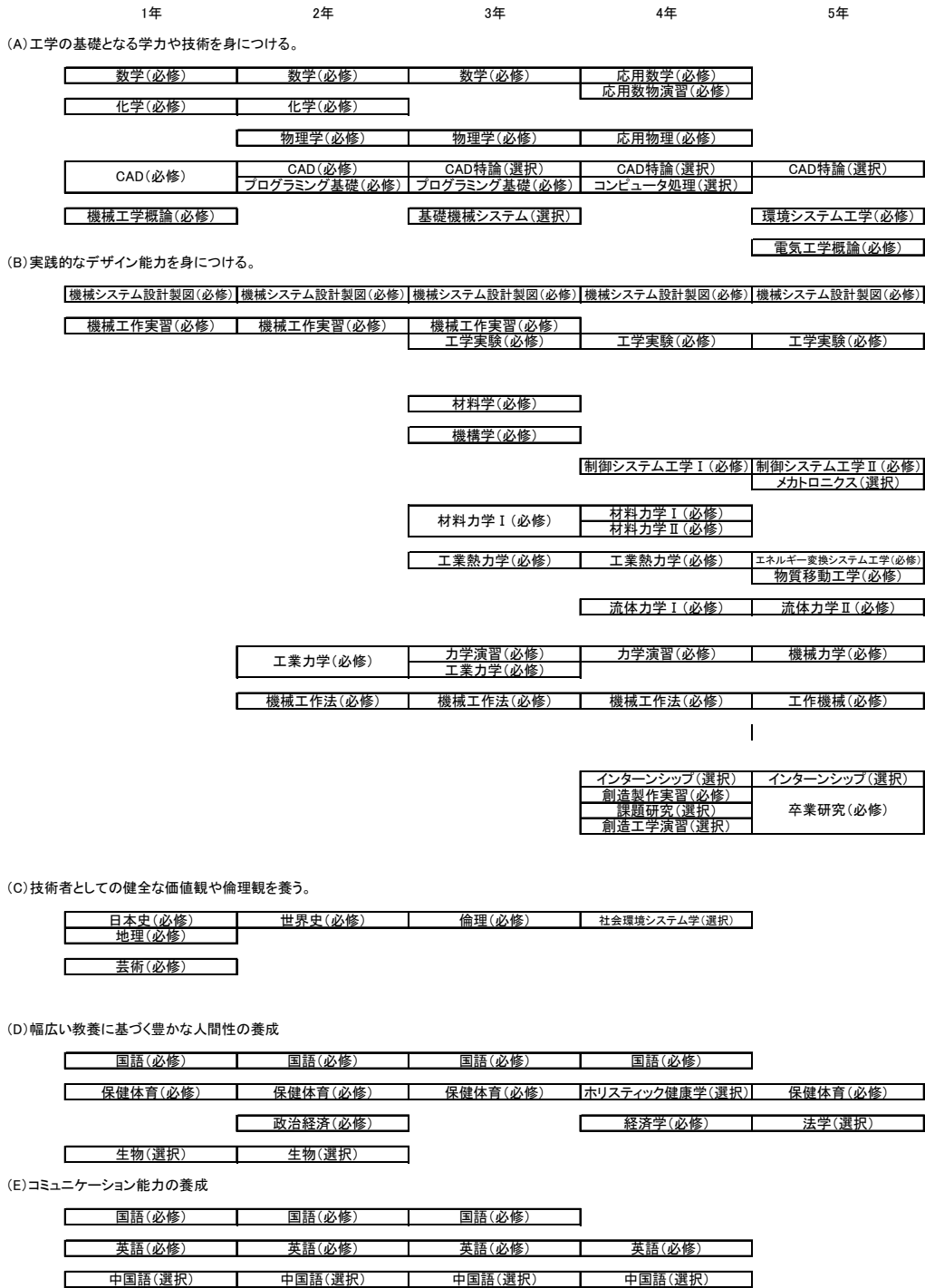


(出典 教務部内部資料)

資料5-1-①-21

総合システム工学科機械システムコースの教育課程の科目系統図

総合システム工学科機械システムコース科目系統図

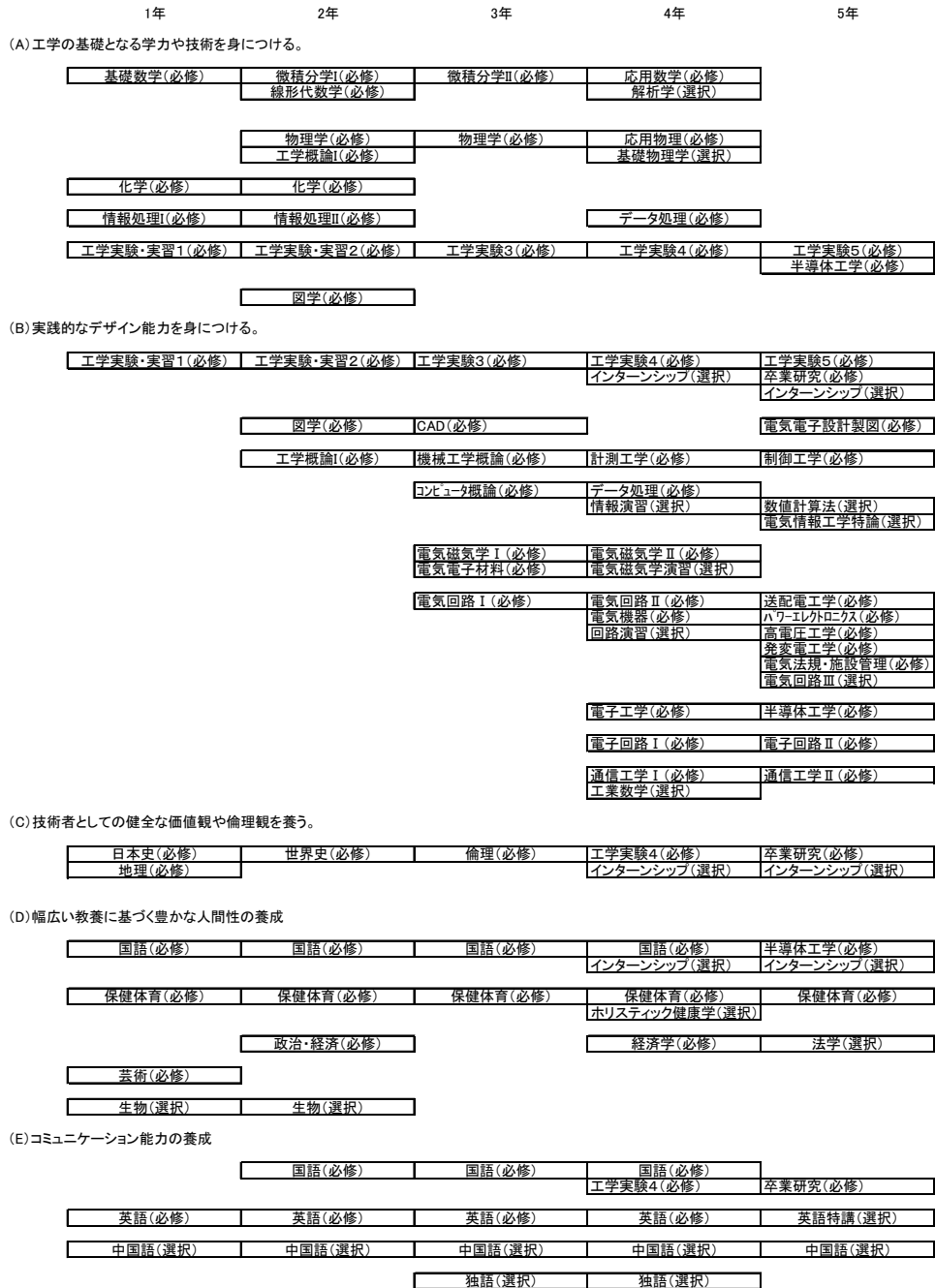


(出典 教務部内部資料)

資料5-1-①-22

総合システム工学科電気電子コースの教育課程の科目系統図

総合システム工学科(電気電子コース)科目系統図



(出典 教務部内部資料)



資料 5-1-①-23

総合システム工学科情報コミュニケーションコース A 群の教育課程の科目系統図

総合システム工学科(情報コミュニケーションコースA群)科目系統図

1年 2年 3年 4年 5年

(A)工学の基礎となる学力や技術を身につける。

基礎数学(必修)	微積分学I(必修) 線形代数学(必修)	微積分学II(必修)	工業数学(選択) 解析学(選択)	
	物理学(必修) 工学概論I(必修)	物理学(必修)	基礎物理学(選択)	
	図学(必修)			
化学(必修)	化学(必修)			
情報処理I(必修)	情報処理II(必修)	コンピュータシステム(必修)	数値計算法(必修)	言語理論とオートマトン(必修)
工学実験・実習1(必修)	工学実験・実習2(必修)	工学実験3(必修)	工学実験4(必修)	工学実験5(必修)

(B)実践的なデザイン能力を身につける。

工学実験・実習1(必修)	工学実験・実習2(必修)	工学実験3(必修)	工学実験4(必修) インターンシップ(選択)	工学実験5(必修) 卒業研究(必修) インターンシップ(選択)
	図学(必修)	CAD(必修)	工業数学(選択) 電気磁気学演習(選択)	
	工学概論I(必修)	電気電子計測(必修)	計測工学(必修)	制御工学(必修)
		コンピュータシステム(必修)	情報工学(必修) 数値計算法(必修) 情報演習(選択)	マルチメディア工学(必修) システムプログラム(必修) 言語理論とオートマトン(必修)
			通信工学(必修)	ネットワーク工学(必修)
		プログラミング言語I(選定)	プログラミング言語II(選定) プログラミング演習(選定)	プログラミング言語III(選定) ソフトウェア工学(選定) ソフトウェア演習(選定)
		情報数学(選定)	データ構造とアルゴリズム(選定)	
		電気回路I(必修)	電子回路I(必修) 回路演習(選択)	電子回路II(選択) 電気回路II(選択)

(C)技術者としての健全な価値観や倫理観を養う。

日本史(必修)	世界史(必修)	倫理(必修)	工学実験4(必修) インターンシップ(選択)	卒業研究(必修) インターンシップ(選択)
地理(必修)				

(D)幅広い教養に基づく豊かな人間性の養成

国語(必修)	国語(必修)	国語(必修)	国語(必修) インターンシップ(選択)	インターンシップ(選択) 言語理論とオートマトン(必修)
保健体育(必修)	保健体育(必修)	保健体育(必修)	保健体育(必修) ホリスティック健康学(選択)	保健体育(必修)
	政治・経済(必修)		経済学(必修)	法学(選択)
芸術(必修)				
生物(選択)	生物(選択)			

(E)コミュニケーション能力の養成

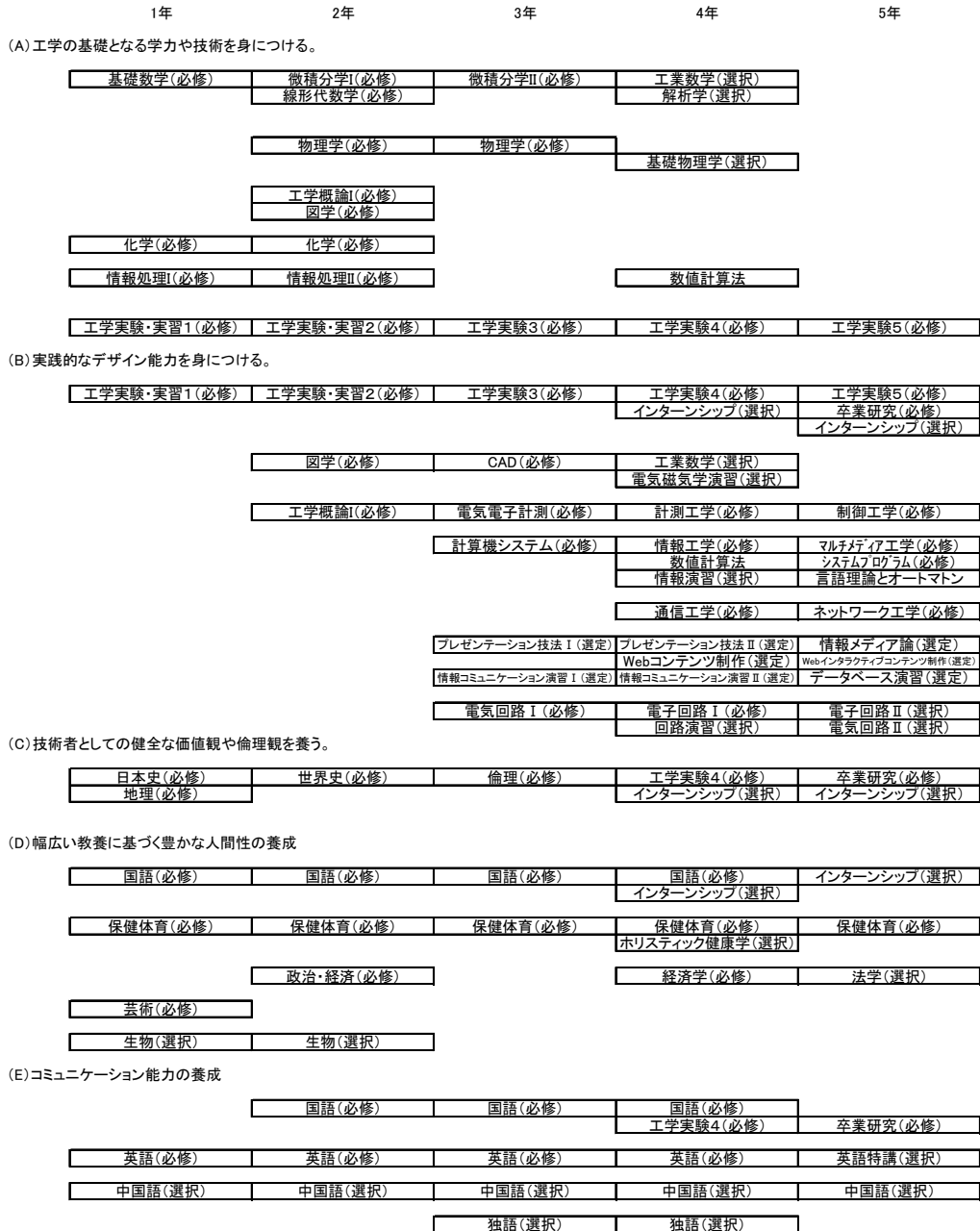
	国語(必修)	国語(必修)	国語(必修) 工学実験4(必修)	卒業研究(必修)
英語(必修)	英語(必修)	英語(必修)	英語(必修)	英語特講(選択)
中国語(選択)	中国語(選択)	中国語(選択)	中国語(選択)	中国語(選択)
		独語(選択)	独語(選択)	

(出典 教務部内部資料)

資料5-1-①-24

総合システム工学科情報コミュニケーションコースB群の教育課程の科目系統図

総合システム工学科(情報コミュニケーションコースB群)科目系統図

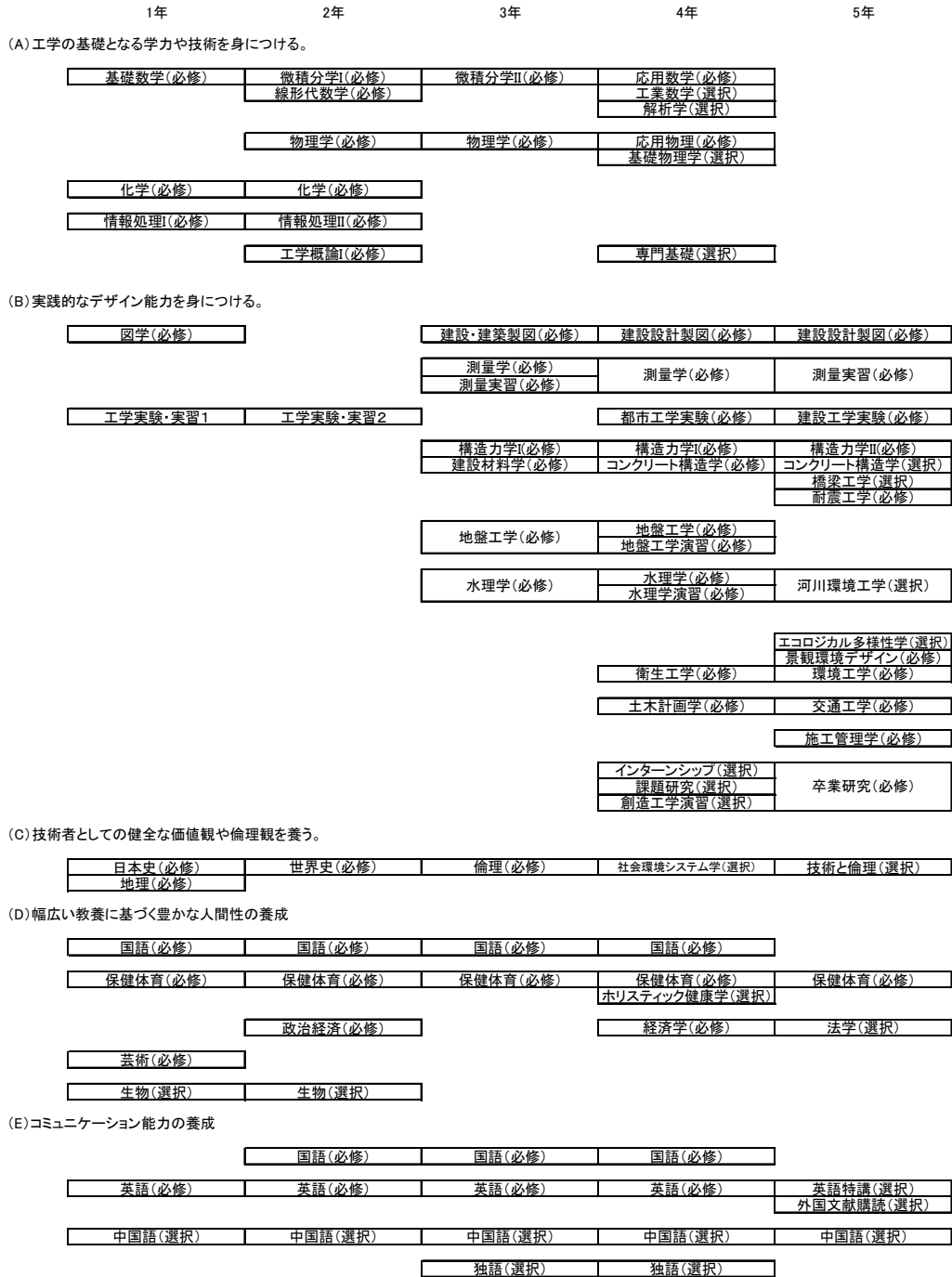


(出典 教務部内部資料)

資料5-1-①-25

総合システム工学科都市環境コースの教育課程の科目系統図

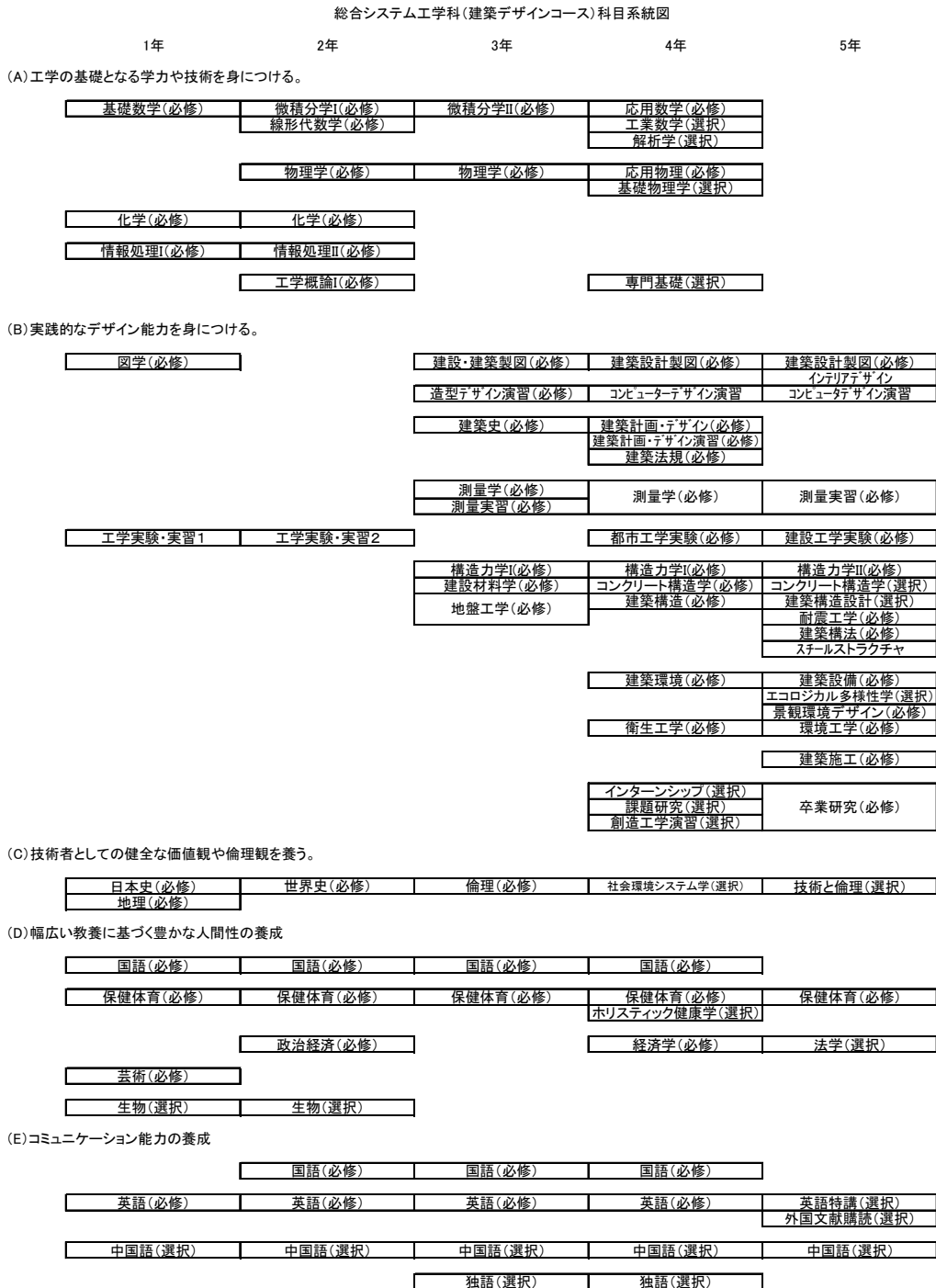
総合システム工学科(都市環境コース)科目系統図



(出典 教務部内部資料)

資料5-1-①-26

総合システム工学科建築デザインコースの教育課程の科目系統図



(出典 教務部内部資料)

本校は、「落ちこぼれを作らない」をモットーとし、学生へのきめ細かな教育・指導、学生1人ひとりの適性とニーズにあった教育を実施している。一般教養主要科目である英語・数学を中心に、各学生の学力の程度に合わせた習熟度別クラス編成はそのひとつである。平成18年度は、数学・化学・物理、英語・国語（1～3学年）、応用数学、英語（第4学年）で習熟度クラス編成（応用数学のみ

6クラス、他は5クラス)を実施しており、ホームルームや工学科とは異なるクラスで授業を実施している。各習熟度別クラスによって異なる達成度を設定しており、学習到達度の高いクラスではより深い内容の授業を、そうでないクラスではそのクラスに応じて基礎項目に重点をおいた授業を実施している。応用数学については編入生向けのクラスを2クラス設定して、未履修分野を補っている(資料5-1-①-27~28)。

資料5-1-①-27 応用数学のシラバス

科目名: 応用数学			
英文名: Applied Mathematics			
担当者: 向井康恩、乗本学、伊藤豊治、木瀬利和、山下秀夫、堀一詞			
工学科: 機械システム	学年: 4	コース:	開講期: 通年
科目種別: 必修	単位数: 4	習熟度別クラス編成	
授 業 計 画			
前 期		後 期	
第1週 偏微分 偏微分法(2変数関数、偏導関数)	第16週 試験返し・微分方程式 微分方程式と解(1階線形微分方程式)	第17週 微分方程式 2階微分方程式(線形微分方程式)	第18週 微分方程式 2階微分方程式(定数係数齊次線形微分方程式)
第2週 偏微分 偏微分法(接平面、合成関数の微分)	第19週 微分方程式 2階微分方程式(定数係数非齊次線形微分方程式)	第20週 微分方程式 2階微分方程式(いろいろな微分方程式、線形でない2階微分方程式)	第21週 ラプラス変換 定義と基本的性質(ラプラス変換の定義と例、基本的性質)
第3週 偏微分 偏微分法(高次偏導関数)	第22週 ラプラス変換 定義と基本的性質(たみこみ)	第23週 後期中間試験	第24週 試験返し・ラプラス変換 定義と基本的性質(ラプラス変換の表)
第4週 偏微分 偏微分法(多項式による近似、極大・極小)	第25週 ラプラス変換 定義と基本的性質(逆ラプラス変換)	第26週 フーリエ級数とフーリエ積分 周期 $2\pi$ フーリエ級数と一般の周期のフーリエ級数	第27週 フーリエ級数とフーリエ積分 フーリエ級数の収束、フーリエ変換とフーリエ積分定理
第5週 偏微分 偏微分法(陰関数の微分法、条件つき極値問題)	第28週 フーリエ級数とフーリエ積分 フーリエ変換の性質と公式、いろいろな応用	第29週 後期期末試験	第30週 試験返し
第6週 重積分 2重積分(2重積分の定義)			
第7週 重積分 2重積分(2重積分の計算)			
第8週 前期中間試験			
第9週 試験返し・重積分 変数の変換と重積分(座標軸の回転)			
第10週 重積分 変数の変換と重積分(極座標による2重積分)			
第11週 重積分 変数の変換と重積分(変数変換)			
第12週 重積分 変数の変換と重積分(広義積分、2重積分のいろいろな応用)			
第13週 微分方程式 微分方程式と解(微分方程式の意味、微分方程式の解)			
第14週 微分方程式 微分方程式と解(変数分離形、同次形)			
第15週 前期末試験			

■授業概要

第3学年まで学んだ1変数関数のうえでの極限・微分・積分の考え方を拡張した、多変数関数上での極限・微分・積分を学ぶ。また、工学では様々な形で現れる微分方程式の基本的な部分について解法を学ぶ。

■到達目標

偏微分法、重積分、微分方程式、ラプラス変換に関して

1. (A-G1)それぞれの語句の意味が理解できる。
  2. (A-G1)それぞれの基本的な計算ができる。
  3. (A-G1)それぞれの基礎的計算がほぼできる。
  4. (A-G1)それぞれの簡単な応用問題を解くことができる。
  5. (A-G1)それぞれの高度な応用問題を解くことができる。
- \*習熟度C、A2クラスは1~5、A1クラスは1~4、A3クラスは1~3、Bクラスは1~2を到達目標とする。

■授業の進め方

習熟度別授業を行う上において、各講座の進度を等しくするが、行われる内容の質等をに差を付ける。

■教科書・問題集

新訂 微分積分学2、新訂 応用数学 (大日本図書)、各担当者作成プリント

■関連科目

物理、各専門科目

■試験方法

種類: 定期試験(年4回)、方式: 記述式

■成績評価基準

定期試験と平常点(出席、レポート、ノート、授業中の態度)を総合して評価し、50点以上を合格とする。  
 Cクラス:定期試験90% 平常点10% A2クラス:定期試験80% 平常点20% A1クラス:定期試験70% 平常点30%  
 A3クラス:定期試験60% 平常点40% Bクラス:定期試験50% 平常点50%  
 80点以上「優」、60点以上~80点未満「良」、50点以上~60点未満「可」、50点未満「不可」  
 JABEE教育プログラムの単位認定基準は60点以上とする。

■教員所在場所

向井康恩、乗本学:本館2階 入試部 伊藤豊治:本館2階 教務部 木瀬利和、山下秀夫、堀一詞:本館3階 一般教養科

(出典 平成19年度シラバス)

資料5-1-①-28

応用数学のシラバス（編入生用）

科目名： 応用数学			
英文名： Applied Mathematics			
担当者： 乗本学、山下秀夫			
工学科： 機械システム	学年： 4	コース： 全(編入生)	開講期： 通年
科目種別： 必修	単位数： 4	習熟度別クラス編成(編入生)	
授 業 計 画			
前 期		後 期	
第1週 三角関数		第16週 試験返し・偏微分法	
第2週 三角関数		第17週 偏微分法	
第3週 三角関数		第18週 偏微分法	
第4週 三角関数・指数関数		第19週 偏微分法・重積分法	
第5週 指数関数		第20週 重積分法	
第6週 指数関数・対数関数		第21週 重積分法	
第7週 対数関数		第22週 重積分法	
第8週 前期中間試験		第23週 後期中間試験	
第9週 試験返し・微分法		第24週 試験返し・微分方程式 微分方程式と解(1階線形微分方程式)	
第10週 微分法		第25週 微分方程式	
第11週 微分法		第26週 微分方程式	
第12週 積分法		第27週 微分方程式	
第13週 積分法		第28週 微分方程式	
第14週 積分法		第29週 後期期末試験	
第15週 前期期末試験		第30週 試験返し	
<p><b>■授業概要</b>                      工業高校で未学習の部分であり、また、不十分である部分の三角関数・指数関数・対数関数から始め、微分積分法の基礎的考え方と計算手法を中心に学習する。また、1変数関数のうえでの極限・微分・積分の考え方を拡張した、多変数関数上での極限・微分・積分を学ぶ。また、工学では様々な形で現れる微分方程式の基本的な部分について解法を学ぶ。</p> <p><b>■到達目標</b>                      三角関数・指数関数・対数関数・微分法・積分法・偏微分法、重積分、微分方程式に関して                      1. 【A-1】(A-T1) それぞれの語句の意味が理解できる。                      2. 【A-1】(A-T1) それぞれの基礎的計算ができる。                      3. 【A-1】(A-T1) それぞれの応用計算を解くことができる。                      習熟度H1クラスは1～3、H2クラスは1～2を到達目標とする。</p> <p><b>■授業の進め方</b>                      習熟度別授業を行う上において、各講座の進度を等しくするが、行われる内容の質等に差を付ける。</p> <p><b>■教科書・問題集</b>                      新訂 基礎数学、新訂 微分積分学1、新訂 微分積分学2、新訂 応用数学（大日本図書）、各担当者作成プリント</p> <p><b>■関連科目</b>                      物理、各専門科目</p> <p><b>■試験方法</b>                      種類：定期試験(年4回)、方式：記述式</p> <p><b>■成績評価基準</b>                      定期試験と平常点(出席、レポート、ノート、授業中の態度)を総合して評価し、50点以上を合格とする。                      定期試験90% 平常点10%で評価する。                      80点以上「優」、60点以上～80点未満「良」、50点以上～60点未満「可」、50点未満「不可」                      JABEE教育プログラムの単位認定基準は60点以上とする。</p> <p><b>■教員所在場所</b>                      乗本学：本館2階 入試部 山下秀夫：本館3階 一般教養科</p>			

(出典 平成19年度シラバス)

このクラス編成は、定期試験・実力試験と学生の希望を考慮して決定されるが、年4回の定期試験ごとにクラス編成を見直し努力次第で上級クラスへ移動できる。この習熟度別クラス編成はホームルームよりも多いクラス数にわたることで少人数授業を実施している。習熟度クラス授業の評価を行うためにアンケートを実施した結果を(資料5-2-①-29)に示す。習熟度授業の実施やクラス分けにおいて大きな不満は見られない。習熟度授業がよい理由としては、「レベルにあっているのだから」

りやすい」という意見が多い。一方、よくない理由としては、成績の付け方や担当教員、クラスの雰囲気などクラスによる学習環境の差に対する不満など多岐にわたる。クラスの分け方で「分け方の基準がわからない」、「自分のレベルが他の学生に知れてしまう」などの意見があった。自由意見では前出と重複する意見が多かったが、テストの難易度の設定や成績の付け方、担当教員の決め方などに対する不満が若干挙げられていた。教員の側からは、学力差の大きい本校にありながら学生のレベルにあったきめ細かな授業ができるという意見が挙げられている。

資料5-1-①-29

習熟度に関するアンケート（学生用）

C1 【1～4年生】習熟度別授業について質問します。

習熟度別授業はよい方法だと思いますか？

- ①よい ②よくない ③どちらでもない

C2 【1～4年生】習熟度クラスの分け方に満足していますか？

- ①満足している ②満足していない ③どちらでもない

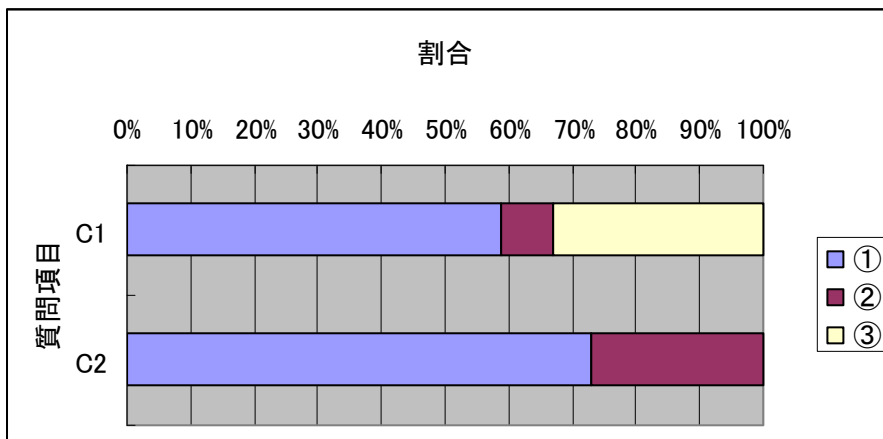
C3 【1～4年生】習熟度別授業がよい理由を書いてください。

C4 【1～4年生】習熟度別授業がよくない理由を書いてください。

C5 【1～4年生】習熟度クラスの分け方に問題があれば書いてください。

C6 【1～4年生】習熟度別授業全般について、意見があれば自由に書いてください。

習熟度に関するアンケート結果



(出典：平成18年度教務部アンケート結果報告書)

(分析結果とその根拠理由) 教育課程の目指す教育目標に沿って一般科目および専門科目が系統的に組まれている。第1・2学年では、一般基礎科目を中心とする科目編成がされており、専門科目の授業に必要な基礎知識を身に付け、その内容を基礎として第3学年以降の専門科目が学習できるように構成されている。数学・英語を中心に習熟度別授業を行うことによって、各学生はそれぞれの学習到達度に応じた授業を受けることができる。よって、各学生は無理なく技術者としての基礎技術を学び、各自が落ちこぼれることなく成長でき自信を持つことにつながっている。

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）学生のニーズや社会的背景から情報系、建築系コースの設置が望まれた。当初は従来の三工学科内に当該科目を配置することで対処してきたが、総合システム工学科への移行を機に情報コミュニケーションコース、建築デザインコースを設置した。これによって科目構成の自由度が高まりより専門的なことが学べる教育課程が編成できた。

多様化する工学教育や補習授業、資格取得への意欲に応える形で、それまで休日だった土曜日を平成17年度より選択学習日とする学則変更を行ない、各種補講および選択科目授業を開講した（資料5-1-②-1）。この中で、初級シスアド講座、C言語は現在、情報コミュニケーション論、プログラミング言語として通常科目として開講されるようになり、発展的解消された。学生アンケートでは、今後開講を望む科目として上記以外にも語学（英語、ドイツ語、フランス語）、情報処理などがあり、今後も可能な範囲でこれらの要望に応じて行く予定である。

資料5-1-②-1

土曜日開講講座についてのお知らせ

学生各位  
平成 17 年 4 月 15 日  
近畿大学高専教務部

土曜日開講講座についてのお知らせ

本年度より、以下の講座が土曜日に開講致します。受講を希望する学生は別紙に受講する講座名を記入して下さい。

機械システム工学科

講座名	担当教員	期間	内容
NC プログラミング (4,5 学年)	中村, 中井	4 月から前期期末まで	基礎的な NC 言語の修得を目的としています。修了者に機械科の NC 旋盤使用許可を与えます。
機械設計技術者 3 級講座 (5 学年)	機械教員 全員	4 月から後期中間まで	12 月実施の「機械設計技術者 3 級」試験合格を目指した講座です。

電気情報工学科

講座名	担当教員	期間	内容
進路セミナー (4 年)	嶋野彰夫	4 月から後期中間まで	4 年生後半から始まる就職活動に向け、会社とは何か、履歴書の書き方、面接の注意点を指導する講座です。
無線技師養成講座 (3,4,5 年)	中西弘一	9 月～2 月末	無線技師資格取得を目標に、試験に必要な技術的な知識、法律等を指導する講座です。
初級シスアド受験講座 (1～5 年)	福嶋, 内田, 村松, 神田, 政清, 本田	通年 (変更可能性有)	初級シスアド資格取得を目指し、受験に際し必要な知識等を指導し、過去出題された問題を解答しながら試験対策を行う講座です。
第二種電気工事士受験講座 (1～5 年)	岸, 園井	4 月から前期中間まで	6 月から 7 月にかけて実施される「第二種電気工事士」に向けて試験対策を行う講座です。
C 言語 (5 年, 4 年編入生)	福嶋, 内田, 神田	通年 (変更可能性有)	卒研等で必要な C 言語プログラミング技術の習得を目指した講座です。

建設システム工学科

講座名	担当教員	期間	内容
土木施工技術者受験講座 (5 年生)	中西, (和田, 中平)	後期開始から後期中間まで	12/20 前後に実施される「土木施工技術者試験」合格を目指した講座です。
2 級建築士受験講座 (卒業後, 受験資格有)	青木 (五十石, 松岡)	前期中間終了～後期中間まで	卒業後に受験資格が得られる「2 級建築士試験」に向け、受験対策を行う講座です。

国語科

講座名	担当教員	期間	内容
現代文・小論文講座 (3 年生)	村田, 園田	通年	読解力、論文構築力を養い、実社会で十分役立てられるようになることを目指した講座です。
古文・漢文講座 (3 年生)	大内, 園田	通年	古文、漢文についての基礎を固め、問題を解くことにより、読解力を養うことを目指した講座です。

英語科

講座名	担当教員	期間	内容
英検リスニング & 面接試験対策講座 (全学年)	上田, サイモン	リスニング対策: 5/14, 5/21, 5/28 面接対策: 6/18, 6/25, 7/2 リスニング対策: 9/10, 10/1, 10/8 面接対策: 10/22, 10/29, 11/12 リスニング対策: 11/19, 11/26, 12/3 面接対策: 1/14, 1/21, 2/4	英検合格を目指し、リスニング、面接に重きを置いた講座です。
基礎科学講義 CD (英) 鑑賞	野木	1 月～後期期末まで	科学英語のリスニング能力を養うことを目標とした講座です。
進学補講 (5 年生)	竹内	4 月から 7 月 (平日)	大学編入生を目指した受験対策講座です。

(出典：平成 17 年度学生配布資料)

(分析結果とその根拠理由) 学生の多様なニーズを満足させる教育課程の編成がなされている。総合システム工学科への移行により、情報系、建築系のコースが設置されカリキュラムの自由度が高まった。従来休日であった土曜日を選択学習日とし、各種選択科目および補講講座を開講して希望学生に無料で受講できる教育サービスを提供している。

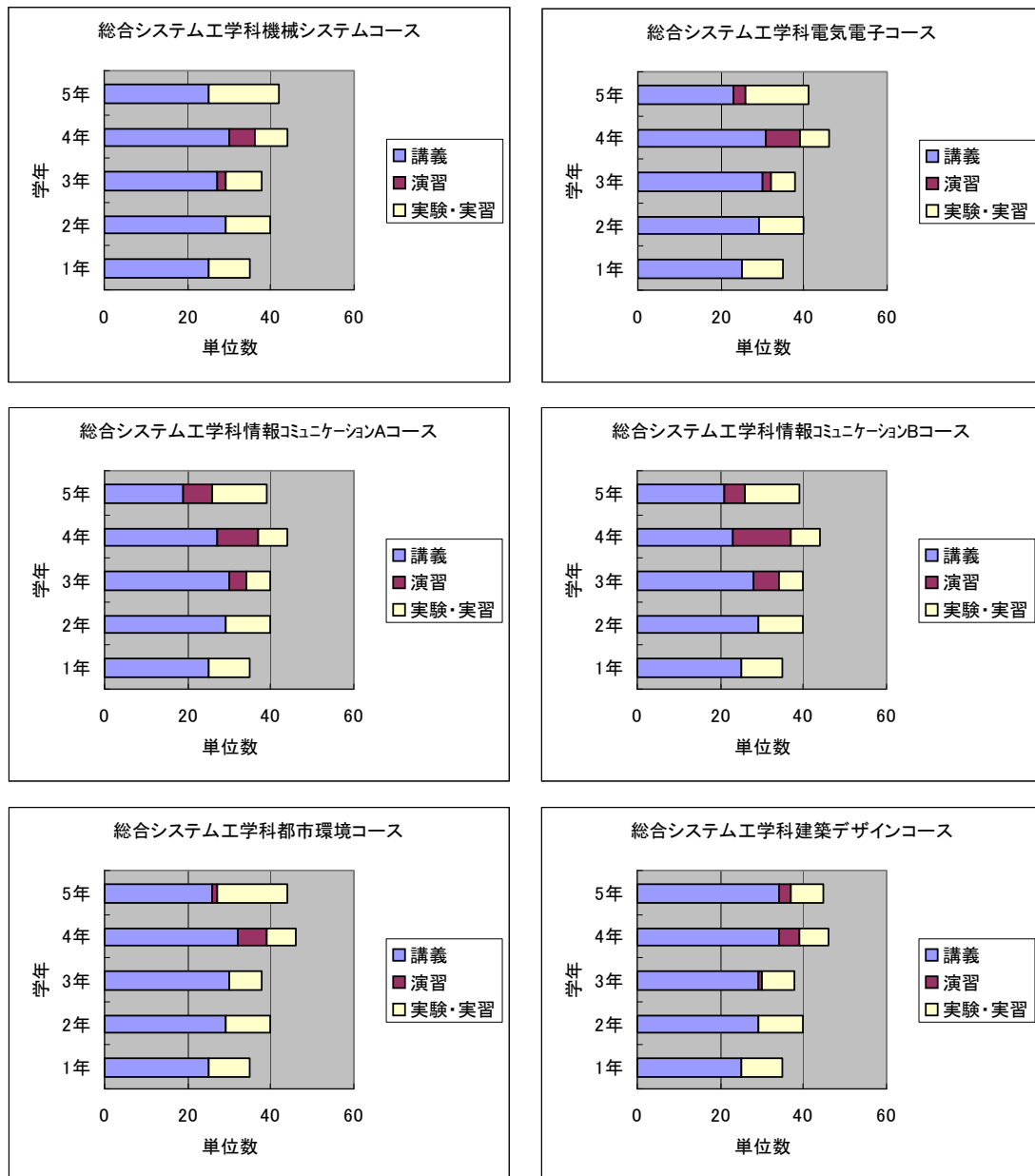


観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況） 本校は「社会に貢献するための広い視野からもの創りを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者」の育成を目指している。この目標の達成を目指して、低学年では講義と基礎的な実験・実習を、高学年では専門の知識を実践するための実験・実習、演習が多く配置されている（資料5-2-①-1）。

資料5-2-①-1

準学士課程における講義、演習、実験・実習の割合



（出典：教務部内部資料）

工学全般において情報教育の重要性が認識されている。本校の情報処理教育センターには、プログラミングやOSの教育を主としたCAE教室、情報リテラシー教育を主としてCAI教室、設計・製図の教育を主としたCAD教室、講演や発表、AV機器を利用した教育を主としたマルチメディア教室がある。これらの教室は多くの授業で使用されている（資料5-2-①-2）とともに、CAE教室は空き時間には学生の自習の場として開放している。希望者に対してノートパソコンを無償貸与し、キャンパス・アグリメントによるソフトウェアの共有利用を行っている。このノートパソコンは授業、実験や卒業研究など広く使用されている。校内には無線LANのアクセスポイントが多数設置されており、インターネットの活用にも不自由しない環境にある。このことにより、学生の情報処理機器の利用機会が増え、学習効率も向上している。

資料5-2-①-2

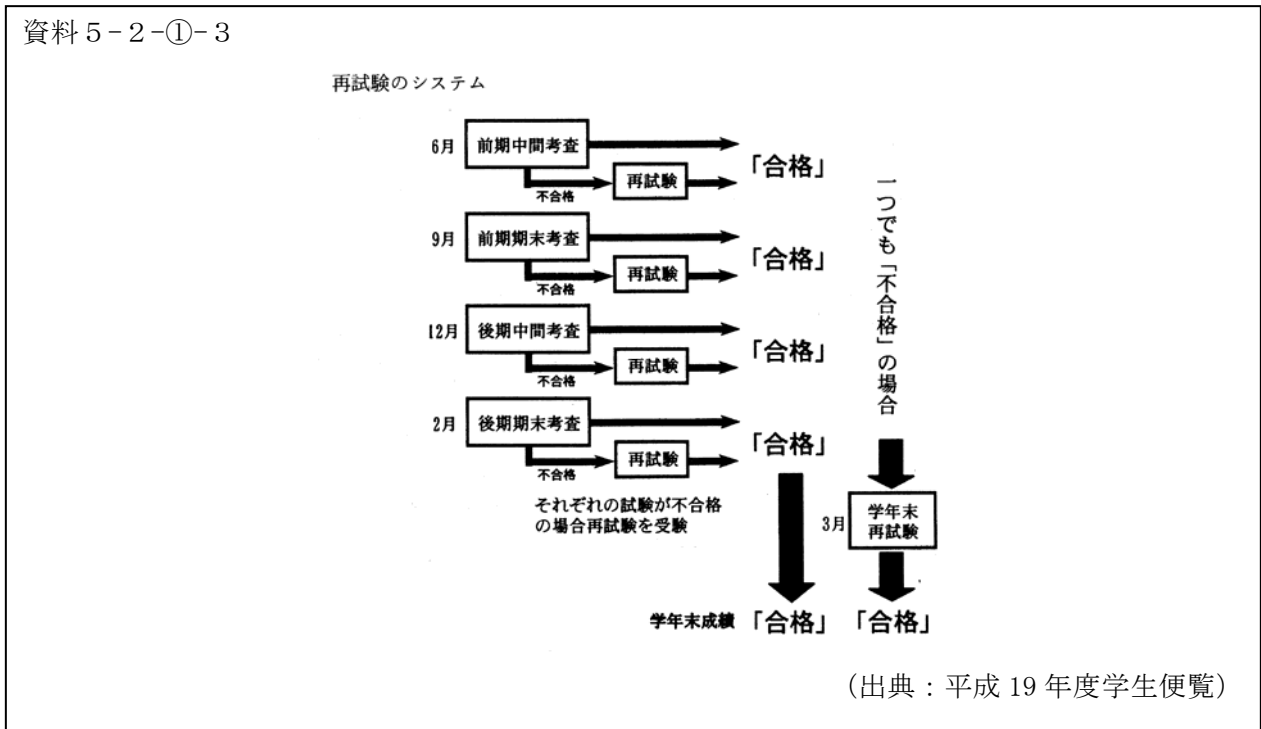
平成18年度情報センターで実施された授業

教室	学年	工学科	科目名	担当教員
CAI	1	G	情報処理	内田(美)、松岡、倉本
CAI	2	G	情報処理	内田(美)、山川、汐崎
MM	2	G	工学概論	西
CAI	2	G	工学概論	福嶋
CAD	3	EB	プログラミング言語2	神田
CAD	3	M	プログラミング基礎	福田
CAI	3	MA	工学実験	熊埜御堂、山川
CAD	3	EB	情報コミュニケーション演習I	村松、片岡
CAE	3	EB	プレゼンテーション技法I	汐崎
CAD	3	M	CAD特別講座	福田
CAE	3	EB	デザイン演習	近藤
CAD	3	EA	電子機器	福嶋
MM	4	EB	プログラミング言語3	内田
CAE	4	EA	データ処理	村松
MM	4	MEC	英語	サイモン
MM	4	MEC	ホリスティック健康学	中川
CAD	4	EA	データ処理	村松、片岡
MM	4	EB	コンピュータシミュレーション	西
CAE	4	EB	Webコンテンツ作成	近藤
CAD	4	EB	情報コミュニケーション演習II	久保
CAE	4	EB	プレゼンテーション技法II	汐崎
MM	5	MEC	英語特講	サイモン
CAE/MM	5	EB	ソフトウェア演習	政清、内田
CAD	5	EB	確率・統計	福嶋、内田
CAE	5	C	情報処理	倉本、松岡
CAD	5	EB	制御工学	中西(弘)
MM	1~5	MEC	中国語	酒井

(出典：教務部内部資料)

基礎学力が不足した学生の教育対策として、習熟度別クラス編成、専門基礎、電気磁気学演習などの編入生向け授業、再試システムがある。従来、年間の成績のみで合否を判定していたが、初期の段階で授業についてゆけなくなった場合に挽回が困難である。そこで、定期試験毎に不合格科目に対して、補講、再試を行って合格することを必須条件とし、おちこぼれを防いでいる（資料5-2-①-3）。

資料 5-2-①-3



(分析結果とその根拠理由) 実学を重視する近畿大学学園の建学の精神に則り、実験や実習の比率の高い授業構成となっている。情報処理教育センターの整備及び運用状況、全学生に対するノートパソコンの無償貸与は、学生の授業等の理解を助け、また学習意欲を高めることにつながっている。習熟度別クラス編成や再試験システムは落ちこぼれを防いでいる。

**観点 5-2-②：** 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況) シラバスには資料 5-2-②-1～3 に示すように、授業を受けるための基本的事項が詳細に記述され、各授業の初回に学生に配布・説明するとともに、本校ホームページ上に公開されている。到達目標は学校の目的（卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力）との関係が明確に示されている。

資料 5-2-②-1

シラバスの例 (習熟度別クラス科目)

科目名: 英語			
英文名: English			
担当者: 竹内春樹、上田透、サイモン・ハンフリーズ、長嶋かづみ、西村道登、中橋修			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 通年
科目種別: 必修	単位数: 6	習熟度別クラス編成	
授 業 計 画			
前 期		後 期	
第 1週 Lesson 1 Only One Flower in the World O.C.Simon's self introduction		第16週 試験返し・Lesson 5 Frogs Are Disappearing O.C.Lesson 4 The Field Day Is a Big Day	
第 2週 Lesson 1 Only One Flower in the World O.C.Students' questions to Simon		第17週 Lesson 5 Is Another Ice Age Coming? O.C.Lesson 4 The Field Day Is a Big Day	
第 3週 Lesson 1 Only One Flower in the world O.C.Students' self-introduction prep.		第18週 Lesson 6 Queen of Subtitle Translation O.C.Lesson 5 A Typhoon Is Approaching	
第 4週 Lesson 2 Can Robots Beat Human Players? O.C.Speech Test: Students' self-introduction		第19週 Lesson 6 Queen of Subtitle Translation O.C.Lesson 5 A Typhoon Is Approaching	
第 5週 Lesson 2 Can Robots Beat Human Players? O.C.Speech Test: Students' self-introduction		第20週 Lesson 6 Queen of Subtitle Translation O.C.Lesson 6 How Do You Like My Sweater?	
第 6週 Lesson 2 Can Robots Beat Human Players? O.C.Lesson 1 Hi, Judy		第21週 Lesson 7 African Eve :Mother of Human Beings O.C.Test: Culture Festival	
第 7週 Lesson 3 Puzzling Proverbs O.C.Lesson 1 Hi, Judy		第22週 Lesson 7 African Eve :Mother of Human Beings O.C.Test: Culture Festival	
第 8週 前期中間試験		第23週 後期中間試験	
第 9週 試験返し・Lesson 3 Puzzling Proverbs O.C.Lesson 2 Do you like English?		第24週 試験返し・Lesson 7 African Eve :Mother of Human Beings O.C.Lesson 6 Do You Like My Sweater?	
第10週 Lesson 3 Puzzling Proverbs O.C.Lesson 2 Do you like English?		第25週 Lesson 8 Everybody Is Different O.C.Lesson 7 Let's Go Bird-watching	
第11週 Lesson 4 Godzilla in the U.S. O.C.Lesson 3 What club are you going to join?		第26週 Lesson 8 Everybody Is Different O.C.Lesson 7 Let's Go Bird-watching	
第12週 Lesson 4 Godzilla in the U.S. O.C.Lesson 3 What club are you going to join?		第27週 Lesson 8 Everybody Is Different O.C.Lesson 8 What a Surprise	
第13週 Lesson 4 Godzilla in the U.S. O.C.Speech Test: Summer Vacation		第28週 Lesson 9 Organ Transplants O.C.Lesson 8 What a Surprise	
第14週 Lesson 5 Is Another Ice Age Coming? O.C.Speech Test: Summer Vacation		第29週 後期末試験	
第15週 前期末試験		第30週 試験返し	
<p>■ 授業概要</p> <p>習熟度別クラス編成を行う。英語コミュニケーションの基礎作りを行う。英文読解を中心とするが、ライティング、スピーキング、リスニングの活動も同時に行う。</p> <p>■ 到達目標</p> <p>1.(E-G2)英語への関心を持つ。 2.(E-G2)教科書に出てきた単語の意味が理解できる。 3.(E-G2)教科書の本文の意味が理解できる。 4.(E-G2)英文法の基礎的知識を習得する。 ただし習熟度C、A2クラス(1~4)、A1、A3、Bクラス(1~3)を到達目標とする。</p> <p>■ 授業の進め方</p> <p>教科書に沿った、授業展開を行う。予習として、本文をノートに写して頂くこと、また単語の意味を調べて頂くこと、また本文の意味を大まかに理解しておくこと。授業では、予習で不明だった点を特に注意して聞くこと、積極的な発言が望ましい。復習では、教科書を何回も声を出して読むこと。また単語を覚えるように。</p> <p>■ 教科書</p> <p>Vivid English Course 1 (第一学習社)、Open Door to Oral Communication (文英堂)、Learners' English Grammar in 38 Stages (教研出版)</p> <p>■ 参考書</p> <p>■ 関連科目</p> <p>■ 試験方法</p> <p>種類: 定期試験(年4回)、方式: 記述式と選択式</p> <p>■ 成績評価基準</p> <p>学年共通テスト30点、オーラルコミュニケーションのテスト20点、習熟度別クラステスト50点の100点満点。 80点以上「優」、60点以上~80点未満「良」、50点以上~60点未満「可」、50点未満「不可」</p> <p>■ 教員所在場所</p> <p>竹内春樹:本館3階 一般教養科 上田透:本館1階 学生部 サイモン・ハンフリーズ:本館1階 国際交流部 長嶋かづみ、西村道登:本館3階 一般教養科 中橋修:本館1階 コミュニケーションセンター</p>			

(出典:平成19年度シラバス)

資料5-2-②-2

シラバスの例（工学科、講義科目）

科目名：材料力学 I			
英文名：Strength of Materials I			
担当者：奥田昇也			
工学科：機械システム	学年：4	コース：全	開講期：通年
科目種別：必修	単位数：2		
授 業 計 画			
前 期		後 期	
第1週 断面1次モーメント及び断面2次モーメント		第16週 試験返し、はりのたわみ	
第2週 演習		第17週 演習	
第3週 演習		第18週 演習	
第4週 モール円と組合わせ応力		第19週 演習	
第5週 演習		第20週 演習	
第6週 演習		第21週 演習	
第7週 演習		第22週 演習	
第8週 前期中間試験		第23週 後期中間試験	
第9週 試験返し、はりのせん断力図と曲げモーメント図		第24週 試験返し、固定はり	
第10週 演習		第25週 演習	
第11週 はりの曲げ応力		第26週 演習	
第12週 演習		第27週 演習	
第13週 演習		第28週 演習	
第14週 演習		第29週 後期期末試験	
第15週 前期期末試験		第30週 試験返し	
<p>■授業概要 強度設計の基礎的工学を学ぶ。</p> <p>■到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>【B-1】(B-T1) せん断力線図、モーメント線図、断面1次・2次モーメント、組合せ応力を理解する。</li> <li>【B-1】(B-T1) はりの曲げ応力を理解する。</li> <li>【B-1】(B-T1) はりのたわみ、たわみ角の算出方法を理解する。</li> <li>【B-1】(B-T1) 不静定問題の解法を理解する。</li> </ol> <p>■授業の進め方 講義と並行して演習問題を解くことにより一層の理解を深め、授業目標の達成を図る。</p> <p>■教科書 材料力学 I (渥美光、他2名、森北出版)</p> <p>■参考書 「要点がわかる材料力学」 村瀬勝彦、他2名、コロナ社 ¥2,200+税 (2003)</p> <p>■関連科目 力学演習、数学</p> <p>■試験方法 種類：定期試験(年4回)、方式：記述式</p> <p>■成績評価基準 定期試験(80%)、宿題・出席等(20%)で評価する。 80点以上「優」、60点以上～80点未満「良」、50点以上～60点未満「可」、50点未満「不可」 JABEE教育プログラムの単位認定基準は60点以上とする。</p> <p>■教員所在場所 機械システム工学科実験棟 教員室</p>			

(出典：平成19年度シラバス)

資料 5-2-②-3

シラバスの例 (工学科、実習科目)

科目名: 工学実験			
英文名: Experiments of Electrical and Information Engineering			
担当者: 嶋野彰夫、村松一弘、岸純男、仲森昌也			
工学科: 電気情報	学年: 5	コース: 全	開講期: 通年
科目種別: 必修	単位数: 6		
授 業 計 画			
<p>第1週 ガイダンス 第2週以降下記のように小グループに分けて、ローテーションで実験を行っていく。                  【12週=第1回~12回 実験 4週=実験グループが変更になるとき実験説明・予備実験日、レポート指導日】を設ける。                  8週=レポート指導・試問日 5週=レポート指導・再実験日 計30週                  実験テーマ&lt;(1~8は、共通)&gt;                  1.「エミッタ接地増幅回路の周波数特性」 2.「パルス回路の実験」                  3.「動力計による三相誘導電動機の特性」 4.「直流電動機の特性試験」                  5.「PICによるLED点灯回路の製作とその外部割込み実験(その1)」 6.「〃(その2)」                  7.「スペクトラムアナライザによる各種波形の測定とフィルタ回路の製作・特性測定」 8.「電子回路のシミュレーションと製作・特性測定」                  &lt;&lt;9e~12eは、電気電子コース選択の履修者のみ&gt;&gt;                  9e.「FETの特性測定」                  10e.「数値計算応用(フーリエ級数による繰り返し波形の合成)」                  11e.「直流発電機の特性試験」                  12e.「三相同期発電機の特性試験」                  &lt;&lt;9i~12iは、情報コミュニケーションコースA選択の履修者のみ&gt;&gt;                  9i.「プログラミング言語“MATX”による行列計算とグラフィックス」                  10i.「プログラミング言語“MATX”による制御系のシミュレーション」                  11i.「FPGAボードによる論理回路の設計と実験」                  12i.「ネットワークとwebサーバ構築実験」                  &lt;&lt;9b~12bは、情報コミュニケーションコースB選択の履修者のみ&gt;&gt;                  9b.「webページ制作」                  10b.「制作したwebページの解説プレゼンテーションの制作」                  11b.「Javascriptを含むwebページ制作」                  12b.「制作したwebページの解説プレゼンテーションの制作」                  13.「学会主催の学生向け講演会の聴講レポート」</p>			
<p><b>■ 授業概要</b>                  技術者をめざす高専の学生を対象に、1年間に12テーマの実験を行う。実験日前に予習レポートを作成し、学生が主体となって実験装置を選択し、実験を行い、実験結果をレポートにまとめ、結果に対する検討を行って、提出する。提出されたレポートに対して、試問またはプレゼンテーションを行い成果報告とする。</p> <p><b>■ 到達目標</b>                  【B-1】(B-T1)ハードウェア/ソフトウェアの両面から実験によって体得することで、講義で習ったことの理解を深める。                  【B-2】(B-T2)実践的な問題に対して解決に至るまでの応用力を養う。                  【A-2】(A-T2)コンピュータを活用して実験データの集計・分析や報告書作成ができる。</p> <p><b>■ 授業の進め方</b>                  履修者を8班に分け、12テーマをローテーションさせて実験を進める。実験日までに予習レポートを提出させる。実験を行ってから、5日以内にレポートを完成させて提出させる。レポート指導・試問日を適時設ける。</p> <p><b>■ 教科書</b>                  各担当者が作成したオリジナル資料</p> <p><b>■ 参考書</b>                  強電流実験工学(国民科学社)</p> <p><b>■ 関連科目</b>                  物理、数学、電気回路、情報処理、電子回路</p> <p><b>■ 試験方法</b>                  実験レポートや実験の際に制作した作品をもって評価し、ペーパーテストは実施しない。</p> <p><b>■ 成績評価基準</b>                  各自が実験のレポートを提出しなければならない。理由なく提出期日に遅れたり欠席すると減点となる。実験中の態度(15%)、実験レポート(60%)、出席状況(5%)、試問・発表(20%)により評価し、50点以上を合格とする。80点以上「優」、60点以上~80点未満「良」、50点以上~60点未満「可」である。                  JABEE教育プログラムの単位認定基準は60点以上とする。</p> <p><b>■ 教員所在場所</b>                  嶋野彰夫:本館2階 教務部 村松一弘、仲森昌也:情報処理教育センター 管理室 岸純男:本館1階 寮務部</p>			

(出典:平成19年度シラバス)

シラバスの活用状況についてのアンケート結果を(資料5-2-②-4)に示す。シラバスを活用したという回答は13%強と低迷している。その主な理由は、「シラバスの役立て方がわからない」、「シラバスの存在を知らない」である。シラバスという名前が浸透していないことや、授業担

当者が利用方法にまで説明していないことが原因であろう。平成 19 年度からは学校の目標とリンクした到達目標を簡潔に定めたため、利用が促されるものと考えられる。

資料 5-2-②-4

シラバスの活用状況に関するアンケート（学生用）

B1 【全員】シラバスの活用について質問します。

あなたはシラバスを活用しましたか？  
①活用した ②活用していない

B2 【全員】シラバスで利用した項目を選んでください(複数選択可)

①授業概要 ②到達目標 ③授業の進め方 ④授業計画 ⑤教科書・参考書  
⑥関連科目 ⑦試験方法 ⑧成績評価基準 ⑨その他

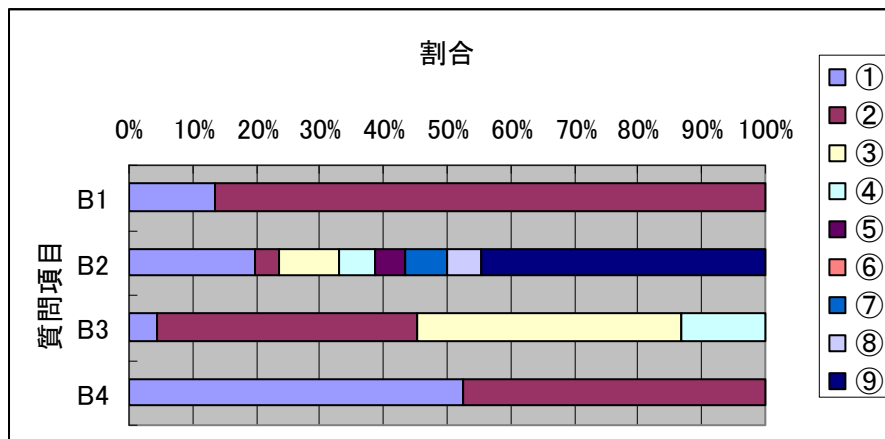
B3 【全員】シラバスを活用しなかった人に質問します。

活用しなかった理由を選んでください(複数選択可)  
①シラバスに問題がある ②シラバスの役立て方がわからない  
③シラバスの存在を知らない ④その他

B4 【全員】現在のシラバスに満足していますか。

①満足している ②不満がある

B5 【全員】シラバスの内容で不満、不備な点を挙げてください。



シラバスを活用したという回答は 13%強と低迷している(B1)。その主な理由は、「シラバスの役立て方がわからない」、「シラバスの存在を知らない」である(B3)。シラバスという名前が浸透していないことや、授業担当者が利用方法にまで説明していないことが原因であろう。利用した主な項目は、「授業概要」であり、到達目標については、あまり利用されていない(B2)。平成 19 年度からは学校の目標とリンクした到達目標を簡潔に定めたため、利用が促されるものと考えられる。満足度は半々であり(B4)、不満な主な理由は、利用の仕方がわからないことやシラバスどおりに授業が進んでいない、わかりにくいなどが挙げられている。

(出典：平成 19 年度教育内容及び方法に関するアンケートの結果とりまとめより抜粋)

(分析結果とその根拠理由) シラバスには授業を受ける上で必要な内容が網羅されている。利用

が不十分な面があるが、到達目標とリンクさせるなど問題点を改善し利用を促進している。

**観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

（観点に係る状況） 第4学年において、全工学科共通科目の選択科目として「創造工学演習」を設けている（資料5-2-③-1）。学生自らが機械加工・機構・組立およびプログラミングによる電子制御等の活動を通してロボット製作を体験し、自らのアイデアを入れた世界に一つのロボットを作り上げている。この過程でアイデアの創出、計画立案、組織運営能力を経験することで、本校の育成する技術者像にある「創造力あふれる技術者」の育成を行なっている。



資料5-2-③-1

創造工学演習シラバス

科目名: 創造工学演習			
英文名: Creative Engineering Seminar			
担当者: 久貝克弥			
工学科: 全工学科	学年: 4	コース:	開講期: 前期
科目種別: 選択	単位数: 1		
授 業 計 画			
前 期		後 期	
第1週 ガイダンス「ロボット概論」 第2週 マイコン制御 第3週 センサ、ロボット機構 第4週 ライトレースロボット組み立て 第5週 ライトレースロボット組み立て 第6週 制御ソフト製作 第7週 制御ソフト製作 第8週 制御ソフト製作 第9週 競技 第10週 相撲ロボット組み立て 第11週 相撲ロボット組み立て 第12週 制御ソフト製作 第13週 制御ソフト製作 第14週 制御ソフト製作 第15週 競技			
<p><b>■授業概要</b> メカトロニクス、機構学、制御工学、プログラミングの講義を併いながら、学生自らがロボットの製作と制御を行う。興味を持った題材を、楽しみながら積極的に学ぶ姿勢を重視し、創造的能力の開発をおこなう。</p> <p><b>■到達目標</b> 1. 【B-1】(B-T1)受講生がロボットの製作を通じて、ロボット工学の基本的な知識を習得することを目指す。</p> <p><b>■授業の進め方</b> ロボットの製作と、関連する講義(メカトロニクス、計測、制御、プログラム)を交互に行いながら進める。</p> <p><b>■教科書</b></p> <p><b>■参考書</b> LEGO MINDSTORMSマスターへの道、Jin Dato/Joe Nagata著、Ohmsya、ISBN4-274-08699-2、2,300</p> <p><b>■関連科目</b> 計測システム、制御システム、メカトロニクス</p> <p><b>■試験方法</b> 定期試験は実施しない</p> <p><b>■成績評価基準</b> 製作したロボットの獨創性、性能、機能の完成度(60%)、授業態度(40%)を評価する。 80点以上「優」、60点以上80点未満「良」、50点以上60点未満「可」、50点未満「不可」 JABEE教育プログラムの単位認定基準は60点以上とする。</p> <p><b>■教員所在場所</b> 技術教育部</p>			

(出典：平成18年度シラバス)

第5学年での卒業研究、創造製作実習においては教員一人当たり5、6名の学生で構成され、それぞれの担当教員の指導のもと、アイデアの創出、計画立案、組織運営能力等の向上を図り、その結果は、卒業研究発表会で発表される。建設システム工学科では卒業研究の一環として、デザインコンペティションも参加している。

コンピュータプログラミングなどは創造性が要求されるが、特に、「創造性を育む」ことを念頭に

実施している科目の例を（資料5-2-③-2）に示す。学生を主体にしつつ、教員が適切なアドバイスをを行い

資料5-2-③-2  
創造性を育む教育の例

クラス	科目名	テーマ	担当	内容	創造性を育む工夫
A1	人間と環境	身近な環境問題解決に向けての取り組み	今井	身近な、あるいは地域の環境問題について、学生自らがテーマを選択し、レポートを作成し、クラスにてプレゼンを行う。(時間に余裕のある学生は、現地調査も行う。)	自ら選択した環境問題に関連した自治体・企業・NPO・個人による取り組みにおけるグッド・プラクティス(あるいはバッド・プラクティス)の成功要因(あるいは失敗要因)を吟味することを通して、学生自身が考えた取り組みを提案させる。
5C	卒業研究	競技用コンクリートカヌーの作製	和田、松岡、林	土木学会主催のコンクリートカヌー大会への参加を目指して、オリジナルのカヌー作製を作製する。大会では作品の展示、プレゼンテーション、競技によって成績が決まる。	作製するカヌーのコンセプト、形状、材料などをグループで調べ、アイデアを練る。アイデアは学生、教員の前で発表され、コメント、質問などを受けて、改善すべき点を洗い出す。これらを解決するために、再びグループで調べ、考える。上記の作業を繰り返す。この過程で、教員は専門家としての意見や疑問をコメントするが、答えは与えない。また、提案されたアイデアに対しては、何故その考えに至ったのかを明確にさせる。
4MEC	創造工学演習	ロボットの製作	久貝	レゴ・マインドストームを使ったロボットの組み立て、プログラミング。光センサを応用したラインとレースロボットの製作。タッチセンサを用いた相撲ロボットの製作。	メカトロニクス、機構学、制御工学、プログラミングの講義を併いながら、学生自らがロボットの製作と制御を行う。興味を持った題材を、楽しみながら積極的に学ぶ姿勢を重視し、創造的能力の開発をおこなう。
4EB	4年工学実験	PICマイコンのプログラミング	渡邊	PICマイコンのプログラミングの基礎を学習し、オリジナルのLED点滅プログラムを作成する。	まず、学生は自発的な学習により、PICのプログラミング方法を習得する。次に、オリジナルプログラムの作成に当たって、教員は方向性を示唆するが、解答を与えることはしない。やがて学生は試行錯誤を繰り返すことで所望のプログラムを完成させる。完成させたプログラムを実行させ、プログラムの要点を確認し、知識・技術の定着化を図る。
4EB	4年工学実験	レゴ・マインドストームによる制御実験	渡邊	マインドストームの分解・組み立て・トレーニング・ミッションを通じて制御の基礎を学習し、独自の動作をするロボット(ライントレーサなど)のプログラミングを行う。	まず、トレーニングミッション(学生の自発的な学習)により、マインド・ストームの制御の仕組みを理解する。同時にブロックによるロボットの組み立てを通じ、形状等に工夫を凝らす。次に、独自の動作をする制御プログラムを作成する。以上の各過程において、教員は方向性を示唆するが、解答は与えない。やがて学生は試行錯誤を繰り返すことで所望のロボットを完成させる。また、動作確認の際に、制御プログラムの要点を明確にさせる。
2G	情報処理II	C言語プログラミング	倉林	C++ Builderを用いたプログラミング演習により、C言語プログラムの作成能力を養成する。	プログラミングという作業は、非常にクリエイティブなものである。関数やメソッドをパーツとすれば、与えられたパーツを組み合わせるにより目的とする動作を計算機に行わせる。目的を遂行するために決められた方法はないため、ときに芸術的なコードが生まれます。創造性を育むために、答えを教えるのではなく、考え方を教えるようにしている。
2G	実験・実習	コンピュータ・グラフィックスの製作	神田、政清	6回の授業でコンピュータ・グラフィックスの基礎やアニメーションなどを学びながら技能を積み上げ、最終回で個人作品を提出する。	毎回の授業の冒頭で、理論および新しい操作の説明を行う。残りの半分は各自が自分の作品を発展させる創作の時間に当てる。使うパーツの個数や使う技術は大まかに指定するが、教員は操作方法についてアドバイスを行うのみである。プロの作品や先輩の作品を見せながら刺激を与え、自分のアイデアでもの作りをする楽しさを体験させることにより創造性を育む。
1G	芸術	音楽	矢吹	自分で楽器を作る、自らの個性を歌(詩)にする	受身ではなく、自分の中からわきあがるイメージを大切に、形にしていける。机は丸く置き、いつもお互いの存在が見渡せる状態で授業をすすめて、チームビルディングをする。 一見音楽には関係ないように見えるかもしれないが、10年後にきっと心のどこかで思い出すと役に立つために種まきをしている。音楽の記号を覚えたり理論を学ぶことよりも大切な人生について考える、感動する心を養うための授業で、左脳の開発には右脳のひらめきを養った方がはるかに工学的にも役に立つ。授業では、創造力を養ったり自分の夢を見つけたりすることを目的にして、あらゆる刺激を与えていきたい。

(出典：教務部内部資料)

インターンシップについては、第4・5学年（建設システム工学科は第4学年のみ）において、期間に応じて1～2単位の範囲で単位認定している。地域特性より地元企業からの受け入れは乏しく、平成15年度はわずか2名が参加したにすぎない。しかし、インターンシップ参加への奨励、斡旋を継続していることで、平成17年度17名、平成18年度21名と増加している。平成18年度のインターンシップ実施状況は（資料5-2-③-3）の通りで、全員が長期休暇を利用して参加している。インターンシップ中に実習日誌（資料5-2-③-4）をつけ、終了後は実習にて学んだこと感じたこと将来役に立てたいことなどを実習報告書としてまとめ、教務部へ提出している。これら実習日誌と実習報告書の提出をもって、インターンシップの単位認定を行なっている。

資料5-2-③-3

平成18年度インターンシップ参加学生リスト

No	クラス	実習先	実習期間
1	4MA	三菱電機冷熱システム製作所	7/24～8/4
2	4MA	長岡技術科学大学	7/24～7/28
3	4MB	長岡技術科学大学	7/24～7/28
4	4EA	村田機械C. C. S	7/24～7/29
5	4EA	花王	7/25～8/3
6	4EA	中部電力	8/7～8/11
7	4EA	出光興産	7/24～8/1
8	4EA	出光興産	7/24～8/1
9	4EA	三菱電機ビルテクノサービス	7/24～8/4
10	4EA	長岡技術科学大学	7/24～7/28
11	4EA	アイシン精機	7/24～8/4
12	4EA	NHK津放送局	7/24～7/28
13	4EA	メイテック	8/21～8/31
14	4EA	J-Power	7/24～8/4
15	4EB	豊橋技術科学大学	7/18～7/22
16	4EB	豊橋技術科学大学	7/18～7/22
17	4EB	富士電機システムズ	8/16～8/25
18	4CA	長岡技術科学大学	7/23～7/29
19	4CB	豊橋技術科学大学	7/18～7/22
20	4CB	結工房	7/31～8/5
21	4CB	結工房	7/24～7/29

(出典：教務部内部資料)






資料5-2-③-4

インターンシップ実習日誌

インターンシップ実習日誌 近畿大学工業高等専門学校

学科名 電気情報工学科 4年 A組 51番 氏名 山本 雅正

実習先 出光興産株式会社 製油所

月日	実習時間	実習内容	指導員所見 確認印だけでも結構です
7/24 (月)	13:30 - 1 5:00	最初に所長さんから話しがあり、次に会社中製油所の概要(国内の工場や環境対策や地域住民に対する配慮や石油の精製の方法などを説明した。そのあと実習先に到着して構内を見学させてもらった。	この19日間連続健康第一で取り組んでください。 
7/25 (火)	8:00 - 1 5:00	今日1日とマサ(石油精製)を見学した。次に製油一課に行き説明して、一課の担当のシユウ(加藤)さんを見学した。次に製油二課に行き根元さん(根元)を二課の担当のシユウ(高田)さん(高田)さん(高田)を見学した。次に発電課に行き1155の説明をしてもらい、発電設備を見学してもらった。次に製油課へ行くと、14号の発電機を見学した。	それぞれの課についての説明があった。そのほか、設備の仕組みや安全対策などについて詳しく説明を受けた。 
7/26 (水)	9:00 - 1 5:00	今日は、初めに副所長さんから話しがあり、その後製油一課に行き説明を受けた。そして、マサ(加藤)さんの出稼工程(石油を精製する工程)について詳しく説明を受けた。その後、LPGの貯蔵タンク(石油を貯蔵するタンク)を見学した。その後、LPGの貯蔵タンク(石油を貯蔵するタンク)を見学した。その後、LPGの貯蔵タンク(石油を貯蔵するタンク)を見学した。	専門的な知識が多く、丁寧な説明を受けた。安全対策についても詳しく説明を受けた。 
7/27 (木)	8:00 - 1 5:00	今日は、最初に当井さんに説明を受けた。そして、LPGの貯蔵タンク(石油を貯蔵するタンク)を見学した。その後、LPGの貯蔵タンク(石油を貯蔵するタンク)を見学した。その後、LPGの貯蔵タンク(石油を貯蔵するタンク)を見学した。	順調に進んでいるようだ。日誌には、何かとご記入いただき、感想や意見をぜひお書きください。 
7/28 (金)	8:00 - 1 5:00	今日は、今日の午後の午後に当井さんに説明を受けた。そして、LPGの貯蔵タンク(石油を貯蔵するタンク)を見学した。その後、LPGの貯蔵タンク(石油を貯蔵するタンク)を見学した。その後、LPGの貯蔵タンク(石油を貯蔵するタンク)を見学した。	テーマ実習、お疲れさまでした。報告書を書いてください。 

シヤ(加藤)さんと押さえておいたので、もう一回行きました。それで、撮っていたのでPCにデータを転送しました。その後、お礼メールを送りました。

(出典：教務部内部資料)

(分析結果とその根拠理由) 創造工学演習、卒業研究、創造製作実習で、ものづくりを通じて創造性の育成を行っている。また、その成果を多くの人に発表することにより、プレゼンテーション能力が培われるので、創造性を育む教育として相応に機能していると判断される。

インターンシップへの参加も継続して推奨しており、参加学生数は増加している。学生はインターンシップに参加することで、学習してきた知識や技術がどのように生かされているのか、また就業体験をすること将来社会人となったときの心構えの形成や進路の決定に役立てている。

**観点5-3-①：** 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況) 成績評価方法と合格基準はシラバスに、進級・卒業の認定基準は、学生便覧の中の「2. 本科履修ガイド」に明記(資料5-3-①-1)されており、学生に周知している。

資料5-3-①-1  
進級・卒業の認定

5. 進級・卒業の認定

(1) 進級の認定(高専は単位制ではなく学年制です)

次のすべての条件を満たすと、その学年の課程を修了したものと認定され次の学年への進級が認められます。

- 1 学年学業成績に不合格科目がない者
- 2 欠席日数が年間出席すべき日数の3分の1をこえない者
- 3 特に素行の悪くない者

(2) 卒業の認定

第5学年の課程を修了した者について、本科の全課程を修了したものと認められ卒業が認定されます。卒業要件の単位数は5年間で一般科目83単位、専門科目86単位以上の合計167単位以上です。

(出典：平成19年度学生便覧)

進級・卒業の認定は、全専任教員が参加する進級判定会議あるいは卒業判定会議の中で審議、決定される。判定会議は1次、2次の2段階で行われ、1次判定においては進級、卒業の認定を行うとともに、認定されない学生に対する現状把握と今後の指導について議論される。その中で、近年増加している不登校の問題についても、臨床心理博士であるスクールカウンセラーの意見を大いに参考とした上で対象となる学生の進級等についても話し合われる。2次判定会議では最終的な進級、卒業、留級の判定が行われる。

(分析結果とその根拠理由) 進級・卒業の認定基準が明確にされ、進級(卒業)判定会議によって審議される。不登校等の問題に対しては、各学生の将来を考え柔軟な対応を行っており、このような対応が教育的によい結果をもたらしている。

**観点5-4-①：** 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況) 本校では第1学年から第3学年まで特別活動の時間を週に1時間取っている。この時間はホームルームのほか教養セミナーの開講に用いられる。教養セミナーは、専任教員、客員教授などが自ら設定したテーマで開講され、少人数形式で運営されている(資料5-4-①-1)。資料5-4-①-2は平成19年度前期の教養セミナーテーマ一覧表である。セミナーへの配属は学年・学科を超えて希望により決定されるため、幅広い人的交流を培っている。セミナーでは知識の修得に加え、資料作成、研究発表、討論なども行い、教員と学生の間での知的・文化的交流を深める場となっている。

資料 5-4-①-1

教養セミナーの目的

教養セミナーは第1学年から第3学年までの学生を対象に、特別活動(準学士課程 1~3 学年、必修1単位)の時間を利用して前期・後期とも6回程度開講されるものです。講師、テーマ、概要は別途配布します。希望によって配属を決定しますから、よく考えてテーマを選んでください。前期と後期では別のテーマを選択できます。

セミナーの講師は本校の専任教員のほか、客員教授、外部の方など多彩で、テーマも先生の得意な分野や興味に基づいて、スポーツ、文化、資格、科学などが設定されています。普段の授業では聞くことのできない内容を普段と異なる仲間と受講でき、知的・文化的交流を深めることができます。セミナーを通じて幅広いものの見方と人的交流を学んでください。

(出典：平成 19 年度シラバスより抜粋)

資料 5-4-①-2

教養セミナー開講テーマ

平成19年度前期開講セミナー一覧表(開講日:5/18, 5/25, 6/15, 6/22, 6/29, 9/7 計6回)

番号	担当者名	テーマ名	内容	場所
1	辻本 修 佐伯祐子	柔道セミナー	特に練習を中心に行いながら、柔道修練の目的、精力善用・自他共栄を実践、習得を目標に行い、心身の健全な発育・礼儀作法などを身につけるセミナーです。	武道場
2	齊藤 彰 坪内希輔	ソフトテニスセミナー	熊野地方で盛んに行われているソフトテニスを楽しもう。スポーツ生理学のいろ・は、も学ぼう。	テニスコート
3	小西大亮	剣道セミナー	剣道に関するセミナーです。	体育館
4	後呂安雄	バスケットセミナー	バスケットボールに関するセミナーです	体育館
5	中澤良文 島 敏鏡	野球セミナー	野球に関するセミナーです。	グラウンド
6	松尾大介	陸上セミナー	陸上競技に関するセミナーです。	グラウンド
7	森岡 圭	ラグビーセミナー	ラグビーに関するセミナーです。	グラウンド
8	溝口博幸	歌で教える日本語文法	日本語の文法を楽しく分かりやすく覚えさせるために歌を使った教材を開発(作詞・作曲)中である。今回は、昨年までに作成した歌あるいは作成中の歌を使用しながら、これらの歌からどのようなことが学べるかを見ていく(受講者にも一緒に歌ってもらい)。ここで取り上げる日本語の文法は、科学的観点に立ち分析・整理し、外国人や日本人にもわかりやすくしたものである。この活動を通して、日本語の文法とはどのようなものかを理解してもらい、表現能力に深みを増してもらいたい。 (1)てい形の歌、(2)形容語の歌、(3)受身形の歌、(4)可能形と読みの歌、(5)使役形の歌、(6)まとめ	音楽室
9	畑山伸訓	海の生き物	すぐ近くにある海の生き物について	MM教室
10	倉本逸郎	ワープロに挑戦しませんか	日本語ワープロ検定試験を受験しませんか。4級から初段まであり、自分の力に合わせて受験することができます。	CAD
11	倉林 有	Javaプログラミングセミナー	卒業研究とはどんなものが体験できます。研究テーマ:画像処理、画像解析、コンピュータビジョン 実際に課題を割当てて研究を進めていきますので、セミナー時間外にも自習時間が必要になります。参加希望者が多かった場合(5名程度以上)、Java プログラミングセミナーに変更しますので、覚悟の上申し込んでください。	CAI
12	竹内春樹 サイモン	英会話を楽しもう	やさしい英会話のセミナーです。話せなくても、英語に興味のある学生が積極的に参加してください。	315
13	渡邊 志	交通機関を考える	交通機関についての現実や理想について語りましょう。	314
14	重村博美	法律の知識を身に付けよう	アルバイトを突然解雇されたらどうする? こういった問題を法律的に解決する方法を学びましょう。」	313
15	久貝克也	ドラえもんや未来のロボット	日本人が持つロボットという言葉に対するイメージとは。欧米人のイメージとの違いについて解説します。また、ロボット開発最前線を紹介し、ロボットの将来像について倫理的な面も含めて問題提起します。	312
16	栢野智裕 榎本昭徳	スポーツトレーニングの基礎知識	スポーツ選手に必要なトレーニングの理論的基礎知識、怪我の予防、メンタルケア等を中心とした題材をサッカー競技の中から選出し、スポーツの捉え方、考え方を見直そう。	304
17	中橋 修	心の教育	なぜ人を殺してはいけないのか、正しいことと悪いこと、親子関係、健全な男女関係、人を許す大切さ、人は死んだらどこへ行くのか、一緒に考えてみよう。	303
18	上田 透	英検対策講座	英語検定合格のための対策講座です。	302
19	乗本 学	身近にある確立統計	身の回りにある簡単な確率統計の応用を考えてみましょう。	301
20	大内清司	異能者の日本史講座	安倍晴明や役の小角など、有名なのに日本史の教科書にあまり出てこない人物を取り上げて、日本人の精神史を話します。もの見方や考え方を広げたい人向き。	214
21	鈴木 隆	危険物の問題を解こう!	消防法の中でも理解しにくい指定数量の考え方を問題を通して考えてみましょう。	213
22	園田紀子	漢検対策	漢字検定試験突破を目指し、学習会を開催します。	212
23	酒井宗和	中国事情ゼミ	中国事情とその中国語を紹介し、所変われば色変わる(例えば、日本では郵便ポストは「赤」、中国では何色?など)、中国の面白外来語(鳥インフルエンザは?、ミニスカートは?など)、中国IT用語(携帯電話は?など)、中国世相用語、中国と動物などなど	211
24	後藤牧宗	心を見つめる	悩みや苦しき、不安を言葉に出してその解決を図ろう。	205
25	西 俊多	社会に出て役立つより良いマナーを身につけよう!	この世に生まれて、自分の歩む人生です。自分らしさを生かすため、社会のマナー(就職する場合は常識)を少しでも身に付けて、楽しい人生を歩もうではありませんか。「われ以外はみな師」といった、ひたむきな姿勢で眠っているセンスを磨いて、人間としてのバランス感覚を養いましょう! ○あいつさ ○何でも話れる友を待とう! ○困ったときは、どうしたらよいか ○「振り返り」はしっかりやろう!	204

(出典：平成 19 年度前期教養セミナー案内)

本校の目的である人格教育の推進、いじめや不登校などの最近の学校における課題に対応するために、平成19年度からは住職や牧師などの宗教家の方による「心の教育」や、自動車学校校長(元警察署長)による交通安全講話なども行い、「命の大切さ」、「人を思いやる心」などを考える機会としている(資料5-4-①-3)、(資料5-4-①-4)。

資料5-4-①-3

心の教育実施状況

開催日付	対象学生	講師
4/12	1年生	中橋修(木本キリスト教会牧師)
4/13	1年生	後藤牧宗(臨済宗清閑院住職)
4/20	2年生	同上
4/27	3年生	同上
6/15	4年生	同上
6/22	5年生・専攻科生	同上

(出典：教務部内部資料)

資料5-4-①-4

心の教育のレジメ

「心」の授業 B

近畿大学工業高等専門学校

- 1、世界の宗教分布について
  - 仏教は全世界の5.5%
- 2、仏教の教えの基本と三法印
  - 四苦八苦と三法印
- 3、八正道の実践
  - 正見 ○ 正思惟 ○ 正語 ○ 正業 ○ 正命
  - 正精進 ○ 正念 ○ 正定
- 4、いのちの尊さとは何なのか
  - 自分のいのちを自分なりに精一杯いかすことがたくさんのおかげさまに対する恩返しである
- 5、いじめは格好が悪いし とても恥ずかしいこと
  - いじめる人の心の貧弱さ 許容量の無さをあらわしている
- 6、無財の七施
  - 眼施○和顔施○愛語施○身施○心施○床座施○房舎施

(出典：平成19年度「心」の授業配布資料)

第4学年では工場や工事現場を見学し、学校で学んでいる技術・知識が実際どのように生かされているかを体感させている。資料5-4-①-5は電気情報工学科における工場見学のしおりであるが、一泊二日の日程で工場見学、レジャー施設や展示会見学を行っている。見学先は機械システム工学科と電気情報工学科は工場内の見学が多く、建設システム工学科ではトンネル等建設現場が多い。この

ような見学を通じて、各学生は将来の技術者としての自覚を促し、今後の学習や進路決定に役立てている。また、工学ゼミとしてプリ卒研を実施し、本校で実施している卒業研究の内容を調べたり、卒業研究の発表を聴講したりして、研究への関心を高めている。成果として報告書の作成を義務付けている（資料5-4-①-6）。

資料5-4-①-5

電気情報工学科工場見学のしおり

平成18年度 電気情報工学科4年 工場見学

と き 2005年11月16日(木)~17日(金)

見学場所 森精機伊賀事業所(三重県伊賀市)

関西電力 堺港発電所 PR 館(大阪府堺市,A組のみ)

松下電器歴史館 (大阪府門真市,B組のみ)



目的

- 工場などの現場を見学することにより、将来の進路選択に役立たせる。
- 卒業アルバムに載せる写真を皆さんで撮影しておいてください。

※ 工場見学後に工場見学のレポート提出がありますので、しっかりメモを取り、学習しましょう。このレポートは実験の成績へ加点されます。

<p><b>森 精 機 伊 賀 事 業 所</b></p> <p><a href="http://www.moriseiki.co.jp/indexj.html">http://www.moriseiki.co.jp/indexj.html</a></p>	
<p><b>関 西 電 力 堺 港 発 電 所 PR 館</b></p> <p><a href="http://www.kepco.co.jp/">http://www.kepco.co.jp/</a></p>	
<p><b>松 下 電 器 歴 史 観</b></p> <p><a href="http://panasonic.co.jp/rekishikan/index.html">http://panasonic.co.jp/rekishikan/index.html</a></p>	
<p><b>関 西 エ ア ポ ー ト ワ シ ン ト ン ホ テ ル</b></p> <p><a href="http://www.kansai-wh.com/">http://www.kansai-wh.com/</a></p>	
<p><b>岸 和 田 カ ン カ ン バ イ サ イ ド モ ー ル</b></p> <p><a href="http://www.kishiwada.cancan.gr.jp/">http://www.kishiwada.cancan.gr.jp/</a></p>	
<p><b>鶴 見 は な ぼ ー と フ ロ ッ サ ム</b></p> <p><a href="http://www.blossomoutlet.com/">http://www.blossomoutlet.com/</a></p>	

旅 程 表

旅行の業者はトラベルワールドさん(0735-23-1711)です。

すべて自由食となっていますので、食事代くらいは持参してください。

11/16(木)

A・B組共通

- 1日目：新宮(7:00) - 堤谷(7:10) - 鶴殿駅前(7:10) - 井田駅前(7:15)
- 山地口(7:15) - 阿田和駅前(7:15) - 平見(7:20) - 市木(7:20)
- 神志山(7:25) - 芝園(7:25) - 近大高専(7:30) - 熊野市駅(7:45)
- 長谷土橋(8:00) - 小又(8:10) - 賀田口(8:20) - 尾鷲病院前(8:35)
- 県庁舎前(8:35) - 長島すずらん前(9:00) - 大宮大台 IC(10:00)
- 関SA or 伊賀SA(昼食：11:30~12:30) - 森精機伊賀事業所(13:00~16:00)
- 関西エアポートワシントンホテル(17:20)泊

11/17(金)

A組

宿泊先出発(8:30) - 関西電力 堺港発電所 PR 館(10:00~12:00)

- 岸和田カンカンバイサイドモール(12:30~13:30) - 熊野(19:05)

- 新宮(19:35 着予定)

B組

宿泊先出発(8:30) - 松下電器歴史館(10:30~12:00)

- アウトレットブロッサム(12:30~13:30) - 熊野(19:05) - 新宮(19:35 着予定)

緊急連絡先

内田の携帯

野木の携帯

(出典：平成18年度電気情報工学科4年工場見学のしおり)



資料 5-4-①-6

プリ卒研レポート

	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">Received</div>	<p>&lt;興味を持ったタイトル&gt; 「落雷と気象要素の関係」</p>
<p>TO <b>THE ELECTRIC ENGINEERING LABORATORY</b></p>		<p>&lt;興味を持った理由&gt; 僕は毎日インターネットやニュースで次の日の天気予報を見るのが日課で、この落雷の事は天気と関係あるし自分の役に立かなと思ったから、自分には一番興味を持った。</p>
<p>Report on <b>THE EXPERIMENT</b></p>		<p>&lt;内容についての質問&gt; この実験をするのにあたって、雷の日しか実験を行うことが出来ないのか？ ・雷があまり起きない冬場は何をしてみたのか？ ・どのようにしたら雷が来ると分かるのか？ ・地図には、いろいろな場所がマークしてあった（三重北部・南部、奈良南部・北部）が、実際に現地まで何人が行って実験を行ったのか？また、一人ですべて観測したのか？ ・発表の図を見たときに山間部での雷マークが多かったが、それはなぜか？ ・実際に雷が起きている場所に観測しに行ったとしたら、雷が落ちてこないようにした工夫ほどの様なことがあるか。 ・どのような場所で観測したのか？山間部？もしくは平野部？</p>
<p>No. _____ Japanese Title _____ Pre 卒業表 _____ English Title _____</p>		<p>&lt;来年する卒業研究について自分がやりたい研究内容をかけ&gt; 僕は上記のような身近なものがしたいです。この他の発表に興味を持ったのが二つあります。一つは「二木島町における防災マップの作成に関する研究」です。なぜこのテーマに興味を持ったのかというと、これは将来この地方では東海大地震が起こるかもしれないし、大震災がおこるかもしれないし、とても身近な出来事だと思ったからです。それに、もし仮に大地震が起こった時に自分の身を守るための防災知識が得られるし、勉強も出来て一石二鳥だと僕は感じました。もう一つ興味を持ったのが、「ソーラーカーへの電気二重層コンデンサの応用」というテーマにも興味を持ちました。なぜこのテーマに興味を持ったのかと言うと、僕は車にとっても興味があったからです。車は今、ガソリンで動いているが、将来は太陽の力を利用（ソーラー）して車を動かすというのが主流になる時代が僕は来ると思っています。最近では地球温暖化が言われているが、ソーラーを利用することで地球温暖化防止にも役立つ。だから、車への知識って言うのも高めたという利点からこのようにも調べてみたい。 僕は情報系のテーマだと、自分は何を学んでいるのか全く分からないし、自分の将来には生かせないと思う。だから僕は身近にあるような事について調べたいと思う。</p>
<p>Performed _____ 2006. 2 / 2 ____ Room Temp. ____ °C. Handed in _____ 2006. 2 / 8 ____</p>		
<p>No. _____ No. _____ No. _____ Partners No. _____ No. _____ No. _____</p>		
		<p>By _____ Year, Dept., Class _____ No. _____ Full Name _____ 4.E.A _____ 22 角野 智幸</p>
<p><b>KINKI UNIVERSITY TECHNICAL COLLEGE</b></p>		
<p>Exp.No. _____ 再レポート 合格日 _____ (未完成箇所を、印しています。) 提出期限 _____ 月 _____ 日まで □: 表紙 □: 目的,原理 □: 方法 □: 使用器具 □: 結果 4E. _____ □: 図番,図名 □: 考察 □: ページ番号 □: 2次 氏名 _____ □: その他 [ _____ ]</p>		

(出典：平成 18 年度電気情報工学科内部資料)

(分析結果とその根拠理由) 教養セミナーでは、学年・学科の垣根を越えた教育の機会が用意され、担当教員の専門分野や趣味を題材に、学生と知的・文化的交流がなされる場となっている。工場(現場)見学では実社会にふれることで視野をより広げることにも効果的である。これらは人間の素養の涵養に役立っている。

観点 5-4-②：教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点にかかる状況) 近畿大学の教育理念「人に愛され 信頼され 尊敬される人を育成する」および本校の目的のひとつに「社会人としての健全な人格を有し、技術者に要求される倫理観を身につける」を達成するために、学生の生活指導については学生が守るべき規則が学生準則施行細則の中に定められている。学生便覧には「学生生活の心得」として、より具体的な形でも掲載されており学生に周知されている(資料 5-4-②-1)。服装、規律については、高校に相当する第 1 学年から第 3 学年の学生については特に注意指導しており、学生部が中心となって登校時または休み時間の校内巡視等も行ない指導している。他の教職員も気付いた時点でその場で指導を行ない、資料 5-4-②-2 のカードで学生部に報告している。

資料 5-4-②-1

学生生活の心得

6. 学生生活の心得

学生生活をより良くするために、次のような事を守っていきましょう。

「あいさつをしよう」

「整理整頓に努めよう」

「交通ルールを守ろう」

I. 服装・通学・所持品・欠席などについて

1) 1～3年生について

A) 服装・所持品等について

1. 制 服 ・規程を守って端整に身に着けよう。
2. 頭 髪 ・パーマ・染め髪（マニキュア、脱色）・変形頭髪などは認めていません。  
・髪の長さは、男子：目・耳・襟が隠れない程度とする。
3. 通 学 靴 ・革靴、運動靴とする。かかとを踏んだ履き方はしない。
4. ソ ッ ク ス ・ふくらはぎまでの長さで極端に短くなく、大きくない（ルーズソックス）ソックスとする。（男女とも白・黒・紺・グレー）
5. タ イ ツ ・黒・濃紺・濃いグレーに限り許可する。肌がすけるものは禁止する。
6. 化 粧 ・化粧品類、アクセサリ類は使用を禁止します。
7. 携帯電話 ・教室内ではマナーモードとし使用を禁止します。使用していた場合は担任が預かり、放課後返却します。（保護者からの緊急連絡は学校にしましょう）
8. その他所持品 ・学習活動に関係の無い物品（危険物・化粧品・雑誌等）も学校持ち込み禁止とする。  
・高価なもの、多額な金は持って来ないこと。  
・ナイフ等の危険物は持ち込まない。

- 16 -

B) 免許取得

1. 第1学年から第2学年までの運転免許証の取得は原則として認めていません。
2. 第3学年に対する運転免許証の取得の制限は行わないが授業を欠いての自動車学校への通学は認めていません。

C) 通学

(1) 自転車通学

1. 自転車通学をする学生は、ラベルを所定の位置に添付すること。
2. 自転車は、指定された場所に置き、盗難防止のためにしっかりと鍵を掛けること。
3. 雨天の場合は雨合羽を着用すること。

(2) 単車通学

1. 範囲は、通学に不便な地域からの通学している学生  
上記以外の諸事情（クラブ活動）により単車通学を許可されている学生とする。
2. 通学用単車は原動機付き自転車とする。

D) アルバイト

長期休暇期間中に限り許可をします。特別な理由（経済的理由等）によりアルバイトをしなければならない場合には、担任に相談して正規の許可を得る（保護者から直接担任に相談してください）

E) 遅刻・早退・欠席

1. 遅刻、欠席、早退をしないように心がける。（遅刻・欠席・早退等の場合は必ず保護者から事前に連絡をしてください。）
2. 学校での病気等で早退の場合は看護師と相談の上、担任の許可のもとに下校する。

F) 喫煙・飲酒・暴力脅迫行為・万引き・窃盗・シンナー吸引・覚せい剤等の使用・不純異性行遊・深夜徘徊・無断外泊・いじめ・暴走（族）行為等は厳禁する。

2) 4, 5年生について

A) 服装・所持品等について

- 17 -

（出典：平成 19 年度学生便覧）

資料 5-4-②-2

校内指導カード（平成 18 年使用）

・      月      日      時      分 指導教員

・      工学科      年      組      番 氏名

違反内容（    ）内に○印を！

- (      )ズボンをわざとずり下げている。(判断は教員)
- (      )スカートの丈が膝皿にかかっていない。
- (      )シャツをわざと出している。(判断は教員)
- (      )シャツのボタンをわざとはずしている。(判断は教員)
- (      )化粧(具体的内容     )をしている。
- (      )変形髪型である。(判断は教員)
- (      )通学靴のかかとを踏んでいる。
- (      )装飾品(ピアス・首輪・腕輪・指輪・その他     )
- (      )その他(携帯電話     )

（出典：学生部）

本校の創立趣意書（資料 1-1-①-4）にもあるように、寮生活は人格教育を推し進める場の一つと位置づけ、資料 5-4-②-3 の目的のもと、学生寮規則、学生寮細則、寮生生活心得に基づいて指導している。これらは学生便覧に記載されており、新入寮生オリエンテーションを実施して周知

している。

本校では約270名の学生が寮生活を送っている。寮務部は、寮務主事、寮務主事補、寮務担当（2名）、寮監（6名）、寮担当職員（3名）で構成されている。寮監は各寮各階に配置されている。また、指導寮生として、学年毎に5年生寮長1名、4年生副寮長3～4名が配置されており、1年～3年寮生の指導にあたっている。このように教職員・学生が一体となった確固たる寮指導体制を敷き指導を実行することで規則正しい生活が、そして下級生指導などを通じて礼儀・道徳・責任感などが養われている。

資料5-4-②-3

学生寮の目的

## 26. 学生寮の目的

- ① 寮生が集団生活を通して規則を守り、礼儀を重んじ、集団生活（社会生活）を快適に営むこと。
- ② 保護者、教師、寮監、先輩、友人の意見や忠告に対し、謙虚に耳を傾けること。
- ③ 自己主張に終始せず、相手の立場にたって考えること。
- ④ 集団の中で自己の責任を果たせること。  
皆のために骨おしみせず働き、その喜びを知ることができること。
- ⑤ 計画性のある生活態度を身につけること。
- ⑥ 弱い自分に打ち勝つことの出来る強い意志をもつこと。
- ⑦ 正邪善悪を自分で正しく判断し、自主的に行動できること。
- ⑧ 就学の目的をよく理解し、勉学に、運動に、生活全般に全力を打ち込んで努力し、絶えず進歩向上しようと努力すること。  
を修得するのを目的としています。

（出典：平成19年度学生便覧）

平成12年度以降の改革では課外活動の活性化にも取り組んでいる。スポーツ、ものづくり、文化、ボランティアの各面での幅広く課外活動を通じて、学生たちに活力を与え、集団行動の重要性、リーダーシップの育成が行われる。全専任教職員がいずれかのクラブの顧問（資料5-4-②-4）として指導に当たっている。

資料5-4-②-4

部活動顧問一覧

	クラブ名	顧問
体 育 系	陸上競技部	和田孝 松尾 園田 佐伯
	柔道部	倉本 辻本 園田 佐伯
	剣道部	中村 五十石 小西
	ソフトテニス部	大島 齊藤 坪内 室谷
	バレーボール部	荒賀 山本 溝口
	バスケットボール部	村松 後呂 倉林
	硬式野球部（高校）	向井 中澤 伊藤康 奥田 仲森
	硬式野球部（高専）	今井 中村 筒井 畠
	サッカー部	神田 栢野 榎本
	卓球部	熊埜御堂 上田 岸
	ラグビー部	中平 五十石 森岡圭 森岡忠
	ソフトボール部	山川 奥田
	山岳部	乗本 竹内
	自動車部	岸 山川
	バドミントン部	林 本田 重村
	ゴルフ部	村田圭 今野
	空手部	青木 浜口
	応援部	筒井 畠
	テニス部	伊藤 松岡 表
モータースポーツ部	山本	
軟式野球部	岸 熊埜御堂 和田孝 倉本	
文 化 系	ブラスバンド部	鈴木 西 渡邊 新田
	技術部（ロボコン）	中西弘 政清 仲森 畑山 久貝
	写真部	中西祐 嶋野
	J R C	伊藤
	E S S	竹内 サイモン
	気象部	仲森 園井
	新聞部	大内 今野
	イラスト部	仲森 汐崎
	サイエンス部	畑山
	放送部	本田
	日本文化研究部	大内 本田 重村 鍋割 前田(着付け) 九鬼(茶道) 大西(日本太鼓) 紀ノ川(演劇) 川端(書道)
	デザイン技術部	松岡 五十石
	園芸部	園井 中村
軽音楽部	西 矢吹 溝口	

(出典：学生部)

スポーツ面では、野球部、柔道部、陸上部、サッカー部、ソフトテニス部等を中心に、全日本レベルの指導者（資料5-4-②-5）をクラブ講師として採用し課外活動の指導体制を強化している。平成18年度には、全国高専大会でのサッカー部が優勝、柔道部が男子団体優勝、ソフトテニス部が男子団体優勝、男子個人優勝、女子個人優勝をはじめ、その他の大会でも数々の優れた成績を残している。陸上部も走り高跳びで全日本ジュニア選手権優勝、インターハイ2位、アジアジュニア陸上選手権で5位などの好成績を残している。

資料5-4-②-5 クラブ指導者プロフィール

スポーツ指導教員	<b>柔道部</b>	<b>ソフトテニス部</b>	<b>陸上競技部</b>	<b>硬式野球部</b>	<b>サッカー部</b>
	 <b>辻本 修</b> 助教授	 <b>齋藤 彰</b> 講師	 <b>松尾 大介</b> 講師	 <b>中澤 良文</b> 講師	 <b>栢野 智裕</b> 助手 <small>(教育学修士・福岡教育大学)</small>
	<b>■主要競技成績</b> ・講道館柔道 6段 <b>■クラブ指導実績</b> ・近畿地区高専大会 ・団体戦 優勝、個人戦3階級 優勝 ・東海高専総合体育大会 ・個人戦準 優勝 ・三重県高校総体 ・団体戦優勝 ・全国高校柔道選手権大会 出場	<b>■主要競技成績</b> ・全日本学生王座 準優勝 ・西日本学生選手権 3位 <b>■クラブ指導実績</b> ・JOCジュニアオリンピック 3位 ・インターハイ 団体戦、個人戦出場 ・全日本私学大会 3位 ・東海総体 団体戦、個人戦準優勝 ・全国高専大会 団体戦、個人戦優勝 ・国民体育大会 準優勝	<b>■主要競技成績</b> ・東アジアジュニア陸上競技選手権大会 優勝 ・アジアジュニア陸上競技選手権大会 4位 <b>■クラブ指導実績</b> ・全国ジュニアオリンピック 8位 ・全国高専大会 優勝 ・東海高校総体 優勝 ・三重県高校総体 優勝、入賞 ・全国高校総体 出場 ・日本選手権 6位	<b>■主要競技成績</b> ・全国大学選手権 優勝 <b>■クラブ指導実績</b> ・本校担任、指導者として甲子園出場3回 ・全国高校野球選手権三重大会 ベスト16	<b>■主要競技成績</b> ・国民体育大会鹿児島県選抜選手 ・全日本大学選手権大会 ・全国 3位 <b>■クラブ指導実績</b> ・全国高専大会 優勝 ・愛知学生サッカーリーグ戦 前期 優勝
	出典：近畿大学工業高専新聞 第24号（平成18年7月8日）				

ものづくりは創造性を育むよい教育機会である。ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション、ソーラーカー、エコランカーなどに取り組んでいる。ロボットコンテストでは、平成16年度の「ロボット技術部」の誕生とともにロボット工学を専門とする教員が指導を行ない、近畿地区大会で優勝した。平成18年には全国大会ベスト8・デザイン賞獲得（資料5-4-②-6）など、成果も上がっている。

ボランティア活動では、平成13年に学生有志が集まりボランティアグループ「good job」が設立された。現在33名（平成19年度）が地域のイベント参加、福祉施設の行事参加、学内外の清掃活動を続けており、地域から多くの感謝の声を聞いている。平成18年度の新入生のオリエンテーションでは、新入生全員でフェリシモの森植樹活動に参加し、記念植樹を行った。平成19年度も新入生を森林環境保全活動に参加させ、ボランティア活動の重要性や楽しさを実感させている。

毎年10月下旬に開催される本校の高専祭「熊野祭」は前夜祭で始まり、その後2日間、キャンパス内で学生、教員、外部講師、地元グループ、そして近大高専後援会・保護者会等による様々な企画・展示・屋台等が来客を楽しませている（資料5-4-②-7）。「熊野祭」は、学生会メンバーによって構成される熊野祭実行委員会が中心になって、その企画・実施・広報等が学生手作りで行われている。平成18年度は、前夜祭に800名、2日目、3日目には、それぞれ1,000名近くの人たち（学生を除く）が訪れており、地方都市としては一大イベントとなっている。各イベントはクラス、クラブ、工学科、有志などさまざまな枠組みによる集団によって企画、実施されることでさまざまな角度から人間の素養の涵養が図られる。



# ロボコン全国大会 ベスト8 デザイン賞受賞

11月26日(日)東京都両国技館で行われたNHK主催「ロボコン2006」(アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2006)において、近畿大学高専の「Libra(ライブラ)」がベスト8に勝ち進み、デザイン賞を受賞しました。

当日は地区予選を勝ち抜いた強豪24チームが参加し、全国高専62校124チームの頂点を目指して、熱戦が繰り広げられました。今年のテーマは「ふるさと自慢特急便」。高専らしく地域に密着したテーマで、全国の学校と頭脳を競いました。「参加チームは、地域の人たちの協力を得て、あらかじめ自分たちで選定したふるさとの特産品をふるさとオブジェ」を用意します。そして、ロボットが様々な障害を克服しながら、ふるさとオブジェをゴールまで運ぶ速さを競います。まず、ロボットがオブジェを持ったまま深さ6cmのお堀を渡ります。そして、長さ3mのシーソーを渡り、80cmの間隔で立つ5本のポールをスラロームですり抜け、縄跳びを3回以上跳び、オブジェを高さ75cmの台の上に乗せゴールです。赤、青の2チームが対戦し、早くゴールした方が勝ちです。(NHK高専ロボコンホームページより)

近畿大学高専のふるさとオブジェは、「自然の美しさや観光」を表現した「七里御浜の鯉のぼり」をテーマに、地域の皆さんの協力を得て作製した獅子岩や七里御浜でした。本物の七里御浜の砂を使い、熊野市でしか取れない那智黒石も粉末状態のものを用いた精巧なオブジェを制作しました。コメントーターの画家城戸真亜子さんからも「他のチームは土産を届けていたが、近畿大学高専は故郷の風景を届けてくれた」と絶賛されました。また、天秤座を意味するロボット「Libra(ライブラ)」は、ベクトロボトルの圧搾空気を原動力に飛び跳ねる仕組みで、他校が遠隔操縦型の手動ロボットと自律走行型自動ロボットの2種類を用意して競技に挑んでいたのに対して、すべての難関をこの一台でクリアできるという優れたもの。この点が大きく評価されてデザイン賞を獲得しました。

全国大会初戦、相手は長岡高専「はし掛け花火」。「Libra(ライブラ)」チームは緊張しつつもスムーズに課題を制覇、ゴール間際でもたつき、相手チームに追いつかれる場面もありましたが、タッチの差でゴールを決めました。次の秋田高専「ぶりこ」は東北地区大会優勝の強豪チームでした。両チーム譲らずスピード勝負となりましたが、近畿大学高専が上手く交わってゴール。準々決勝戦の福島高専「伸進機観(シンシンキエイ)」戦もスピード勝負が予想されましたが、近畿大学高専チームはシーソーで慎重な操作を余儀なくされ、惜しくも敗れてしまいました。



熊野から応援バスで駆けつけた応援団は、競技中横断幕を揺らし、ミニ鯉のぼりを振って必死の声援を送りました。勝負となりませんが、近畿大学高専が上手く交わってゴール。準々決勝戦の福島高専「伸進機観(シンシンキエイ)」戦もスピード勝負が予想されましたが、近畿大学高専チームはシーソーで慎重な操作を余儀なくされ、惜しくも敗れてしまいました。それに先立つ近畿地区大会は10月22日(日)大阪府四條畷市立市民体育館サン・アリーナ25で行われ7校14チームが参加しました。近畿大学高専からはAチーム「Libra(ライブラ)」と、熊野ひのきで作られた弁当箱と間伐材で作られた割り箸でめはり寿司とさんま寿司をオブジェにしたBチーム「builder(ビルダー)」(デルタ)が参加しました。結果は、Aチーム「Libra(ライブラ)」が準決勝戦まで勝ち上がり技術賞を受賞、審査員の推薦で全国大会に駒を進めました。Bチーム「builder(ビルダー)」(デルタ)も準々決勝に勝ち進むなど健闘を見せました。なお近畿地区大会の優勝は大阪府立高専Bチーム「あーむすとー

ろーんぐ」で、準優勝は同校Aチーム「TASMIC(タスマック)」でした。なお、全国大会の様子はテレビ放送されます。

贈られる4賞の一つデザイン賞を受賞するのも初めてのことです。一昨年の近畿地区大会優勝とあわせて、全国の強豪の仲間入りを果たしつつあると言えます。なお全国大会の優勝チームは詫間電波高専「ARK(アーク)」(ロボコン大賞も受賞)、準優勝は和歌山高専「ウメタロウ」でした。

- ▼12月30日(土) NHK総合 21時15分〜22時24分
  - ▼1月20日(土) BS hi 14時30分〜16時
- Aチーム**  
「Libra(ライブラ)」  
指導教員：源雅彦  
選手：山川正志(5年)、黒山裕紀(4年)、大塚晃生(3年)
- Bチーム**  
「builder(ビルダー)」(デルタ)  
指導教員：仲森昌也  
選手：橋本優哉(3年)、上野雄也(3年)、田辺貴之(2年)
- ピット：西田彬裕(3年)、辻本玄(3年)、阪口雄也(2年)、端地広幸(3年)、南達(2年)、山本裕規(4年)、前地一輝(4年)、岡崎誠至(5年)

資料 5-4-②-7

熊野祭プログラム (初日)

10月28日(土) 駐車場:本校グラウンド 雨天時 (山崎運動公園 JA熊野支店裏 熊野精工)

		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	
体育館		ライブコンサート準備					ムラマサ☆学園祭ライブ 13:30開場 14:00開演 対象:一般・学生			
情報センター	マルチメディア教室				進学説明会 13:10~14:00 対象:中学生					
	CAE教室	インターネット無料体験 対象:一般								
	CAD教室	3次元コンピュータグラフィックス 10:00~12:00 対象:一般								
新館	フリースペース	ビンゴ大会 10:00~12:00 対象:一般・学生		祝賀会			天女座公演 16:00~17:00 対象:一般・学生			
	204教室	ロボットスクール 10:00~12:00 対象:事前募集8名				ロボットスクール 13:00~15:00 対象:事前募集8名				
	205教室	モータースポーツ部バーチャル体験コーナー 9:30~16:00 対象:一般								
	101教室	書道展覧会&書道体験コーナー 対象:一般								
学生食堂(2F和室)							着付け講習会 対象:女子学生 13:00~15:00			
本館	各教室	クラブ展示(イラスト部・気象部・技術部・写真部) 学生企画(フリーマーケット・クラス展示) 実行委員会企画(わんぱく王国)								
	会議室	お茶会 対象:先着250名(無料) 講師:裏千家九鬼久美子								
電気情報工学科		電子工作作成 対象:一般								
		ソーラーカー展示、卒業研究の調査研究展示 対象:一般								
機械システム工学科		オンリーワンマイグラスを作ろう 対象:一般								
建設システム工学科		ペーパークラフト、都市と環境 対象:一般								
屋外	ソーラーカー試走 ロボコンデモンストレーション 10:00~12:00				本校・矢洲中学校 合同吹奏楽演奏 13:00~13:30		ソーラーカー試走 ロボコンデモンストレーション 14:00~16:00			
	木て海で市場 in 熊野祭(地域物産展) 9:30~15:00 対象:一般・学生									
	各種模擬店 実行委員会企画(オープンカフェ・フリーマーケット・スタンプラリーなど)									
グラウンド		災害救助品展示								
武道場		高専カップ柔道大会 対象:小学生								

(出典:平成18年度熊野祭パンフレット)

(分析結果と根拠理由) 本校の教育理念を実現する手段として、日常の生活指導(規則を守る、人間としての礼儀・身だしなみをわきまえる)、寮生活、課外活動の活性化、もの創り活動、ボランティア活動、熊野祭の開催等幅広い活動を行い、これら通じて人間の素養の涵養が図られている。

<専攻科>

観点 5-5-①: 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

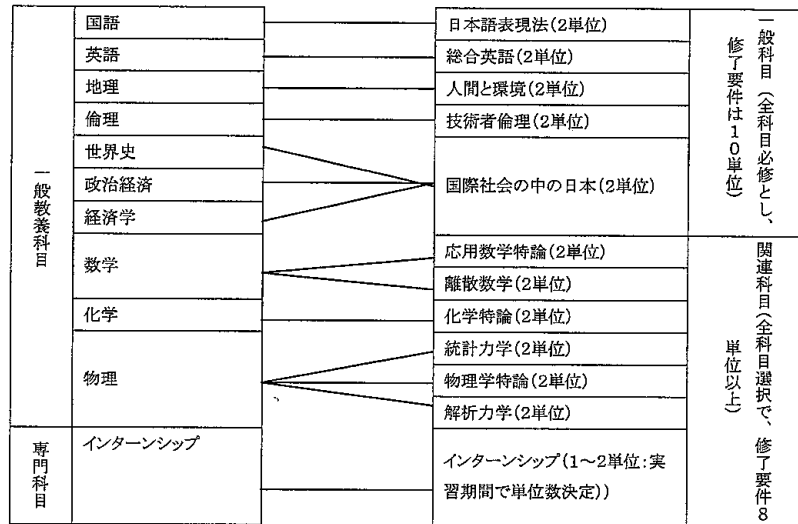
(観点にかかる状況) 専攻科課程の一般教養科目に関しては、(資料5-5-①-1)、専門科目に関しては、(資料5-5-①-2~8)に示す通り、準学士課程履修した専門基礎科目との連続性・展開性を十分に考慮した専攻区分別専門科目の配置となっている。

資料5-5-①-1

専攻科と準学士課程の一般教養科目関連図

準学士課程 (三工学科)

専攻科：生産システム工学専攻



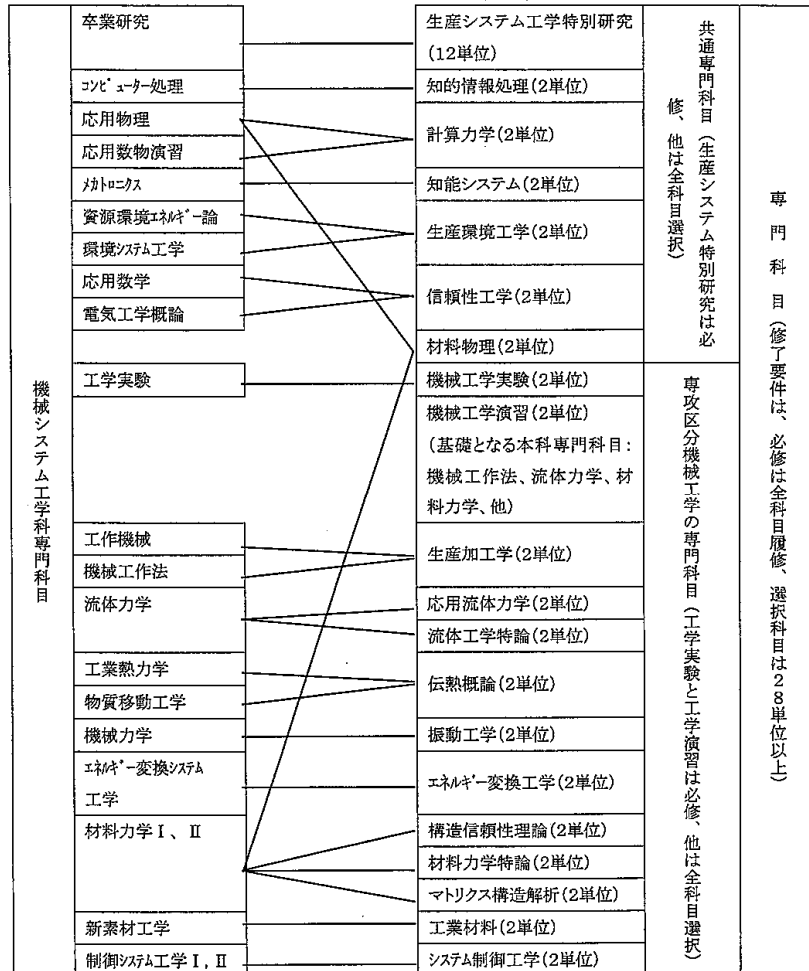
(出典：専攻科設置資料)



資料 5-5-①-2

専攻科と準学士課程の専門科目関連図

準学士課程：機械システム工学科      専攻科：生産システム工学専攻（機械工学）

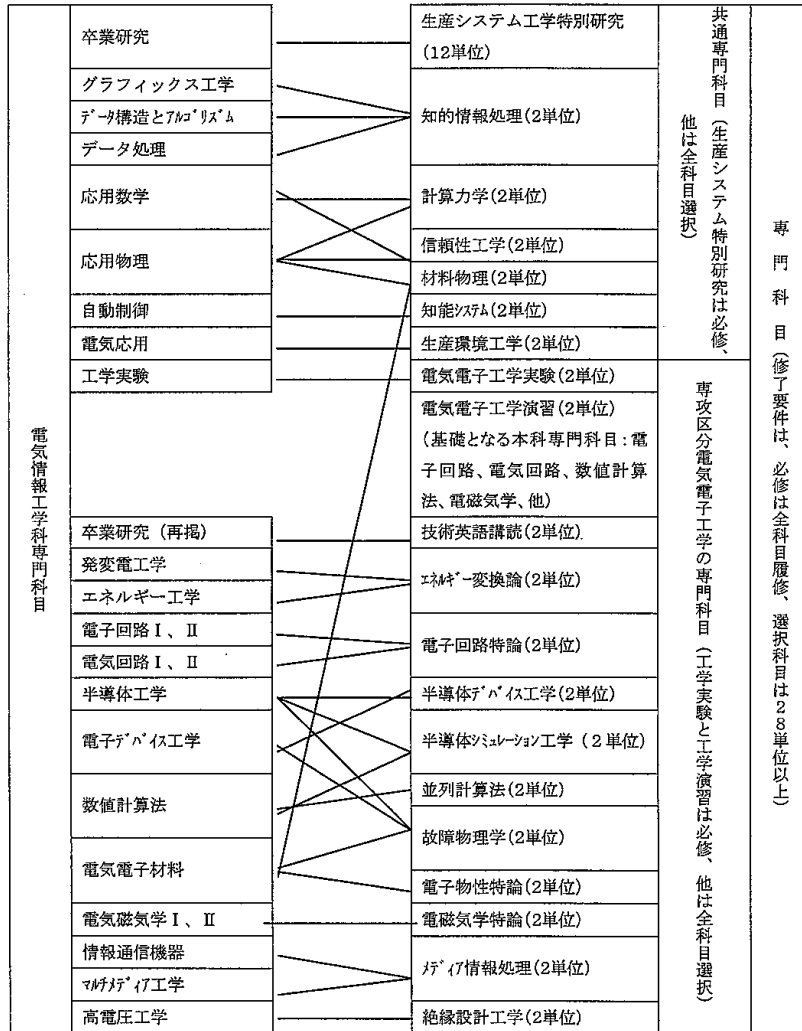


(出典：専攻科設置資料)

資料5-5-①-3

専攻科と準学士課程の専門科目関連図

準学士課程：電気情報工学科 専攻科：生産システム工学専攻（電気電子工学）

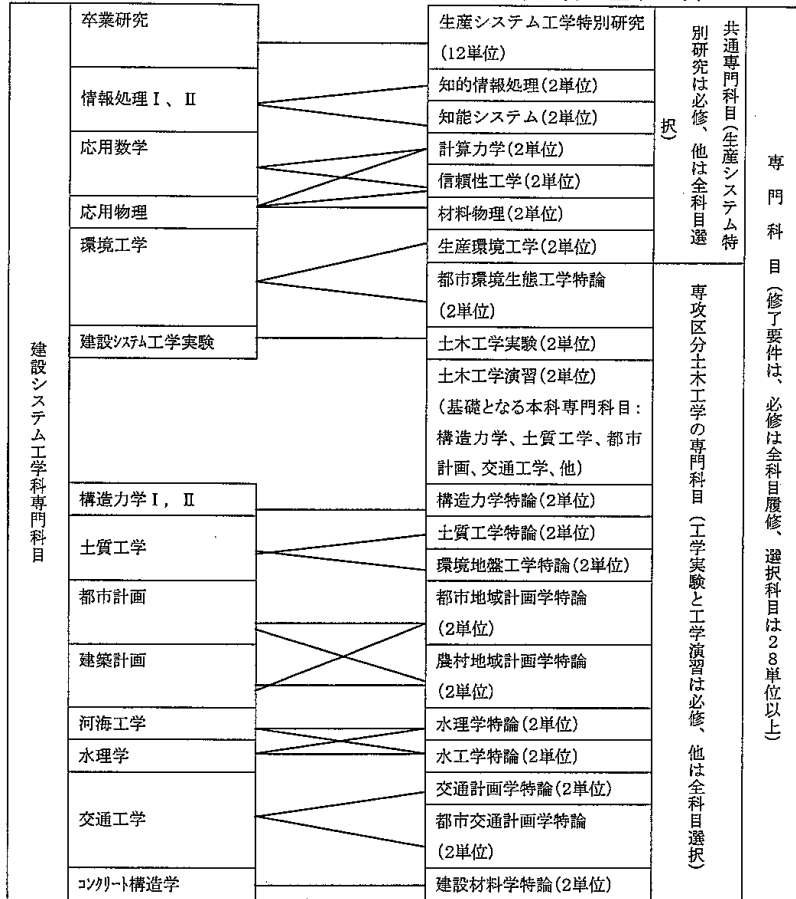


(出典：専攻科設置資料)

資料5-5-①-4

専攻科と準学士課程の専門科目関連図

準学士課程：建設システム工学科 専攻科：生産システム工学専攻（土木工学）



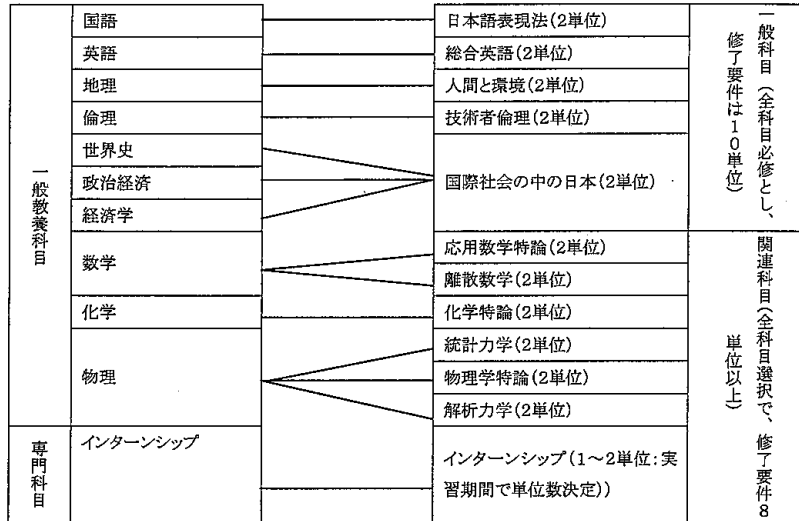
(出典：専攻科設置資料)

資料 5-5-①-5

専攻科と準学士課程の一般教養科目関連図

準学士課程：総合システム工学科

専攻科：生産システム工学専攻



(出典：専攻科設置資料)

資料 5-5-①-6

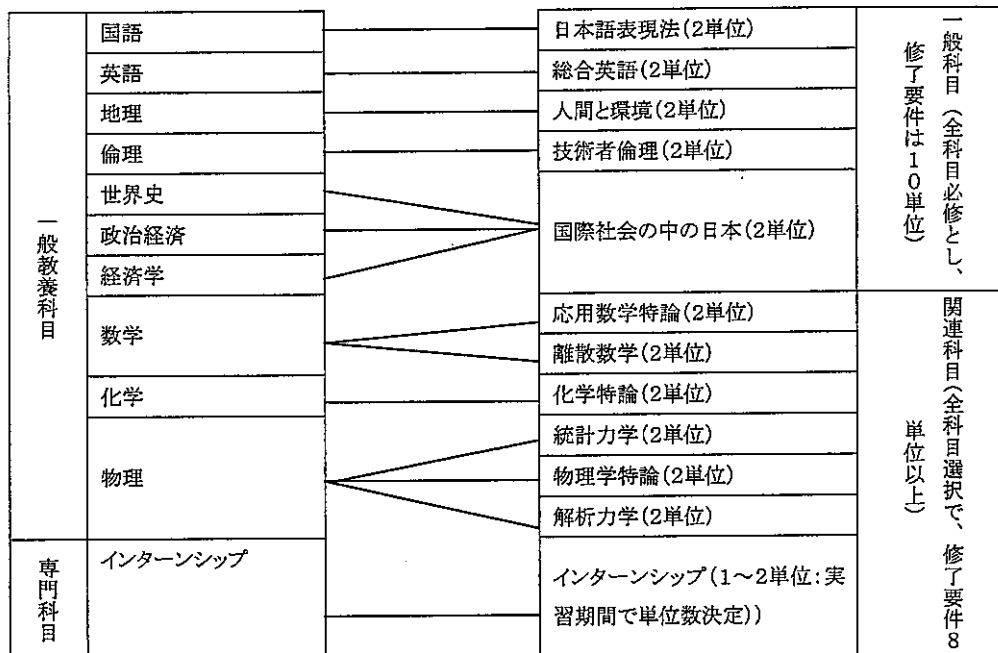
専攻科と準学士課程の専門科目関連図

準学士課程：総合システム工学科

専攻科：生産システム工学専攻

機械システム工学コース

機械工学



資料 5-5-①-7

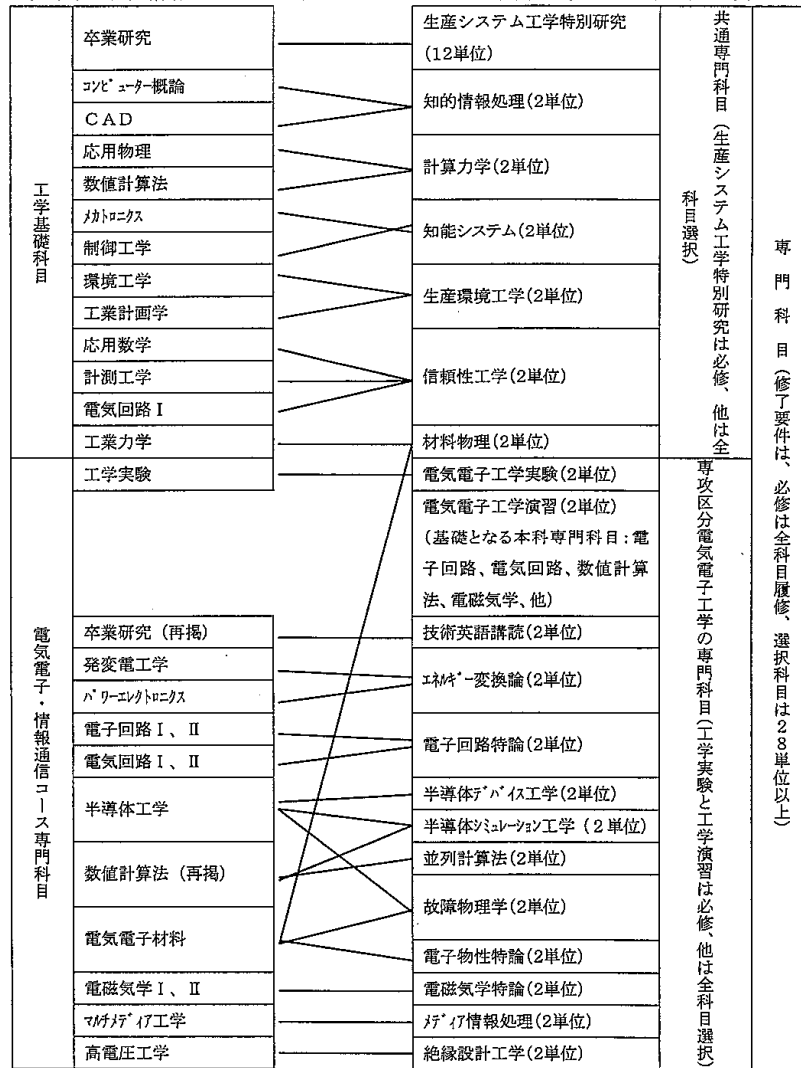
専攻科と準学士課程の専門科目関連図

準学士課程：総合システム工学科

電気電子・情報通信コース

専攻科：生産システム工学専攻

電気電子工学



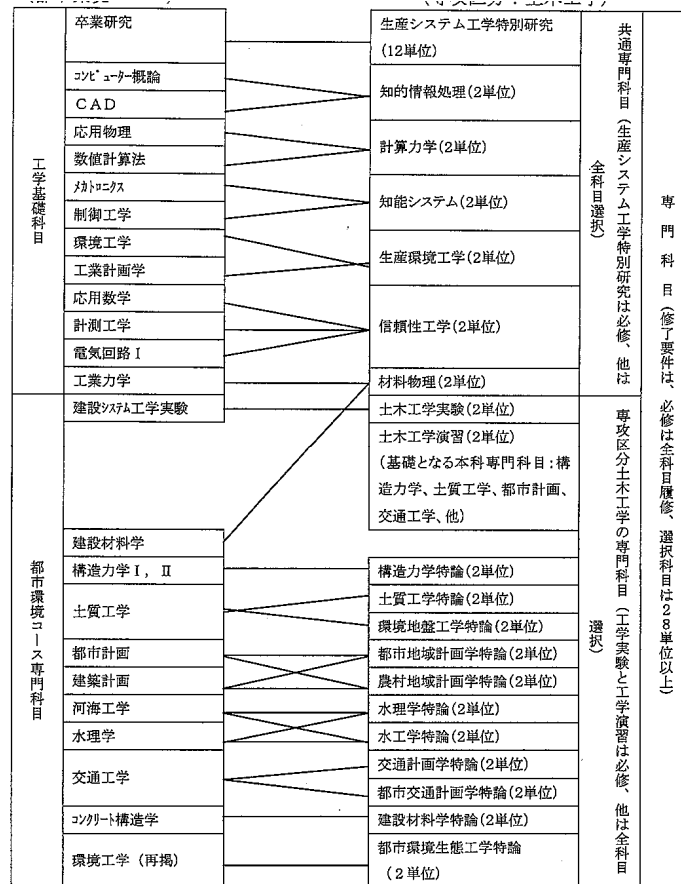
(出典：専攻科設置資料)

資料 5-5-①-8

専攻科と準学士課程の専門科目関連図

準学士課程：総合システム工学科  
都市環境コース

専攻科：生産システム工学専攻  
土木工学



(出典：専攻科設置資料)

(分析結果と根拠理由) 全ての専門コースで準学士課程との整合性に富んだ専攻科教育課程になっている。研究開発能力に富む教授陣を配置したことにより本校専攻科の「教育目的」の達成が容易である。

観点 5-5-②：教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必須科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系的性が確保されているか。また授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点にかかる状況) 本校専攻科は、「社会の技術発展に貢献するための広い視野からもの創りを考え、それぞれの専門分野の高度な知識と幅広い工学的素養をもって、考えたものを実現していく開発型技術者」を育成することを目的としている。この目的達成に向けて一般科目、関連科目、共通専門科目、専攻区分別専門科目に分けて組まれている（資料 5-5-②-1）。それぞれの科目は掲げられた学習・教育目標のいずれかに対応して設定されている。一般科目では1年次に、国

際的視野が涵養される科目（総合英語、日本語的表現、人間と環境）を必修科目とし、2年次には「技術者倫理」や「国際社会の中の日本」などを学ぶことにより、社会人としてまた技術者としてもつべき倫理感を涵養させている。専門分野に関しては、複合的・融合的な専門分野に対応するため応用知識が学ぶことができるように、工学の基礎となる科目については1年次に習得できるよう、応用知識の習得は2年次に行なわれるように配慮している。

資料5-5-②-1

専攻科のカリキュラム編成

専攻科のカリキュラム編成	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任・兼任教員配置						備考
			必修	選択	専任教員配置			兼任教員配置			
					教授	助教授	講師	教授	助教授	講師	
一般科目	日本語表現法	1前	2						1	1	
	総合英語	1前	2					1			
	人間と環境	1後	2					1			
	技術者倫理	2前	2		★						
関連科目	国際社会の中の日本	2後	2					★			
	応用数学特論	1前	2						1		
	解析力学	1前	2	★							
	離散数学	1後	2						★		
	化学特論	1後	2							1	
	統計力学	2前	2						1		
	物理学特論	2後	2								1
共通専門科目	インターンシップ	1	1-2	★							
	生産システム工学特別研究	1,2	12		★						
	知的情報処理	1前	2	★							
	計算力学	1前	2	★							
	生産環境工学	1後	2	★							
	知能システム	2前	2	★							
	信頼性工学	2前	2	★							
機械工学専門科目	材料物理	2後	2							★	
	機械工学実験	1後,2前	2		★			★			
	機械工学演習	2	2		★			★			
	生産加工学	1前	2					1			
	応用流体力学	1前	2					1			
	伝熱概論	1前	2	1							
	構造信頼性理論	1後	2	1							
	振動工学	1後	2	1							
	エネルギー変換工学	1後	2	★							
	流体工学特論	1後	2					★			
	材料力学特論	2前	2	★							
	工業材料	2後	2					★			
	システム制御工学	2後	2	1							
トリプル構造解析	2後	2	★								
電気電子工学専門科目	電気電子工学実験	1後,2前	2		★	★		1			
	電気電子工学演習	2	2		★			1			
	エネルギー変換論	1前	2	1							
	電子回路特論	1前	2	1							
	半導体デバイス工学	1前	2			1					
	電磁気学特論	1後	2					1			
	デジタル情報処理	1後	2	1							
	技術英語講読	1後	2						★		
	総論設計工学	2前	2	★							
	電子物性特論	2前	2			★					
	半導体シミュレーション工学	2後	2					1			
	並列計算法	2後	2	1							
	故障物理学	2後	2	1							
土木工学専門科目	土木工学実験	1後,2前	2		★	★		★			
	土木工学演習	2	2		★	★					
	構造力学特論	1前	2					1			
	土質工学特論	1前	2					1			
	都市地域計画学特論	1前	2	1							
	水理学特論	1後	2	1							
	交通計画学特論	1後	2					1			
	都市環境生態工学特論	2前	2	1							
	都市交通計画学特論	2前	2						★		
	水工学特論	2前	2	★							
	建設材料学特論	2後	2					★			
環境地盤工学特論	2後	2			★						
農村地域計画学特論	2後	2	★								

インテグレーションの単位数は、実習により1乃至2単位とする。37.5時間の実習で2単位とする。

申出に係る専攻科の教育課程の概要

(出典：専攻科設置資料)

(分析結果と根拠理由) 本校専攻科の教育方針に沿った科目、配当、選択科目を配慮した授業科目を配置している。特に、国際的視野や企業倫理を重視する科目を配置しているとともに、専攻科対応教員の経験・知識等、遜色のない布陣となっている。

**観点5-5-③**：学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点にかかる状況） 専攻科では一般科目と特別研究、実験、演習以外は全て選択科目となっており、学生の進路、興味分野に合った履修が可能になっている。現時点では、他高等教育機関との単位互換や授業科目の履修等は、通学できる距離に他の高等教育機関がないため行なわれていない。インターンシップについてはカリキュラム上で単位化され実習期間に応じて1～2単位が与えられる。教員も専攻科生にインターンシップ実施を勧めていることもあり、平成17年度2名、平成18年度は3名がインターンシップを経験した。

（分析結果と根拠理由） 選択科目を中心に配置し、学生の進路と興味にあった履修が可能になっている。インターンシップを実施しており、平成17年度2名、平成18年度は3名の学生が経験した。平成18年度に初めての修了生を輩出したため、問題点を抽出し改善を計画している。

**観点5-6-①**：教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。

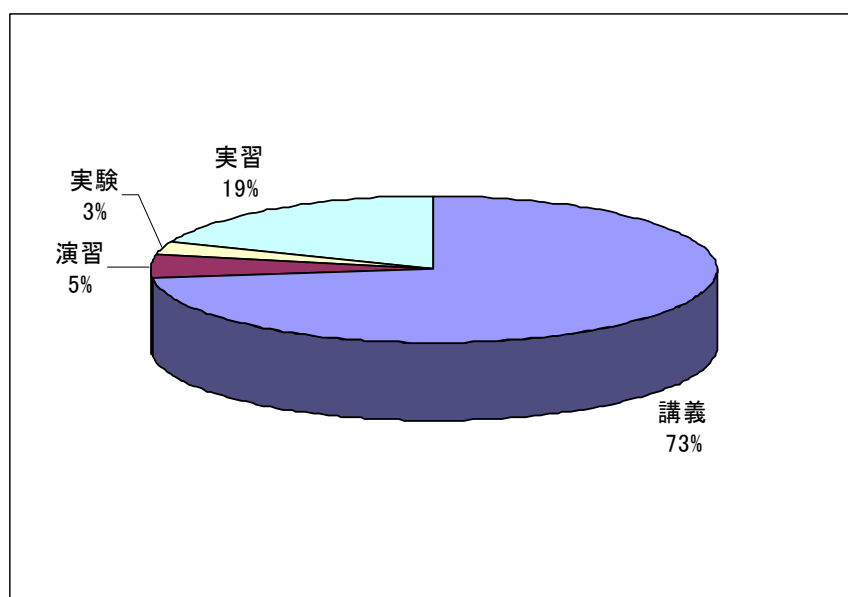
（観点にかかる状況） 専攻科における講義・演習・実験・実習の割合（1、2年、開講科目の単位数合計）が（資料5-6-①-1）に示されている。準学士課程における上記の割合と比較すると、講義の割合が増え演習・実験の比率が減少している。これは専攻科が大学3、4年に相当し、より高度な専門知識の教授が中心となるカリキュラム編成を取っているためである。

「生産システム工学特別研究」は1年次、2年次にそれぞれ6単位、計12単位配当し、準学士課程5年次の卒業研究より継続して研究を行なう学生においては計3年間にわたる研究を経験することになり、4年制大学における卒業研究よりもかなり研究水準の高い成果が期待できる。その課程で、問題解決能力を伸長させ、自らの専門知識で深く探求する素養の養成ができる。



資料 5-6-①-1

専攻科における講義・演習・実験・実習の割合



(出典：専攻科内部資料)

(分析結果と根拠理由) 多くの選択科目の配置、多数の教員が担当する特別研究・実験・演習等幅広い選択と専門知識の修得ができるよう配慮されている。これらの問題点の洗い出しについては第1期生が修了した時点で検討する。

観点 5-6-②：創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点にかかる状況) 平成17年度2名、18年度3名の専攻科1年生が長期休暇を利用してインターンシップに参加した(資料5-6-②-1)。これは、本校の教育目的である「社会に貢献するための広い視野からもの創りを考え・・・」を具現化するために必要なインターンシップであるため、専攻科対応教員が積極的に参加を促したものである。インターンシップ終了後実習日誌および報告書を作成し提出することでカリキュラム上での単位認定を実施している。

資料 5-6-②-1 インターンシップ参加専攻科学生

平成17年度

No.	クラス	実習先	実習期間
1	専1	熊野市役所土木課	7/25~7/29
2	専1	熊野精工	7/25~7/29

平成18年度

No.	クラス	実習先	実習期間
1	専1	電源開発・JPハイテック	7/24~8/4
2	専1	妙野	7/24~7/29
3	専1	京都工芸繊維大学	3/22~3/31

(出典：近畿大学工業高等専門学校教務部資料)

創造性を育む教育方法については、生産システム工学特別研究のみならず、工学実験では自主性を重んじて実践する体制としている。

(分析結果と根拠理由) 本校専攻科の教育目的に添ったインターンシップの活用がなされている。創造性に富む教育方法については、平成19年3月の第1期生の修了結果を見て、分析を行う予定である。

**観点 5-6-③：教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。**

(観点にかかる状況) シラバスには資料 5-6-③-1 に示すように、授業を受けるための基本的事項が詳細に記述され、各授業の初回に学生に配布・説明するとともに、本校ホームページ上に公開されている。到達目標は学校の目的（卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力）との関係が明確に示されている。工学実験や工学演習などは複数の教員で担当するため、担当内容が明確にわかるように工夫されている。

資料 5-6-③-1

専攻科シラバスの例 (電気電子工学実験)

科目名: 電気電子工学実験			
英文名: Electrical and Electronic Eng. Lab.			
担当者: 村松一弘、仲森昌也、大島茂、園井康夫			
専攻科 生産システム工学専攻	学年: 2	専攻区分: 電気電子工学	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 2		
授 業 計 画			
前 期		後 期	
		1.「MPICHを用いた並列計算環境の構築」(村松) ・Linuxの動いているPCがイーサネットに結合されており、その上で簡単な並列計算ができる環境を作る。具体的には、ノード間のメッセージ通信ライブラリMPIの標準的なオープンソースであるMPICHを実装する。  2.「工学シミュレーション実習」(仲森) ・Op-Ampのシミュレーションを行いシミュレーションしたOp-Ampを実際に製作し、実測した回路と比較する。  3.「光変復調の応用」(大島) ・1年次に行なった光の変復調を発展させる。具体的には、高感度化、高速化、光結合の高効率化などを試み、光の変復調について理解を深める。  4.「有限要素法等による空間電位の実習」(園井) ・直流電圧を印加した時の、棒対平板電極間の電界の分布状態を有限要素法等を用いて計算する。	
<p><b>■授業概要</b>                      本実験は電気電子工学に関する実験実習科目であり、上記に述べるいくつかの重要なテーマ・内容を実施し、得られた結果を解析、発展させる。実験・実施内容をまとめた報告書の提出により実験が単なる既知の技術の追体験で終わらないように配慮する。</p> <p><b>■到達目標</b>                      1.【B-1】【B-2】各種の実験・実習を通じて電気電子工学における実学を理解させる。                      2.【B-1】【B-2】将来、エンジニアとして開発・研究に従事するに資する技術力を与える。                      3.【B-1】【B-2】電気電子工学の様々な問題点を解明する能力を培う。</p> <p><b>■授業の進め方</b>                      本実験は第1学年の後期に始まり、第2学年の前期までの1年間にわたって実施する。</p> <p><b>■教科書</b>                      各種実験毎に、必要に応じて資料を与える。</p> <p><b>■参考書</b>                      特に無し</p> <p><b>■関連科目</b>                      本科学実験</p> <p><b>■試験方法</b>                      一つの実験テーマ毎に報告書を作成させる。</p> <p><b>■成績評価基準</b>                      実験・実習時におけるテーマへの関心と態度、実験ごとに提出させるレポート(報告書)により総合的に評価する。60点を合格点とする。</p> <p><b>■教員所在場所</b>                      村松一弘、仲森昌也:情報処理教育センター 管理室 大島茂、園井康夫:電気情報工学科実験棟 教員室</p>			

(出典:平成19年度シラバス)

(分析結果と根拠理由) シラバスが年度開始時に公開、最初の授業で配布、説明されることにより、適切に整備、活用されているといえる。

観点 5-7-①: 専攻科で修学するにふさわしい研究指導 (例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。) が

### 行なわれているか。

(観点にかかる状況) 専攻科生の研究指導に当たる教員には平成12年度以降に採用された産業界での最先端技術者あるいは研究分野の最前線で活躍していた技術者が多いため、本校が目指す開発型技術者の育成にふさわしい陣容である。学生はシラバス(資料5-7-①-1)や教員との面談を通じて特別研究の指導教員を選ぶことができる。専攻科生は専門分野(機械工学、電気電子工学、土木工学)ごとに居室があり、それぞれの研究指導教員のみならず、専門分野のさまざまな教員とコミュニケーションがとれる状態になっている。そのため、幅広い研究指導を受けることができる。

「生産システム工学特別研究」は年3回、専攻科担当教員および学生の前で専攻科生が中間報告のプレゼンテーションを行なっている(資料5-7-①-2)。発表会では専門分野以外の教員からも質問が出され、活発な質疑応答が行われている。なお、最終発表会は一般市民にも公開されている。

資料 5-7-①-1

生産システム工学特別研究シラバスの例（土木工学）

科目名：生産システム工学特別研究(土木工学)			
英文名：Graduation Thesis Work			
担当者：青木繁、表寿一、中西祐啓、林泰弘、中平恭之、松岡良智			
専攻科 生産システム工学専攻	学年： 1	専攻区分： 土木工学	開講期： 通年
科目種別： 必修	単位数： 6		
授 業 計 画			
<p>青木：都市地域計画・農村地域計画、まちづくり・むらづくりの実践的研究を行う。建築物や基盤施設の計画・設計から、地区計画更に地域計画に至るまで、まちづくり・むらづくりの現場、実地での調査を踏まえた研究を行う。統計データ等の文献調査、現地空間実態調査、環境点検及び計画づくりワークショップ等を適宜実施する。この場合、近年重要度が高まって来た、民(住民)産(企業)官(行政)学(大学・高専)連携において、学が地域づくりのリーダーシップを採ることを念頭に置き、その技術的プロセスを修得する。</p> <p>表：国土計画・地域計画・都市計画を行う際、自然にありは環境にやさしい生態学的な観点を重視した計画や設計が必要である。これを行うためには生態学的な基礎知識が必要である。今日人為的に創られた都市や農村景観は生態学的な配慮の欠落した、技術を重んじた設計や計画が施されている。そこで、実際にさまざまな自然・半自然・人工生態系(森林、河川、海洋、都市、農村など)に入り込んで調査・実験をおこない、自然生態系や都市生態系のメカニズムや問題点を理解する。そして、生態系の復元や再生あるいは環境にやさしい都市や農村の創造を目指すための生態学的な環境形成が必要となる技術を修得する。</p> <p>中西：治水や利水上の諸問題を考える場合、河川流量が最も重要な要素となる。河川流量は降水(雨、雪、みぞれなどの総称)と密接に関連しており、降水量の増加とともに河川流量も増大する。降水は、地域によって異なった降り方をする。また、時間的にも確率的に変動する。このような変動特性を実際のデータを解析することによって理解する。また、文献調査やインターネットで調査を行い、レポート作成や議論を通して、専門知識だけでなく、調べる力、まとめる力、発表する力、説得する力をつけさせる。</p> <p>林：廃棄物や建設発生土を地盤材料として再生する技術について研究する。廃棄物の処理や資源の有効活用に対する社会的な要求は年々高くなってきており、廃棄物等を再利用することで、新たな土砂の採掘も抑制でき環境負荷の低減につながる。再生された地盤材料は通常使用される土砂と同等以上の力学特性を有するとともに、環境負荷やコストが抑制したものであるものを目指す。文献調査や実験、レポート作成、議論を通じて数値データの整理、考察の力、調べる力、まとめる力、説得する力など、技術者・研究者としての総合的な能力の基礎を習得する。</p> <p>中平：近年、モータリゼーションの進展により各地で様々な交通問題が発生している。これらの問題を解決するためこれまでは道路の新設や改良といった施策が行われてきたものの、用地確保の困難や環境への影響などから近年ではソフトの施策が行われてきている。このソフトの施策として道路情報を提供を想定した交通流シミュレーションモデルの構築を目指す。そのために、文献調査やインターネットで調査を行い、レポート作成や議論を通じて交通計画の知識を得るだけでなく、経済学やプログラミングなど幅広い基礎的知識の習得を目指す。</p> <p>松岡：既存不適格建築物の補強方法についての実験的研究を行う。既存不適格建築物の耐震補強の方法には、強度抵抗補強や靱性補強および強度性の両補強を組み合わせた方法がある。しかし、工期短縮、騒音および粉塵などの問題を解決する必要がある。そこで、簡易的に取付け可能な補強方法めざす。文献調査、実験、議論・レポート作成等を通して技術者としての能力の基礎を習得する。</p>			
<p><b>■授業概要</b> 各分野の調査・実験等を基に研究を行い、その成果を修了論文としてまとめることによって自主的研究遂行能力を養成する。</p> <p><b>■到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [B-2]研究の遂行を通して建設・環境に関する高度な専門知識と調査・実験遂行技術を習得する。</li> <li>2. [B-2]自主的に調査や実験などを立案、計画、管理できる能力を育成する。</li> <li>3. [B-2]習得した知識をもとに創造性を発揮させる。</li> <li>4. [E-1]論文作成や研究発表を通して文章表現力、プレゼンテーション等のコミュニケーション能力を育成する。</li> </ol> <p><b>■授業の進め方</b> 学生各自が研究テーマを持ち、各指導教員の指導のもとで研究を行う。 修了研究テーマに関して研究計画作成、文献調査、資料収集、調査・実験準備、調査・実験遂行、考察を行い、修了論文としてまとめ各自発表する。</p> <p><b>■教科書</b> 教員毎に指示。</p> <p><b>■参考書</b> 教員毎に指示。</p> <p><b>■関連科目</b> 各教員(各専門分野)の講義、土木工学実験。</p> <p><b>■試験方法</b> 修了研究発表会での審査及び修了研究論文の審査</p> <p><b>■成績評価基準</b> 出席・研究態度20%、修了研究論文50%、最終発表30%として担当指導教員が合否判定する。 80点以上「優」、70点以上～80点未満「良」、60点以上～70点未満「可」、60点未満「不可」</p> <p><b>■教員所在場所</b> 青木繁、表寿一：建設システム工学科実験棟 建築デザイン室 中西祐啓：建設システム工学科実験棟 教員室 林泰弘：本館2階 教務部、建設システム工学科実験棟 教員室 中平恭之：本館2階 入試部 松岡良智：情報処理教育センター 教員室</p>			

(出典：平成 19 年度シラバス)

資料5-7-①-2

生産システム工学特別研究中間発表会

2006年度 専攻科生第2回卒研中間発表会

下記の要領で、専攻科生第2回卒研中間発表会を行います。

日時：2006年8月25日（金）13:00～

場所：情報センターMM教室

発表時間：専攻科1年（8分＝発表6分＋質疑応答2分）

専攻科2年（17分＝発表12分＋質疑応答5分）

プログラム

時間	タイトル	発表者	指導教官
13:00-13:08	条件付き期待値原理に基づく理想的な重点サンプリング密度関数の構成法	梅沢 直樹	奥田先生
13:08-13:16	現代制御理論による倒立振り子台車制御の研究	丸山 信太郎	源先生
13:16-13:24	界面活性剤水溶液流れの熱伝達促進に関する実験的研究	山本 大純	荒賀先生
	中止		
13:24-13:32	モンテカルロ法によるイオン注入シミュレーションの研究	洞 健	西先生
13:32-13:40	D/A コンバータの設計・製作に関する研究	藤沼 武	仲森先生
13:40-13:48	アメダス雨量観測データの年最大値系列における尤度の比較	峠坂 光彦	中西祐先生
13:48-13:56	歴史的資産を活用した景観まちづくり －先進事例地の現地調査報告－	外山 良太	青木先生
13:56-14:04	廃棄物溶融スラグを混入した流動化処理土の力学特性	中山 亜紀	林先生
14:04-14:12	小領域を対象とした治水計画に用いる雨量データの取り扱いについて	山田 幸司	中西祐先生
14:12-14:29	3次元デバイス・シミュレーションを用いたFin型FETの最適化設計	寺地 晃正	嶋野先生
14:29-14:46	VTCMOS技術を適用したSOI-FETの適用検討	的場 裕平	嶋野先生
14:46-	講評		西先生

（出典：専攻科内部資料）

（分析結果と根拠理由） 研究テーマは、シラバスと教員の面談で決定されるため、本人の興味や希望が反映されやすい。専攻科生用居室の設置、3ヶ月ごとの中間発表会の実施等により、専攻科担当教員が専攻科生に係わる体制ができている。

観点5-8-①：成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知され

ているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点にかかる状況) 専攻科の修了要件、評価については学生便覧の専攻科履修ガイド(資料5-8-①-1)とシラバスによって周知されている。成績評価、単位認定はシラバスに従って科目担当者が行い、修了認定は専攻科を担当する教員全員が参加する修了認定会議にて行う。

資料5-8-①-1

専攻科履修ガイド

3. 専攻科履修ガイド

1. 修業年限

専攻科の修業年限は2年で、4年を超えて在学することはできません。また休学期間は通算して2年を超えることはできません。

2. 生産システム工学専攻の構成

専攻科に「生産システム工学専攻」が設置され、その中に機械工学専攻、電気電子工学専攻、土木工学専攻の3つの専攻区分があります。これは大学評価・学位授与機構の試験を受けて取得する「学士」の専攻区分にそれぞれ対応しています。一般科目、関連科目、共通専門科目は専攻区分にかかわらずいっしょに授業を受けますが、その他の専門科目は専攻区分ごとに開設されます。

3. 授業時間と単位

専攻科は大学と同じように単位制をとっています。1単位時間を45分として次のように計算し科目によって異なります。

講義科目	15単位時間の授業を1単位とする。
演習科目	30単位時間の授業を1単位とする。
実験演習科目	45単位時間の授業を1単位とする。

毎日の授業時間は本科と同じです。

4. 専攻科修了要件

専攻科の教育課程は、一般科目、関連科目、共通専門科目、専攻区分別専門科目からなり、必修科目と選択科目があります。専攻科を修了するには、2年以上在学しこれらの中から62単位以上を修得しなければなりません。なお授業科目の履修に当たっては「科目履修届」を所定の期日までに教務部に提出して下さい。

5. 試験

(1) 定期試験 学期ごとに、前期考査(9月)、後期考査(1年次2月、2年次

1月)の年2回行います。

(2) 追試験 やむを得ない事情で定期試験を欠席した者は追試験を受けることができます。公認欠席の場合は100%、その他(病欠など)の場合は80%で評価します。定期試験には万全の体調で臨んで下さい。

(3) 合格基準と再試験 JABEE教育プログラムに対応して60点が合格基準です。評価が60点未満の場合再試験を受けることができます。再試験に合格した場合の評価は60点です。

6. 評価

(1) 評価の方法 学年末に試験成績及び学習成績(平常点)を総合して、学業成績評価を行います。ただし、各科目の年間欠席時数が、1単位について3を超えるものはその科目の学業成績は不認定となります。

(2) 評価区分 学業成績は全ての科目に対して100点法によって評価し、60点未満は不合格とします。学業成績は、次の区分によって、優・良・可・不可とします。

優	80点以上
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満
不可	60点未満

生産システム工学特別研究、インターンシップについても、上記区分によって成績評価を行います。

7. 学士の取得

学士を取得するには、大学評価・学位授与機構の審査を受ける必要があります。

(1) 申請 2年次の10月に申請します。4月申請もできます。申請提出物は学位授与申請書、単位修得証明書、学修成果レポート(特別研究論文)、その他です。

(2) 審査

次の審査が行われます。

- ・修得単位の審査 「基本基準」と「専攻基準」の両方を満たしていれば「可」。
- ・学修成果・試験の審査 提出された学修成果のテーマ設定が専攻に関するものとして適切か、その内容が学士の水準に達しているかを審査。提出された学修成果

(出典：平成19年度学生便覧)

(分析結果と根拠理由) 全員に配布する学生便覧、シラバスによって成績評価、単位認定、修了認定が明確に示されており、修了の判定は判定会議によることで適切に実施されている。

(2) 優れた点および改善を要する点

(優れた点) 準学士課程においては、教育の目的、学生の要望を取り入れてカリキュラムが編成されており、「落ちこぼれを作らない」指導方針に従って、習熟度別クラス編成を実施して学生のそれぞれの学力に合った授業を実施している。教養セミナー、工場見学、課外活動(スポーツ、ものづくり、ボランティアなど)を通じて人間の素養の涵養がなされている。

専攻科課程は、準学士課程からの連携と専攻科課程内での科目配置が適切に設定されている。また、専攻科は学生数が少なく正に少人数授業できめ細やかな教育が実現されている点が優れている。

(改善を要する点) 該当なし。

### (3) 基準5の自己評価の概要

平成12年度から平成16年度までは、機械システム工学科、電気情報工学科、建設システム工学科の三工学科体制であったが、複合・融合的な分野への対応、中学卒業時点で適性に合った工学分野を選択する難しさを回避するなどの目的で平成17年度より総合システム工学科に改組した。総合システム工学科では第3学年より機械システムコース、電気電子コース、情報コミュニケーションコース、都市環境コース、建築デザインコースの5コースに分かれて専門教育を行う。この改組によって、低学年時には広く工学の基礎を学べるとともに、選択できる専門分野が拡大したため、社会や学生のニーズが取り入れやすくなった。

本校は特色を持つ学生を受け入れているため入学時の学力の幅が大きいのが特徴であるが、数学・英語などの習熟度別クラス編成、再試験システムによっておちこぼれを防止している。また、選択科目や土曜日補講の実施によって必修科目だけでは充足できない分野への対応、資格取得や進学者希望者への補充授業を実施している。ノートパソコンの無償貸与、情報処理教育センターの設備充実、校内でのLAN設備などによって、情報処理機器の利用が促進され、学習効率が向上している。

シラバスは最初の授業で学生に配布して説明を行っている。この中で「卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力」に対応した到達目標を明示し、学年末に自己評価させることで、学習の目的を明確にしている。

本校の教育において人格教育は重要な部分である。平成12年度からの改革では、特別活動（教養セミナー）や工場（現場）見学などの教育課程、規律などの生活指導、寮生活、課外活動（スポーツ、ものづくり、ボランティア、高専祭など）などに力を入れ、幅広い面で人間の素養の涵養を図っている。

専攻科課程は平成17年度に設置され、準学士課程との体系性が十分に考慮された教育課程となっている。一般科目では社会人や技術者として守るべき倫理観の涵養を目指した科目が配置され、共通専門科目では複合・融合的な知識を学ぶことができる。専門科目では、準学士課程で習得した知識を発展させるための科目が配置されている。科目は選択科目が中心であり、学生の進路や興味にあった履修が可能になっている。特別研究は2年間にわたり実施され、年3回の中間発表を行っている。中間発表は全教員、学生に公開されており、幅広く活発な議論が行われている。

進級、卒業・修了の判定は全専任教員が参加する卒業（修了）判定会議で判定されるが、近年問題となっている不登校の問題にも配慮している。

以上のように、本校の教育内容及び方法は本校の目的を達成するのに適切なものとなっている。



## 基準6 教育の成果

## (1) 観点ごとの自己評価

観点6-1-①：高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組がおこなわれているか。

（観点にかかる状況） 本校の教育課程における学習・教育目標と科目との対応は基準5の科目系統図（資料5-1-①-14～26）に示されている。また科目ごとのシラバス（資料5-2-②-1～3）には到達目標が設定されそれぞれ対応する卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力が記号で併記されている。また成績評価基準も明確に示されている。科目担当教員は学生がこの到達目標を達成できたかを評価して目標達成者には単位を認定している。平成18年度はシラバス記載の到達目標に不備がみられたため、再度設定し直しこれに基づく成績評価を実施するよう教務部からの指示（資料6-1-①-1）があった。

卒業または修了認定はこの単位認定状況を資料として学年会議，学科会議，全体会議の審議を経て決定される。学年会議および全体会議は学科横断的なメンバーで、全体会議は学校長を含め全専任教員で構成されており、他学科の教員の意見も反映される。従って卒業または修了を認定された者は卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力をすべて達成したことになり、卒業・修了状況によって学生の達成度を把握・評価している。

## 資料6-1-①-1

教員各位殿

平成19年1月25日  
教務主事 嶋野彰夫

## 達成目標の再設定とこれに基づく成績評価の実施について

科目ごとの達成目標をシラバスに記載して頂いていますが、中には、具体性が乏しいものや評価が難しいものも見られます。また、ひとつしか目標がない科目では、その項目だけで判断すると安易に「達成できていない」という評価になる恐れがあります。また学習・教育目標の達成度を科目ごとに学生自身に評価させる必要があります。

そこで以下の方針に従って、達成目標を再度設定して下さい。

1. 達成目標は具体的に箇条書きにする
2. 達成目標は3～5項目とする
3. 達成目標は学習・教育目標とリンクするように設定し、対応する記号を始めに明記する
4. 既にシラバスに記載されている内容からはずれないものとする

スケジュールは以下のように考えています。

- 1月27日までに各教員に達成目標を作成し、サイボーズで提出。
  - 2月2日までに5年生、専攻科2年生にアンケート実施。
  - 3月上旬に1～4年生、専攻科1年生にアンケート実施。
- 当然ですが、学年末成績は科目ごとに設定した「達成目標」をクリアしているかによって評価して下さい。

（出典：教務部からの通達資料）

(分析結果と根拠理由) 卒業(修了)時に身に付けるべき学力・能力に対応した到達目標に基づき単位認定しており、卒業(修了)認定された学生は目標が達成されたと判断し、達成状況の把握・評価を行っている。

**観点6-1-②**:各学年や卒業(修了)時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業(修了)時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の実績や効果が上がっているか。

(観点にかかる状況) 本校においては、本校が目標とする技術者を育成するために、教育に対して様々な学生支援を行っている。たとえば、学業不振による留年者や退学者を減らすために、習熟度別のクラス編成の授業を行っている。学校生活に対する不適応学生の対策としては、臨床心理学博士であるカウンセリングの教員を配置し、1週間に1度は相談を受けられる体制を作っている。また、成績が合格基準に満たない学生に対しては定期試験ごと(前期中間、前期期末、後期中間、後期期末試験の計4回)に補講および再試験を実施し、学生の授業理解不足による単位不認定を防ぐ方策を講じている。学生は担任の指導の下、再試験確認表(資料6-1-②-1)を作成して不合格科目を認識し自ら再試験合格に向けて行動するシステムを取っている。このように教員は学生に対して落ちこぼれを作らない指導を丁寧に行い、また学生は及第点を取るよう自らの努力している。それぞれの詳細として、在学状況については(資料6-1-②-2)、退学者の状況については(資料6-1-②-3)、留年者の状況については(資料6-1-②-4)に示す。

資料 6 - 1 - ② - 1 再試験確認表

担任印

学級担任 \_\_\_\_\_

記入日 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

提出日 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

**再 試 験 確 認 表 ( 考 査 )**

工学科 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 組 \_\_\_\_\_ 番 名前 \_\_\_\_\_

No.	科目名	担当者名	再試前の成績	合格月日	再試終了確認印
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					

※ 必ず、ボールペンにて記入の上、一部は担任に提出のこと。  
 すべての科目が終了次第、担任により押印の後、教務部に提出のこと。教務部への提出がない場合は、成績の変更は行われないので注意すること。  
 再試合合格点は 50 点とする。

(出典：近畿大学工業高等専門学校教務部資料)

資料6-1-②-2 在学状況

平成14年度から平成18年度(5年間)

平成14年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
機械システム工学科	51	2	53	51	0	51	25	0	25	61	0	61	39	0	39	227	2	229
電気情報工学科	37	19	56	53	3	58	32	5	38	42	0	53	39	0	39	217	27	244
建設システム工学科	51	3	54	46	2	48	22	0	22	31	0	31	46	0	46	196	5	201
合計	139	24	163	150	5	157	79	5	85	143	0	145	124	0	124	640	34	674

平成15年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
機械システム工学科	53	0	54	47	2	49	52	0	52	47	0	47	60	0	60	259	2	261
電気情報工学科	72	8	78	45	19	64	56	5	61	48	6	54	52	0	52	273	38	311
建設システム工学科	33	1	31	45	3	48	42	2	44	38	0	38	31	0	31	189	6	195
合計	158	9	167	137	24	161	150	7	157	133	6	139	143	0	143	721	46	767

平成16年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
機械システム工学科	43	0	43	54	0	54	48	2	50	84	0	84	46	0	46	275	2	277
電気情報工学科	82	15	97	70	8	78	44	19	63	81	6	87	46	5	51	323	53	376
建設システム工学科	28	3	31	30	1	31	43	3	46	61	2	63	36	0	36	198	9	207
合計	153	18	171	154	9	163	135	24	159	226	8	234	128	5	133	796	64	860

平成17年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
本科																		
総合システム工学科	130	12	142	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	130	12	142
機械システム工学科	/	/	/	45	0	45	53	0	53	75	2	77	83	0	83	256	2	258
電気情報工学科	/	/	/	75	14	89	69	8	77	79	9	88	78	6	84	301	37	338
建設システム工学科	/	/	/	15	3	18	31	1	32	56	2	58	58	2	60	160	8	168
合計	130	12	142	135	17	152	153	9	162	210	13	223	219	8	227	847	59	906
専攻科																		
生産システム工学専攻	4	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	4	0	4

平成18年度

本科	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計

機械システム工学科							46	0	46	57	0	57	74	2	76	177	2	179
電気情報工学科							74	15	89	85	3	88	80	9	89	239	27	266
建設システム工学科							14	3	17	43	0	43	54	2	56	111	5	116
合計	140	14	154	126	13	139	134	18	152	185	3	188	208	13	221	793	61	854
専攻科																		
生産システム工学専攻	9	1	10	4	0	4										13	1	14

(出典：5月1日付文科省届け出書類による)

資料6-1-②-3 退学者の状況

平成14年度から平成18年度(5年間)

平成14年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率
機械システム工学科	53		23.8%	51		00.0%	25		28.0%	61		11.6%	39		00.0%	229		52.2%
電気情報工学科	56		00.0%	58		00.0%	38		12.6%	53		11.9%	39		12.6%	244		31.2%
建設システム工学科	54		11.9%	48		24.2%	22		00.0%	31		00.0%	46		00.0%	201		31.5%
合計	163		31.8%	157		21.3%	85		33.5%	145		21.4%	124		10.8%	674		111.6%

平成15年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率
機械システム工学科	54		00.0%	49		00.0%	52		35.8%	47		12.1%	60		00.0%	261		41.5%
電気情報工学科	78		11.3%	64		11.6%	61		34.9%	54		35.6%	52		00.0%	311		82.6%
建設システム工学科	31		26.5%	48		00.0%	44		49.1%	38		25.3%	31		00.0%	195		84.1%
合計	167		31.8%	161		10.6%	157		106.4%	139		64.3%	143		00.0%	767		202.6%

平成16年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率
機械システム工学科	43	6	14%	54	1	1.8%	50	3	6.0%	84	0	0.0%	46	0	0.0%	277	10	3.6%
電気情報工学科	97	4	4.1%	78	1	1.3%	63	13	21%	87	3	3.4%	51	1	2.0%	376	22	5.9%
建設システム工学科	32	11	35%	32	0	0.0%	46	4	8.7%	63	3	4.8%	36	0	0.0%	207	18	8.7%
合計	172	21	12%	164	2	1.2%	159	20	13%	234	6	2.5%	133	1	0.8%	862	50	5.8%

平成 17 年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計			
	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	
総合システム工学科	142	3	2.1%												142	3	2.1%		
機械システム工学科				45	0	0.0%	53	7	13.2%	77	1	1.3%	83	1	1.2%	258	9	3.5%	
電気情報工学科				89	0	0.0%	77	10	13.0%	88	3	3.4%	84	1	1.2%	338	14	4.1%	
建設システム工学科				18	0	0.0%	32	4	12.5%	58	1	1.7%	60	1	1.7%	168	6	3.6%	
合計	142	3	2.1%	152	0	0.0%	162	21	13.0%	223	5	2.2%	227	3	1.3%	906	32	3.5%	
専攻科																			
生産システム工学専攻	4	0	0.0%															4	0.0%

平成 18 年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計			
	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	
総合システム工学科	154	10	6.5%	139	4	2.9%									293	14	4.8%		
機械システム工学科							46	4	8.7%	57	1	1.8%	76	1	1.3%	179	6	3.4%	
電気情報工学科							89	10	1.2%	88	3	3.4%	89	2	2.2%	266	15	5.6%	
建設システム工学科							17	2	1.8%	43	3	7.0%	56	1	1.8%	116	6	5.2%	
合計	154	10	6.5%	139	4	2.9%	152	16	10.5%	188	7	3.7%	221	4	1.8%	854	41	4.8%	
専攻科																			
生産システム工学専攻	10	1	10.0%	4	0	0.0%												14	7.1%

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料 6-1-②-4 留年者の状況

平成 14 年度から平成 18 年度 (5 年間)

平成 14 年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率
機械システム工学科	53	0	0.0%	51	0	0.0%	25	0	0.0%	61	0	0.0%	39	0	0.0%	229	0	0.0%
電気情報工学科	56	0	0.0%	58	1	1.7%	38	0	0.0%	53	0	0.0%	39	0	0.0%	244	1	0.4%
建設システム工学科	54	0	0.0%	48	0	0.0%	22	0	0.0%	31	0	0.0%	46	0	0.0%	201	0	0.0%
合計	163	0	0.0%	157	1	0.6%	85	0	0.0%	145	0	0.0%	124	0	0.0%	674	1	0.1%

平成 15 年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率
機械システム工学科	54		0.0%	49		0.0%	52		0.0%	47		0.0%	60		0.0%	261		0.0%
電気情報工学科	78		11.3%	64		0.0%	61		0.0%	54		11.9%	52		11.9%	311		31.0%
建設システム工学科	31		13.2%	48		0.0%	44		0.0%	38		0.0%	31		0.0%	195		10.5%
合計	167		21.2%	161		0.0%	157		0.0%	139		10.7%	143		10.7%	767		40.5%

平成 16 年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率
機械システム工学科	43		0.0%	54		0.0%	50		0.0%	84		0.0%	46		0.0%	277		0.0%
電気情報工学科	97		0.0%	78		0.0%	63		0.0%	87		0.0%	51		0.0%	376		0.0%
建設システム工学科	32		0.0%	32		0.0%	46		0.0%	63		0.0%	36		0.0%	207		0.0%
合計	172		0.0%	164		0.0%	159		0.0%	234		0.0%	133		0.0%	862		0.0%

平成 17 年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率
総合システム工学科	142	0	0.0%													142	0	0.0%
機械システム工学科				45	0	0.0%	53	0	0.0%	77	0	0.0%	83	0	0.0%	258	0	0.0%
電気情報工学科				89	1	1.1%	77	0	0.0%	88	0	0.0%	84	3	3.6%	338	4	1.2%
建設システム工学科				18	0	0.0%	32	0	0.0%	58	1	1.7%	60	0	0.0%	168	1	0.6%
合計	142	0	0.0%	152	1	0.6%	162	0	0.0%	223	1	0.4%	227	3	1.3%	906	5	0.6%
専攻科																		
生産システム工学専攻	4	0	0.0%													4	0	0.0%

平成 18 年度																		
	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率	在学者	留年者	率
総合システム工学科	154	3	1.9%	139	2	1.4%									293	5	1.7%	
機械システム工学科							46	1	2.2%	57	0	0.0%	76	0	0.0%	179	1	0.6%
電気情報工学科							89	1	1.1%	88	0	0.0%	89	2	2.2%	266	3	1.1%
建設システム工学科							17	0	0.0%	43	0	0.0%	56	1	1.8%	116	1	0.9%
合計	154	3	1.9%	139	2	1.4%	152	2	1.3%	188	0	0.0%	221	3	1.3%	854	10	1.2%
専攻科																		
生産システム工学専攻	10	0	0.0%	4	0	0.0%	/	/	/	/	/	/	/	/	/	14	0	0.0%

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

本校では様々な資格取得を奨励している。資格取得は、技術者として必要不可欠であるというだけでなく、本校において技術者となるための教育を受けるモチベーションを高めるという意味もある。そのための支援として各種受験対策講習会の実施等も行っている。各種資格試験の受験者/合格者数を資料 6-1-②-5～資料 6-1-②-8 に示す。英語に関して、英検に加えて平成 18 年度からは TOEIC を学内で受験できるようにした。さらに、2 年生から 4 年生全員が TOEIC Bridge を定期考査の際に受験している。このようにして本校ではネイティブスピーカー教員の専任採用と相まって学生の英語によるコミュニケーション能力の育成に力を注いでいる。

資料 6-1-②-5 英検資料

平成 18 年度 英検合格状況

第 1 回 準 2 級 2 名合格

第 2 回 準 2 級 1 名合格

第 3 回 準 2 級 1 名合格、2 級 1 名と準 2 級 1 名が 1 次試験のみ合格

(出典：近畿大学工業高等専門学校平成 18 年度内部資料)



資料 6-1-②-6 漢字検定資料

団体別結果表		漢検					
平成18年度 第3回		級	申込者	欠席者	受検者	合格者	合格率
検定日	平成19年 2月10日	1級					
会場番号	23C0095	準1級					
団体名	近畿大学工業高等専門学校	2級	5		5	1	20.0
合格証書の日付	平成19年 3月 6日	準2級	8	1	7	4	57.1
今回の合格点		3級	3	2	1		0.0
1級	140点以上	4級					
準1級	140点以上	5級					
2級	155点以上	6級					
準2級	140点以上	7級					
3級	140点以上	8級	4	4			0.0
4級	140点以上	9級					
		10級					
		合計	20	7	13	5	38.5

(出典：近畿大学工業高等専門学校平成18年度内部資料)

資料 6-1-②-7 危険物取扱者資料

様式 S-19  
危険物取扱者試験

(財) 消防試験研究センター 和歌山県支部  
H19.02.13

団体別受験者名簿

試験実施日 : 平成 19年 2月 4日(日) 団体コード : 073  
 実施回 : 第 3回 団体名 : 近畿大学工業高等専門学校  
 受験申請者数 : 96名

○合計

試験種別	申請者数	合格者数	不合格者数	欠席者数	合格率
甲種	0	0	0	0	0.00%
乙種第1類	5	3	2	0	60.00%
乙種第2類	1	0	1	0	0.00%
乙種第3類	3	3	0	0	100.00%
乙種第4類	59	21	37	1	36.20%
乙種第5類	3	0	3	0	0.00%
乙種第6類	8	7	1	0	87.50%
丙種	17	4	12	1	25.00%
団体計	96	38	56	2	40.42%

(出典：近畿大学工業高等専門学校平成18年度内部資料)

資料 6-1-②-8

電気情報工学科資格取得状況 (合格者数/受験者数)

	H13	H14	H15	H16	H17	H18
電気主任技術者	0/10	1/10	0/13	0/8	—	0/1
電気工事士	7/15	6/13	11/30	6/15	—	筆記 15/16 実技 7/11
工事担任者	4/10	5/15	3/10	2/9	—	0/2
電気通信主任技術者	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
基本情報技術者	0/0	1/10	3/10	1/5	—	—
他(シスアド)	1/10	3/10	2/5	1/5	—	—
卒業生	29	38	52	50	84	86

(出典：近畿大学工業高等専門学校平成18年度内部資料)

卒業研究について、平成18年度の各学科の卒業研究テーマの一覧を(資料6-1-②-9)、(資料6-1-②-10)、(資料6-1-②-11)に示す。研究テーマは産業界で先端技術と位置づけられる研究テーマや地域貢献を目指した産官学共同研究テーマが非常に多くなっている。さらに学外においても、卒業研究学生による各種学会発表を積極的に行っており、平成18および19年度の発表リストを(資料6-1-②-12)に示す。学会発表は単に研究成果を学外に公表する目的のためだけに参加するのではなく、学生の卒業研究に対する理解度とプレゼンテーションやコミュニケーション技術の向上に役立つと考えられる。卒業研究成果は高専教育の集大成と考えられ学会発表できる水準の成果を上げたということは本校の学習・教育目標がほぼ達成されたと判断できる。

資料 6-1-②-9 機械システム工学科卒業研究発表会資料

平成18年度 近畿大学工業高等専門学校 機械システム工学科 卒業研究発表会

2007.2.1 於：新館フリース

予定時刻	内容（発表課題名・学生名）	指導教員
9:30	[ 開会 ] 開会の辞（村田） 進行説明（山本）	(敬称略)
9:40 ～ 10:00	「スピーカーボックスの製作と音響特性の測定」 奥地、芝野、仲、辻本(裕) 「原動機付自転車のレストア」 栗林、田邊、今町、西山、丸谷、森下(昌)、山本	山本
休憩		
10:10 ～ 10:30	「界面活性剤-空気三相流の流動伝熱特性」 池満、武長、津留、濱口 「流体力学的モノ作り ～ソーラーカーの製作～」 竹本(諒)、時本、中山	荒賀
休憩		
10:40 ～ 11:10	「シミュレーションに基づく構造システムの信頼性解析」 石津、上田 「Excelでの図書閲覧検索システムの開発」 山下、中井(雅) 「微生物を利用した海水淡水化」 難波、山高、伊藤、森下(晋)	奥田
休憩		
11:20 ～ 12:00	「粉粒体搬送装置（チューブコンベア）におけるスクリーフィーダースパイラルフィーダの比較」 矢熊、大崎、後瀧、福、松山 「並列細管内強制対流沸騰における流動伝熱特性」 木村、上島、柿元 「東紀州地域におけるバイオマスエネルギー活用技術に関する研究 -牛糞のガス燃料化-」 柿元、上島、木村 「東紀州地域におけるバイオマスエネルギー活用技術に関する研究 -魚アラとパークの同時処理・燃料化-」 榎本、小山、濱地、柿元	小松  村田
昼休み		
13:00 ～ 13:30	「那智黒石粉末利用法のFS検討」 南、竹本(陽)、井谷、大久保、松平 「高菜漬の辛み方法の確立について」 田坂、前山、下岡、中井(高)、中岡、三好、小南、野中、月岡、三石、湊(義)、竹安、田場、湊(和)、佐々木 「溶射加工を用いた光触媒溶射皮膜の製作について」 湊(雄)	中村
休憩		
13:40 ～ 14:10	「ヒューマノイド型ロボットの研究」 三原、高嶋、坂地 「レスキューロボットの開発」 新原、辻本(知)、高尾 「空圧制御アームの製作」 服部	源
休憩		
14:20 ～14:30	「エコランカーの開発」 東、田中、久保、藤原、吉川、中林、下、太田、湊(卓)、岡	山川
14:30	講評(奥田) [ 閉会 ]	
後片付け（5年生全員） ～ 15:00頃 終了予定		

※発表時間は1課題あたり講演5分+質疑応答3分を目安とします。

(出典：平成18年度機械システム工学科卒業研究発表会プログラム)

資料 6-1-②-10 電気情報工学科卒業研究発表会資料

# 平成18年度 電気情報工学科 口頭発表 1~4限 @新館フリースペース

テーマ	発表者	指導教員
1 『高抵抗型宇宙線計数器RPCの製作』	大野・河野・筑紫	本田
2 『デバイスシミュレーションを用いたTri-gate型FETの特性検討』	平神・洞	嶋野
3 『フラッシュメモリの書き換え・電気的特性の自動測定システムの構築』	中・中村(勇)	嶋野
4 『分子動力学および分子軌道法による金属六ホウ化物の基礎特性における部分的考察』	瀧山, 松井, 水林, 上月, 宮	野木
5 『アイソトープデザインされたケイ素やホウ素のつくる共有結合性クラスターの振動分光特性』	左近, 堀本, 福林, 磯部, 田	野木
6 シリコン熱酸化特性の基板構造依存性	増田	西
7 モンテカルロシミュレーションによるイオン注入プロファイルの検討	小守	西
8 シリコン熱酸化特性の基板構造依存性	大谷	西
9 インパースモデリングによる、シリコン中の不純物拡散パラメータの抽出	林・前田・睦	園井
10 『落雷と気象要素の関係』	仲・中納	園井
11 『落雷と地形との関係』		
休憩 (時間が押した場合は取りません)		
1 『領域統合法を用いたイラスト調画像の生成』	北村・中村・松下	神田
2 『マルチメディア映像視聴時の脳波および眼球運動測定に関する基礎的評価』	堀・田島	政清
3 『3次元CGソフトウェアを用いた解剖実習シミュレーションについての研究』	馬場	政清
4 『3次元腹部CT画像からの形状特徴量を考慮したリンパ節抽出法』	木村(貴)	政清
5 『二本島町の防災マップの作成に関する研究』	岡本・黒田	内田
6 『熊野市に特化した教習用デジタルコンテンツの作成に関する研究』	大原・田中・堤・佐藤・阪本	内田
7 『ソーラーカーへの電気二重層コンデンサの応用』	尾藤・本山・向井・宮下(公欠)	中西
8 『地域コミュニティのためのLinuxサーバとXOOPSの製作』	下川・檜作・松本	村松
9 『足歩行ロボットに関する研究』	岡崎(誠)・阪口・中北・栗原	仲森

1件 9分

質疑応答は、ポスターセッション会場で行う。

# 卒業研究発表会 ポスターセッション 5限~ @新館フリースペース

1 『ソーラーカーの高速計測に関する研究』	尾藤・本山	中西
2 『電気二重層コンデンサの過渡特性に関する研究』	向井・宮下(公欠)	中西
3 『スピーカーのエンクロージャーと特性との関連性』(福井・吉村)		神田
4 『高抵抗型宇宙線計数器におけるガス供給部の製作』(野尻・河野・筑紫)		本田
5 『高抵抗型宇宙線計数器の動作原理と高圧電源部製作』(大野・福本)		本田
6 『落雷と気象要素の関係』・・・林・前田・睦		園井
7 『落雷と地形との関係』・・・仲・中納		園井
8 『MB6系化合物の分子動力学による格子物性のシミュレーション』	瀧山, 松井, 水林	野木
9 『ボロン同位体を変調したMB6系材料の熱電機能予測』	上月, 宮本	野木
10 『安定に存在するシリコンクラスター(Sin)とそのクラスレートの存在様式と振動分光特性計算』	左近, 堀本	野木
11 『アイソトープデザインされた材料機能に関する研究』	磯部, 田中	野木
12 『領域統合法を用いたイラスト調画像の生成』(北村・中村・松下)		神田
13 『デバイスシミュレーションを用いたTri-gate型FETの特性検討』	平神・洞	嶋野
14 『フラッシュメモリの書き換え・電気的特性の自動測定システムの構築』	中・中村(勇)	嶋野
15 『PCクラスターによる並列流体解析』	野久保・山下・栗田	村松
16 『HSPを使用したゲームプログラムの作成』	山川	村松
17 『C言語とeIを用いたゲーム作成』	高地・服部(公欠)・船田	村松
18 『地域コミュニティのためのLinuxサーバとXOOPSの製作』	下川・檜作・松本	村松
19 『紀宝町の地域振興Webシステムの開発』	上地(公欠)・中村(麻)	村松
20 『PCクラスター上でのメルセンヌ素数の探索』	中林・中村(俊)・柳田	村松
21 『マルチメディア映像視聴時の脳波および眼球運動測定に関する基礎的評価』(堀・田島)		政清
22 『3次元CGソフトウェアを用いた解剖実習シミュレーションについての研究』(馬場)		政清
23 『3次元腹部CT画像からの形状特徴量を考慮したリンパ節抽出法』(木村)		政清
24 『二本島町の防災マップの作成に関する研究』(岡本・黒田)		内田
25 『熊野市に特化した教習用デジタルコンテンツの作成に関する研究』(大原・田中・堤・佐藤・阪本)		内田
26 『ソフトウェアオーバーホールツールの改良』(瀬角)		内田
27 1) モンテカルロシミュレーションによるイオン注入プロファイルの検討 (増田)		西
2) シリコン熱酸化特性の基板構造依存性 (小守)		西
29 3) インパースモデリングによる、シリコン中の不純物拡散パラメータの抽出 (大谷)		西
30 足歩行ロボットに関する研究 岡崎(誠)・阪口・中北・栗原		仲森
31 3Dモデリングに関する研究 小山・尾崎・長尾		仲森
32 Flashアプリケーションソフトの開発 阪西		仲森
33 webアプリケーションソフトの開発 大西		仲森
34 ExcelVBAを用いたユーティリティソフトの開発 森岡・三島・須川		仲森
35 Excel VBAを用いた学習ソフトの開発(I) 中元・丸田・富永・若松		仲森
36 Excel VBAを用いた学習ソフトの開発(II) 森本		仲森
37 Excel VBAを用いた学習ソフトの開発(III) 大東		仲森
38 ケータイアプリケーションソフトの開発 岡崎(寛)		仲森

(出典：平成18年度電気情報工学科卒業研究発表会プログラム)

資料 6-1-②-1 1 建設システム工学科卒業研究発表会資料

平成18年度 建設システム工学科卒業研究発表会プログラム

- 日時・会場； 2007年2月2日(金) 9:20~16:20 情報センターMM室
- 発表は1人ずつ全員が行う。1人当たりの持ち時間は6分以内(発表講演4分程度、質疑応答2分程度)とするが、各研究室の総持ち時間内の調整は可とする。
- 各研究室発表の可否は各研究室の教員が行う。
- 発表は評価シートに則り厳密に評価される。
- プログラムは予定であり、都合により発表順番や発表時間を変更する場合もある。

■学科長開会挨拶及び発表要領説明； 9:20~9:30

■中西研究室； 9:30~10:12  
図式推定法を用いたアメダス雨量資料の傾度解析  
(陸地伸哉、田中尊章、井上肇二、中野勝太、濱中彬人、南佳佑、吉田学)

- 青木研究室； 10:12~11:00
- 1. 山愛空間 その1 計画対象地の現況分析(貝瀬亮祐)  
その2 計画対象地の計画提案(上浪健太)
- 2. The Country Living その1 計画対象地の現況分析(下地哲弘)  
その2 計画対象地の計画提案(山本昇藏)
- 3. 街並み景観整備とまちづくり 熊野市木本町本町通り 旧市街地について  
その1 街並み環境点検について(前田勇也)  
その2 住民アンケート調査について(藤浜裕也)  
熊野市木本町本町通り 新市街地について  
その1 街並み環境点検について(大田耕麿)  
その2 住民アンケート調査について(渡辺慎吾)

■休憩； 11:00~11:10

- 五十石研究室； 11:10~12:10
- 地震波の振動解析
- 1. フーリエスペクトルについて
- 2. パーセヴァルの定理について
- 3. 高速フーリエ変換について  
(井藤秀太、重久雅宗、中村祐太、寺村篤例、宮城直之、  
岩本達紀、真砂智暢、赤崎翔太、向井健太、上安秀明)

-1-

■昼食； 12:10~13:00

■松岡研究室； 13:00~14:00

- 1. 既存建築物の耐震補強(清水良憲、西田和美、川村祐一郎、轟公平、門脇嘉宏、永吉正徳)
- 2. プリッジコンテスト報告(松下嘉明、山本誠、大龍真也、守田浩二)

■表研究室； 14:00~14:24

- 1. 河川流域の環境デザイン手法について(前秀樹)
- 2. 熊野市の活性化のための再開発計画(向井優大)
- 3. 魅了する七里野浜とは(川端悠司)
- 4. エコロードとは(奥田修矢)

■休憩； 14:24~14:34

■林研究室； 14:34~15:22

- 1. 熊野地方の植物を利用した屋上緑化工法実証実験(須川和弘、中山航太、野間賢治)
- 2. 廃棄物溶融スラグを用いた流動化処理土の非圧密非排水せん断特性(秋山宗広、黒瀬直也)
- 3. カラム試験によるセメント系固化材改良土からの六価クロムの溶出傾向の評価  
(阪本遼、古家秀祐、吉田光作)

■中平研究室； 15:22~16:10

- 1. バス交通対策の問題点と対策の実態調査(下村宏幸、前田剛志、栗原克明、西村在和)
- 2. 医療制度の問題点と医療関係交通の実態分析(馬込洋志、松永和樹、堀野俊、西剛広)

■講評； 16:10~16:20

■合否判定会議

-2-

(出典：平成18年度建設システム工学科卒業研究発表会プログラム)

資料 6-1-②-1 2 学生による各種学外発表リスト (H18~H19)

	発表月	学会名	主催	発表題目	学生氏名
1	H17年11月	熱工学コンファレンス 2005(岐阜大学)	日本機械学会	固液二相流における界面活性剤添加の影響	中島康治 (5M)
2	H17年11月	熱工学コンファレンス 2005(岐阜大学)	日本機械学会	気液二相流における界面活性剤添加の効果	森本晃弘 (5M)
3	H18年3月	高専卒業研究発表会	電気学会 関西支部	電気二重層キャパシタによるソーラー カーの充放電効率の改善	市瀬直人 (5E)
4	H18年9月	第67回応用物理学会 学術講演会	応用物理学会	インバースモデリングによる不純物拡 散パラメータ抽出の検討	高嶋航大 (A2)
5	H18年11月	熱工学コンファレンス 2006(慶応大学)	日本機械学会	垂直管内における界面活性剤水溶液 -空気二相流の流動様式とボイド率	山本大純 (A1)
6	H18年11月	熱工学コンファレンス 2006(慶応大学)	日本機械学会	垂直管内における界面活性剤水溶液 -空気二相流の流動伝熱特性	濱口康誌 (5M)
7	H19年1月	第12回高専シンポジ ウム(沼津)	高専シンポジ ウム協議会	講演要旨集 p210「VTCMOS 技術を適 用した SOIFET の最適デバイス設計」	寺地晃正 (A2)
8	H19年1月	第12回高専シンポジ ウム(沼津)	高専シンポジ ウム協議会	東紀州地域におけるバイオマスエネ ルギー活用技術に関する研究	柿元慎一 郎 (5M)
9	H19年1月	第12回高専シンポジ ウム(沼津)	高専シンポジ ウム協議会	界面活性剤水溶液流れに及ぼす空気 混入の影響	武長久志 (5M)
10	H19年1月	第12回高専シンポジ ウム(沼津)	高専シンポジ ウム協議会	界面活性剤水溶液-空気垂直上昇 気液二相流の流動特性	池満瑛祐 (5M)
11	H19年1月	第12回高専シンポジ ウム(沼津)	高専シンポジ ウム協議会	並列細管内強制対流沸騰における流 動伝熱特性	木村雅人 (5M)
12	H19年1月	第12回高専シンポジ ウム(沼津)	高専シンポジ ウム協議会	重点サンプリング法に基づく構造信頼 性解析法の研究	梅澤直樹 (A1)
13	H19年3月	高専卒業研究発表会	電気学会 関西支部	3次元腹部 CT 画像からの形状特徴 量を考慮したリンパ節抽出法	木村貴良 (5E)

(出典：近畿大学工業高等専門学校18年度内部資料)

(分析結果と根拠理由) 学生の進級状況、資格取得の状況は良好であり、また、卒業研究の内容や学外発表等の状況から総合的に判断すると、本校の意図する教育の効果および実績は上がっているといえる。

**観点 6-1-③：教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績から判断して、教育の成果や効果は上がっているか。**

(観点にかかる状況) 進路の状況については平成18年度準学士課程卒業生の就職内定状況を（資料 6-1-③-1）に、専攻科・大学等進学状況を（資料 6-1-③-2）に、平成18年度専攻科修了生の進路状況を（資料 6-1-③-3）に示している。

準学士課程卒業生211名（機械システム72名、電気情報82名、建設システム54名）のうち、学校推薦による就職斡旋希望者147名、大学進学（編入学）もしくは専門学校進学希望者58名であった。就職に関して、就職斡旋希望者147名全員が進路を確定している。また、進学に関しても、進学希望者58名全員が進路を確定している。また、平成18年度専攻科修了生4名のうち、学校推薦による就職希望者3名、大学院への進学希望者1名であった。これら4名は全員就職先、大学院へ内定もしくは合格している。

準学士課程の育成する技術者像は「社会に貢献するための・・・実践的技術者」であり、その準学

士課程で得た専門分野の知識や工学的素養をさらに深めるために、卒業生の27%が専攻科入学および大学編入学を果たしている。これは本高専が魅力的な講義等により学生自身が更に高度な工学的素養を身に付けたいという意欲を喚起した結果であると推察される。また、就職決定者のうち、いわゆる技術系分野以外への就職者は全体の1%程度であり、ほとんど全ての学生が技術系企業・官公庁等へ就職している。この結果からも本高専における上述の実践的技術者を育てるという教育の成果が見取れる。さらに、本高専本科・専攻科の進学・就職率は近年において例年ほぼ100%というべき値となっている。これらの結果は本高専準学士課程・専攻科の教育内容、卒業生の技術者としての資質・能力が社会に広く認められ受け入れられている証拠である。進路については本校ホームページ <http://www.ktc.ac.jp/sinro/index.htm> で公表されている。

資料 6-1-③-1 平成 19 年度準学士課程卒業生就職内定状況

平成 19 年度 近大高専就職状況 (平成 18 年度卒業生)

企業名	機械	電気情報	建設	全学科	企業名	機械	電気情報	建設	全学科
大阪ガス(株)	1	1		2	富士通ビジネスシステム(株)		1		1
(株)インダ	1			1	セントラル警備保障(株)			1	1
関西電力(株)	1	2		3	(株)山野建設			1	1
独立行政法人国立印刷局	1			1	水谷建設(株)			1	1
ダイキン工業(株)	1	2		3	(株)中野建設			1	1
(株)ダイハツテクナー	1			1	(株)ダイキンアプライドシステムズ			1	1
三菱電機ビルテクノ(株)	1			1	スズキ(株)	1			1
出光興産(株)	1			1	(株)イトーキ	1			1
JPハイテック(株)	1			1	太平電業(株)	1			1
(株)エクセディ	1			1	NECネットエスアイ・エンジニアリング(株)		1		1
京セラ(株) 三重伊勢工場	1			1	(株)カルビー		1		1
京セラ(株) 滋賀蒲生工場		1		1	参天製薬(株)	1			1
JR東海		1		1	JR貨物(株)		1		1
三菱重工業(株) 高砂製作所		1		1	熊野精工(株)	2			2
きんでん(株)		1		1	日新電機工作(株)		1		1
ブラザー工業(株)		2		2	サンウエーブ(株)	1		1	2
旭化成ケミカルズ(株)		1		1	アイトム建設(株)			1	1
花王(株)		1		1	日立アプライアンス(株)			1	1
三恵技研工業(株)	1	1	2	4	能瀬精工(株)	1			1
JR西日本	1	2	2	5	(株)CIT	1			1
三菱電機(株) 冷熱システム製作所		1	2	3	大豊建設(株)			1	1
(株)ダイキ エンジニアリング	2			2	伸栄プラスチック(株)	1			1
グンゼ(株)	1			1	富士電設(株)		1		1
東洋保全工業(株)	1			1	総合警備保障(株)			1	1
コスモ石油(株)堺工場	1			1	近畿新日経(株)			1	1
大同テクニカ(株)	1			1	関寺電気(有)	1			1
プロンコビリー(一般)			1	1	(株)オームズ	1			1
あさひグローバル(一般)			1	1	山崎建設(株)			1	1
(株)日経大阪製作センター		1		1	日宝建設工業(株)			1	1
松下電工(株) 津工場		1		1	吉村通信建設(株)			1	1
NECフィールディング(株)		1		1	山和建築			1	1
ムラテックCCS(株)	1	1		2	中部東芝エンジニアリング(株)		1		1
日本システム開発(一般)		1		1	真弓興業(株)	1			1
三神工業(株)			4	4	コスモスコポーレーション		1		1
トヨタテクニカルディベロップメント(株)		1		1	新宮電気工事(株)		1		1
(株)中部プラントサービス	1			1	VSN(株)	1	1		2
ディーアイシーバイエルポリマー(株)	1			1	KO産業	1			1
大鉄工業(株)			1	1	デザフィコンパニア		1		1
(株)K.E.C			2	2	(株)アネット・テレサポート		1		1
(株)寺田ポンプ製作所		1		1	(株)クスコ			1	1
光洋サーモシステム(株)		1		1	(株)宅都 ミニミニ	2			2
小島プレス工業(株)	1			1	(株)近代技研			1	1
大有建設(株)			2	2	サーンエンジニアリング(株)			1	1
日立ビルシステム(株)		1		1	(株)主婦の店			1	1
(株)日研研究所	3			3	吉田生コンクリート			1	1
京セラミタ(株)	1			1	光和建設(株)			1	1
日本自動ドア(株)	1			1	(有)サポート		1		1
三浦工業(株)	1			1	(株)オンテックス		1		1
若宮工業(株)	1			1	日本郵政公社東海支社		1		1
ヤンマーエネルギーシステム(株)		1		1	自衛隊(大阪地区)			1	1
(株)カネカ		1		1	ナニワ技研株式会社 熊野営業所	1			1
(株)かんでんエンジニアリング		1		1	紀州製紙(株) 紀州工場		2		2
富士電機リテイルシステムズ(株)	1	1		2	(株)セントラルヨシダ		1		1
中部菱成(株)		2		2	浦島観光ホテル(株)			1	1
キャノンS&S(株)		1		1	日研総業	1			1
富士通(株)		1		1	紀南産業(株)			1	1
シャープエンジニアリング(株)		3		3	就職決定者小計	19	18	24	61
富士電機システムズ(株)		1		1	就職決定者数	51	57	39	147
就職決定者小計	32	39	15	86	就職希望者数	51	57	39	147
					就職決定率	100%	100%	100%	100%

9%

(出典：近畿大学工業高等専門学校進路指導部資料)



資料 6 - 1 - ③ - 2 平成 18 年度卒業生進学状況

平成19年度 近大高専進学状況

	進学先	機械	電気・情報	建設	全学科
国公立大学 (現役)	豊橋技術科学大学	4	1	2	7
	長岡技術科学大学	2	3	1	6
	岐阜大学 工学部	1	4	1	6
	三重大学 工学部	1	1		2
	福井大学 工学部 機械工学科	1			1
	愛媛大学 工学部 環境建設工学科			1	1
	神戸大学 海事科学部	1			1
	国公立大進学合計	10	9	5	24
近畿大学 (現役)	近畿大学 理工学部	3	5	5	13
	近畿大学 生物理工学部	3			3
	近畿大学 産業理工学部		1		1
	近畿大学高専専攻科	2	1	1	4
	近畿大学進学合計	8	7	6	21
その他私立大 学 (現役)	立命館大学 理工学部		2		2
	関西大学 総合情報学部		1		1
	大阪産業大学 工学部 都市創造工学科			1	1
	東京情報大学 総合情報学部		2		2
	武蔵工業大学 工学部 電気電子情報工学科		1		1
	大阪芸術大学 芸術計画学科	1			1
	東京工科大学 メディア学部 メディア学科		1		1
	三重中京大学 現代法経学部 現代法経学科		1		1
	佛教大学 通信教育部	1			1
その他私立大学合計	2	8	1	11	
専修学校	ホンダ学園	1			1
	EPSギタークラフト・アカデミー			1	1
	専修学校進学合計	1	0	1	2
	進学内定者数	21	24	13	58
	進学希望者数	21	24	13	58
	進学決定率(%)	100%	100%	100%	100%

(出典：近畿大学工業高等専門学校進路指導部資料)

資料 6 - 1 - ③ - 3 平成 18 年度専攻科修了生進路状況

平成19年度 生産システム専攻科進路状況

	進路先	機械	電気電子	土木	全コース
就職	JPハイテック(株)			1	1
	本田技研工業(株)		1		1
	日本ビジネスコンピュータ(株)		1		1
	就職合計	0	2	1	3
進学	筑波大学大学院 博士前期課程 システム情報工学研究科 知能機能システム専攻		1		1
	進学合計	0	1	0	1
	合計	0	3	1	4
	修了見込み者数	0	3	1	4
	進路決定率	-	100%	100%	100%

(出典：近畿大学工業高等専門学校進路指導部資料)

(分析結果と根拠理由) 準学士課程・専攻科ともに就職・進学率は近年ほぼ100%で、ごくわずかを除き技術系・工学系へ進んでいる。これは、企業および大学が本校の卒業生を評価していることのためであり、本高専が教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、成果は上がっているといえる。

**観点 6-1-④：学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。**

(観点にかかる状況) 卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力が達成できたか、準学士課程卒業生・専攻科修了生に学習達成度評価(資料6-1-④-1)を実施している。工学科別の達成度アンケート調査結果(資料6-1-④-2)では、概ね3ポイントを上回っていることから、授業担当者が意図する教育の効果が上がっていることが伺える。コンピュータの活用や人間性の養成等は高ポイントを得ているが反面英語能力に関する項目では2ポイント台の値も見られる。

資料 6-1-④-1 学習達成度評価用紙

平成18年度達成度評価(5C)

クラス( ) 番号( ) 氏名( )

評価:5. 達成できた 4. やや達成できた 3. ふつう 2. あまり達成できなかった 1. 達成できなかった

項目	内容	評価
(A-G1)	数学、物理などの工学基礎科目における基礎学力を身につける。	
(A-G2)	実験データの集計や報告書作成にコンピュータが活用できる。	
(B-G1)	それぞれの専門分野の基礎知識を修得する。	
(B-G2)	実践的な問題に対し、修得した専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身につける。	
(B-G3)	構想したものを具体的な形に表現するCADソフトウェアが活用できる。	
(C-G1)	自国および世界の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した視点からものごとを考えることができる。	
(C-G2)	社会人としての健全な人格を有し、技術者に要求される倫理観を身につける。	
(D-G1)	人文科学、社会科学、自然科学の分野の基礎学力を身につける。	
(D-G2)	課外活動、特別活動、学校行事などへ参加することで豊かな人間性を身につける。	
(E-G1)	得られた結果を日本語でまとめ、プレゼンテーションができる。	
(E-G2)	英語の基礎知識を修得し、英語の読解、記述、簡単な会話ができる能力を身につける。	

(出典：平成18年度達成度評価用紙)

資料6-1-④-2 工学科別学習達成度評価結果（平成18年度卒業・修了生）

準学士課程

項目	内 容	機械システム工学科	電気情報工学科	建設システム工学科
A-T1	数学、物理などの工学基礎科目における基礎学力を身につける。	3.21	3.79	3.27
A-T2	実験データの集計や報告書作成にコンピュータが活用できる	3.57	4.04	3.51
B-T1	それぞれの専門分野の基礎知識を修得する。	3.43	3.72	3.43
B-T2	実践的な問題に対し、修得した専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身につける	2.89	3.75	3.16
B-T3	構想したものを具体的な形に表現するCADソフトウェアが活用できる。	2.39	3.70	3.25
C-T1	自国および世界の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した視点からものごとを考えることができる。	3.00	3.73	3.22
C-T2	社会人としての健全な人格を有し、技術者に要求される倫理観を身につける。	3.39	3.96	3.53
D-T1	人文科学、社会科学、自然科学の分野の基礎学力を身につける。	3.18	3.86	3.29
D-T2	課外活動、特別活動、学校行事などへ参加することで豊かな人間性を身につける。	3.61	4.03	3.67
E-T1	得られた結果を日本語でまとめ、プレゼンテーションができる。	3.32	4.03	3.47
E-T2	英語の基礎知識を修得し、英語の読解、記述、簡単な会話ができる能力を身につける。	2.64	3.61	2.86

専攻科課程

項目	内 容	専攻科
A-1	数学、物理など工学の基礎となる学力を身につける。	4.25
A-2	情報リテラシーを習得し、情報を収集、分析し活用する能力を身につける。	4.00
B-1	専門分野の基礎知識をベースに、より深い専門知識を修得するとともに、関連する他の専門分野の基礎知識を修得する。	4.25
B-2	実践的な問題に対し、習得した知識を活用して、解決に向けて計画を立案し、継続的にそれらを実行できる能力を身につける。	4.00
B-3	コンピュータを活用して自らの創造性を具現化するデザイン能力を身につける。	4.75
C-1	最新の技術や物事に対する探求心を持ち、自主的、継続的に学習できる能力を身につける。	4.75
C-2	自然と生命の尊厳を正しく理解し、併せて互いの人権を重んじ、共生の理念を育む。	4.75
C-3	知的財産権などの基礎知識を理解し、社会的ニーズへの即応性を身につける。	4.25
D-1	人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い教養を身につける。	4.00
D-2	身近な問題から地球規模の問題まで関心を持ち、物事を考えることができる能力を身につける。	4.25
E-1	日本語で論理的に記述、発表、討議できる能力を身につける。	3.75
E-2	外国語によってコミュニケーションがとれる基礎能力を身につける。	3.25

（出典： 出典：近畿大学工業高等専門学校教務部資料）

また平成19年2月に全クラスで学生による授業科目ごとの学習達成度評価を実施した。これは科目ごとに設定された達成目標の達成度合いを自己評価するもので資料6-1-④-3の用紙で実施された。建設システム工学科5年の達成度評価結果を資料6-1-④-4に示す。達成状況が「ふつう」以上が過半数を占め、全体的に教育の効果が上がっているといえる。回収したアンケート用紙を項目ごとに集計し結果を分析することで、本校の意図する教育の成果や効果が上がっているかを判断した。

資料6-1-④-3

平成18年度達成度評価(5C)

クラス( ) 番号( ) 氏名( )

評価: 5. 達成できた 4. やや達成できた 3. ふつう 2. あまり達成できなかった 1. 達成できなかった

科目	担当者	達成目標	評価
保健体育	二株、小西、松尾		
英語特論	サイモン	1.[E-2](E-T2)英語のスピーキング能力が向上し、自信をもつことができた。 2.[E-2](E-T2)英語のリスニング能力が向上し、自信をもつことができた。 3.[E-2](E-T2)実践的な英会話を自発的かつ積極的にを行い、英語によるコミュニケーション能力が向上した。	
中国語	酒井		
情報処理Ⅱ	倉本、松岡	1.[A-2](A-T2)Open Office等のアプリケーションソフトの基本的操作方法を身に付けることができた。 2.[A-2](A-T2)O言語の基本的な文法を理解することができた。 3.[A-2](A-T2)実際にパソコンを操作することにより、プログラムの作成から実行までの手順が理解できた。	
構造力学II	五十石	1.[B-1](B-T1)柱の基礎知識が理解できた。 2.[B-1](B-T1)不静定ばり法の解法が理解できた。 3.[B-1](B-T1)トラス構造物の解法が理解できた。	
コンクリート構造学	和田	1.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリートの設計方法の基本的事項について理解できた。 2.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリートの安全を確認する計算方法を理解できた。 3.[B-1](B-T1)演習問題を通して、鉄筋コンクリート構造物の安全性を確認する方法を修得できた。	
測量実習	中平、舟尾、下岡	1.[B-1](B-T1)各種測量機器の操作方法が理解できた。 2.[B-1](B-T1)路線測量に必要な各種測量の方法が理解できた。 3.[B-1](B-T1)現地で測量の応用方法や実際の測設方法が理解できた。 4.[B-1](B-T1)路線の計画立案方法等が理解できた。 5.[B-1](B-T1)計算書および測量図面の作成方法が理解できた。	
卒業研究	中西(祐)、青木、五十石、中平、松岡、林、表		
環境衛生工学			
景観環境デザイン	青木	1.[B-1](B-T1)環境共生型都市づくりの基礎的理論を理解できた。 2.[B-1](B-T1)地域共生の都市計画・農村計画・まちづくりの基礎的理論を理解できた。 3.[B-1](B-T1)景観デザイン・環境デザイン及びアーバンデザイン・ランドスケープデザインの基礎的理論を理解できた。	
耐震工学	五十石	1.[B-1](B-T1)地球の内部構造が理解できた。 2.[B-1](B-T1)地震の基礎知識が理解できた。 3.[B-1](B-T1)地震波の性質が理解できた。 4.[B-1](B-T1)振動方程式の解法が理解できた。	
耐震工学演習(選択)	五十石	1.[B-1](B-T1)防災意識の必要性が理解できた。 2.[B-1](B-T1)地震災害の基礎知識が理解できた。 3.[B-2](B-T2)防災計画について理解できた。	
技術と倫理(選択)	林	1.[C-2](C-T2)土木学会、建築学会の倫理規定を理解できた。 2.[C-2](C-T2)技術者の使命、習得すべき倫理観を理解できた。 3.[C-2](C-T2)実際の問題に直面したときに技術者のとるべき行動について理解できた。	
3D-CAD、パース演習(選択)	漁野(青木)	1.[B-3](B-T3)建築CADの基本的技術を修得できた。 2.[B-3](B-T3)2D~2.5D~3Dの基本的技術を修得できた。 3.[B-3](B-T3)大規模建築デザインのCADによる基本的プレゼンテーション技術を修得できた。	
外国文献講読(進学者選択)	表、今井		
エコジカルデザイン(選択)	表		

平成18年度達成度評価(5C)

クラス( ) 番号( ) 氏名( )

評価: 5. 達成できた 4. やや達成できた 3. ふつう 2. あまり達成できなかった 1. 達成できなかった

科目	担当者	達成目標	評価
建設設計製図	和田	1.[B-1](B-T1)構造物がどのように構成されているかが理解できた。 2.[B-1](B-T1)構造物の設計計算を通して計算方法の順序を習得できた。 3.[B-1](B-T1)計算結果を元に図面化するという基本的なことを習得できた。	
河川環境工学	中西(祐)	[B-1](B-T1)河川工学で用いる専門用語の意味を理解した。 [B-1](B-T1)河川構造物の種類とその役割を理解した。 [B-1](B-T1)地球上の水循環の概要を理解した。 [B-1](B-T1)治水に用いる計画降水量の計算方法を理解した。 [B-1](B-T1)治水計画の要点を理解した。	
土木計画学	中平	1.[B-1](B-T1)社会資本との関係、目標設定方法等が理解できた。 2.[B-1](B-T1)各種の社会調査方法について基本的概念が理解できた。 3.[B-1](B-T1)各種の統計解析手法について基本的概念が理解できた。	
交通工学	中平	4.[B-1](B-T1)代替案の作成方法等が理解できた。 1.[B-1](B-T1)道路関係法規、経済効果、管理など道路に関する基本的概念が理解できた。 2.[B-1](B-T1)交通量や交通流など交通に関する基本的概念が理解できた。 3.[B-1](B-T1)四段階推定法における各種の推定方法が理解できた。 4.[B-1](B-T1)道路の線形、視距などの基本概念が理解できた。	
橋梁工学	五十石	1.[B-1](B-T1)橋梁の歴史について理解できた。 2.[B-1](B-T1)日本の橋梁、世界の橋梁について理解できた。 3.[B-1](B-T1)橋梁構造の基礎知識が理解できた。 4.[B-1](B-T1)橋梁に作用する荷重について理解できた。 1.[B-2](B-T2)設計課題を通して基本的設計技術及び表現技術を修得できた。	
建築設計製図	青木、漁野(後期CAD)は	2.[B-2](B-T2)設計課題を通して集合住宅等の大規模建築の基本的設計技術を修得できた。 3.[B-2](B-T2)提示された設計条件を満足し、自ら考えた計画・デザインを具現化する基本的設計技術を修得できた。	
建築概論	青木	1.[B-1](B-T1)建築物及び建築学について基礎的事項を理解できた。 2.[B-1](B-T1)建築家・建築デザイナー及び建築士の義務について基礎的事項を理解できた。 3.[B-1](B-T1)建築史及び意匠・建築論について基礎的事項を理解できた。	
建築構造	五十石	1.[B-1](B-T1)木構造の基礎知識が理解できた。 2.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリート構造の基礎知識が理解できた。 3.[B-1](B-T1)建築構造に作用する荷重について理解できた。	
建築法規(選択)	青木	1.[B-1](B-T1)建築基準法の基礎的事項を理解できた。 2.[B-1](B-T1)都市計画法の基礎的事項を理解できた。 3.[B-1](B-T1)建築士法の基礎的事項を理解できた。	
建築構法	松岡	1.[B-1](B-T1)各構法による特徴を理解できた。 2.[B-1](B-T1)構造計算の基本的な流れを理解できた。 3.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリート構造による各種構法を理解できた。	
建築構造設計	五十石	1.[B-1](B-T1)構造設計の基礎知識が理解できた。 2.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリート造建築物の構造力学の基礎知識が理解できた。 3.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリート造建築物の構造計算の基礎知識が理解できた。	
スチールストラクチャー(選択)	五十石	1.[B-1](B-T1)鋼構造の種類と性質について理解できた。 2.[B-1](B-T1)鋼構造の材料について理解できた。 3.[B-1](B-T1)鋼構造建築物の構造計算の基礎知識が理解できた。	
中国語(中級)(選択)	酒井	[E-2](E-T2)生活力をつける(より多面的な生活用語を知る(言葉となる習慣などの理解を含め)→聞く、話す、読む、書く(航空機利用、列車利用、身体・病気・病院、買い物、電話、ホテルなど)	
中国語(初級)(選択)	酒井	[E-2](E-T2)発音の特徴点を習得する(聞く、話す) [E-2](E-T2)発音符号の読み書きができる(自習能力の向上) [E-2](E-T2)中国語の特徴点を理解する(上記の発展化) [E-2](E-T2)初歩的生活用語を習得する(挨拶言葉、数、移動)	

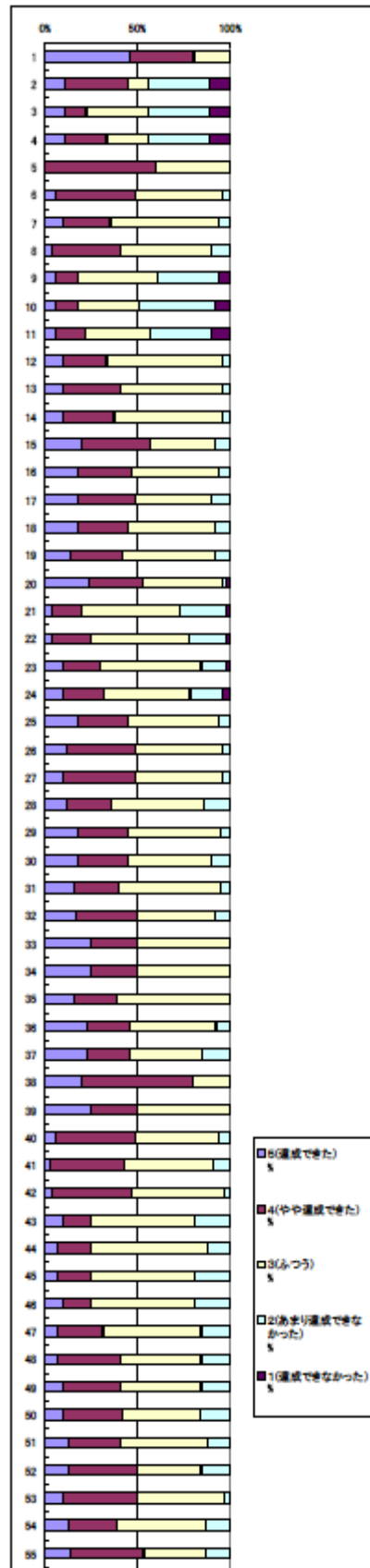
(出典：平成18年度達成度評価用紙)

資料 6-1-④-4

H18年度5C達成度評価アンケート結果

科目	担当者	達成目標	5(達成できた)	4(やや達成できた)	3(ふつう)	2(あまり達成できなかった)	1(達成できなかった)	設問No.
保健体育	二株、小西、松尾		45.7	34.8	19.6	0.0	0.0	1
英語特論	サイモン	1.[E-2](E-T2)英語のスピーキング能力が向上し、自信をもつことができた。	11.1	33.3	11.1	33.3	11.1	2
		2.[E-2](E-T2)英語のリスニング能力が向上し、自信をもつことができた。	11.1	11.1	33.3	33.3	11.1	3
		3.[E-2](E-T2)実践的な英会話を自発的かつ積極的にを行い、英語によるコミュニケーション能力が向上した。	11.1	22.2	22.2	33.3	11.1	4
中国語	酒井		0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	5
情報処理II	倉本、松岡	1.[A-2](A-T2)Open Office等のアプリケーションソフトの基本的操作方法を身に付けることができた。	5.9	43.1	47.1	3.9	0.0	6
		2.[A-2](A-T2)C言語の基本的な文法を理解することができた。	9.8	25.5	58.8	5.9	0.0	7
		3.[A-2](A-T2)実際にパソコンを操作することにより、プログラムの作成から実行までの手順が理解できた。	3.9	37.3	49.0	9.8	0.0	8
構造力学II	五十石	1.[B-1](B-T1)柱の基礎知識が理解できた。	5.9	11.8	43.1	33.3	5.9	9
		2.[B-1](B-T1)不静定ばりの解法が理解できた。	5.9	11.8	33.3	41.2	7.8	10
		3.[B-1](B-T1)トラス構造物の解法が理解できた。	5.9	15.7	35.3	33.3	9.8	11
コンクリート構造学	和田	1.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリートの設計方法の基本的事項について理解できた。	9.8	23.5	62.7	3.9	0.0	12
		2.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリートの安全を確認する計算方法を理解できた。	9.8	31.4	54.9	3.9	0.0	13
		3.[B-1](B-T1)演習問題を通して、鉄筋コンクリート構造物の安全性を確認する方法を修得できた。	9.8	27.5	58.8	3.9	0.0	14
測量実習	中平、舟尾、下岡	1.[B-1](B-T1)各種測量機器の操作方法が理解できた。	19.6	37.3	35.3	7.8	0.0	15
		2.[B-1](B-T1)路線測量に必要な各種測量の方法が理解できた。	17.6	29.4	47.1	5.9	0.0	16
		3.[B-1](B-T1)現地での測量の応用方法や実際の測量方法が理解できた。	17.6	31.4	41.2	9.8	0.0	17
		4.[B-1](B-T1)路線の計画立案方法等が理解できた。	17.6	27.5	47.1	7.8	0.0	18
		5.[B-1](B-T1)計算書および測量図面の作成方法が理解できた。	14.0	28.0	50.0	8.0	0.0	19
卒業研究	中西(祐)、青木、五十石、中平、松岡、林、表		23.5	29.4	43.1	2.0	2.0	20
環境衛生工学	表		3.9	15.7	52.9	25.5	2.0	21
景観環境デザイン	青木	1.[B-1](B-T1)環境共生型都市づくりの基礎的理論を理解できた。	4.1	20.4	53.1	20.4	2.0	22
		2.[B-1](B-T1)地域共生の都市計画・農村計画・まちづくりの基礎的理論を理解できた。	9.8	19.6	54.9	13.7	2.0	23
		3.[B-1](B-T1)景観デザイン・環境デザイン及びアーバンデザイン・ルールデザインの基礎的理論を理解できた。	9.8	21.6	47.1	17.6	3.9	24
耐震工学	五十石	1.[B-1](B-T1)地球の内部構造が理解できた。	17.6	27.5	49.0	5.9	0.0	25
		2.[B-1](B-T1)地震の基礎知識が理解できた。	11.8	37.3	47.1	3.9	0.0	26
		3.[B-1](B-T1)地震成因の性質が理解できた。	9.8	39.2	47.1	3.9	0.0	27
		4.[B-1](B-T1)振動方程式の解法が理解できた。	12.0	24.0	50.0	14.0	0.0	28
耐震工学演習(選択)	五十石	1.[B-1](B-T1)防災意識の必要性が理解できた。	17.5	27.5	50.0	5.0	0.0	29
		2.[B-1](B-T1)地震災害の基礎知識が理解できた。	17.5	27.5	45.0	10.0	0.0	30
技術と倫理(選択)	林	1.[C-2](C-T2)土木学会、建築学会の倫理規定を理解できた。	15.8	23.7	55.3	5.3	0.0	31
		2.[C-2](C-T2)技術者の使命、習得すべき倫理観を理解できた。	16.7	33.3	41.7	8.3	0.0	32
		3.[C-2](C-T2)実際の問題に直面したときに技術者のとるべき行動について理解できた。	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	33
3D・CAD、バーチャル実習(選択)	漁野(青木)	1.[B-3](B-T3)建築CADの基本的技術を修得できた。	15.4	23.1	61.5	0.0	0.0	34
		2.[B-3](B-T3)2D~2.5D~3Dの基本的技術を修得できた。	23.1	23.1	46.2	7.7	0.0	35
外国文献講読(進学者選択)	表、今井	1.[B-3](B-T3)大規模建築デザインのCADによる基本的プレゼンテーション技術を修得できた。	23.1	23.1	38.5	15.4	0.0	36
			20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	37
エコロジカルデザイン(選択)	表		25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	38
建設設計製図	和田	1.[B-1](B-T1)構造物がどのように構成されているかが理解できた。	6.1	42.4	45.5	6.1	0.0	39
		2.[B-1](B-T1)構造物の設計計算を通じて計算方法の順序を習得できた。	3.0	39.4	48.5	9.1	0.0	40
		3.[B-1](B-T1)計算結果を元に図面化するという基本的なことを習得できた。	3.1	43.8	50.0	3.1	0.0	41
河川環境工学	中西(祐)	1.[B-1](B-T1)河川工学で用いる専門用語の意味を理解した。	9.4	15.6	56.3	18.8	0.0	42
		2.[B-1](B-T1)河川構造物の種類とその役割を理解した。	6.3	18.8	62.5	12.5	0.0	43
		3.[B-1](B-T1)地球上の水循環の概要を理解した。	6.3	18.8	56.3	18.8	0.0	44
		4.[B-1](B-T1)治水に用いる計画降水量の計算方法を理解した。	9.4	15.6	56.3	18.8	0.0	45
			6.3	25.0	53.1	15.6	0.0	46
土木計画学	中平	1.[B-1](B-T1)社会資本との関係、目標設定方法等が理解できた。	6.3	34.4	43.8	15.6	0.0	47
		2.[B-1](B-T1)各種の社会調査方法について基本的概念が理解できた。	9.4	31.3	43.8	15.6	0.0	48
		3.[B-1](B-T1)各種の統計解析手法について基本的概念が理解できた。	9.7	32.3	41.9	16.1	0.0	49
		4.[B-1](B-T1)代替案の作成方法等が理解できた。	12.5	28.1	46.9	12.5	0.0	50
交通工学	中平	1.[B-1](B-T1)道路関係法規、経済効果、管理など道路に関する基本的概念が理解できた。	12.5	37.5	34.4	15.6	0.0	51
		2.[B-1](B-T1)交通量や交通流など交通に関する基本的概念が理解できた。	9.4	40.6	46.9	3.1	0.0	52
		3.[B-1](B-T1)四段階推定法における各種の推定方法が理解できた。	12.9	25.8	48.4	12.9	0.0	53
		4.[B-1](B-T1)道路の線形、視距などの基本概念が理解できた。	13.3	40.0	33.3	13.3	0.0	54
							0.0	55

H18年度5C達成度評価アンケート結果



建築工学	五十石	1.[B-1](B-T1)橋梁の歴史について理解できた。	3.2	45.2	48.4	3.2	0.0	56	
		2.[B-1](B-T1)日本の橋梁、世界の橋梁について理解できた。	6.5	35.5	51.6	6.5	0.0	57	
		3.[B-1](B-T1)橋梁構造の基礎知識が理解できた。	6.5	25.8	67.7	0.0	0.0	58	
		4.[B-1](B-T1)橋梁に作用する荷重について理解できた。	6.5	25.8	58.1	9.7	0.0	59	
建築設計製図	青木、漁野(後期CAD)は	1.[B-2](B-T2)設計課題を通して基本的設計技術及び表現技術を修得できた。	5.3	15.8	63.2	10.5	5.3	60	
		2.[B-2](B-T2)設計課題を通して集合住宅等の大規模建築の基本的設計技術を修得できた。	17.6	17.6	47.1	11.8	5.9	61	
		3.[B-2](B-T2)提示された設計条件を満足し、自ら考えた計画・デザインを具現化する基本的設計技術を修得できた。	5.9	29.4	52.9	11.8	0.0	62	
建築概論	青木	1.[B-1](B-T1)建築物及び建築学について基礎的事項を理解できた。	13.3	20.0	40.0	20.0	6.7	64	
		2.[B-1](B-T1)建築家・建築デザイナー及び建築士の義務について基礎的事項を理解できた。	6.7	26.7	46.7	20.0	0.0	65	
		3.[B-1](B-T1)建築史及び意匠・建築論について基礎的事項を理解できた。	6.7	20.0	40.0	33.3	0.0	66	
建築構造	五十石	1.[B-1](B-T1)木構造の基礎知識が理解できた。	23.5	5.9	64.7	5.9	0.0	67	
		2.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリート構造の基礎知識が理解できた。	11.8	17.6	58.8	11.8	0.0	68	
		3.[B-1](B-T1)建築構造に作用する荷重について理解できた。	17.6	5.9	64.7	11.8	0.0	69	
建築法規(選択)	青木	1.[B-1](B-T1)建築基準法の基礎的事項を理解できた。	25.0	12.5	37.5	12.5	12.5	70	
		2.[B-1](B-T1)都市計画法の基礎的事項を理解できた。	11.1	33.3	22.2	22.2	11.1	71	
		3.[B-1](B-T1)建築士法の基礎的事項を理解できた。	11.1	22.2	33.3	22.2	11.1	72	
建築構法	松岡	1.[B-1](B-T1)各構法による特徴を理解できた。	26.7	33.3	40.0	0.0	0.0	73	
		2.[B-1](B-T1)構造計算の基本的な流れを理解できた。	14.3	21.4	64.3	0.0	0.0	74	
		3.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリート構造による各種構法を理解できた。	6.7	20.0	66.7	6.7	0.0	75	
建築構造設計	五十石	1.[B-1](B-T1)構造設計の基礎知識が理解できた。	5.9	23.5	47.1	23.5	0.0	76	
		2.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリート建築物の構造力学の基礎知識が理解できた。	5.9	29.4	35.3	29.4	0.0	77	
		3.[B-1](B-T1)鉄筋コンクリート建築物の構造計算の基礎知識が理解できた。	0.0	18.8	56.3	25.0	0.0	78	
インテリアデザイン(選択)	青木		50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	79	
スチールストラクチャー(選択)	五十石	1.[B-1](B-T1)鋼構造の種類と性質について理解できた。	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	80	
		2.[B-1](B-T1)鋼構造の材料について理解できた。	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	81	
		3.[B-1](B-T1)鋼構造建築物の構造計算の基礎知識が理解できた。	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	82	
中国語(中級)(選択)	酒井	1.[E-2][E-T2]生活力をつける(より多面的な生活用語を知る(背景となる習慣などの理解を含め)―聞く、話す、読む、書く)(航空機利用、列車利用、身体・病気・病院、買い物、電話、ホテルなど)	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	83	
中国語(初級)(選択)	酒井	1.[E-2][E-T2]発音の特徴点を習得する(聞く、話す)	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	84	
		2.[E-2][E-T2]発音符号の読み書きができる―――――自習能力の涵養	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	85	
		3.[E-2][E-T2]中国語の特徴点を理解する(上記の意識化)	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	86	
		4.[E-2][E-T2]初歩的生活用語を習得する(挨拶言葉、数、移動、食事)	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	87	

(出典：教務部資料)

(分析結果と根拠理由) 学生の卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力に関する学習達成度評価および科目ごとの達成目標の達成度評価をおこなっており、その結果からアンケートにより的確に学生の学習達成度評価を行っており、学校の意図する教育の成果は上がっている。

観点6-1-⑤: 卒業(修了)生や進路先などの関係者から、卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点にかかる状況) 卒業生の状況に関する意見聴取については、企業訪問時(資料6-1-⑤-1)、企業人事担当者の求人来校時(資料6-1-⑤-2)、卒業生の来校時等の面談を通じて、各工学科の教員、卒業生の担任、進路指導部の担当者が卒業後の状況を聞き、その様子を在校生の進路指導時の資料として反映させている。また、卒業生からの貴重な意見を卒業生の声として本校学校案内に掲載している(資料6-1-⑤-3)。さらに、平成19年度より本科卒業生の就職先へ企業アンケートを実施し、回収したアンケートを集計することで、本高専の意図する教育の成果が上がっているかどうか客観的に評価する予定である。企業アンケート用紙を資料(資料6-1-⑤-4)に示す。

資料 6 - 1 - ⑤ - 1 企業訪問時資料

H18機械システム工学科企業訪問  
訪問者 機械システム工学科, 熊楚御堂茂, 荒賀浩一

日	企業名	面談者	内容
3月29日	(株)オームズ	村口様 ほか2名	本年度は6名募集予定。副工場長(勢和)は近畿大高専出身(熊野高専)である。
	三重金属工業(株)	西田様 ほか1名	本年度の募集は例年どおり。一昨年入社山下君は設計部に配属され頑張っている。
3月30日	ブラザー工業(株)	高橋様 ほか1名	本年度の募集は例年どおり。本高専卒業生の中君はプロフェッショナル職へ転換した。同期でトップである。他の卒業生もみんな頑張っている。
	伸栄プラスチック(株)	鳥居様 ほか1名	本年度の募集は例年どおり。一昨年に入社したM科3名はみな頑張っている。希望すれば設計職へ配属する予定。
	小島プレス工業(株)	土佐様	本年度の募集は例年どおり。近畿大高専出身者は多く、みな頑張っている。昨年度黄綬褒章を受章した谷口様は本高専2期生である。また、取締役の土佐様も本高専卒業生である。

(出典：近畿大学工業高等専門学校進路指導部資料)

資料 6 - 1 - ⑤ - 2 求人来校時資料

求人来校時資料

来校日	来校企業名	人事担当者	意見
18年 1月11日 ~ 18年 12月22日	山崎製パン(株) ほか70社	木下保ほか	<p>① 各企業人事担当者より、求人申込票(本校指定、企業指定等)、会社案内の資料にもとづき、求人学科、採用予定数、選考日、選考方法、必要書類等の説明を受ける。(求人申込票、会社案内の資料については、進路指導室のファイルに求人企業ごとに毎年保管している)(全体)</p> <p>② 卒業生が人事担当として求人に来校される場合もあり、学生達も就職試験に関するアドバイスを受ける(全体)</p> <p>③ 卒業生が在職している場合、近視について説明を受ける。寮生活、下宿生活の経験者は職場の人間関係も比較的良好。(全体)</p> <p>④ これまで採用を見合わせていた大手企業(機械、電気関係の企業)からの求人もあり建設関係のぞいては、回復基調であるとの意見が聞かれる。(機械・電気)</p> <p>⑤ 各企業人事担当者より望まれる人材について、何事も前向きに取り組む姿勢のある学生、発表能力のある学生、自分の意志、意見をはっきりと伝える学生等の条件が出される。(全体)</p> <p>⑥ 確実保全等の仕事であり、生産ラインで製品を作るような仕事ではない。卒業生の藤田君は安城工場で頑張っている(山崎製パン(株))</p> <p>⑦ 明るく元気な学生を希望。勤務地の限定は難しい。たとえば、新幹線の設計業務等は東京勤務となる。卒業生の清水君は大阪(鳥飼)で新幹線の整備業務を行っている(東海旅客鉄道)</p> <p>⑧ 実家が松阪、津方面の学生を希望。昨年度卒業生の妹尾君は松阪工場、仲君は津工場、山下君は松阪工場へ配属。(三重金属工業(株))</p> <p>⑨ 高専生はスキル職として採用予定。オフィス職は女性を希望。スキル職は10年前後でプロフェッショナル職(大卒)へ行ける。採用試験はSPIと面接。留学生の採用は難しい。現地法人での採用なら可能性あり。昨年度卒業生の増田君生産技術系の仕事でとてもよく頑張っている(ブラザー工業)</p> <p>⑩ 高専率は50名程度採用予定。明るく元気な学生、基</p>

<p>礎的な学力があり、集団で働ける学生を希望。クラブのキャプテン等責任感のある学生を希望。入社後5~6年はメンテナンス職の予定。(JR西日本)</p> <p>⑪ メンテナンス職の募集。なるべく関西エリアに配属する。女性も可能。昨年度卒業生の山本君は関西勤務となる(日立ビルシステム(株))</p> <p>⑫ 火力発電所や原子力発電所のメンテナンス業務である。元気な学生を希望。交代勤務ではない。専攻科も受験可能である(中部プラントサービス)</p> <p>⑬ 村田機械製品のサービス業務。メンテナンス職を募集。成績よりもお客様と会話のできる学生を希望。高専本科専攻科ともに採用基準は同じ。女性は内勤業務(ムラテックCCS)</p> <p>⑭ スキル職およびオフィス職を募集。何年かの勤務の後にプロフェッショナルへ転換可能。専攻科は大卒と同等の採用基準(ブラザー工業)</p> <p>⑮ 本年度は24名程度の採用を予定。フィールドエンジニアを募集。グループで仕事ができる学生を希望。面接ではコミュニケーション能力を評価する。筆記試験は面接でカバーできる(富士電機システムズ(株))</p> <p>⑯ 高専生は1/3が研究開発、1/3が生産技術、1/3がフィールドエンジニアである。昨年度は高専生を16名採用した。高専卒業生147名中、7名が本高専卒業生である(森精機(株))</p> <p>⑰ 業務内容はエンジニアリングオペレーターがほとんど。採用予定は例年どおりである。勤務地は未定。昨年度は高専生を48名採用した。昨年度卒業生の榎本君は栃木工場、瀧川君は鹿島工場、上野君は和歌山工場配属(花王(株))</p> <p>⑱ 昨年度は40名を採用した。本年度は60名採用予定。複数名受験可能である。昨年度卒業生の藤原君は堺工場に配属(ダイキン工業(株))</p> <p>⑲ 毎年15名程度の高専生を採用。専攻科も高専特で受験可能。勤務地は鹿島川もしくは上野工場。昨年度卒業生の飯田君は岐阜川勤務(鍋エッセイ)</p>
---

出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

(出典：近畿大学工業高等専門学校進路指導部資料)

資料6-1-⑤-3 卒業生の意見

## 卒業生の声



**平原 康彦**  
平成15年度  
機械工学科卒

**就職先:**独立行政法人国立印刷局 小田原工場

私は現在、日本銀行券の印刷作業を担当しています。日本銀行券は国民の生活に密着した極めて公共性、貴重性の高いものであるため、日々信頼性とより高度な品質精度を保持することに取り組んでいます。こうして出来た製品を日常生活で手にした時の気持ちは何ともいえない喜びがあります。

近畿大学高専時代に機械設計等を学んでいた私が今の仕事をしているように、一つの事にとらわれず様々な事に興味を持って、自分のやりたいことを見つける事も大切だと思います。



**倉田 真行**  
平成15年度  
土木工学科卒

**就職先:**東海旅客鉄道株式会社(JR東海)

「ミリ単位で保守・管理し、線路改良に取り組みたい」安全でそして快適な電車での旅を提供できるよう、私たちは様々な方法でレールやマクラギ、その他付属品等の状態を検査し、ミリ単位で線路の保守・管理を行っています。

私が携わっているのは、線路内での作業。日々緊張の連続ですが、新たに勉強し経験できることが多くあります。また、幅広い視野で広く知識を養うことが大切であると実感しました。身につけた技術力を多くの人に役立てることができるよう、常に良い状態を保てる線路改良をしていくことが今後の目標です。

05 KINKI UNIVERSITY TECHNICAL COLLEGE

計 796 44 52 41 38 47 46 1064

## 卒業生の声



**田井 悠**  
平成15年度  
機械工学科卒

**進学先:**立命館大学 理工学部ロボティクス学科

ビジョンシステム(TVカメラ,コンピュータ等を組み合わせたもの)を用いて、ロボットの環境計測や工場での製品検査の方法について研究しています。人にたとえれば目と脳に当たる部分で、対象への距離や形を判断させるようなものです。私は工業高校から近畿大学高専に編入学し、専門的な学習や研究活動を行っていくなかで大学での研究活動に興味をもち、大学への進学を決めました。高専で学んだ幅広い知識が専門的な研究の中でも役立っています。



**時田 拓**  
平成14年度  
土木工学科卒

**進学先:**和歌山大学 システム工学部環境システム学科  
現在、熊野市役所総務課勤務

近畿大学高専に在学していたころは七里御浜の海岸侵食について研究していました。また、熊野祭の実行委員をさせて頂き、地域の方々と触れ合う機会が増えました。このように、勉強、課外活動ともに地域に密着している学校で学べたことで、私がこの熊野で就職しようという思いが強くなりました。仕事はまだまだ一年目でわからないことばかりですが、地域住民全体の生活基盤を作り支えていくこの仕事にやりがいを感じています。

KINKI UNIVERSITY TECHNICAL COLLEGE 06

(出典：平成18年度近畿大学工業高等専門学校 学校案内)



資料 6-1-⑤-4 企業アンケート

近畿大学工業高等専門学校 卒業生に対するアンケート（就職用）

1. 貴社（貴事業所）の業種区分を次のリストより選んで記号にてお教えてください。

A:農業, B:林業, C:漁業, D:鉱業, E: 建設業, F:製造業, G:電気・ガス・熱供給・水道業,  
H:情報通信業, I:運輸業, J:卸売・小売業, K:金融業, L:不動産業, M:飲食店・宿泊業,  
N:医療・福祉, O:教育, 学習支援業, P:複合サービス事業, Q:サービス業, R:公務, S:その他の  
業種

回答欄： \_\_\_\_\_

2. 本科卒業生（専攻科修了生）の貴事業所における過去5年間の採用実績数を選択肢から選んで学科別でお教えてください。

(0) 0名, (1) 1名, (2) 2名, (3) 3名, (4) 4名, (5) 5名以上

回答欄：機械システム工学科（機械工学科）卒業生 \_\_\_\_\_

電気情報工学科（電気工学科）卒業生 \_\_\_\_\_

建設システム工学科（土木工学科）卒業生 \_\_\_\_\_

専攻科 生産システム工学専攻 修了生 \_\_\_\_\_

3. 本高専の卒業生（修了生）の勤務に対する能力的な評価について選択肢から選んでお教えてください。

(1) 満足, (2) やや満足, (3) 普通, (4) やや不満, (5) 不満

回答欄： \_\_\_\_\_

4. 本高専では「社会に貢献するための広い視野からもの創りを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実践していく想像力あふれる実践的技術者」を育成するために、学生への教育目標として下記5項目（4-1～4-5）を掲げて教育を行っております。そこで、本校の卒業生が下記5項目の能力が卒業時に身につけていると感じられたかどうか次の選択肢より選んでお教えてください。

(1) 満足, (2) やや満足, (3) 普通, (4) やや不満, (5) 不満

4-1. 工学の基礎となる学力が身につけている。

(たとえば、数学、物理などの基礎学力が身につけているか、データの集計や報告書作成にコンピュータ等を活用できるか、等が考えられます。)

回答欄： \_\_\_\_\_

4-2. 実践的なデザイン能力（設計業務を遂行できる能力）が身につけている。

(たとえば、専門分野の知識が身につけている、専門分野の知識を問題解決に応用できる、CADソフトウェア等が活用できる、等が考えられます)

回答欄： \_\_\_\_\_

4 - 3. 技術者としての健全な価値観や倫理観が身についている。

(たとえば、自国や世界の国々の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した視点から物事を考えることができる、社会人として必要な健全な人格を有し、技術者として必要な倫理観が身についている、等が考えられます)

回答欄： \_\_\_\_\_

4 - 4. 幅広い教養に基づく豊かな人間性を有している。

(たとえば、人文科学、社会科学、自然科学の分野の基礎学力を有している、課外活動、特別活動などへ参加して豊かな人間性が身についている、等が考えられます)

回答欄： \_\_\_\_\_

4 - 5. コミュニケーション能力を有している。

(たとえば、得られた結果等を日本語でまとめてプレゼンテーションできる、英語の読解・記述・簡単な英会話ができる、等が考えられます)

回答欄： \_\_\_\_\_

5. 本高専本科卒業生（専攻科修了生）のとくに優れている点もしくは特に劣っている点がありましたら、今後の教育の参考としますのでお聞かせください。

---



---



---



---

6. 最後に、なにかお気づきの点がありましたらご記入ください。

---



---



---



---

ご協力ありがとうございました。

(分析結果と根拠理由) 卒業生進路先の企業、大学および卒業生自身から色々な機会を捉えて卒業生の状況に関する意見聴取を行っており、その結果から、本高専の学生は社会及び大学に広く受け入れられているといえ、教育の成果や効果が十分上がっている。さらに、平成19年度より卒業生が就職した企業へ広範囲にアンケート調査を実施する予定である。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 習熟度別クラス編成や定期試験ごとの再試験制度等によって落ちこぼれを作らない教育を実施している。進路の状況は、準学士課程・専攻科ともに就職、進学率ともほぼ100%であり、かつ技術系・工学系の進路へ進んでおり大変優れている。これは本校の教育および卒業生が社会に評価されている証拠であり、準学士課程においては実践的技術者、専攻科においては開発型技術者を育成している成果であると言える。また、学生対象の達成度評価アンケートにより教育の成果を評価しており、現状の教育内容に甘んじることなく、各教員が意識的に教育内容の改善に取り組んでいる。

(改善を要する点) 就職先企業での卒業生評価が不十分であり平成19年度より広範囲にアンケート調査を実施する予定である。

### (3) 基準6の自己評価の概要

本高専においては、本校が目標とする技術者を育成するために教育に対して様々な学生支援を行っている。たとえば、学業不振による留年者や退学者を減らすために、習熟度別のクラス編成の授業を行っている。また、成績が合格基準に満たない学生に対しては定期試験ごとに補講および再試験を実施し、学生の授業理解不足による単位不認定を防ぐ方策を講じている。このように学業不振による退学者を減らすためにきめ細かな指導を丁寧に行っている。卒業研究について、研究テーマは産業界で先端技術と位置づけられる研究テーマや地域貢献を目指した産官学共同研究テーマが非常に多くなっている。さらに学外においても、卒業研究学生による各種学会発表を積極的に行っている。学会発表は単に研究成果を学外に公表する目的のためだけに参加するのではなく、学生の卒業研究に対する理解度とプレゼンテーションやコミュニケーション技術の向上に役立つと考えられる。また、就職・進学状況については、例年ほぼ100%というべき値となっている。就職に関して、卒業生のほとんどが技術系へエンジニアとして就職しており、企業の求人担当者からの聞き取り調査においても本高専卒業生の評価も良好である。今後は就職企業に対してアンケート調査を実施し、本高専卒業生の評価を定量的に把握する予定である。また、更に工学的知識を深めたい学生においては、本校専攻科、近畿大学をはじめ、国公立大学へ毎年進学している。これらのことを総合的に評価すると、本高専の教育内容、卒業生の技術者としての資質・能力は社会に広く認められており、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているといえる。また、H18年度より学年末に学生による学習達成度評価を実施している。これにより、卒業時(専攻科においては修了時)および進級時に本高専が意図する教育が達成できているかどうかを把握、評価している。学習達成度評価結果からは、ほとんどの項目において学生が本高専の意図する教育内容を把握・達成していると思われるが、コミュニケーション能力には教育内容に改善の余地があるように思われる。



基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 新入生に対するガイダンスは、1年担任団が中心となり、各関係部署と調整しながら「入学ガイダンス」を作成し、学生便覧と共に、新入生に配布し、ガイダンスを実施している。9日間の入学オリエンテーション(資料7-1-①-1)では、教務部、学生部、進路指導部各主事からの学習・生活・進路に関する話、総合システム工学科・専攻科の説明、ホームルームでの自己紹介や各委員の選出、課外活動や年間行事の説明などを実施している。

資料7-1-①-1 平成19年度入学オリエンテーションの日程

4月6日(金)	4月7日(土)	4月9日(月)
10:00 クラス分け掲示 (体育館前) 物品購入 ・教科書 ・制服 ・体操着 ・製図器具 ・実習服 ・その他 <u>持ち物に名前を記入</u> 入寮手続き 13:00 体育館に集合 (体育館シューズ使用) ・今日の予定 ・入学式予行 14:00 SHR ・ガイダンス配布 ・明日の予定 ・明日の持ち物 ・ロッカー指定 ・その他 ・ <u>JR定期券購入申込</u>	8:50 SHR 1. 学年費を集める 2. 提出物を集める 3. 証明書申請受付 (11日発行予定) 4. 入学式について説明 —体育館へ移動— (体育館シューズ持参) 10:00 入学式 11:00 ホームルーム 11:30 保護者対象の説明 1. 教務部 2. 学生部 3. 進路指導部 4. ウェルネスの説明 <u>JR定期券購入(申込者)</u> 12:00 保護者担任懇談会 (ホームルーム教室) 1. 担任からお願い 2. 前期行事計画 3. 質疑応答 4. その他 <u>希望者の個別面談</u>	8:50 SHR 1. 今日の前定 2. 提出物を集める — 体育館へ移動 — (体育館シューズ持参) 9:20 始業式・対面式 10:40 実力テスト 数学 10:40~11:25 英語 11:30~12:15 国語 13:00~13:45 昼食 13:45 SHR・下校 1. 明日の前定 2. その他

4月10日(火)	4月11日(水)	4月12日(木)
<p>～フィリシモの森保全活動～</p> <p>8:50 玄関前集合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出欠確認</li> <li>2. 今日の予定</li> </ol> <p>9:00 熊野少年自然の家に向けて出発</p> <p>10:30 ボランティア活動開始</p> <p>12:00 昼食</p> <p>13:00 オリエンテーリング</p> <p>15:00 終了(解散)</p> <p>※雨天の場合、12日の予定と入れ替えます。</p>	<p>8:50 SHR</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の予定</li> <li>2. 学年費を集める</li> <li>3. 提出物を集める</li> <li>4. 学生便覧配布</li> </ol> <p>— フリースペースへ移動 — (体育館シューズ持参)</p> <p>9:20 建学の精神 (教務部)</p> <p>11:00 学生生活の説明(1) (教務部)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教務主事の話</li> <li>2. 学習・成績について</li> </ol> <p>12:00 SHR</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 明日の予定</li> <li>2. その他</li> </ol> <p>12:15 下校</p>	<p>8:50 SHR</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の予定</li> <li>2. 学年費を集める</li> <li>3. 提出物を集める</li> </ol> <p>— フリースペースへ移動 — (体育館シューズ持参)</p> <p>9:20 学生生活の説明(2)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生主事の話 生活指導・学生会・ 交通安全について</li> </ol> <p>10:30 総合システム工学科 の説明</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工学科の全体概要</li> <li>2. 各コース説明</li> </ol> <p>12:15 ～昼休憩～</p> <p>13:00 交通安全講話</p> <p>14:00 中橋牧師さんの話</p> <p>15:00 終了後 SHR・下校</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 明日の予定</li> <li>2. その他</li> </ol>
4月13日(金)	4月14日(土)	4月16日(月)
<p>8:50 SHR</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の予定</li> <li>2. 学年費を集める</li> <li>3. 提出物を集める</li> </ol> <p>9:00 LHR</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人写真撮影</li> <li>2. 自己紹介</li> <li>3. 提出物を集める</li> <li>4. 年間行事の説明</li> <li>5. 時間割の説明</li> <li>6. 日直の役割</li> <li>7. クラス委員の選出</li> <li>8. 学生便覧の説明</li> <li>9. ウェルネスの説明</li> <li>10. 習熟度別クラス発表</li> <li>11. 検尿の容器配布</li> <li>12. 16日のX線撮影の服装について</li> <li>13. その他</li> </ol> <p>12:15 下校</p>	<p>自宅学習日</p>	<p>8:50 SHR</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の予定</li> <li>2. 学年費を集める</li> <li>3. 提出物を集める</li> <li>4. 検尿を回収</li> </ol> <p>9:00 通常授業</p> <p>X線撮影(1年生・5年生)</p> <p>備考 4/19(木) 身体測定</p>

(出典：平成19年度入学ガイダンス)

また、1～3年生までは、週1回「特別活動」を実施し、年4回の定期考査や長期休暇前の注意事項、学校行事の案内等についてガイダンスを行っている。本校では、平成17年度より総合システム工学科へ改組されたことにより、3年次より5つのコースに分かれるが、コース選択は基本的に学生の希望に沿って行われている。平成18年度においては、2年生を対象にコースガイダンスを夏休み前に実施し、工学科長および各コース担当教員により、各コースの学習対象分野、履修内

容、要求される適性、取得奨励資格などについて説明し、保護者との相談を促して後日コース選択希望用紙を提出させている。4年次及び5年次でのガイダンスは進路関係が主であり、進路手続きの説明等を学年初めや長期休暇前に数回実施している。

学生の自主的学習の相談・助言のための支援体制として、「相談マップ」(資料7-1-①-2)を作成し、各教室に掲示している。この相談マップには、各教員の指導可能科目の他、学習面以外でも相談にのれる事柄を併せて記載し、内容に応じて学生が相談に行けるよう配慮している。

(分析結果とその根拠理由) 1年次の入学式で配布する「入学ガイダンス」と学生便覧をもとに新入生に対して詳細な入学オリエンテーションが実施されている。また、各学年次において、ロングホームルームを利用して、学校行事内容、コース選択説明、進路説明のガイダンスが実施されている。2年生にはコース選択のためのガイダンスが行われている。授業担当教員や担任による学習指導の他に、「相談マップ」を活用した相談・助言体制が整備されている。

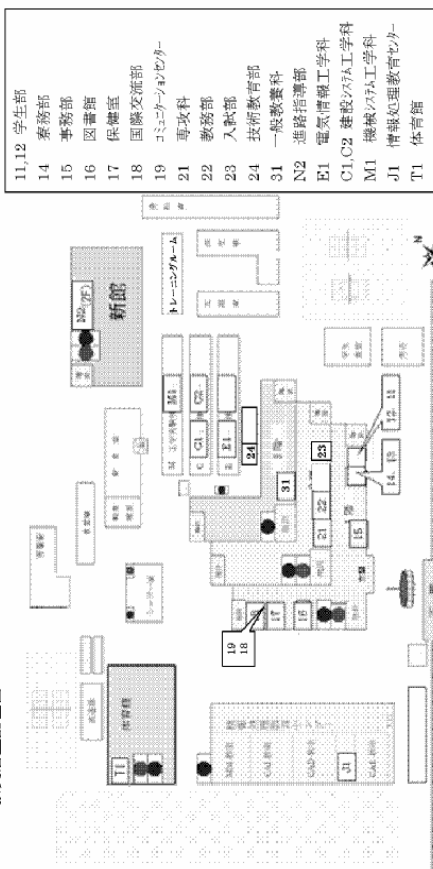
**観点7-1-②： 自主的学習環境(例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。)及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。**

(観点到に係る状況) 自主的学習スペースとして、図書館や情報処理教育センターがあり、学生便覧に記載された手続きを経て、課外活動も含め、空き教室・音楽室・フリースペースが利用できる。

図書館では、これまで書庫と図書閲覧室が別部屋となっていたため不便であったが、平成16年度の図書館改修により直接行き来ができるようになった。また、平成15年度より学生リクエスト図書制度を導入しており、学生の要望に応じてリクエスト図書を随時購入している。平成18年度には、198冊の学生リクエスト図書を購入した。さらに、平成18年度からは、平日の閉館時間を16時40分から19時に延長、土日も9時から12時40分まで開館し、学生・教員の図書利用の需要に応じている。これらの施策により、図書館利用状況は資料7-1-②-1のように増加している。

本館	3F(31)	山下 秀夫	数学	つり
本館	1F(16)	合野 理喜男	物理、応用物理	図書、編入学試験(物理)
本館	2F(21)	鈴木 隆	化学、生物、数学	危険物取扱者試験、吹奏楽部、乗物
本館	1F(19)	畑山 伸訓	物理、応用物理	奨学金、大学編入(物理)、ロボコン
講学(英語、中国語)、社会、体育				
本館	1F(16)	健一 藤	経済学、英語	アメリカカ大学留学、東南アジア情報
本館	3F(31)	竹内 春樹	英語	文化及び風土論、外国映画、鉄道
本館	1F(18)	渡口 博幸	国語	海外留学
本館	1F(11)	上田 透	英語	学校生活、学生会活動
本館	1F(18)	サイ モン	英語	海外旅行、サッカー、ハイキング
本館	2F(23)	大内 清司	国語	小説、カメラ、履歴書の書き方
本館	1F(19)	園田 紀子	国語、絵画	奈良・京都観光、美術作品
本館	1F(18)	酒井 宗和	中国語	中国事情、留学相談
本館	1F(11)	辻本 修	武道(柔道)	トレーニング、怪我
本館	2F(23)	中澤 良文	野球	健康食品
本館	1F(11)	藤藤 彰	ソフトウェア	スポーツ心理
本館	1F(11)	松尾 大介	日本史、陸上	ダイエット・健康食品
本館	1F(11)	野村 智裕	サッカー	トラップマジック
本館	1F(14)	小西 大亮	地理、武道(剣道)	武道関係
本館	1F(14)	重村 倫理	倫理	何でも
本館	1F(14)	島 敏敏	体育、スポーツ(球技)	野球、悩み事相談
体育館	(T1)	坪内 希輔	ソフトウェア	人生相談
本館	1F(14)	後呂 安雄	公民(政治・経済)、体育	バスケットボール、人生・進路相談
体育館	(T1)	榎本 昭徳	サッカー	スノーボード、サッカー関係
本館	1F(14)	森岡 圭	ラグビー	ラグビー、悩み事相談
本館	1F(14)	佐伯 祐子	柔道、球技、陸上	体育関係、悩み事相談

教員居室配置図



部署(地図)	教員氏名	学習面で指導できる科目	学習面以外で相談にのれること
機軸系			
機械棟	(M1) 奥田 昇也	製図、材料力学、工学実習	何でも可
新館	2F(N2) 村田 圭治	熱工学、伝熱工学、エコエー工学	機械系学生の進路指導
技数部	(24) 久目 克弥	計測、制御関係の科目、C言語	人生・進路相談
本館	1F(11) 熊登脚 茂	材料科学	就職に関する相談
技数部	(24) 山本 広樹	力学	電子工作、海外旅行
機械棟	(M1) 中村 信広	加工全般	機械工学科での進路とその対策
新館	2F(N2) 荒賀 浩一	水力学、流体力学、FORTRAN	就職・進学に関する相談
電気情報系			
本館	2F(21) 西 謙二	数学、英語、半導体	米国事情、登山、クラシック音楽
本館	2F(22) 嶋野 彰夫	物理、電子回路、情報家電機器	進路相談、特許関連、釣り
電気棟	(E1) 園井 康夫	回路網、電気数学、電気機器	鉄道模型、園芸、ガラス工芸品
電気棟	(E1) 大島 茂	電子材料、通信工学、高周波回路	光の話、フラッグキター、特許の書き方
情報ビル	(J1) 村松 一弘	コンピュータ、C言語、物理、英会話	海外留学、進路
電気棟	(E1) 中西 弘一	自動制御、制御工学	ソーラーカー、無線
本館	1F(23) 山川 昌文	CAD、Excel、ソフトウェア	進路相談、コンピュータ
情報ビル	(J1) 仲森 昌也	電気情報系の全般と資格	電子工作、球コ、缶詰、まうたじ
情報ビル	(J1) 政清 史也	情報通信関係科目	資格取得、進路相談
本館	1F(14) 岸 純男	電気電子系資格試験	電気工事士・工事担任者・電験3種
情報ビル	(J1) 本田 康子	物理、情報IT	大学での研究活動、教職課程
情報ビル	(J1) 倉林 有	工学の数学、Java、C言語	人生、園芸のこと
本館	2F(22) 神田 敏	数学、C/C++言語	囲碁
本館	2F(22) 渡邊 志	情報処理関係科目・化学系科目	人生・進路相談
電気棟	(E1) 岡部 敏雄	トランジスタ回路、シークンサ	アマチュア無線
電気棟	(E1) 汐崎 まこと	パソコン	キャリアアセスナルト
電気棟	(E1) 片岡 寿一	パソコン	Excel/VBA、PC製作、木工・金属工作
都市環境系			
建設棟	(C2) 表 寿一	景観学、生態学、環境デザイン	留学、恋愛、人生、進路相談
建設棟	(C2) 青木 繁	建築・都市・農村計画	空手道、町並み、建築士受験対策
本館	1F(15) 中西 祐啓	水理学、土木施工管理方法	風景写真、旅行、土木系資格試験
本館	1F(14) 五十 浩	地震、耐震、数学	進路相談
本館	2F(22) 林 泰弘	地盤(土質)工学	進路、鉄道、旅行、オランダ
本館	1F(17) 和田 孝志	鉄筋コンクリート、構造力学I	何でも可
本館	1F(19) 倉本 進郎	測量、情報基礎	進路相談、ワープロ検定、悩み相談
本館	2F(23) 中平 恭之	測量学、交通計画学、土木系科目	なんでも
情報ビル	(J1) 松岡 良智	建築学全般	進路相談
理数系			
本館	1F(23) 向井 康恩	数学	進路相談
本館	2F(23) 栗本 学	数学	進路相談
本館	2F(22) 伊藤 豊治	数学	進路相談
本館	3F(31) 木瀬 利和	数学	ソフトボール・ゴルフ
本館	3F(31) 堀 一詞	数学	園芸関係、ゴルフ

(出典：平成19年度相談マップ：教務部作成)



資料 7-1-②-1 図書館利用者数・貸出冊数

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
利用者数	658 人	921 人	999 人
貸出冊数	1,225 冊	1,557 冊	1,673 冊
学生数	860 人	912 人	868 人

(出典：近畿大学工業高等専門学校図書館内部資料)

情報処理教育センターでは、19 時 20 分までパソコン、プリンターおよびスキャナーが利用でき、一日の利用率は高い。また、校内 LAN が設置されており、学生寮の全室、新館全教室、そして本館 2 教室から利用でき、メールサーバーやファイルサーバーへのアクセスが可能である。さらに学内標準利用のソフトウェアの整備や e-Learning 環境の提供も行っている。

寮食堂では、平成 17 年度において、来校時に保護者や寮生以外の学生も利用できる喫茶室を寮食堂横に設置し、低額で食事・飲み物を提供している。新館 1 階部分には、研究会や各種展示、演奏会、懇親会、卒業研究発表会などに利用できるフリースペースがあり、地域住民にも開放している。普段は自動販売機、テーブル、椅子が設置され学生のコミュニケーションスペースとして利用している。

近畿大学学園では、福利厚生向上を目的とした学生健保共済会があり、医療費補助の他、学術・文化・交流活動、スポーツ活動・ボランティア活動などを行っており、指定の厚生施設を利用の場合 1 泊 5,000 円から 5,500 円の補助金が給付される。

(分析結果とその根拠理由) 情報処理教育センター、図書館、LAN 設備等が整備され、効果的に利用されている。学生寮の全室には、空調設備と LAN が設置され、いつでも快適な環境で情報通信を行うことができる。寮食堂横に喫茶室が新設され、寮生以外の学生、保護者、来校者なども利用できる。新館 1 階のスペースは、学生のコミュニケーションスペースとして利用されている他、講演会やコンサートなどにも活用されている。近畿大学学園には学生健保共済会があり、医療費補助の他、各種活動の実施、厚生施設の利用ができる体制が整っている。

**観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。**

(観点に係る状況) 平成 17 年度より土曜日を休日から選択学習日とした。この土曜日や平日の放課後、夏季休暇を利用して、資格試験対策講座、中国語講座、進学講座、補講講座（資料 7-1-③-1）を開設すると共に各種検定試験も実施している。これらの教育サービスは、学外で受講すれば費用がかかるが、本校学生であれば無料で受講することができる。資格試験講座に関しては、学生が取得可能であると思われる資格についてアンケート形式で希望を調査し（資料 7-1-③-2）、学生のニーズに応じている。機械システム工学科では、要望の高い資格取得講座としてアーク溶接特別教育とガス溶接技能講習会を平成 17 年度より開始した。

外国留学相談に関しては、イギリス人教員と留学経験があり語学力の高い教員で構成される国際交流部が対応している。

資料 7-1-③-1 土曜日講座一覧

- NCプログラミング
- 機械設計技術者3級講座
- 進路セミナー
- 無線技師養成講座
- 初級シスアド受験講座
- 第二種電気工事士受験講座
- C言語講座
- 土木施工技術者受験講座
- 2級建築士受験講座
- 現代文・小論文講座
- 古文・漢文講座
- 英語コミュニケーション講座  
(英検リスニング&面接試験対策)
- 基礎科学講義CD (英)鑑賞
- 進学補講

## 資格を取ろう!!

# キャリアアップ講座

## 開 講

本年度より、土曜日の有効利用として、土曜日補講を実施しています。この補講では、普段の授業時間を補いつつ、資格取得や、進学指導を主体とした授業を、講義形式や実技形式を併用しながら行い、最終的には国家免許取得や進学といった、具体的に目に見える形でキャリアアップを目指します。1年生から5年生まで、学年の枠を越えて受講する講座も多く、学生同士、お互いよい刺激を受けながら勉学に励んでいます。本年度は次の講座が開講されています。(学生の要望により、順次追加することも可能です。)

(出典：高専新聞第 20 号、平成 17 年 6 月 10 日)

資料 7-1-③-2 アンケート用資格リスト一覧表

**特定化学物質等作業主任者 1万ぐらい**

(特定化学物質等作業主任者の選任)

事業者は、特定化学物質等を製造し、又は取り扱う作業(試験研究のため取り扱う作業を除く。)については、特定化学物質等作業主任者技能講習を修了した者のうちから、特定化学物質等作業主任者を選任しなければならない。

**酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者 1万ぐらい**

(酸素欠乏危険作業主任者技能講習又は酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者)

事業者は、酸素欠乏危険作業については、第一種酸素欠乏危険作業にあつては酸素欠乏危険作業主任者技能講習又は酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習を修了した者のうちから、第二種酸素欠乏危険作業にあつては酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習を修了した者のうちから、酸素欠乏危険作業主任者を選任しなければならない。

**鉛作業主任者 1万ぐらい**

(鉛作業主任者の選任)

事業者は、鉛業務(遠隔操作によつて行なう隔離室におけるものを除く。)に係る作業については、鉛作業主任者技能講習を修了した者のうちから鉛作業主任者を選任しなければならない。

**玉掛け講習 2万から3万**

労働安全衛生法の規定により、つり上げ荷重が 1 トン以上のクレーン、移動式クレーンの玉掛けの作業については、都道府県労働局に登録する機関が行う技能講習を修了した者でなければならないことになっております。

**床上操作式クレーン 2万から3万5千円**

この講習を修了されると、床上操作式クレーン運転の「技能講習修了証」が交付されます。

「床上操作式クレーン」とは床上で運転し、ホイスト等に直接押しボタンスイッチ(ペンダント)をつり下げたようなもので走行、横行とも荷が移動するのと一緒に押しボタンスイッチを操作する者がついて行かなければならない方式のクレーンです。

この資格はつり上げ荷重能力が、5トン以上の床上操作式クレーンの運転ができます。

5トン未満のクレーンは、運転方式に関係なく運転できます。(移動式クレーンおよびデリックを除く)

**小型移動式クレーン運転技能講習 2万から3万5千円**

小型移動式クレーン運転技能講習(吊り上げ荷重5t未満)吊上げ荷重が1t以上5t未満の移動式クレーン。  
 \*小型移動式クレーンの資格だけでは玉掛け作業はできません、別に[玉掛け技能講習](#)の修了証が必要です。

**高所作業車講習 3万より**

作業床の高さが10m以上の高所作業車の運転の業務に従事しようとする者

**フォークリフト講習 自動車免許所持により価格変動 6千円より**

最大荷重1トン以上のフォークリフトを運転するためにはこの資格が必要となります。

**ボイラー実技講習 2万**

2級ボイラー技士受験資格修得の講習

(出典：資格取得希望調査資料)

(分析結果とその根拠理由) 学生の要望に応じ、選択学習日である土曜日を利用して各種講座が開催されている。資格取得に関しては学生へのアンケート結果から資格取得講座を開設している。留学生の受け入れと外国留学相談については、国際交流部が中心的役割を担っている。

**観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況) 本校で実施している資格試験、検定試験およびその受験のための取得講座は資料7-1-④-1の通りで、学生に多くの資格・検定試験受験の機会とそのための講習会を提供している。各講習会の参加者数は資料7-1-④-2となっている。電気情報工学科では、電気実験棟の廊下に国家資格取得者の名札をその学生が卒業するまで掲示している(資料7-1-④-3)。また、関係の深いと思われる国家資格を学生便覧にまとめている(資料7-1-④-4)。さらに平成18年度より主要な資格を取得した学生の校内表彰を開始し資格取得の奨励を進めている。また、平成19年5月には、専攻科および各学科の代表者によって構成される資格取得委員会が設置され、学生の資格取得のための支援体制を強化している。

**資料7-1-④-1 実施している資格試験・検定試験および取得講座**

一般教養科	漢字検定、英語検定、数学検定、TOEIC、TOEIC Bridge (定期試験で実施)
理科	危険物取扱者
機械システム工学科	アーク溶接特別教育講習会、ガス溶接技能講習会 玉掛け、フォークリフト技能講習、石綿作業特別教育、ボイラー実技講習
電気情報工学科	第二種電気工事士受験講座(筆記・実技)、電気通信工事担任者受験講座
建設システム工学科	2級土木施工管理技師講習会、小型車両系建設機械運転特別教育

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料 7-1-④-2 受講と実技で取得できる資格試験の参加実績

平成17年12月17日	石綿作業特別教育	21名
平成17年12月22～24日	アーク溶接特別教育	55名
平成18年2月24日・25日	砥石取り替え特別教育	33名
平成18年5月25～28日	フォークリフト運転講習	5名
平成18年7月14、15日	ガス溶接技能講習	80名
平成18年10月25～28日	玉掛け実技講習	26名
平成18年12月23～26日	フォークリフト運転講習	21名
平成19年3月9、10日	ガス溶接技能講習	42名
平成19年3月13～15日	ボイラー実技講習	51名

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料 7-1-④-3



(出典：電気情報工学科資格取得者掲示板)

資料 7-1-④-4

## 26. 主要国家試験・資格等

現行の各法規によって定められた国家試験資格などのうち、本校卒業生にとくに関係ある主な資格条件の一部を示す。

科 別	資 格 等	根 拠 法 令 等
共 通	技術士受験資格	必要な実務経験 7 年以上 予備試験免除（技術士法第 6 条・第 7 条）
共 通	労働安全（衛生）コンサル タント受験資格	卒業後安全（衛生）の実務 7 年以上 （労働安全衛生法第 8 条）
共 通	水道技術管理者となる資格	水道に関する技術上の実務経験 6 年（簡易水道にあっては 3 年）以上の者（水道法施行法）
共 通	電気工作物検査官となる資格	電気工作物の工事、維持及び運用に関する行政事務に通算 4 年以上従事した者（電気事業法施行令第 4 条）
共 通	建設業営業専任者となる資格	許可を受けようとする建設業に係る建設工事に關し、3 年以上の実務経験を有する者（建設業法第 7 条）
機 械 工 学 科	ガス溶接技能講習の講師となる資格	1 年以上の実務経験を有する者（労働安全衛生法）
〃	自動車整備士技能検定受験資格	3 級…自動車の整備作業の実務経験 6 カ月以上の者 2 級…3 級の技能検定に合格した日から 1 年以上の実務経験を有する者 1 級…2 級の技能検定に合格した日から 2 年以上の実務経験を有する者
〃	ボイラー・タービン主任技術者となる資格	第 2 種…発電用のボイラー・蒸気タービンまたはガスタービンの工事、維持又は運用の実務経験 4 年以上の者 第 1 種…圧力 60kg 毎平方センチメートル以上の発電用のボイラー・蒸気タービン又はガスタービンの工事、維持、又は運用の経験 4 年以上を含む実務経験 8 年以上の者（電気事業法）
電 気 工 学 科	電気主任技術者となる資格	電気事業法 第 56 条第 3 項 第 3 種：構内 50KV 構外 25KV 未満、発電 5 MW 未満の保安監督 第 2 種：構内 170KV 構外 100KV 未満保安監督 第 1 種：すべての電気設備
	電気工事士となる資格	電気工事士法第 7 条第 1 項、学科試験免除 第 2 種 簡易電気工事 第 1 種 500KW 未満
	工事担任者資格	電気通信事業法第 55 条、一部試験免除 アナログ第 1、2、3 種 デジタル第 1、2 種 アナログ・デジタル総合種
共 通	電気通信主任技術者	電気通信事業法第 44、45 条、線路主任技術者、第 1 種伝送交換主任技術者、第 2 種伝送交換主任技術者（特別第 2 種電気通信事業用設備）
共 通	情報処理技術者	第 2 種、第 1 種、システムアドミニストレータ、データベーススペシャリスト、ネットワークスペシャリスト、プロダクションエンジニア、システム運用管理エンジニア、アプリケーションエンジニア、プロジェクトマネージャ、システム監査、アナリストシステム
土 木 工 学 科	測量士となる資格	測量に関する科目を修得し 3 年以上の実務経験を有する者（登録申請）
	測量士補となる資格	卒業時に登録申請により資格取得
	一級土木施工管理技士受験資格	卒業後 5 年以上の実務経験を有する者
	二級土木施工管理技士受験資格	卒業後 2 年以上の実務経験を有する者
	一級建築士受験資格	卒業後 4 年以上の実務経験を有する者
	二級建築士受験資格	卒業後 1 年以上の実務経験を有する者
	一・二級建築施工管理技士受験資格	卒業後 5 年又は 2 年以上の実務経験を有する者

（出典：平成 19 年度学生便覧）

海外留学等の支援は、国際交流部が担当しており、中国の山西師範大学外国語学院、黄山日語職業学校、シンセン外国語学校と国際交流協定を締結し、留学生・研修員を受け入れた他、教職員・学生・地域住民がシンセンほかに研修旅行を行った実績がある。イギリス・ミッドチェシャーカレッジとの交流研修では、平成 15 年度より教員、学生の相互訪問を続け、平成 19 年度は本校から教員 2 名、学生 3 名がミッドチェシャーカレッジを訪問し外国研修を実施した。また平成 18 年 1 月より平成 19 年 3 月まで、ロータリー財団の基金で本校生とオーストラリアの高校生の交換留学が実施された。

(分析結果とその根拠理由) 資格試験、検定試験および受験のための講習会が各学科で多数実施されている。資格取得者に対する校内表彰など資格取得奨励を実施している。

国際交流および外国留学のための支援は国際交流部が担当し、中国シンセン外国語学校やイギリスのミッドチェンシャーカレッジとの交流やオーストラリアの高校生との交換留学が実施されている。

**観点7-1-⑤：** 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況) 工業高校や普通高校からの編入学生に対しては、編入後に専門科目履修の基礎となる科目について、各工学科にて編入生を対象とした科目設定または補講（資料7-1-⑤-1）を行い、基礎学力養成を支援している。いずれも本科3年次までに学習する専門科目の重要部分であり、編入学生に対する支援プログラムである。また、応用数学は本校からの進級者と履修内容を変えて格差是正に努めている。これらにより卒業時の編入生の成績は本校5ヵ年一貫教育学生と比べ遜色ないレベルにまで向上している。

資料7-1-⑤-1 編入生のために開講している科目

全工学科	応用数学（必修）	編入生クラスを2クラス設置
機械システム工学科	専門基礎（選択）	編入生は全員履修
電気情報工学科	電磁気学演習（選択）	編入生は全員履修
	回路演習（選択）	編入生は全員履修
	情報演習（選択）	編入生は全員履修
建設システム工学科	専門基礎（選択）	編入生は全員履修

(出典：教務部資料)

留学生に対しては国際交流部が学習・生活・進路等の支援を行っている。平成14年に中国からの留学生2名を受け入れたが、半年間本校で日本文化・社会への順応を支援する目的で「留学生日本語」の補講を受講した後に、相応年次に編入した。編入後も、「留学生日本語」の補講を実施して語学の支援を行い、「日本語能力試験」に合格するための補講も実施した。また、国際交流部顧問の元日中経済貿易センター専務理事、現日本電産（株）海外事業管理部顧問の酒井宗和氏は中国の経済状況に精通しており、留学生の就職に関してアドバイザー的な役割を果たした。奨学金の斡旋については、三重県私費海外留学生奨学金と日本学生支援機構私費外国人留学生等学習奨励費、本校独自の留学生奨学金（2万円/月）を紹介した。

(分析結果とその根拠理由) 編入生は本校からの進級生に比べ、基礎科目、専門科目の遅れあるいは未履修が見られるため、これを克服する学習支援体制が整備されている。この学習支援体制により、5ヵ年一貫教育学生と遜色ない学力が得られている。留学生に対しては、国際交流部を中心に日本文化・社会への順応を支援する目的として、補講実施、進路指導、奨学金等の支援体制が整っている。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 学生会の運営は、年額1万円の学生会費収入の他、学校からの大会出場・クラブ活動補助費、保護者会や後援会からの補助によって賄われている。また、自動販売機の手数料や教科書売り上げの還付金などは後援会が資金管理し、学生活動に直接還元している。学校改革が本格的に始動した平成13年度より、学園祭に多くの補助金を投下し、学生主体で学園祭を盛り上げ、地域住民も参加するイベントとなっている。保護者会では学生活動補助費(年300万円程度)や熊野祭補助費(年100万円程度)を学生会に補助している。後援会では、平成15・16年度は全天候型跳躍走路・砂場の整備、遠征用スクールバス3台の寄贈があり、平成17年度はサッカーグラウンド照明施設整備、遠征用スクールバス1台、大型バス1台、平成18年度には大型バス1台の寄贈があった。本校は交通の便が悪く公共交通機関利用で大会出場や練習試合に出かける場合、高い交通費や宿泊費を伴うため、対外的活動が制約されていた。大型バス、マイクロバスの寄付により、課外活動遠征は勿論資格試験受験の移動等に活用されている。

平成19年4月には、熊野市からの補助金、保護者会・同窓会からの寄付金により、屋内競技場が竣工し、天候を気にせず、年中練習できる環境が整備された。

また、学校再建のなかで、人件費を抑制した資金を、学生の給付奨学金や学生活動費(大会出場費、クラブ補助費、学園祭補助費等)に当てたことにより、課外活動を含む学生活動が非常に活性化してきている。

課外活動では、トップレベルの指導者(資料7-1-⑥-1)の採用やスポーツ成績の優秀な学生の入学などの効果によって、資料7-1-⑥-2に示す各種大会で好成績を挙げている。また、体育スポーツ活動が充実するようスポーツ施設の改修工事も随時行っている。ロボットコンテストやソーラーカーなど、ものづくり活動の促進を図るための予算も拡充し、ロボット技術の専門家も採用し、指導体制の強化を図った。

資料7-1-⑥-1

<b>スポーツ指導教員</b>	<b>柔道部</b>	<b>ソフトテニス部</b>	<b>陸上競技部</b>	<b>硬式野球部</b>	<b>サッカー部</b>
	 <b>辻本 修</b> 助教授	 <b>齋藤 彰</b> 講師	 <b>松尾 大介</b> 講師	 <b>中澤 良文</b> 講師	 <b>栢野 智裕</b> 助手 <small>(教育学修士・福岡教育大学)</small>
	<b>■主要競技成績</b> ・講道館柔道 6段  <b>■クラブ指導実績</b> ・近畿地区高等大会 ・団体戦 優勝、個人戦3階級 優勝 ・東海高校総合体育大会 ・個人戦準 優勝 ・三重県高校総体 ・団体戦優勝 ・全国高校柔道選手権大会 出場	<b>■主要競技成績</b> ・全日本学生王座 準優勝 ・西日本学生選手権 3位  <b>■クラブ指導実績</b> ・JOCジュニアオリンピック 3位 ・インターハイ 団体戦、個人戦出場 ・全日本私学大会 3位 ・東海総体 団体戦、個人戦準優勝 ・全国高等大会 団体戦、個人戦優勝 ・国民体育大会 準優勝	<b>■主要競技成績</b> ・東アジアジュニア陸上競技選手権大会 優勝 ・アジアジュニア陸上競技選手権大会 4位  <b>■クラブ指導実績</b> ・全国ジュニアオリンピック 8位 ・全国高等大会 優勝 ・東海高校総体 優勝 ・三重県高校総体 優勝、入賞 ・全国高校総体 出場 ・日本選手権 6位	<b>■主要競技成績</b> ・全国大学選手権 優勝  <b>■クラブ指導実績</b> (本校赴任前、指導者として甲子園出場3回) ・全国高校野球選手権三重大会 ベスト16	<b>■主要競技成績</b> ・国民体育大会鹿児島県選抜選手 ・全日本大学選手権大会 ・全国 3位  <b>■クラブ指導実績</b> ・全国高等大会 優勝 ・愛知学生サッカーリーグ戦 初勝 優勝

出典：近畿大学工業高専新聞 第24号(平成18年7月8日)

資料7-1-⑥-2 平成18年度クラブ活動成績

陸上部	全国高校総体 走り高跳び 準優勝 第61回国民体育大会 走り高跳び(少年女子) 準優勝 アジアジュニア陸上選手権 走り高跳び 5位 日本ジュニア陸上競技選手権大会 走り高跳び 優勝 日本選手権 走り高跳び 6位 第43回近畿地区高専大会男子総合優勝(全国高専大会出場)
柔道部	全国高校総体 個人戦90kg級 第3位 第41回全国高専大会男子団体優勝 全国高専大会個人戦優勝および準優勝
ソフトテニス部	全国高校総体出場 女子個人戦第5位 第41回全国高専大会男子団体優勝 第41回全国高専大会男子個人戦優勝および準優勝 第41回全国高専大会女子団体優勝 第41回全国高専大会女子個人戦優勝および準優勝
剣道部	第41回全国高専大会 個人戦第3位 第43回近畿地区高専大会 団体第3位 第43回近畿地区高専大会 個人戦優勝および準優勝
サッカー部	第41回全国高専大会 優勝
バスケット部	第43回近畿地区高専大会 準優勝(全国高専大会出場)
野球部	第43回近畿地区高専大会 準優勝
ロボット技術部	平成18年全国高等専門学校ロボットコンクール全国大会 第8位 デザイン賞受賞

(出典：近畿大学工業高等専門学校学生部資料)

(分析結果とその根拠理由) 学生会の運営、学生の課外活動に対して資金面、施設面で支援体制がある。課外活動など学生の活動に必要な経費は、学生会費の他に熊野祭補助費、大会出場補助費、クラブ活動補助費などがある。また、自動販売機の手数料や教科書売り上げの還付金なども学生生活動に直接還元している。さらに、保護者会・後援会・同窓会による課外活動・学園祭などの学生生活動に対する支援体制が整えられている。

トップ水準のスポーツ指導者の採用や施設・設備の充実により、東海総体、インターハイ、国体、ジュニアオリンピック、私学大会などに出場し好成績を収めているほか、高専大会においても好成績を収めている。また、遠征用スクールバスは、平成18年度現在、大型2台、マイクロバス4台あり、課外活動において活用している。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能し



ているか。

(観点に係る状況) 本校には、学生部、カウンセリングルーム、保健管理室が設置されており、学生の生活に関する指導・相談やアドバイスができる体制が整備されている。平成19年度からは、新たに6名の教員より成るコミュニケーションセンターが設置され、学生の生活面や学校生活不適応学生への相談・助言を行うための体制が強化された。

学生部は、学生の生活、下宿、学生会、厚生、交通安全などの指導やアドバイスを行っている。保健管理室には、保健管理センター長(教員)および看護師1名が常駐し、学生および教職員の健康管理や疾病に対する応急処置を行っており、課外活動等学校管理下における学生の負傷等に対する学生健康保険制度がある。また、カウンセリング室には、臨床心理学博士であるカウンセラー1名が毎週1回来校し、心のケアについて学生・保護者との面談を実施している。相談件数・相談内容は、資料7-2-①-1が示す通りで、不登校・人間関係の悩みだけでなく、異性関係や学習面の相談など多方面に渡っている。臨床心理学博士であるカウンセラーからの所見は、不登校学生の進級時の判断材料となっている。

資料7-2-①-1 平成18年度 カウンセリングルーム利用状況

相談者別人数

学年別／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	18年度	17年度	16年度	15年度
1年	0	3	1	0	0	1	0	1	0	4	4	0	14	28	12	24
2年	0	0	4	0	0	3	0	2	5	0	2	1	17	31	19	68
3年	2	6	6	0	0	4	6	6	4	3	3	0	40	11	12	39
4年	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	5	18	17	22
5年	0	1	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	5	34	6	24
保護者	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4	0	7	7	14	20
教員	2	1	0	1	0	0	0	6	10	4	8	1	33	23	10	26
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	12	13	1	0	8	7	18	23	11	21	3	121	152	90	148

相談内容数

内容／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	18年度	17年度	16年度	15年度
いじめ	0	0	2	0	0	0	0	2	5	3	0	0	12	3	0	7
不登校	1	5	2	0	0	1	3	4	4	0	10	0	30	37	46	43
人間関係	1	3	6	0	0	5	4	5	9	4	4	1	42	52	6	54
学習面	0	1	1	0	0	1	0	1	0	2	0	0	6	24	10	61
進路	0	1	0	0	0	1	0	3	0	0	2	1	8	14	12	32
暴力	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
その他	2	2	2	1	0	0	0	3	5	2	5	1	23	22	60	26
合計	4	12	13	1	0	8	7	18	23	11	21	3	121	152	135	223

※15・16年度合計が一致しないのは、統計の仕方が異なったため

(出典：カウンセリングルーム資料)

奨学金制度に関しては、公的奨学金制度（資料7-2-①-2）、および本校独自の給付奨学金制度と貸与奨学金制度がある。平成18年度における公的奨学金制度の実績は、日本学生支援機構奨学金111名、和歌山県奨学金11名、大阪府奨学金41名、三重県奨学金42名、奈良県奨学金1名、関西育英奨学金1名、神戸市奨学金1名、交通遺児奨学金1名、あしなが育英会2名である。給付奨学金制度は学業・課外活動優秀生に対して奨学金を給付する制度であるが、平成18年度にお

ける給付奨学生（特待生）の数は、資料7-2-①-3が示す通り、学業奨学生（特待生）84名、課外活動奨学生（特待生）202名である。また、本校独自の貸与奨学金制度（資料7-2-①-4）があり経済的理由で学費納入が困難な学生に30万円または50万円を無利子で貸与（平成18年度13名）している。

資料 7-2-①-2 公的奨学金制度の概要

21. 公的奨学金制度

1. 日本学生支援機構

奨学生への推薦については、大学及び高等専門学校の「奨学生推薦基準・推薦基準実施要項」に基づいて、学力・家計の両面から校内推薦委員が推薦する。

1 奨学生の種類と貸与月額（平成16年度実績・単位円）

区分	入学年度	学年	自宅	自宅外
私	平成16 (2004)	1	32,000	35,000
	平成15 (2003)	2	32,000	35,000
	平成14 (2002)	3	32,000	35,000
立	平成13 (2001)	4	50,000	57,000
	平成12 (2000)	T	49,000	56,000

奨学生には、中学在学中に出席して予約採用された者と、入学後出席して採用される在学採用の2種類がある。

2 奨学生の募集

奨学生の募集は、5月ごろ行なう。出席時期、要領については掲示などにより通知するので、希望する者は所定の願書用紙の交付を受け、必要事項を正確に記入して提出すること。

3 採否の決定

校長が推薦したものについて、日本学生支援機構が採否を決定し、校長を経て本人に通知する。

4 奨学金の交付

奨学金は昭和53年4月から、奨学生個人の銀行預金口座に振込まれることになった。奨学生は取り扱い銀行の店舗から選んだ店舗に本人名義の普通預金口座

を開設し、「奨学金振込口座」を銀行で確認を受けた後、学校を経由して日本学生支援機構に提出すること。奨学金は毎月1回当月分（ただし、4～5月分は5月、2～3月分は2月）が振込まれるので、毎月11日以降、口座開設の銀行でいつでも払出すことができる。

5 奨学生の学業成績報告

学校では、毎年奨学生の学業成績報告書ならびに生活状況報告書を日本学生支援機構に提出する。その結果、成績不振学生に対しては、奨学金貸与期間の短縮、1ヶ年停止又は辞退扱い等をされることがある。また品行不良あるいは奨学生としての責務を怠り、奨学生として適当でない学生も奨学金の交付を廃止されることがある。

6 奨学金の返還

貸与された奨学金は、卒業後6ヶ月を経過してから年賦により返還しなければならない。

2. その他の奨学金

日本学生支援機構の他、地方公共団体、民間団体などの奨学金制度がある。

(出典：平成19年度学生便覧)

資料 7 - 2 - ① - 3 平成 18 年度給付奨学生（特待生）実績

平成18年度給付奨学生・特待生数

		給付奨学生 A	給付奨学生 B	給付奨学生 C	授業料 全額免除	授業料 半額免除	入学金・授業 料教育充実費 全額免除	計
学 業	1年生	1	6	3				10
	2年生				4	11		15
	3年生				10	12		22
	4年生				11	11		22
	5年生				6	9		15
	専攻科							0
	計	1	6	3	31	43		84
課 外 活 動	1年生	17	22	33				72
	2年生				18	16	1	35
	3年生				12	12	2	26
	4年生			3	5	16	4	28
	5年生				13	15	3	31
	専攻科	3	2	2	3			10
	計	20	24	38	51	59	10	202

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料 7 - 2 - ① - 4 近畿大学高専奨学金の概要

22. 近畿大学工業高等専門学校奨学金

(目的と種類)

第1条 この規則は近畿大学工業高等専門学校（以下「近畿大高専」）に在学し、健康であるが経済的理由により修学が困難な学生に対し、近畿大学が学資の一部を貸与して学業を継続させることを目的とする。

2 奨学金の種類は、定期採用と応急貸付の2種類とする。

(奨学生の資格)

第2条 この規則により奨学金を貸与される学生（以下「奨学生」）は、近畿大高専の勉学に耐えうると認められるものでなければならない。

(奨学金の額)

第3条 奨学金の貸与額は、1～3学年時年額30万円、4～5学年時年額50万円とする。

(貸与人員及び貸与期間)

第4条 奨学金を貸与する人員は若干名とする。

2 奨学金貸与を出願できる期間は入学から5年以内とする。

(奨学生の出願手続き)

第5条 奨学生志願者は毎年、次の書類を提出しなければならない。

- ① 奨学金貸与願
- ② 家庭状況調書
- ③ 中学校指導要録又は全学年年度末の成績証明書
- ④ 家庭の前年所得を証明するもの

(選考)

第6条 奨学生の選考は、毎年近畿大高専奨学生委員会において、出願書類と人物考査によって決定し、これを本人に通知する。

(借用の手続き)

第7条 奨学生として採用されたものは、決められた期日までに次の書類を提出しなければならない。

- ① 奨学金借用証明
- ② 連帯保証人印鑑登録証明書

③ 奨学金振込口座届

(奨学金の貸与)

第8条 奨学金は毎年10月上旬、年額を一括して貸与する。ただし、応急貸与の場合はこの限りではない。

(採用内定の辞退)

第9条 奨学金の貸与を辞退する場合は、採用内定辞退届をすみやかに提出しなければならない。

(奨学生の資格喪失)

第10条 奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、その年又は翌年の出願資格を喪失する。

- ① 退学又は休学したとき
- ② 学生の身分にもとる行為があったとき
- ③ その他奨学生委員会が不当と認めるとき

(異動の届け出)

第11条 奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、すみやかに奨学生委員会に届け出なければならない。

- ① 退学又は休学したとき
- ② 家族及び連帯保証人に異動があったとき
- ③ その他在学関係の重要な事項

第12条 奨学生の奨学金返済については次の通りとする。

- ① 返還 卒業後、毎年12月に一定金額（年賦）を1～19年かけて返還する。（返還年数は借入金額により異なる）
- ② 大学・大学院等に在学の場合、毎年、在学証明書を提出することにより返還時期を延納する場合がある。

附 則

この規則は、平成12年10月1日から施行する。

(出典：平成19年度学生便覧)

また、毎年10月に熊野尾鷲地区、南牟婁新宮地区、和歌山、京阪神地区、三重北中部・伊勢地区において地区別懇談会を開催し、保護者面談を行っている。さらに、地元の県立高校2校と合同で紀南三校PTA連絡協議会を設立し、情報交換を行い、街頭指導や通学指導などを行っている。

(分析結果とその根拠理由) 学生部、カウンセリングルーム、保健管理室、コミュニケーションセンターがあり、学生に対する相談・助言が行われている。公的奨学金の紹介や本校独自の特待生(給付奨学金)制度や貸与奨学金制度を導入するなど、学生の経済面に対する支援体制が整っている。

**観点7-2-②: 特別な支援を行うことが必要と考えられる者(例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。)への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。**

(観点に係る状況) 留学生に対しては国際交流部が学習面や生活面などの支援を行っている。具体的には、三重県私費海外留学生奨学金と日本学生支援機構私費外国人留学生等学習奨励費、本校独自の留学生奨学金制度(月額2万円の支給)等の奨学金の斡旋、「留学生日本語」の補講、就職試験用作文添削・面接練習などの進路指導、寮費の2分の1軽減を実施している。

(分析結果とその根拠理由) 国際交流部が中心となって奨学金の斡旋や日本語教育など留学生の学習面や生活面の支援を行っている。入寮する留学生には寮費の軽減を実施している。

**観点7-2-③: 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。**

(観点に係る状況) 学生寮としては、青葉寮、景雲寮、淡交寮、清和寮、友朋寮の5つの寮があり、現在約270名が寮生活を営んでいる。平成12年度以前は、外部の委託業者の管理でワンルームマンションタイプのバストイレ付きの部屋は、入寮費70,000円、寮費月額26,000円であった。しかしながら、平成13年度に学校直営となり、同様の部屋で入寮費30,000円、寮費月額17,000円、共同のシャワールーム、トイレである木造寮で寮費月額13,000円としている(資料7-2-③-1)。全室コイン式エアコン、LANが設置され民間賃貸住居に比べ格安で快適居住空間を提供している。

資料7-2-③-1

## 学生寮 完備



寮雲寮

情報処理教育センター

● **マルチメディア室**  
120インチ大型スクリーンとAV機器、あらゆるデジタル機器を揃えた教室です。

● **いつでも使えるネットワークシステム**  
インターネットに自由にアクセス。自分専用の電子メールアドレスが使えます

全国からたくさんの  
学生が集まっています

**在籍する編入学生数（出身地別）**

三重県	5
大阪府	49
和歌山県	10
奈良県	4
滋賀県	1
兵庫県	5
中国地方	4
九州地方	7
愛知県以北	1
海外	1

**寮費**                      入寮金：30,000円

学生寮名	部屋種別	寮費	
淡交寮	2人部屋	13,000	食費は1日1,344円です。 学生寮は原則2人部屋です。 1人部屋は入寮生が定員に満たないときに限り使用が認められます。
	1人部屋	26,000	
寮雲寮	2人部屋	17,000	
	1人部屋	32,000	

(平成19年度)

(出典：平成20年度第4学年編入学案内)

寮生活は近畿大学学園の建学の精神である「人格教育」を行うよき場であると捉え教員の寮務主事・寮主任・寮監とともに、学生による寮長(5年)および副寮長(4年)が寮生の指導に当たっている。平成19年度よりクラブ講師を務める非常勤講師5名が寮監として寮各階に居住し24時間体制で寮生の指導・助言等に当たる体制が確立した。寮生活における諸問題は、寮運営委員会、寮生活改善委員会、給食委員会が、保護者、寮主任、指導寮生、一般寮生の意見を取り入れ対処している。寮食堂は、エアコンが完備し、快適な環境で食事できるようになっている。食事内容は給食委員会や宿直教員の夕食モニターによって改善を図っている。

学生寮の改善によって寮生数は平成12年118名であったが、平成13年度149名、平成14年度200名、平成15年度261名、平成16年度265名、平成17年度299名、平成18年度289名、平成19年度272名と推移している。この対策として倉庫として利用されていた旧学生寮の改修工事を実施し、部屋数の確保を行なった。

(分析結果とその根拠理由) 5学生寮が整備され、遠方からの学生に格安で快適な生活及び勉学の間を提供している。民間賃貸住居に比べ格安でバストイレ付きの1ルームマンションタイプをはじめ、空調設備とLAN設備の完備した快適な暮らしができる設計となっている。寮生活における問題は寮運営委員会、寮生活改善委員会が対処し、寮食堂の食事等についての対処は給食委員会が行っており、衛生的かつ快適に食事ができるように改善されてきている。寮生活を「人格教育」のよき場と捉えきめ細かな生活指導体制が整備されている。学生寮の改善によって寮生数が毎年増加している。

観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況) 学生の進路に関する事項は進路指導部が統括し、各工学科や4年および5年担任が進路指導する体制が整っている。進路指導部は、各企業より寄せられた求人のデータベース化や公開、進路対策の立案、学生受け入れ企業や大学編入学の新規開拓、大学編入学試験の過去問題取り寄せ、進路先集計などを担当している。進路指導部資料室には、会社資料が3,500社、進学資料が200校あり、企業検索用のパソコン設置などによって、全学生がいつでも閲覧できる体制を整えている。また、4年生を対象に進路に対する取り組み方や対策について、進路説明会を夏期・冬期休暇前、後期期末試験前の3回実施している。

4年および5年担任は各工学科に配置された進路指導主事補と連携をとりながら、学生一人一人の進学・就職調査や個別面談を実施し、応募書類の準備や手続き、履歴書等の添削、筆記試験対策、面接試験の模擬練習など綿密な指導とアドバイスを行っている。平成13年度から平成19年度までの工学科別進路状況と求人状況の推移を資料7-2-④-1に示す。就職希望者数に対し、例年5～10倍の求人が企業から寄せられている。

資料7-2-④-1 進路(就職・進学)状況と求人状況

学科	年度	13	14	15	16	17	18	19
機械システム 工学科	卒業者数	38	30	39	60	46	83	75
	就職者数	19	20	23	36	32	56	51
	求人数	160	155	145	154	191	329	498
	進学者数	17	9	16	21	11	25	21
	その他	2	1	0	3	3	2	3
電気情報 工学科	卒業者数	45	29	38	51	49	80	82
	就職者数	24	14	29	31	25	54	57
	求人数	153	177	157	187	216	331	505
	進学者数	19	13	9	20	20	22	24
	その他	3	2	0	0	4	4	1
建設システム 工学科	卒業者数	61	46	46	31	36	59	54
	就職者数	38	22	31	18	16	35	39
	求人数	141	103	83	79	81	127	235
	進学者数	17	19	15	12	19	22	13
	その他	7	5	0	1	1	2	2

(出典：近畿大学工業高等専門学校進路指導部資料)

インターンシップに関しては平成13年度より受け入れ企業の調査を進め、従来から大都市にある企業からのインターンシップ受け入れ案内はあったが、交通費・滞在費自己負担であったため、わずかの地元企業にしかインターンシップに行くことができなかった。しかしながら、交通費・滞在費を企業側が負担するケースが多くなったことにより、インターンシップを受ける学生が大幅に増加している。平成18年度は計24名(資料7-2-④-2)が実習に参加している。なお、インターンシップ先での機器・器物破損に備え、学校負担で対物損害保険に加入させて学生を送り出してい

る。

資料7-2-④-2 平成18年度インターンシップ実績

No.	クラス	実習先	実習期間
1	4MA	三菱電機冷熱システム製作所	7/24～8/4
2	4MA	長岡技術科学大学	7/24～7/28
3	4MB	長岡技術科学大学	7/24～7/28
4	4EA	村田機械C. C. S	7/24～7/29
5	4EA	花王	7/25～8/3
6	4EA	中部電力	8/7～8/11
7	4EA	出光興産	7/24～8/1
8	4EA	出光興産	7/24～8/1
9	4EA	三菱電機ビルテクノサービス	7/24～8/4
10	4EA	長岡技術科学大学	7/24～7/28
11	4EA	アイシン精機	7/24～8/4
12	4EA	NHK津放送局	7/24～7/28
13	4EA	メイテック	8/21～8/31
14	4EA	J-Power	7/24～8/4
15	4EB	豊橋技術科学大学	7/18～7/22
16	4EB	豊橋技術科学大学	7/18～7/22
17	4EB	富士電機システムズ	8/16～8/25
18	4CA	長岡技術科学大学	7/23～7/29
19	4CB	豊橋技術科学大学	7/18～7/22
20	4CB	結工房	7/31～8/5
21	4CB	結工房	7/24～7/29
22	専1	電源開発・JPハイテック	7/24～8/4
23	専1	妙野	7/24～7/29
24	専1	京都工芸繊維大学	3/22～3/31

(出典：近畿大学工業高等専門学校教務部資料)

(分析結果とその根拠理由) 学生の進路に関する事項は進路指導部が統括し、各工学科や4年および5年担任が進路指導する体制が整っており、就職内定率および大学合格率向上のため、企業訪問の実施や大学編入学試験の過去問題の取り寄せ、進路に対する取り組み方や対策について、進路説明会の開催、履歴書等の添削、筆記試験対策、面接試験の模擬練習など、積極的な進路指導を行っている。これによって学生の進路決定率は極めて高い状況にある。従来低調であったインターンシップは経済的負担の軽減によって参加学生数が大幅に増加している。



## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

学生支援のため、学生部、コミュニケーションセンター、カウンセリングルーム等が設置され、各種資格・検定試験受験対策講座の実施、編入学生向け科目や補講の実施、学生への相談・助言・カウンセリングを実施している。また、留学生に対しては「留学生日本語」の補講を実施している。

快適な暮らしを提供する学生寮・寮食堂・喫茶室が整備されていると共に、校内LANを通じて学生寮や新館全教室からサーバーにアクセスできる自主的学習環境が整備されている。

資格試験については、学生が取得可能であると思われる資格について希望を調査し、学生のニーズに応じた資格取得や検定試験対策のための講習会を幅広く実施している。

海外留学等を支援するため国際交流部が設置されており、イギリス・中国・オーストラリアの学校との国際交流を実施されている。

課外活動では、トップ水準の指導者採用、学校および保護者会、後援会からの大会出場補助費やクラブ活動補助費、熊野祭などの補助、課外活動に対する支援によって全国的な大会への出場や大会優勝など成果を上げている。

公的奨学金以外に給付奨学金制度、本校独自の貸与奨学金制度の整備、留学生に対する独自奨学金や寮費負担軽減を行っており、一般学生、保護者、留学生に対する経済的支援に十分な配慮がなされている。

学生の進路指導は、進路指導部、担任、工学科の連携の下、進路説明会の実施、就職試験・大学編入学試験対策指導、企業訪問や編入学試験問題の収集、近畿大学との7年一貫教育の実施など、進路指導体制は機能しており、進路決定率が極めて高い状況にある。

### (改善を要する点)

学生の資格試験関連のニーズは常に変化するもので、アンケートを定期的に行う必要がある。

外国留学相談に応じてはいるが、実績として、本校からの長期留学はこれまでのところ1名だけである。

## (3) 基準7の自己評価の概要

学生に対する学習支援体制として、まず、新入生に対しては、詳細な入学ガイダンスが、1年担任団を中心に実施されており、各学年次に対しては、ロングホームルーム等を利用して、コース選択説明、進路説明のガイダンスが実施されている。学生の自主的学習環境としては、図書室、情報処理教育センターをはじめ、空き教室・音楽室・新館フリースペースが利用可能となっている。また、学生の自主的学習を支援するため、「相談マップ」を各教室に掲示し、各教員の指導可能科目のみならず、勉学以外でも相談にのれる事柄についての情報を提供することによって、内容に応じて学生が相談に行けるような環境を作っている。さらに、本校においては、資格取得に前向きな学生が多いことから、土曜日や平日の放課後、そして夏季休暇を利用して、資格試験対策講座を開設すると共に、各種検定試験も実施されている。平成19年5月には、専攻科および各学科の代表者によって構成された資格取得委員会も設置され、学生の資格取得を支援する体制を整えている。海外留学等の支援は国際交流部が担当しており、イギリス・ミッドチェシャーカレッジとは学術交流協定を、中国・深圳外国語学校とは国際交流協定を締結している。平成18年1月から平成19年3月まで、ロータリー財団の基金で本校生とオーストラリアの高校生との交換留学も実施された。特別な学習支援が必要と考えられる編入学生に対しては、基礎科目や未履修の専門科目を克服するためのプログラムを実施しており、また、留学

生に対しては、国際交流部が中心となって、留学生日本語等の語学支援を実施している。

学生の課外活動に対しては、資金面、施設面で支援体制が整っている。課外活動など学生の活動に必要な経費は、学生会費の他に、大会出場補助費、クラブ活動費などがあり、さらに、保護者会・後援会・同窓会による課外活動に対する支援体制が整えられている。平成19年4月には、熊野市からの補助金、後援会・保護者会・同窓会からの寄付金により、屋内競技場が竣工し、天候を気にせず、年中練習できる環境が整備された。こういった資金面、施設面での支援体制に加え、トップ水準のスポーツ指導者の採用により、東海総体、インターハイ、国体、ジュニアオリンピック、私学大会、そして高専大会で好成績を収めている。

学生の生活面での支援体制として、学生部、カウンセリングルーム、保健管理室がある他、平成19年度から新たに6名の教員より成るコミュニケーションセンターが設置され、学生に対する相談・助言が行われている。カウンセリング室には、臨床心理学博士であるカウンセラー1名が毎週来校し、心のケアについて学生・保護者と面談をおこなっているが、カウンセラーからの所見は、不登校学生の進級時の判断材料となっている。学生の生活および勉学の場として、5つの学生寮が整備されており、遠方からの学生に格安で快適な環境を提供している。5つの学生寮の全室には、コイン式の空調設備とLANが設置され、いつでも快適な環境で勉学することができる。学生の経済面での支援体制としては、公的奨学金制度の紹介や本校独自の給付奨学金制度や貸与奨学金制度が導入されている。留学生に対しては、三重県私費海外留学生奨学金と日本学生支援機構私費外国人留学生等学習奨励費を紹介している。

学生の進路に関する事項は進路指導部が担当し、各工学科や4年、5年、専攻科担任と連携して進路指導する体制が整っており、就職内定率および大学合格率向上のため、企業訪問の実施や大学編入学試験の過去問題の取り寄せ、進路に対する取り組み方や対策についての進路説明会の開催、履歴書等の添削、筆記試験対策、面接試験の模擬練習など、積極的な進路指導を行なっている。これによって学生の進路決定率は極めて高い状況にある。

## 基準 8 施設・設備

### (1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況） 本校の校地の面積は92,590㎡で（資料 8-1-①-1）、学生寮等の土地を合わせると99,566㎡である。高等専門学校設置基準の校地に関する基準（平成19年度学生定員数981名×10㎡/名=9,810㎡）を楽に満たしている。主な建物の面積は（資料 8-1-①-2）に示す通りで、高等専門学校設置基準の校舎の面積に関する基準（本校の場合には8,992㎡）を満たしている。

資料 8-1-①-1 校地の面積の内訳

校舎敷地	体育施設敷地	屋外運動場敷地	その他	合計
10,032 ㎡	3,382 ㎡	36,448 ㎡	42,728 ㎡	92,590 ㎡

（出典：平成19年度学校法人基礎調査票 土地面積）

資料 8-1-①-2 主な建物の床面積

本館	新館	情報処理教育センター	機械実験棟	電気実験棟	建設実験棟	校舎合計
4,520 ㎡	2,410 ㎡	754 ㎡	992 ㎡	1,342 ㎡	1,121 ㎡	12,174 ㎡

体育館	武道場	屋内競技場	体育施設合計
1,467 ㎡	442 ㎡	960 ㎡	2,949 ㎡

（出典：決算報告、建物明細表 2007/3/31、一部省略）

授業に使用する教室は、主に本館に21室（製図室2室含む）、新館に11室（音楽教室1室を含む）、情報処理教育センターに4室である。本館には、通常の教室の他に物理実験室、化学実験室、図書館、保健室、カウンセリングルーム、無線LAN完備ノートパソコン利用教室等が設置されている。また、全ての教室に空調機が設置されている。実験・実習室の設備は主に機械実験棟、電気実験棟、建設実験棟に分かれ（資料 8-1-①-3）、卒業研究、工学実験、工作実習、ロボット技術部などの課外活動で活用されている。情報処理教育用の施設としては情報処理教育センター（資料 8-1-①-4）があり、パソコン50台設置の CAE (Computer Aided Engineering) 教室と CAD (Computer Aided Design) 教室と CAI (Computer Aided Instruction) 教室、および、110名収容、AV機器搭載の MM (Multimedia) 教室が設置されている。そこで視聴覚設備や e-learning などが、情報処理教育はもちろん語学教育などにも活用されている。

資料 8-1-①-3 実習・実験室等の面積と主要設備

建物等	部屋名	面積(m <sup>2</sup> )	主要設備
機械実験棟	機械仕上実習室	183.5	普通旋盤(11台), 横フライス盤(1台), 平面研削盤(1台)
	材料力学実験室	61.2	アムスラー型万能試験機(1台), シャルピー衝撃試験機(1台), ロックウェル硬度試験機(1台), ブリネル硬度試験機(1台), 回転曲げ疲れ試験機(1台), 振り試験機(1台)
	内燃機関実験室	61.2	ディーゼル機関性能試験装置(1台), 汎用機関性能試験装置(1台), フレーム・アーク溶射装置(1台)
	流体工学実験室	61.2	水力学総合実験装置
	金属材料実験室	61.2	二連式研磨機(1台), 電気炉(1台)
	NC 工作実験室	61.2	NC 工作機械(1台)
電気実験棟	電気演習室	85.3	オシロ(6台), 発振器(6台), 歪計(1台), 電源(6台)
	情報ネットワーク室	43.6	PC(5台), プリンター(1台)
	レーザ研究室	21.8	真空蒸着装置(1台), 液体窒素生成装置(1台)
	半導体研究室	43.6	ウェハープローバー(1台), 半導体パラメータアナライザ(1台), ファンクションジェネレータ(1台), サーモトレーサ(1台), シミュレーション用EWS(3台), プリンター(1台), PC(1台)
	電気機械実験室	152.1	高圧・接地抵抗実験装置(1台), 交流電力・電力量・力率実験装置(1台), 直流電動機・直流発電機実験装置(1台), 三相同期発電機実験装置(1台), 単相変圧器・三相接続実験装置(1台), 三相誘導電動機実験装置(1台)
	モデルプラント実験室	21.8	モデルプラント実験装置(1台), インキュベータ(1台), 恒温恒湿槽(1台), LCRメータ(1台)
	通信実験室	109.1	オシロ(5台), 発振器(2台), 電源(4台), 回路実験装置(12台), エレベータ実験装置(1台), マイコンレーニンボード(6台), スペクトラムアナライザ(1台)
	モノ創り工房	43.6	バンドソー(1台), ボール盤(1台), 電動工具(2台)
	電磁基礎実験室	152.1	風力発電実験装置(1台), 太陽電池実験装置(1台), 発振器(5台), AC電圧計(4台), 電源(5台), 歪計(1台)
	モーションコントロール室	21.8	PC(3台), オシロ(1台), ロジックアナライザ(1台)
建設実験棟	土質実験室	128.3	土の万能試験機(1台), 土の自動突固め試験装置(1台), 圧密試験機(1台), 変水位透水試験機(1台), オランダ式二重管コーン貫入試験機(1台)

水理実験室	155.4	水理実験装置一式(開水路実験装置・管水路実験装置), レイノルズ数測定装置(1 台), 水質測定機器(1 台)
構造実験室	101.4	反力フレーム装置, 静的加力実験装置, 力学実験装置
材料実験室	140.6	万能試験装置(100ton), セメント物理試験機, 骨材試験用機器, フレッシュコンクリート試験機, 硬化コンクリート試験機, アスファルト物理試験機, マーシャル安定度試験機
造形デザイン室	68.58	大型液晶ディスプレイ(1 台), 大型高速カラープリンター(1 台), 大型高精度モノクロコピーヤー(1 台), 高精度カラーコピーヤー(1 台), PC(2台)

(出典：近畿大学工業高等専門学校事務部資料)

資料 8-1-①-4 情報処理教育センター・図書館の面積と主要設備

情報処理教育センター	CAE教室	117.6	収容人数 50 人, 学生用 DOS-V PC(50 台), 教師用(1台) 各 PC に MS-Office2000 Professional, Microsoft Visual Studio(VC++6.0)インストール済み
	CAD教室	113.4	収容人数 50 人, 学生用 DOS-V PC(50 台), 教師用(1台) 各 PC に Auto CAD, MS-Office2000 インストール済み
	CAI教室	113.4	収容人数 50 人, 学生用 DOS-V PC(50 台), 教師用(1台) 各 PC に MS-Office2000 Professional, Microsoft Visual Studio(VC++6.0)インストール済み
	マルチメディア教室	113.4	収容人数 120 人, スクリーン, 液晶プロジェクタ, 音響設備, 教師用 DOS-V PC(1台), AV 機器(VTR, ビデオカメラ, DVD), LAN 接続ポート(50 個)
図書館	書庫・事務室	132.2	和書(32,260 冊), 洋書(1,834 冊), 文庫本等(6,920 冊), 定期的に受け入れている学術雑誌(26 種類), 視聴覚資料(ビデオ 107 本、カセットテープ 44 本、CD、DVD 等 77 点)
	閲覧室	99.15	収容人数 66 人

(出典：近畿大学工業高等専門学校事務部資料)

情報処理教育センターの教室利用はイントラネット上で施設予約を行い使用することになっており、情報処理教育や語学教育によってその利用度はかなり高い(資料 8-1-①-5)。このため平成19年度に本館 2 教室に無線LANを整備しノートパソコンを用いて授業ができるようにした。

今年度初めには、熊野市、保護者会、後援会の寄付により主に陸上競技等の課外活動に利用できる屋内競技場が完成し、体育施設がより充実した(資料 8-1-①-6)。

資料 8-1-①-5 情報処理教育センター講義室の利用状況

予定を登録する | その他の操作 | スケジュール検索 | 詳細検索

グループ日表示 | グループ週表示 | 個人週表示

グループ: 情報処理教育センター | 2007年6月17日(日)

グループ	17(日)	18(月)	19(火)	20(水)	21(木)	22(金)	23(土)
CAE		9:00-10:35 4EER2情報コミュニケーション論II(夕崎まこと)の 10:40-12:15 5EB 確率統計(倉林 有)の	9:00-10:35 数値計算法(4EER/CAD)(渡邊志)の 13:40-15:25 プログラミング言語III(中西 弘一)の	9:00-10:35 5EB 確率統計(倉林 有)の	9:00-10:35 データベース演習(中西 弘一)の 10:40-12:15 2 工学概論I(倉林 有)の 13:00-14:35 演習処理(2-1)(本田 康子)の	9:00-10:35 データ構造とアルゴリズム(4EER2)(政清 史男)の 13:50-15:25 電気電子計測III(嶋野 彰夫)の	
CAD		9:00-12:15 工学実験2(年)(仲森 昌也)の 13:00-16:15 工学実験(1年)(仲森 昌也)の	9:00-10:35 5EER2 Web Contents II(中谷 英十)の 10:40-12:15 プレゼンテーション技法III(5EER2)(本田 康子)の 15:30-17:05 コンピュータ処理(福田)(嶋野 彰夫)の	9:00-10:35 数値計算法(4EER/CAD)(渡邊志)の 10:40-12:15 CAD I(福田)(嶋野 彰夫)の 14:40-16:15 3Dプレゼンテーション技法I(夕崎まこと)の	9:00-10:35 4EER2 プレゼンテーション技法II(夕崎まこと)の 10:40-12:15 5EER2 情報コミュニケーション論III(夕崎まこと)の 14:40-16:15 CAD(仲森 昌也)の	9:00-10:35 3D情報コミュニケーション演習(夕崎まこと)の 13:00-14:35 情報コミュニケーション演習II(久保)(嶋野 彰夫)の	
CAI		9:00-12:15 2年実験実習(情報)(政清 史男)の 13:00-16:15 1年工学実験(情報系)(嶋野 彰夫)の	9:00-10:35 プログラミング言語III(中西 弘一)の 10:40-12:15 2-3 情報処理II(倉林 有)の 13:00-14:35 4EAI データ処理I(村松 一弘)の 14:40-16:15 3D CADハンズ演習(嶋野)(嶋野 彰夫)の	9:00-10:35 1年4組情報処理(北本 順彦)の 10:40-12:15 3D CAD(神田)(神田 毅)の 14:40-16:15 プログラミング言語(3D/A/CAD)(渡邊志)の 16:20-17:30 2年 情報処理II 再試(倉林 有)の	10:40-12:15 情報処理I(片岡)(嶋野 彰夫)の	9:00-10:35 1年1組情報処理(北本 順彦)の 10:40-12:15 2年4組情報処理2(夕崎まこと)の 15:30-16:15 教養セミナー(Whirlwind Java)(倉林 有)の	
マルチメディア教室		9:00-10:35 5EER2 情報デザイン論(倉林 有)の 10:35-12:20 コンピュータシミュレーション(西 謙二)の 13:00-14:30 確率統計(5EA)(本田 康子)の 14:30-15:30 再試 西4EER CompSim(西 謙二)の		13:00-13:45 2A2 English(サイモン ハンプリーズ)の	10:35-12:20 2年工学概論(西 謙二)の 13:00-13:45 4C English(サイモン ハンプリーズ)の	13:00-13:45 3A2 English(サイモン ハンプリーズ)の 13:50-14:35 1E(サイモン ハンプリーズ)の 15:30-16:30 教養セミナー(海の生物)(畑山 伸訓)の	9:00-12:15 中国語の授業(伊藤 豊治)の

(出典：イントラネット施設予約画面)

資料 8-1-①-6 屋内競技場完成の新聞記事



**近大高専に屋内練習施設が完成**

熊野市有馬町の近畿大学工業高等専門学校(神野校長)に跳躍ピットを備えた屋内練習施設が完成し、7日に記念式典と2005年男子棒高跳び日本選手権者の安田寛・桑名土高教諭と、近大高専陸上部出身で、昨年の日本ジュニア女子走り高跳びを制した数根ゆい選手(法政大1年)らの模範演技があった。雨天時も足場を気にせず練習に集中してもらおうと今年1月から新施設建設に着手した。

た。総面積960平方メートル。腐食に強いガルバリウム鋼板で覆われた屋根は、最も低い位置で地上9メートル、男子棒高跳びの選手もゆとりを持って練習できる。総工費は3000万円。うち2500万円を熊野市が補助した。陸上以外に球技などでも活用するとい

式典には河上政二熊野市長、女子走り高跳び日本記録保持者の今井美希さん、法大陸上部の刈部俊二監督らが参加した。近大高専陸上部の松尾大介監督(30)は「良い選手も入ってくるので、今年も全国大会を目指して頑張りたい」と話していた。

(出典：伊勢新聞 平成19年4月8日)

施設・設備のバリアフリー化については、現状本館玄関前の身体障害者用駐車スペースと新館1F身障者用トイレがあるのみで、今後の課題と認識している。

(分析結果とその根拠理由) 本校の施設・設備は高等専門学校設置基準を満たしており、さらに情報処理、語学学習のための施設、体育施設等が充実している。また、全ての教室に空調機が設置され、各工学科における実験設備の更新・整備等も精力的に行っているところである。施設・設備のバリアフリー化は今後の課題である。

**観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。**

(観点に係る状況) 情報処理教育用施設として、情報処理教育センターが設置され、学生便覧に掲載されている「情報処理教育センター利用規程」に従って学生および教職員が利用している。この施設は平成18年度夏に設備更新が行われ、これまで以上に快適でかつセキュリティの高い情報処理設備に一新された(資料8-1-②-1)。

**資料 8-1-②-1 情報処理教育センター設備更新の新聞記事**

**主な設備更新**


- ・3教室150台のパソコンを最新機種に更新
- ・学内LAN主要幹線を光ファイバで統一
- ・無線LANアクセスポイントの増強
- ・ラックマウント型サーバー機器への置き換え(写真)
- ・不正アクセス防止用ゲートウェイ型フィルターの設置
- ・e-Learning用コンテンツの充実

昨年8月、情報処理設備を一新しました。今回の設備改修工事の総額は、約1億1千500万円になります。特筆すべき点は、単なる機器の更新にとどまらず、セキュリティ対策と、これらの教育システムであるe-Learningに対して重点的に予算を配分していることです。

セキュリティ対策については、ウイルス対策や有害コンテンツの閲覧防止のため、専用のゲートウェイ型機器を導入しました。高速かつ安全なネットワーク環境の提供が可能となりました。また、交通が不便な地域で有効なe-Learningの利用を推進するため、総額1千万円近くの教育用コンテンツを導入しました。コンテンツは、マイ

クロソフト社関連製品(ワードやエクセル)だけでなく、情報倫理教育、プログラミング(C言語)、CAD(AutoCAD 2006)、漢字検定、ホームページ作成、CGソフト(Adobe Photoshop EL)、数学(確率・統計)、情報関連資格対策などが含まれます。もちろん、従来からある英会話(TOEIC対策)ソフトも利用できます。

本校では、各学生がノートパソコンの貸与を受ける制度があります。今回、低学年用校舎でも無線LANの利用が可能となりました。結果的に、屋内のほとんどすべての場所から、e-Learning教育を受けられることができる学習環境を構築できたと自負しています。



(出典：近畿大学高専新聞 第27号：平成19年3月30日)

本校では、希望学生にノートパソコンを無償貸与している(資料8-1-②-2)。このノートパソコンは、プログラミング実習、シミュレーション、文書作成、表計算ソフトでのデータ処理、工学実験や卒業研究におけるデータ分析、論文・プレゼンテーション資料作成など広範囲に活用されている。これを情報処理教育センター、本館、新館および学生寮のLANポートに接続することで、学内LANおよびインターネットへアクセスできる。当初の新館に続いて、情報処理教育センターや本館でも、無線LAN利用可能となった。無線LANカードの貸出も行っている。

資料 8-1-②-2

9. 貸与ノートパソコンについて

本校では、希望者全員にノートパソコン（富士通製）を貸与しています。

貸与を受けるには、誓約書裏面の貸与規定をよく読みノートパソコンの利用誓約書を必ず保護者の方の署名・捺印をいただいた上で、提出してください。貸与規定の要点は以下の通りです。

- ・貸与を受けることは無料ですが、故障させて修理が必要になった場合の修理費用は、原則として実費負担になります。
- ・ノートパソコンは平成 13 年度の最新機種であり、現在の最新機種に比べると、サイズ・重量の大きな機種になります。
- ・管理は、自己責任です。紛失した場合、すみやかに情報センターに届け出てください。（原則として、後継機種を弁償していただくこととなります）

また、平成 19 年度には次のルールも守ってください。

- ・貸与後 6 ヶ月以内に起こった故障は、初期不良とみなして交換しますので、すみやかに情報センターに届け出てください。但し、落下させたり、衝撃を加えたりといった自分の過失責任が問われる場合には、修理費の一部を負担していただきます。
- ・当センターが用意するクッション入りバッグ（2000 円弱）を購入してください。

(1) 貸与ノートパソコンの性能について

ノートパソコンのスペック（性能）は下表の通りです。平成 13 年 8 月時点の最新機種です。

機種	FMV-6000NU/L
CPU	Pentium III 750 MHz
メモリ	256 MB
HDD	20 GB
搭載 OS	Microsoft Windows ME
サイズ	A4 版
重量	約 3.5 kg
大きさ	31.8 cm × 26.8 cm × 4.85 cm



（出典：平成19年度学生便覧 9. 情報処理教育センター）

また、情報処理教育センターのCAE教室は、平日では午前9時から午後7時までの授業がない時間帯に学生に開放され、学内LANでファイルサーバや e-learning サーバ（Web Class）やプリンター等を利用できるため、学生が自学自習や課題レポート作成に利用している。電子メールは、Webメールサーバにより、学外からブラウザで簡単に利用できる。情報処理教育センター内のデスクトップパソコン150台に、学生貸与ノートパソコンの890台を合わせると、学生が授業や自主学習で利用可能なパソコンは合計1,040台となる。

もちろん講義でも資料 5-2-①-2 に示したように多くの授業に情報処理教育センターの



教室が利用されている。資料 8-1-②-3 は情報処理教育センターで実施している科目のシラバスでパーソナルコンピュータを用いてプログラミングの実習を行うことが書かれている。

図 8-1-②-3 授業での設備の利用の例

科目名： データ処理			
英文名： Data Processing			
担当者： 村松一弘			
工学科： 電気情報	学年： 4	コース： 電気電子	開講期： 通年
科目種別： 選定	単位数： 2		
授 業 計 画			
前 期		後 期	
第 1 週 計算結果の表示 第 2 週 書式文字列と変換指定 第 3 週 定数と変数の定義 第 4 週 読み込みと表示 第 5 週 四則演算を行うための演算子とオペランド 第 6 週 算術演算子と代入演算子 第 7 週 整数であるint型と浮動小数点数であるdouble型の違い 第 8 週 前期中間試験 第 9 週 試験返し・if文と等価演算子 第 10 週 入れ子になったif文 第 11 週 条件演算子と複合文(ブロック) 第 12 週 switch文の流れ 第 13 週 do文の構文 第 14 週 複合代入演算子と後置減分演算子 第 15 週 前期期末試験		第 16 週 試験返し・while文の構文 第 17 週 for文の構文 第 18 週 多重ループ 第 19 週 キーワード、識別子、区切り子、演算子の概念 第 20 週 定数・文字リテラル、自由形式、隣接した文字列リテラルの連結、インデントの概念 第 21 週 配列の概念 第 22 週 オブジェクト形式マクロ 第 23 週 後期中間試験 第 24 週 試験返し・多次元配列 第 25 週 素数の求め方 第 26 週 関数とは 第 27 週 関数の設計 第 28 週 有効範囲と記憶域期間 第 29 週 後期期末試験 第 30 週 試験返し	
<b>■授業概要</b> プログラミング言語としてのC言語を学ぶ。具体的には、C言語における基本型、関数形式マクロ、列挙体、再帰、文字列、ポインタおよび構造体について学ぶ。			
<b>■到達目標</b> 1. 【A-2】(A-T2)C言語を用いてデータを処理する手法が理解できる。 2. 【B-2】(B-T1)C言語の基礎知識を身に付けることができる。 3. 【B-2】(B-T1)C言語の文法が理解できる。			
<b>■授業の進め方</b> パーソナルコンピュータを用いてのC言語のプログラミングによる実習が主体となるが、文法などの講義も行う。			
<b>■教科書</b> 「新版明解C言語入門編」 柴田望洋 著 ソフトバンクパブリッシング ¥2,200+税 (2004)			
<b>■参考書</b>			
<b>■関連科目</b> 数学、情報基礎、情報処理、コンピュータ概論			
<b>■試験方法</b> 種類： 定期試験(年4回)、方式： 記述式			
<b>■成績評価基準</b> 年4回の定期試験(80%)、プリント・レポート(20%)で評価する。 80点以上「優」、60点以上～80点未満「良」、50点以上～60点未満「可」、50点未満「不可」 JABEE教育プログラムの単位認定基準は60点以上とする。			
<b>■教員所在場所</b> 情報処理教育センター 管理室			

(出典：平成19年度シラバス)

ソフトウェアに関しては、教員へのアンケート調査および学生のニーズ調査より、要望の多か

ったCAD、CG、資格試験対策のソフトウェアが追加された（資料8-1-②-4）。

資料8-1-②-4

<使用できる主なソフトウェア>

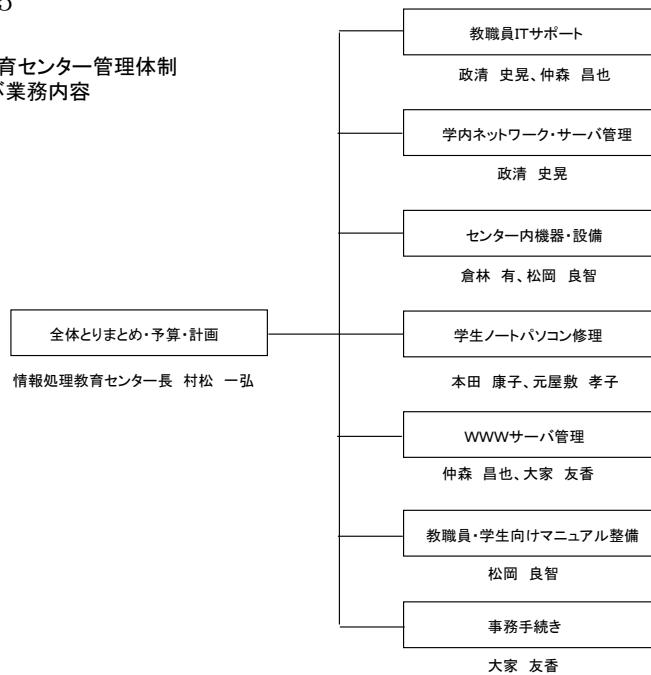
AutoCAD2006、ホームページビルダー10、Adobe Photoshop Elements4.0、イーフロンティア 戦国漢字丸廉価版、アビディア 私の初級シスアド試験 2005、アビディア 私の電験 3 種試験 2005、アビディア 私の電験 3 種試験 2005、Blender、OpenOffice、Visual Studio 2005 Express、Fortran、Borland C++、Java、JW-CAD、MATX、Micro-capVCQ など

(出典：平成19年度学生便覧 9. 情報処理教育センター)

情報処理教育センターはセンター長含め6名の専任教員と2名の事務職員が管理しており、資料8-1-②-5に示す業務分担に従い機器設備のメンテナンスはじめ学生貸与ノートパソコンの修理や教職員・学生サービス等を行っている。

資料8-1-②-5

情報処理教育センター管理体制  
および業務内容

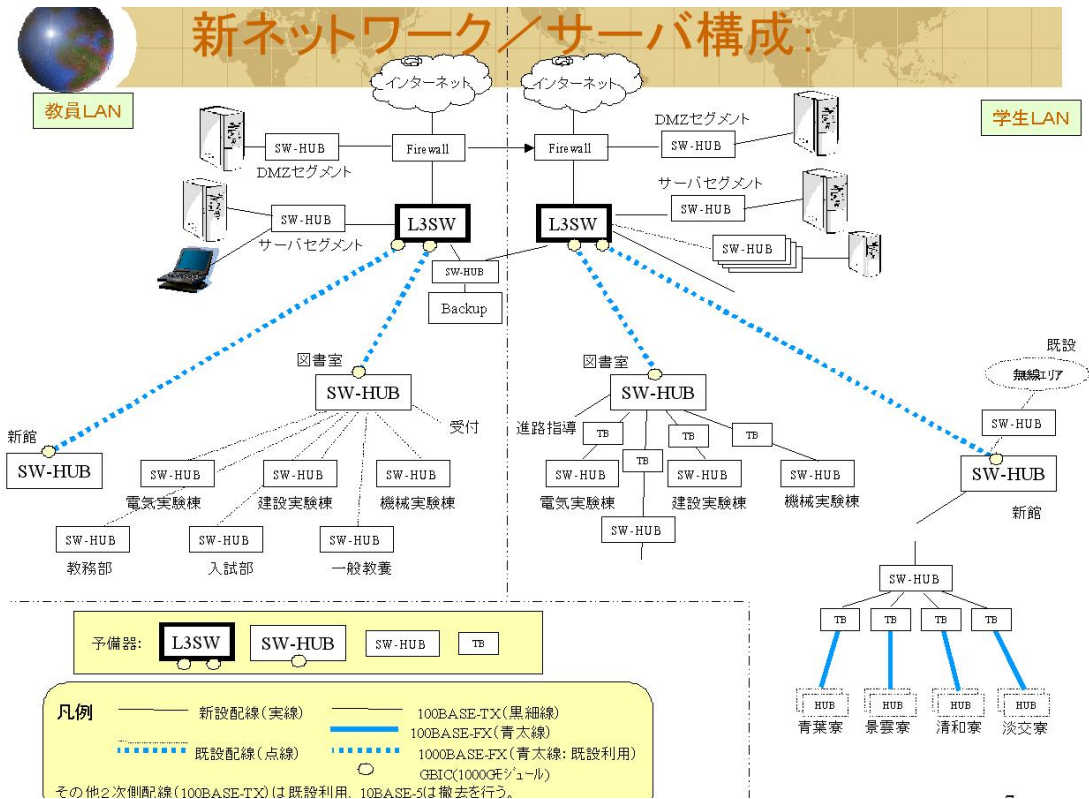


(出典：情報処理教育センター内部資料)

学内LANは資料8-1-②-6に示すように、大きく教職員用LANと学生用LANから成っている。ネットワークセキュリティについては、ファイアウォールやアンチウィルスサーバを設置する他、ネットワーク監視、LANカメラによる監視、学生LANから教職員LANへのアクセス禁止など幅広い対策を行っている(資料8-1-②-7)。学生に対しては、低学年のうちの情報倫理教育をはじめ、学生便覧、電子マニュアル、掲示によって啓発している。

資料 8 - 1 - ② - 6

学内LAN構成図



(出典：情報処理教育センター内部資料)

資料 8 - 1 - ② - 7 情報セキュリティ概要

LAN	項目	利用ソフトウェア、内容説明 等
教職員 LAN	ファイアウォール	NetScreen-25
	アンチウイルス(ゲートウェイ型サーバ)	Web 閲覧用 (Interscan Web Security Suite)、メール用(Interscan Messaging Security Suite)、Linux 用(TREND MICRO ServerProtect for Linux)
	コンテンツフィルタ(Proxy サーバ)	i-Filter
	メールサーバ	APOP 受信
	アクセス権限	所属部署別アクセス権限の設定
	物理監視	鍵およびマグネットセンサーによる防犯管理、守衛による巡視
	啓発活動	個人情報保護法についての講習会実施
	"	各種マニュアル配布:「AntiVirus インストール」、「スパムメール対策」、「ファイルサーバの運用変更」等
	ファイアウォール	NetScreen-25
	ファイアウォール(寮用)	FortiGate.200A

	アンチウイルス(ゲートウェイ型サーバ)	Web 閲覧用(Interscan Web Security Suite)、メール用(Interscan Messaging Security Suite)
	コンテンツフィルタ(Proxy サーバ)	i-Filter
	無線 LAN	IEEE802.11b/g/a 128-bit WEP
	物理監視	情報センター教室内に Web カメラを設置(Panasonic Network Camera Recorder)
	啓発活動	情報倫理教育を主に1年生で実施
	〃	各種マニュアル配布:「AntiVirus インストール」、「ウイルス罰則細則」等
共通	アンチウイルス(端末用)	Symantec Anti-virus
	アンチスパイウェア	Spybot
	ネットワーク監視	Swim Manager による学内監視、ベンダーによるリモート監視契約
	ネットワーク構成	学生 LAN⇒教職員 LAN を通信不可能に設定
	アドレス等	IPアドレス、MACアドレスの登録性
	冗長化	サーバ、HUB、ファイアウォール、教室端末の予備機を常備
	データ保護	ストリームテープ Backup(BrightStor ARCserve Backup)、サーバイメージ Backup、瞬快による端末イメージ復元
	電源保護	主要サーバを無停電電源装置(UPS)により保護
	保全計画	主要機器は保守契約対応、年に3回(春夏冬)ファームウェアのアップデート等を実施

(分析結果とその根拠理由) 情報処理教育センター教室および学生に無償貸与されたノートパソコンが情報教育および語学教育に有効に利用されている。ソフトウェアは教職員および学生のニーズ調査から要望の強いものを導入している。情報処理教育センターは教員6名事務職員2名で管理運営されており、情報ネットワークに関連したセキュリティ管理については常套的対策はすでに実施し、平成18年度夏の情報処理教育センター設備更新の際により強固となった。さらに、その情報ネットワークが寮内LAN、無線LAN整備等によって授業外においても多角的に活用されている。

**観点 8-2-①: 図書, 学術雑誌, 視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され, 有効に活用されているか。**

(観点に係る状況) 図書館は本館1階に設置されており、図書館長、館長補佐および司書2名(定時職員、非常勤講師)の4人で運営している。蔵書等の数は資料8-2-①-1の通りである。収容人数は66名であり、開館時間は、従来は9時から16時40分までであったが閉館時間の延長を求める学生の要望から19時までに変更された。利用実績は資料8-2-①-2の通りで、増加傾向にある。その理由として、平成15年度から学生のリクエストに応じて図書を購入するサービスを開始したことが挙げられる。

資料 8-2-①-1 図書館の蔵書

和書	34,257冊	
洋書	2,351冊	
文庫本	7,399冊	
視聴覚資料	ビデオ	123本
	カセットテープ	44本
	CD、DVD等	323点
定期的に受け入れている学術雑誌	37種類	

(出典：近畿大学工業高等専門学校図書館内部資料)

資料 8-2-①-2 図書館利用実績

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
利用者数	658人	921人	999人
貸出冊数	1225冊	1557冊	1673冊
学生数	860人	912人	868人

(出典：近畿大学工業高等専門学校図書館内部資料)

また、図書等の整備の方針は資料 8-2-①-3 のようになっている。

資料 8-2-①-3

1. 毎年、教員が必要とするか、あるいは推薦する教育用図書、DVD、CDなどを、学科毎の購入申請で購入（予算 25 万円/学科×5 学科または専攻科＝125 万円/年）
2. 各教員の個人研究費予算にて、その教員の研究用図書を購入
3. 学生のリクエストに基づき、学生が必要とする図書を購入（平成 18 年度 198 冊）
4. 文庫本（60 冊/年）、ブルーバックス（40 冊/年）等を定期的に購入
5. 教員の研究用学術雑誌を定期的に購入（和雑誌41誌、洋雑誌 2 誌）

(出典：近畿大学工業高等専門学校図書館資料)

(分析結果とその根拠理由) 現在、図書館は、図書館長、館長補佐および司書 2 名の 4 人で適切に運営されており、学生からリクエストを取るなどサービスの向上に努めている。その結果、利用状況は年々活発になってきてはいるがまだ低調である。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 本校の施設・設備は高等専門学校設置基準を満たしており、体育、課外活動施設、寮、情報処理教育センター等が充実している。各実験設備の更新・整備等も精力的に行っている。また、図書館も年々利用状況が活発になってきている。

(改善を要する点) 図書館の利用率が低い状況にあり学生の利用促進が必要である。また、施設・

設備のバリアフリー化は今後の課題である。

### (3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の校地面積は92,590㎡、校舎面積は12,174㎡とともに高等専門学校設置基準を満たしており、工学科の実験・実習設備、情報処理・語学学習のための施設、体育施設等が充実している。また、全ての教室に空調機が設置され、各工学科における実験設備の更新・整備等も精力的に行っている。

学生へのノートパソコン無償貸与を行っており情報処理教育センター教室とともに情報教育および語学教育に有効に利用されている。ソフトウェアは教職員および学生のニーズ調査から要望の強いものを準備している。情報処理教育センターは教員6名事務職員2名で管理運営されており、情報ネットワークに関連したセキュリティ管理については常套的対策はすでに施し、平成18年度夏の情報処理教育センター設備更新の際により強固となった。さらに、その情報ネットワークが寮内LAN、無線LAN整備等によって授業外においても多角的に活用されている。

図書館は、和書34,257冊、洋書2,351冊、文庫本7,399冊を蔵書として所有しているが学科単位で図書や視聴覚資料の購入を進めている。図書館長、館長補佐および司書2名の4人で適切に運営されており、学生からリクエストを取るなどサービスの向上に努めている。その結果、利用状況は年々活発になってきている。学外にも開放されており、講習会の会場として利用される場合もあるが、学外の入館者は卒業生等の関係者が中心であり、地域との連携は今後の課題である。施設・設備のバリアフリー化は今後の課題である。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況) 教育活動全般のデータ・資料を収集したものとしては、平成16年度に受けた高等専門学校機関別認証評価の平成16年度版自己評価書(試行的評価)、平成17年度の自己評価書、平成18年度外部評価報告書がある。日常の教育活動の中で、各教員は試験答案その他の教育成果(資料 9-1-①-1)を一定期間保存し、教育評価を受けて教育活動の改善が図られるようにしている。教育の評価に関しては、高専運営組織としての運営会議や工学科ごとに開催される学科会議、また英語、数学といった教科別の研究会で評価実施方針が議論される。直接的には各学科、教科によって評価がなされるが、過去の状況を考慮して、評価基準が決められて行く。そのため、適時工学科会議、教科研が開催され、共通理解が図られている(資料 9-1-①-2)。

資料 9-1-①-1 教育実態を示すデータ・資料類

収 集 物	保 存 者
定期試験問題・解答・全学生答案	科目担当教員
レポート・小テスト	科目担当教員
工学実験報告書・製作作品	工学実験・実習担当教員
卒業研究論文集・特別研究論文集	工学科長・専攻科長
学生達成度評価	教務部
授業評価アンケート	科目担当教員
教員業績自己申告書・評価結果	事務部

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

(分析結果とその根拠理由) 評価を適切に実施するためのデータや資料が収集蓄積されている。各学科長、各教科主任が教科担当者をまとめる体制が取られ、適切に機能している。各工学科、教科で適時会議が開催され、参加教員的意思疎通が図られ、評価を適切に行うための方策が採られている。習熟度別クラス編成は、数学科、英語科で基準となる共通テストが実施され、それに基づき、学生の所属すべきクラスが決定されている。

資料 9-1-①-2 教科研報告書

2006年(平成18年)4/6 英語科教科研結果報告

1. 担当学年、クラスの確認
2. 教科書の確認
  - ① Vivid I の CD で余っているものを竹内まで届けてください。無ければ、注文しなければならないので。
3. 習熟度別クラス編成
4. 新学期授業開始
  - ① 4月11日
  - ② 従って10日は授業無し
  - ③ 時間割については、10日の午後に竹内または上田先生まで電話でお問い合わせください。
5. 4年生編入生クラス分けテスト
  - ① 伊藤先生の話では、授業中に実施することになります。
  - ② 昨年度の共通テスト2回分を使用します。
6. 1年生クラス分けテスト
  - ① 4月10日に実施
7. CD レコーダーについて
  - ① 現在使えるものは6台ありますが、そのうち2台は古いタイプのもので、耐用年数を超えていたり、超えようとしているもの。
  - ② 今年から2年、3年、4年の授業では、必ず毎回使用することになり、また年2回 TOEIC Bridge を2年、3年、4年の全学生対象で実施することになっており、持ち運びに便利な小型の CD プレーヤーを6台、購入してほしい。源直美先生の話ではソニーから販売されているもので、1万円であるということです。
  - ③ 購入の件は今井先生に依頼。

(出典：英語科教科研研究会資料)

**観点 9-1-②：** 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況） 本校の校務組織の一つに教育評価室がありその主な業務は、学生授業アンケートの実施、公開授業の実施とそれぞれの授業改善サポートである。本校における学生による授業評価は教育評価室の指示で、毎年2回全校一斉に実施される。18年度は、前期中間試験後および後期中間試験後（資料 9-1-②-1）にアンケート調査を実施した。授業担当者はアンケート用紙（資料 9-1-②-2）を回収しアンケート結果の分析、及びそれを基にした授業改善計画を立案し、授業改善計画書として教育評価室に提出する。教育評価室にまとめられた授業改善計画書は学校長へ提出され、教育業績評価のための資料として使用される。なお、授業評価アンケート用紙には、担当教員の授業に対する評価以外に学生自身の学習態度および学習達成度を問う項目が含まれている。

さらに、学生の意見が直接学校長に届くように電子メールアドレス（通称目安箱）が学生に通知




されている。学校長へ届いた意見で対応が必要と認められた件は、関係部署に連絡され教員の授業方法や教育システムへの改善指示がなされ、学生からの要望・苦情を基にした教育環境の改善を図っている。改善具体例として、教員の声の大きさ、定期試験後の答案返却徹底、定期試験不合格者への対応、工学実験での安全性対策などがある。

## 資料 9 - 1 - ② - 1

 [トップに出す](#)

## 授業アンケートの実施について

差出人： 竹内 春樹 (総合システム工学科 (旧一般教養)) 2007/1/12(金) 16:46

宛先：西 謙二, 向井 康恩, 和田 孝志, 熊埜御堂 茂, 嶋野 彰夫, 今井 健一, 村田 圭治, 中西 祐啓, 奥田 昇也, 青木 繁, 中西 弘一, 源 雅彦, 福嶋 茂信, 倉本 逸郎, 岸 純男, 大内 清司, 酒井 宗和, 表 寿一,  竹内 春樹, 五十石 浩, 中川 一郎, 中川 祥子, 乗本 学, 伊藤 豊治, 村松 一弘, 山川 昌文, 辻本 修, 上田 透, 園井 康夫, 林 泰弘, 仲森 昌也, 政清 史晃, 今野 理喜男, 矢吹 紫帆, 中澤 良文, 山本 広樹, 野木 直行, 本田 康子, 村田 昌巳, 鈴木 隆, 中村 信広, 荒賀 浩一, 神田 毅, 内田 眞司, 畑山 伸訓, 中平 恭之, サイモン ハンプリーズ, 齊藤 彰, 松尾 大介, 松岡 良智, 内田 美里, 小西 大亮, 木村 亮, 栢野 智裕, 園田 紀子, 内藤 平美, 福田 安男, 梶本 幹夫, 舟尾 佳久, 下岡 常也, 木瀬 利和, 前川 佳丈, 堀 一詞, 辻 幸子, 山下 秀夫, 長嶋 かづみ, 源 直美, 須川 功, 伊藤 共永, 近藤 滋, 西村 道登, 新田 慶子, 二株 輝王, 岡部 俊雄, 黒崎 一史, 中井 智章, 星野 俊二, 興地 斐男, 小畑 力人, 橋川 史宏, 三石 学, 石川 博一, 畠 敏紘, 片岡 寿一, 牧 知秀, 榎本 昭徳, 汐崎 まこと, 草加 幸雄, 久保 潤


 [宛先を変更する](#)


2006年度第2回目の授業アンケートの実施をお願いします。

報告書(授業改善計画)の提出期限は、2月9日とします。サイボーズで竹内まで送ってください。

現在作成中の高専の自己評価の中でも、必ず記述しなければならないものですから、全員の提出をお願いします。

アンケートと、報告書(授業改善計画)の書式を添付しておきます。

 [授業評価アンケート配布用.doc](#) (application/msword) [詳細](#) 26 KB

 [授業改善計画書.doc](#) (application/msword) [詳細](#) 19 KB

(出典：近畿大学工業高等専門学校イントラネット)

資料 9 - 1 - ② - 2

授業評価アンケート

科目名		実施月日	
科目分類	教養科目・専門関連科目・専門的科目	学科	E M C
担当教員名		学年	1 2 3 4 5

以下、該当箇所を○で囲んで下さい。

このアンケート調査は、学生一人一人の意見を聞くことによって、授業担当の先生が今後の授業改善に役立てるために実施するものです。回答が学業成績などに影響するものではありません。公正な回答をお願いします。回答は、該当する数字を○で囲んで下さい。また解答欄 1 のコメントが分かれているものには、どちらか一方に○をつけて下さい。

- |                                  |               |              |                |
|----------------------------------|---------------|--------------|----------------|
| 1. 学習態度は真面目であったか。                | 3<br>真面目であった  | 2<br>どちらでもない | 1<br>不真面目であった  |
| 2. 授業を受けるにあたり意欲的に取り組んだか。         | 3<br>意欲的だった   | 2            | 1<br>意欲的じゃなかった |
| 3. この科目に対する家庭学習を十分に行ったか。         | 3<br>十分行った    | 2            | 1<br>全くしなかった   |
| 4. 授業の説明が分かりやすかったか。              | 3<br>分かりやすかった | 2            | 1<br>分かりづかった   |
| 5. 説明するときの話す速さは適切であったか。          | 3<br>適切であった   | 2            | 1<br>速すぎ 遅すぎ   |
| 6. 説明するときの話し方は明瞭であったか。           | 3<br>明瞭であった   | 2            | 1<br>明瞭じゃなかった  |
| 7. 黒板の字はよく読み取れたか。                | 3<br>よく読み取れた  | 2            | 1<br>読み取れなかった  |
| 8. 授業の進む速さは適切であったか。              | 3<br>適切であった   | 2            | 1<br>遅すぎ 早すぎ   |
| 9. 授業では、先生の熱意が感じられたか。            | 3<br>感じられた    | 2            | 1<br>感じられなかった  |
| 10. 授業を通してこの科目に対する興味・関心が深まったか。   | 3<br>深まった     | 2            | 1<br>深まらなかった   |
| 11. 宿題やレポートの量は適切であったか。           | 3<br>適切であった   | 2            | 1<br>少なすぎ 多すぎ  |
| 12. テスト問題の内容は適切であったと思うか。         | 3<br>適切であった   | 2            | 1<br>易しすぎ 難しすぎ |
| 13. 成績評価方法は適切であったか。              | 3<br>適切であった   | 2            | 1<br>おまじ 厳しい   |
| 14. あなたはこの分野の基礎的知識や要点が身についたと思うか。 | 3<br>身についた    | 2            | 1<br>身につかなかった  |
| 15. あなたはこの科目が習得達成できたと思うか         | 3<br>達成できた    | 2            | 1<br>達成できなかった  |

この授業に対する意見・要望があれば自由に書いて下さい。

( )

(出典：教育評価室授業評価アンケート用紙)

(分析結果とその根拠理由) 学生の意見を教育に反映されるための取り組みが行われている。学生の授業評価アンケートを実施し、授業担当者がその分析を行い授業改善計画書を作成して学校長へ提出している。また学校長直接の目安箱(電子メール)を設置し学生の意見聴取体制が整っている。

観点 9 - 1 - ③: 学外関係者(例えば、卒業(修了)生、就職先等の関係者等が考えられる。)の

意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況) 平成16年度より学外の有識者からなる外部評価委員制が発足し、教育状況の改善が図られている。平成18年度の外部評価委員は(資料9-1-③-1)に示す計18名から構成されている。平成19年2月には外部評価委員会が開催され(資料9-1-③-2)、平成17年度版自己評価書をもとに教育の状況や教育に対する考え方等多方面からの評価がなされ、評価結果は「外部評価報告書」としてまとめられている。資料9-1-③-3はその一部である。

資料9-1-③-1

3 外部評価委員会委員会構成

(敬称略、五十音順)

委員長	東 市郎	北海道薬科大学教授
副委員長	興地 斐男	大阪大学名誉教授

教務部会

部会長	東 市郎	
委員	江藤 剛治	近畿大学教授
委員	興地 斐男	
委員	小野 正行	近畿大学産業理工学部学部長
委員	小畑 力人	和歌山大学副学長・理事
委員	河上 敢二	熊野市長
委員	四方 修	(株)一富士債権回収 社長
委員	辻 ミチ子	京都市歴史資料館評議員
委員	徳田 昌則	東北大学名誉教授
委員	原野 幸康	日本高等教育評価機構専務理事
委員	室津 義定	大阪府立大学名誉教授

地域部会

委員	朝尾 高明	後援会会長
部会長	河上 敢二	
委員	谷川 醸太郎	吉野熊野新聞社長
委員	内藤 平美	同窓会会長
委員	倉谷耕一郎	紀南中学校長会会長
委員	西田 健	紀宝町長
委員	本山 拓哉	保護者会会長

(出典：外部評価報告書)

資料 9 - 1 - ③ - 2 外部評価委員会の日程案内

2007. 1. 9  
西 謙二

外部評価委員会 教務部会 議事概要 (案)

日時 : 2007 年 2 月 7 日 (水)

10:00-10:15	開会 校長挨拶 外部評価委員紹介 高専出席者紹介 外部評価委員長挨拶
10:15-12:15	説明および質疑応答 高専担当教員からの説明 (教務関連を中心に)
12:15-13:15	昼食
13:15-14:15	学内視察
14:15-16:00	質疑応答
16:00-16:10	講評
16:15	閉会
18:00-	懇親会

(出典 : 近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料 9-1-③-3 外部評価委員によるコメント

基準 1 高等専門学校の目的

1/2

外部評価委員からのコメント	
総 評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和24年の近畿大学の創立から近大高専の今日に至る私学としての「建学の精神」を明文化して高らかに謳っているのが良いと考えます。国立大学(学校)や公立大学(学校)は、この「建学の精神」に於いて「弱み」がありますから…。</li> <li>・近畿大学学園全体としての教育理念、およびその中でとくに近畿大学工業高等専門学校が目指す教育目標が明確に定められている。これらの目標は、学校教育法に規定された高等専門学校の教育に求められる、専門の学芸の教授、および職業に必要な能力の育成を包含している。加えて人間教育を前面に打ち出している。</li> <li>・近畿高専としての建学の理念、教育理念、使命・目的、教育の基本方針、養成しようとする人材像について明確に定められており、学校教育法に規定された高専像に合致するものである。</li> <li>・近畿大学の建学精神「学問と実際との調和」での実学に重点を置く人間形成は学生便覧の第一章から注意深くかけられている。即ち、学園章、教育の目的(理念)教育方針、育成する技術者像、そして、校歌に明確に示されている。</li> <li>・学校の目的が明確に定められ、それらは学校教育法第70条の2に規定された目的にはずれるものではない。また、それらが学校の構成員に周知する方が講じられている。さらに、社会に広く公表している。</li> <li>・教育理念にそった教育方針や育成する技術者像がしっかりと定められており、学校案内、ホームページ等により学校の構成員や社会に十分周知されている。地元の各家庭にも高専新聞等により、情報が発信され学校のことがよく分かる。</li> <li>・目的は高専のホームページ、学校案内、高専新聞等を通じて、教職員、社会に公表され、周知するべく努力している。</li> <li>・建学の精神、教育理念、育成する技術者像が記述されているが、整理が必要。どれを目的と規定しているか。P36(5-5-②)では、育成する人材像と同じものが専攻科の教育目的として引用されている。</li> <li>・教育方針が別途定められている。準学士課程の学生にとっての、学習・教育目標はどのようなものか。各学科はどのようにそれを設定しているのか、あるいはないのか。平成17年度以前と以降で、学科の構成が変わっているが、学習・教育目標は全く同じものか等々明確性が要る</li> <li>・専攻科についての達成目標、学習・教育目標などはここに示すべき</li> <li>・p2下段以降の各項目(教員組織、学生受け入れなど。注は西)は、ページ数の点でも割愛が望ましい?</li> <li>・教員組織の整備・充実(P2)は、平成12年以前と今日の教員構成を図表で示すとわかり易くインパクトがあるのではないだろうか。</li> <li>・(近畿大高専の)目標は「ホームページ」や「平成 19 年度学校案内」などにおいても明確に記述され、教員のみならず、受験生などが容易に理解することができるようになっている。</li> <li>・(目的が)周知していることの確認をどのように行っているか</li> <li>・(社会への公表)7万部という高専新聞の実績は極めて大きい。→新聞に常に掲載し、学校の目的の特集を一回やれば、優れた取り組みの対象になるだろう。</li> </ul>

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

学外からの意見聴取の手段として保護者の授業参観を取り入れ、教育の状況改善に反映している。平成18年度の場合は、5月と11月を保護者授業参観月間として、積極的に授業を参観していただき、授業参観後は授業参観アンケートを行い（資料9-1-③-4）教務部が集計している。授業の状況のみならず、学校の設備や清掃状況等学校関係者では気付かない点の指摘を頂いている。学校長、事務長代理、教務主事、学生主事、寮務主事、進路指導主事、学年主任等が出席する保護者懇談会を多くの方が参加できるように、本校以外にも大阪、和歌山、伊賀上野、松阪で開催し（資料9-1-③-5）、保護者からの意見聴取を実施している。さらに、学生の場合同様、校長への直接連絡方法として、電子メールアドレスが保護者に伝えられており、教育状況の点検、評価に活かされている。

資料9-1-③-4 授業参観アンケート結果

日付	保護者氏名 学生所属	参観科目 担当教員	授業中の学生の態度 について	先生の教え方につい て	その他気付いた点・ 改善すべき点
11/21			最初教室に入った時は「にぎやか」に感じてアレッと思いましたがみんな授業にちゃんと参加して「にぎやか」なんだとわかりました。	黒板に向かっていても学生に話しかけながらの授業で先生と学生が対話しながらの授業でいいなあと思いました。	クラスによって雰囲気の違いがありました。
11/21			活気があり先生からの問に対してもしっかりと反応していた。一人の答えに対してもあ〜とかなるほど！と反応があり授業に参加していることがよくわかった。カラーペンの回しあいをしていてノートを書ききれいに書こうという意欲があるのかもしれない。	透析・実際の血液の話を通したり 凝析・ドロをたとえに使ったり わかりやすく説明されていた。	210 教室では欠席者のイスを上げたまま授業していたがおろした方がいいと思う。
11/21			授業中ノートを取っていない子、寝ている子といろいろいました。	先生の声が小さく後の方まで聞こえていないのでは？ クラスによっては子供たちの態度が異なって静かだから聞いているとは思えない様に思いました。	他のクラスの声が聞こえてザワザワとしている。
11/21			熱心にノートを取っているながらもあまり授業に身がはいっていないような気がします。	声が小さく子供たちに充分聞こえているのか気になりました。	前期・後期で先生を替えていただけたらクラスの雰囲気も変わってくるのではないのでしょうか。
11/22				学生とのコミュニケーションが良くとれている。	新館は去年に比べてとてもきれいな状態でした。
11/29			初めて参観させていただいたときに比べるとざわつきが減少しているように思いました。 教科書を出さずに授業を受けている子供や携帯で遊んでいる姿が少しみられました。	楽しそうな授業風景もみられよかったです。	
11/29			全体的に熱心に授業に取り組む姿がみられました。	楽しそうな授業もありよかったです。	
11/29			まじめにやっている子供達が多かったような感じ。	声が大きくてよかったです。	

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料9-1-③-5 平成18年度 地区別懇談会日程

月 日	時間	地 区	会 場
10月14日(土)	13:30~	松阪市・伊勢市・度会郡・鳥羽市・ 志摩郡・多気郡・飯南郡・津市・久居市・一志 郡・亀山市・鈴鹿郡市・四日市市・ 桑名市・等	多気会場 多気町民文化会館 第2講座室 多気郡多気町相可1587-1 TEL 0598-38-1121
10月15日(日)	10:00~	名張市・上野市・名賀郡・阿山郡 滋賀県・奈良県	伊賀上野会場 伊賀上野交流研修センター 伊賀市三田986-1 TEL (0595) 24-6078
10月18日(水)	19:00~	新宮市・東牟婁郡 南牟婁郡 熊野市、 尾鷲・北牟婁郡	近畿大高専 TEL 0597-89-2011
10月21日(土)	13:00~	和歌山市・海南市・有田郡市・御坊市・日高 郡市・橋本市・伊都郡・田辺市・ 西牟婁郡・等	和歌山会場 和歌山地域地場産業 振興センター 和歌山市紀三井寺856番地 TEL 073-447-3334
10月22日(日)	10:00~	大阪府・兵庫県・奈良県・京都府・ 滋賀県	大阪会場 近畿大学会館 大阪府中央区日本橋一丁目 TEL 06-6213-0501

(出典：近畿大学工業高等専門学校保護者会資料)

(分析結果とその根拠理由) 外部評価委員会を発足し、外部評価委員より適切な評価・アドバイスを頂いて教育の改善を行っている。また保護者の授業参観および地区別保護者懇談会を実施し、授業の状況や学校施設・設備等に関して保護者の立場からの意見聴取を行っている。また保護者から学校長へのコメントボックス(電子メール)も有効に機能している。

**観点9-1-④：** 各種の評価(例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。)の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況) 平成17年10月に学生による授業評価の中で、開講希望科目、教科内容の要望調査を実施した。その結果を資料9-1-④-1示すが、パソコンの操作法あるいはパソコン応用(CAD)に関する授業、資格取得に焦点を当てた授業内容に関する教育要望が多いことがわかった。この結果に基づき、CAD科目の充実、資格取得を意識した授業内容の変更、ドイツ語の開講、資格取得対策講座の開講等を実施している。

学生からの要望に基づき、希望者に対して補講を学習指導室が実施している。進学のための補講



では、数学の指導が行われている（資料9-1-④-2）。対象学年は、1年から5年までで、放課後、もしくは土曜日を利用して開催している。内容的には、基礎学力の完成から過去問演習まで幅広く対応がなされ、専攻科や大学編入学を目指す学生が無料で受けられる教育サービスを提供している。従来土曜日は休日であったが、学則変更によって平成17年度よりこれを「選択学習日」と変更し、選択科目や各種補講を開講して学習意欲のある学生が登校して授業を受けられるようになった。

資料9-1-④-1 開講希望科目、教科内容の要望調査

学年	意見
1-1	体育とは別に、武道のように球技を設けて欲しい。ソフトボール、サッカー、野球、バスケットボールなど。
1-1	パソコン関係の授業を増やして欲しい。
1-1	数学検定の受検のための授業を行って欲しい。
1-1	webアニメを作るための講座を設けて欲しい。(Flash、GIFアニメ等)
1-1	実験が少ない。もっと多くして欲しい。
1-1	資格取得の検定試験を学校主催でやって欲しい。
1-1	パソコン関係の資格取得の科目を設けて欲しい。
1-2	危険物のための授業をおこなってほしい
1-3	パソコンの授業を設けてほしい
1-3	選択じゃなくて美術と音楽両方の授業にしてほしい。
1-3	選択授業をしてほしい。週1~2限くらいで、自分のしたい授業を選び、それを頑張る。
1-3	自作パソコンの作り方の授業
1-3	危険物のセミナーを加えてほしい。
1-3	危険物の資格取得の科目を設けてほしい。
1-3	パソコン関係の専門知識を教えてください科目を設けてほしい。
1-4	パソコンでホームページの作成について知りたい
1-4	もっと工学実験を増やしてほしい。すべての授業を習熟度別にしてください
1-4	もっと専門的な授業がしたい。一般科目が多すぎる。
1-4	コンピュータの授業を増やしてほしい
2-1	コンピュータグラフィックスを授業で教えてほしい
2-1	専門科目の資格取得の科目を設けてほしい
2-1	ビジネス関係の科目を設けてほしい
2-1	パソコン関係
2-1	2年でも地理をやってほしい
2-1	自動車関係の資格取得の科目をもうけてほしい
2-2	いろいろな資格取得の科目
2-2	いろいろな資格が取得できる授業を設けてほしい。
2-2	危険物の検定ののための授業を行ってほしい。
2-2	進学コースみたいなのをやってほしい。
2-2	大学受験についての科目を設けてほしい。受験についての相談などをできる所がほしい。」
2-2	実用性の高い英会話の授業
2-2	英語A1以下バラバラではなく、ちゃんと習熟度でわけてほしい。
2-2	スポーツやケガについての科目を設けてほしい。
2-2	「経済」の授業をしてほしい。
2-3	資格取得の科目をもうけてほしい
2-3	コンピュータの基本を学ぶ科目があってもいいと思う。使い方も分からず入ってきた人にとって、コンピュータ概論やプログラミングはさっぱりわけがわからないものだと思う。
2-3	他の外国語の授業
2-3	中国語を必須科目にしてほしい！！
2-3	フランス語を教えてください！！
2-3	体育、陸上競技などをやってみたい。
2-3	コンピュータグラフィックスを授業で教えてほしい
2-3	コンピュータグラフィックスを授業で教えてほしい
2-3	地学、天間学をやってほしい
2-4	大学受験のための勉強
2-4	大学受験が必要になってくる。古文や現代文などの国語の中の種類を増やしてほしいです
2-4	休憩時間をもう少し長くしてほしい
2-4	英語のクラスをしっかりと分けてほしい
2-4	パソコン関係の資格取得の科目を設けてほしい
2-4	コンピュータグラフィックスを授業で教えてほしい
2-4	資格取得に重点をおいた授業を行ってほしい
2-4	どこの学校にもない科目を設けてほしい
2-4	パソコン関係の科目を増やしてほしい
2-4	建設の情報処理の授業を増やしてほしい。
2-4	資格ももっと授業や土曜日とかに受けやすい環境を作ってほしい。
2-4	パソコンを使って授業をしたい。
3-1	芸術の授業を希望
3-1	音楽の授業を希望
3-1	英語以外の外国語を導入してほしい
3-1	漢字検定受験のための授業を行ってほしい
3-1	ワープロ検定などの資格の科目
3-2	資格取得の補習をしてほしい。
3-2	パソコン関係の授業がほしい。
3-2	プログラミングの授業をCに替えてほしい。
3-2	電気情報の情報通信コースは電気回路系の授業が多いので、もっとコンピュータを使った授業を受けたい。
3-2	電気情報の情報通信コースはもっとコンピュータを使う授業を増やしてほしい。
3-2	パソコン関係やいろいろな資格取得の授業を行ってほしい。
3-3	事務系の科目
3-3	パソコン関係の資格取得の科目を設けてほしい。
3-3	パソコンを利用した授業を作って下さい。
3-3	電気系やパソコン系の資格を取りたいのでそういう科目を作ってほしい。
3-3	危険物の授業や他の色々な試験の授業をしてほしい。
3-3	美術 色彩検定

3-3	情報通信コースらしい授業がもっと欲しい。
3-4	パソコンの基本講座(上手・有効に使い方)
3-4	資格についての講座開講
3-4	機械の為の資格試験授業をしてほしい
3-4	CGを授業で学びたい
4MA	CADの授業を行ってほしい
4MA	CADの授業
4MA	ネチケット等を全員に教えてほしい。
4MB	色々なパソコンソフト(主にCG関係)の使い方を教えてほしい
4MB	もっといろんな資格が取れる科目を設けてほしい。(2)パソコン関係の資格
4MB	パソコン関係の授業を設けてほしい
4MB	機械科にもパソコンを教えてください
4MB	資格がもっと取りたいのでそれに対しての授業をしてほしい。
4MB	漢字検定受験のための授業を行ってほしい
4MB	体育で珍しいスポーツを教えてください。
4EB	もっとパソコンを使う授業を増やして欲しい。タイピングも練習したかったし、表計算ソフトは4年になっても使いこなせないまま終わってしまった。
4EB	資格を生徒の自主的にとらせるのではなく、強制的に授業の中で取らせるような科目がほしいです。
4EB	パソコン関係の資格取得の科目を設けてほしい。
4EA	電気の資格の勉強をする科目。
4EA	電気特有の資格(電気工事士、電気主任技術者)などの資格をとれる補講を設けて欲しい。
4EA	パソコン関係
4EA	パソコン関係の資格を取得したいので科目を設けて欲しい。
4EA	SPIの授業を設けて欲しい。資格をとる授業をもっと設けて欲しい。
4EA	CADを使う授業がほしい。大学進学、就職のどちらかを選び、それに対する対策などができる授業がほしい。
4EA	就職対策の授業が欲しい。
4EB	体育やスポーツ関係の仕事や進学のために体育コースを設けて欲しい。
4EA	SPIの授業を設けて欲しい。
4EA	大学編入学用の英語基礎学力の講座があるなら、就職用の英語の講座がほしい。
4EB	グラフィックをプログラムで動かすような授業
4EB	通っていた工業高校のレベルよりやや低い。実用的な専門知識を得られる授業を行って欲しい。通っていた工
4EB	ドイツ語
4EB	パソコン関係の資格取得の科目を設けて欲しい。
4EB	資格取得のための授業をしてほしい。
4EB	役に立つ資格取得の科目を設けて欲しい。
4EB	コンピュータグラフィックを授業で教えて欲しい。
4EA	数学をもっとしてほしい。
4EA	電気工事士の1種の資格取得の授業を行ってほしい。
4EB	以前シスアド検定の補講を受けましたが、うだうだで、しっかりしていなかったのでやめました。もうすこししっかり
4EB	パソコン関係の資格取得の科目を授業中に設けてほしい。
4E	レポートをする時間やオープンオフィスの使い方を教えてください。
4EB	パソコン関係の資格取得について
4EB	ソフトウェア技術など情報系の科目を設けてほしい。電気系を減らし情報系を増やしてほしい。
4E	第2種電気工事士の授業を行ってほしい。
4EB	基本情報処理技術者の資格取得のための補講を行ってほしい。
4EB	コンピュータグラフィックを授業で教えて欲しい。
4EB	プログラミング言語をもっと教えてほしい。(時間ももっとほしいし、内容もこく。)電気情報の科目をもっと充実さ
4EB	情報通信コースでも電気電子系のコースの方が多いので、情報通信の授業を増やしてほしい。
4E	専門の基本を1からもう1回やってみたい。
4EA	数学検定や英語検定などのための授業をおこなってほしい。先生が遅れてきて45分授業が40分や35分授業
4EA	毎週英語の授業をしてほしい。
4EB	パソコン関係の資格取得の科目を設けてほしい。
4EB	パソコン及び情報に関する資格取得の科目がほしい。
4EB	ソフトウェア関係の仕事をしたかったので開発関係の授業がほしい。
4C	将来の事とかの授業
4C	建築関係の専門科目を増やして欲しい。
4C	音楽の勉強をしたいので4年も選択でもいいので授業を行って欲しい。
4C	CAD検定資格取得の科目
4C	CADの授業時間を増やして欲しい
4C	建築を選択しているのですが、建築の科目がほとんどなく科目や先生を増やして欲しい
4C	資格取得をしているのですが、自分で勉強するのに限界があり、講座や先生を増やして欲しい
4C	ドイツ語
4C	コンピュータを使う授業がもう少しあったほうがあったほうがいいと思う。
4C	もっと体育の授業を増やして欲しい
4C	パソコンの表計算などを具体的にわかるように授業をしてほしい
4C	建設システム工学科もやっぱり会社に就職したらパソコンが使えないと困るので、パソコンの授業も入れて欲しい
4C	もっと体育の授業を増やして欲しい
5MA	NCプログラミング
5MA	大学進学のための授業(小論文)
5MA	CAD講習
5MA	CAD講習
5MA	3D CAD講習
5MA	ロボット制御のプログラミング
5MA	ロボット製作実習
5MA	体験就職
5MA	大学数学

5MA	パソコン検定で最低6級ぐらいのレベルのスキルが身に付くような授業。
5MA	簡単な溶接作業ができるような授業
5MA	株のデイトレードについての授業をして欲しい
5MA	危険物など資格を取る授業をして欲しかった。外国語の授業をしっかりして欲しい
5MA	先生の教えることができる資格取得の科目を選択でも設けて欲しかった。
5MA	もっと強制的にでも資格の試験を受けさせるべき。高専なのに履歴書の資格の欄が車だけだとカッコ悪い。
5MA	編入で来ると、専門教科で考えではなく、数学的に理解できないことが多かった。数学の時間を増やしたほう
5MA	CADの資格など機械系の資格取得の科目
5MA	4学年以上はCADを使った製図授業にして欲しい。
5MA	機械系の検定(溶接)などの取得のための授業をして欲しい
5MA	3D CAD講習
5MA	就職に役立つ資格取得の授業をして欲しい
5MB	設計コースにCADの授業がないのはおかしい
5MB	国家資格の取得を目的とした授業をして欲しい。
5MB	CAD講習
5MB	工業英語を取り入れるべきだ。工業学校であるのに普通英語を行うのはおかしい。
5MB	パソコンを使う授業が少なすぎる。パソコンが使えない学生が多い
5MB	資格取得が簡単にできるような授業をして欲しい。
5EA	実用的な資格試験の講座を設けてほしい。
5EA	電検三種等の資格取得を目指すカリキュラムも必要。
5EA	就職が決まったらその就職先に関係のある資格を取れる授業をして欲しい(他の実験やあまり関係のない授業を削って選択制で10月で授業を打ち切りが望ましい。)。10月まで必要単位を取り、その後はやる気のある
5EA	よくわからない。でも例にあるような資格試験の科目があつたらうれしかったかも。5年生はもっと卒研増やしたらもっといい内容の、中身の濃いものになると思う。それぞれみんな進路が違うのでそれに合った科目を選択できたらいと思う。そして目的を持った勉強ができるので効率がよいと思う。
5EA	就職の内定がもらった者から、その就職場所に関係のある資格を取る勉強をさせて欲しい。内定をもらった後の授業は、正直真剣に取り組めない。例えば、自習や選択授業とする。
5EA	就職が決まったらその就職先に関係のある資格を取れる授業をして欲しい(他の実験やあまり関係のない授業を削って選択制で10月で授業を打ち切りが望ましい。)。10月まで必要単位を取り、その後はやる気のある
5EA	課外授業が増えて欲しい。
5EA	選択で欲しい資格のための授業を受けたい。(補講では無く、正規の授業の方がやる気がでると思う。)
5EA	資格取得に関する科目がもっと欲しかった。
5EB	家庭や音楽をして欲しい。
5EB	パソコン関係の資格取得の科目をもうけて欲しい。
5EB	国語、経済、倫理、歴史の授業追加。SPI、TOEIC、工業英検、工場見学、会社見学を増やして欲しい。株講座
5EB	電検3種の補講。他の高専ではやっている。岸先生にお願いしたい。
5EB	情報系の授業を増やしてください。
5EB	情報系の授業を増やしてください。文書作成能力などを鍛える科目を増やすべき
5EB	情報系のクラスなのに、情報系や通信系の科目が少ない。もっと情報系の授業を増やして欲しい。エネルギー工学、回路設計など電気系の授業は少ない。各種テクニカルエンジニアや情報処理試験を目指した授業を
5EB	情報処理技術者試験の資格取得の科目が欲しい。
5EB	情報の基礎から応用に至るまでを学べる授業やパソコンに関しての授業を増やして欲しい。
5EB	電子回路の実習を増やしてほしい
5C	宅検がとりたいので宅検のための授業を行って欲しい。
5C	資格をとるための科目がもっとほしい。
5C	柏野先生のサッカー教室。
5C	パソコンでよく使う機能(エクセル、製図など)をもっと教えて欲しい。
5C	建築物のデザインの授業を行って欲しい。
5C	数学や英語に力をいれて欲しい。特に、英語は文法とかも大事だが外国へ行ってもついていけるように話せるようになる勉強をして欲しい。例えばオーラルやリスニング、そして外国の先生と英会話などを授業に入れて欲
5C	建築系の科目が少ない。もっとデザイン系の授業を増やして欲しい。
5C	もっと積極的に資格取得のための授業や補講などをして欲しい。
5C	ドラフターを使った製図やCADを使った製図を行って欲しい。
5C	とにかく資格を取得するための行いが全くないのでそれに関するをやった方が進学や就職にいいと思う。
5C	5年になっても数学や英語の科目をつけて欲しい。英検の受験のための授業を行って欲しい。
5C	資格取得の科目
5C	もっと資格取得の授業を設けて欲しい。
5C	製図にCADをもっといれて欲しい。入社試験の際にCADをあまり使っていないという噂があると聞かれた。
5C	パソコン。
5C	CADの授業などの最新の時代にあった授業を設けて欲しい。
5C	ドラフターを使いたかった。
5C	特にないが、資格取得するための授業というか補講くらいはした方がいいのではないかな。
5C	英語検定のための授業を行って欲しい。
5C	資格を取得するために授業を増やして欲しい。
5C	パソコン教室みたいな授業を開いて欲しい。
5C	土木関係の資格取得の科目を設けて欲しい。

(出典：近畿大学工業高等専門学校教務部資料)

資料 9-1-④-2 補講案内

平成 18 年度 数学補講 案内  
以下の内容で行う。

2006 年 6 月 22 日, 23 日

学習指導部

コース

	講座名	対象学年	曜日	時限	場所	担当教員
①	基礎数学質問教室	1,2,3	土 初回は 7/8	3,4	本館 202	乗本
	基礎数学の範囲で、各自の苦手な単元について、個別指導を行う。					
②	基礎数学発展講座(1 年)	1	水 初回は 6/28	7,8	本館 205	伊藤
	基礎数学の範囲で、通常授業で扱い切れない単元の学習、難易度の高い問題の演習を行う。					
③	基礎数学発展講座(2,3 年)	2,3	土 初回は 7/8	1,3,4	本館 205	神田(1 限) 伊藤(3,4 限)
	基礎数学の範囲で、通常授業で扱い切れなかった単元の学習(週 2 コマ, 伊藤が担当)、難易度の高い問題の演習(週 1 コマ, 神田が担当)を行う。					
④	線形代数再講	3,4,5	土 初回は 7/1	5,6	新館 203	伊藤
	線形代数の範囲で、全単元の復習をしつつ、通常授業で扱い切れなかった単元の学習に重点を置く。4 年編入生で出身校で線形代数を学習していない学生の参加を、特に強く勧める。					
⑤	微分積分再講	4,5	土 初回は 7/8	4	新館 203	神田
	微分積分の範囲で、編入学試験で出やすい単元の復習と、通常授業で扱い切れなかった応用的な単元の学習をする。主に 4 年生を対象とするが、高専の微積分を復習したい 5 年生も参加可能である。					
⑥	大学編入学試験問題演習	4	隔週水 初回は 7/5	9,10	本館 205	神田
	事前に大学編入学試験の過去問を配布し、できるだけ解いて来てもらい、その添削や解説を行う。					

日程

通常授業に準ずるが、定期試験直前は休講とし、長期休暇開始直後や終了直前などに回数を増やす。

6/26(月)~7/1(土)	第 1 回	一部のコースのみ開始。
7/3(月)~7/8(土)	第 2 回	
7/10(月)~7/15(土) 夏期休暇中補講期間	第 3,4 回	通常授業期間とは別の時間割で実施。詳細は後日連絡。
8/28(月)~8/31(木) 夏期休暇最終週	第 5,6 回	通常授業期間とは別の時間割で実施。詳細は後日連絡。
9/4(月)~	第 7 回~	

(出典：近畿大学工業高等専門学校学習指導部資料)

(分析結果とその根拠理由) 教育に対する学生の要望を聴取するシステムが整備され、具体的かつ継続的な方策が講じられている。学生の強い要望を受け、コンピュータを使ったデザイン授業や外国語開講、資格取得に焦点を合わせた授業内容等の教育課程の見直しが実施されている。また進学補講といった正規の授業では、カバーしきれない分野の講義・演習を行う体制が完備している。

**観点 9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。**

(観点到に係る状況) 観点 9-1-②でも触れたように、教員は年 2 回学生による授業アンケート調査を行い、その度にアンケート結果の分析及び授業改善計画を作成している(資料 9-1-⑤-1)。教育評価室はこれを収集し状況を把握した上で学校長へ提出している。教材については、学科、あるいは教科の研究会を開催し、適切な内容、レベルのものを選ぶようにしている。例えば英語科では、この 3 年間で、教材を全て変えている。このように各教科担当者は積極的に動き、要望に応えようとしている。また各教員は毎年、教員業績自己評価申告書(資料 3-2-②-1)を作成し学校長に提出している。この自己評価申告書では、教育業績、研究業績、管理運営能力、社会活動の 4 項目が設定されており、前年度の各活動状況を総括してその達成状況を具体的に記入している。

(分析結果とその根拠理由) 学生の授業アンケート調査を基に、教員がアンケート結果分析や授業改善を盛り込んだ「授業改善計画書」を作成し教育評価室へ提出している。年 2 回のデータ積み上げと年 1 回の教員業績自己評価申告書によって個々の教員の改善状況を学校として把握しており、改善のためのシステムとして機能している。

資料 9 - 1 - ⑤ - 1 授業改善計画書

授業改善計画書		平成 19 年 2 月 19 日				
		建設システム工学科 氏名 林 泰弘				
1. 担当教科 (学年、教科名)						
5 年 卒業研究、技術と倫理 (選択)						
4 年 土質工学、土質工学演習 (選択)、建設システム工学実験 II、専門基礎 (選択)						
3 年 土質工学、建設システム工学実験 I						
2 年 工学概論						
2. 学生による授業評価結果						
土質工学 (4C)						
		4年土質工学				
		3	2	1	回 答 数	平 均
1	学習態度は真面目であったか。	18	9	1	28	2.6
2	授業を受けるにあたり意欲的に取り組んだか。	11	10	7	28	2.1
3	この科目に対する家庭学習を十分に行ったか。	11	11	6	28	2.2
4	授業の説明が分かりやすかったか。	13	13	2	28	2.4
5	説明するときの話す速さは適切であったか。	17	9	2	28	2.5
6	説明するときの話し方は明瞭であったか。	20	7	1	28	2.7
7	黒板の字はよく読み取れたか。	22	5	1	28	2.8
8	授業の進む速さは適切であったか。	13	13	2	28	2.4
9	授業では、先生の熱意が感じられたか。	12	13	3	28	2.3
10	授業を通してこの科目に対する興味・関心が深まったか。	9	12	7	28	2.1
11	宿題やレポートの量は適切であったか。	12	11	5	28	2.3
12	テスト問題の内容は適切であったと思うか。	16	9	3	28	2.5
13	成績評価方法は適切であったか。	14	12	2	28	2.4
14	あなたはこの分野の基礎的知識や要点が身についたと思うか。	11	13	4	28	2.3
15	あなたはこの科目が習得達成できたと思うか	9	14	5	28	2.1
						2.4
3. 改善計画						
4C 土質工学は土木系の学生にとって主要専門科目であり、就職、進学には必須となる。授業への熱意は評価してもらったものの、内容が難解な面もあり、内容の理解度や習得目標の達成度、関心があまり高くなかった。前回に比較して、今後はより実際的な問題との関連を示すなどして関心を高め、理解度をあげてゆきたい全体的に改善している。これは、学生の授業に取り組む姿勢が良くなってきたことと関連がありそうである。						
3C 土質工学は後期より開始した科目であり、土木系の学生にとって主要な専門科目である。この科目に対するイメージや必要性を十分に理解する前に、授業が進行している面があり、評価はあまり高くない。科目の重要性を説くとともに興味を引く内容をいれることで関心を高めたい。						
2 年工学概論は次年度のコース分けを念頭に、コースで何を学ぶかを主に授業を行った。出来るだけ難解な専門用語は避け、パワーポイントの使用、DVD の活用などビジュアル面を重視した授業を行った。この授業は期ごとに担当クラスが変わるが、前回のクラスに比べ全体的に評価が低く、特に項目 10 の評価が低い。対象学生に応じた工夫が必要であると感じた。						

(出典：近畿大学工業高等専門学校教育評価室資料)

観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況) 平成12年度からの学校改革で教員給与の削減が実行されたがこれは人件費の一部を教育研究費に充当することで研究活動を活性化することがねらいで、教員には一人当たり平均60万円の研究費が配分されている。教員は学内規定により、逐次研究調査するための旅費を本人が発表する場合には回数無制限の学会参加旅費を、国際学会発表では年1回の旅費を受けることができ、学会参加によって最新技術動向を入手する機会が与えられている。これらにより時代に遅れることなく最新の内容の教育を提供することができる。また5年生の卒業研究(資料6-1-②-9~11に掲載)と専攻科学生の特別研究(資料9-1-⑥-1)を担当することで、教育的見地から学生と一体となった研究活動を展開している。研究テーマは地域との産官学共同研究が多く近畿大学学園が掲げる「実学」に適合した教育を学生に提供している。特に優秀な卒業研究成果については学生が学会発表を行っている(資料9-1-⑥-2)。

資料 9-1-⑥-1 専攻科学生の特別研究テーマ (平成18年度)

学年	専攻区分	学生名	テーマ	指導教員
2	電気電子工学	高嶋航大	半導体中の不純物拡散におけるインバースモデリング技術の応用技術の研究	西 謙二
2	電気電子工学	寺地晃正	SOIFET の VTCMOS 技術的用検討	嶋野彰夫
2	電気電子工学	的場裕平	3次元デバイスシミュレーションを用いた Fin 型 FET の最適化設計	嶋野彰夫
2	土木工学	山田幸司	小領域を対象とした治水計画に用いる雨量データの取り扱いについて	中西祐啓
1	機械工学	梅沢直樹	条件付き期待値原理に基づく理想的な重点サンプリング密度関数の構成法	奥田昇也
1	機械工学	丸山信太郎	現代制御理論による倒立振り子台車制御の研究	源 雅彦
1	機械工学	山本大純	界面活性剤水溶液流れの熱伝達促進に関する実験的研究	荒賀浩一
1	電気電子工学	洞 健	モンテカルロ法によるイオン注入シミュレーションの研究	西 謙二
1	電気電子工学	藤沼 武	DA コンバータの設計・製作に関する研究	仲森昌也
1	電気電子工学	北川 晃	インバースモデリング技術を用いた半導体中の不純物拡散の研究	西 謙二
1	電気電子工学	湊 幸太郎	ゲーム理論の工学的応用に関する研究	神田 毅
1	土木工学	峠坂 光彦	アメダス雨量観測データの年最大値系列における尤度の比較	中西祐啓
1	土木工学	外山 良太	歴史的資産を活用した景観まちづくり	青木 繁
1	土木工学	中山 亜紀	廃棄物溶融スラグを混入した流動化処理土の力学特性	林 泰弘

(出典：近畿大学工業高等専門学校専攻科資料)



資料 9-1-⑥-2 学生による学会発表 (平成18年度)		
学生名・所属	学会名	発表タイトル
高嶋航大 専攻科 2 年	第 67 回応用物理学会学術講演会 (H18.9)	インバースモデリングによる不純物拡散パラメータ抽出の検討
寺地晃正 専攻科 2 年	第 12 回高専シンポジウム (H19.1)	VTCMOS 技術を適用した SOIFET の最適デバイス設計
梅澤直樹 専攻科 1 年	第 12 回高専シンポジウム (H19.1)	重点サンプリング法に基づく構造信頼性解析法の研究
山本大純 専攻科 1 年	日本機械学会熱工学コンファレンス 2006 (H18.11)	垂直管内における界面活性剤水溶液-空気二相流の流動様式とボイド率
濱口康誌 機械システム工学科 5 年	日本機械学会熱工学コンファレンス 2006 (H18.11)	垂直管内における界面活性剤水溶液-空気二相流の流動伝熱特性
柿元慎一郎 機械システム工学科 5 年	第 12 回高専シンポジウム (H19.1)	東紀州地域におけるバイオマスエネルギー活用技術に関する研究
武長久志 機械システム工学科 5 年	第 12 回高専シンポジウム (H19.1)	界面活性剤水溶液流れに及ぼす空気混入の影響
池満瑛祐 機械システム工学科 5 年	第 12 回高専シンポジウム (H19.1)	界面活性剤水溶液-空気垂直上昇気液二相流の流動特性
木村雅人 機械システム工学科 5 年	第 12 回高専シンポジウム (H19.1)	並列細管内強制対流沸騰における流動伝熱特性
木村貴良 電気情報工学科 5 年	電気学会平成 18 年度高専卒業研究発表会 (H19.3)	3次元腹部CT画像からの形状特徴量を考慮したリンパ節抽出法

(出典：研究開発室資料)

本校における研究を実施する目的の一つに「研究成果を教育に生かす」がある。研究で習得した理論と融合させ、高度な教育を達成しているが教員の研究活動による教育内容の改善例を(資料 9-1-⑥-3)に示す。DVDや学会誌のコピーを見せたり、学生がパワーポイントでプレゼンテーションを行ったり、インターネットで情報を収集したり、単に講義の内容ではなく、コミュニケーションの媒体を多彩にすることで、現代の情報化社会に対応した授業とし、学生もそこからこのような媒体の運用に慣れることが可能になっている。

資料 9-1-⑥-3 教育内容の改善例

教員名	研究分野	科目名	改善内容
山本広樹	計測信号処理	4年工学実験	笛の音について分析する実験に、PCによるスペクトル分析を取り入れた。
青木 繁	建築計画・都市計画・まちづくり	建設5年 卒業研究、景観環境デザイン	本校が立地する地元の熊野市を対象とした、まちづくりに関する調査研究を踏まえ、卒研や授業において、地域的な特性の解釈方法や問題の解決方法などを、学生にも身近な話題として取り上げ、より理解を深める内容とした。
奥田昇也	構造システムの破損確率	構造信頼性解析（専攻科1年）	PCを用いて、各種シミュレーションによる破損確率の算出法の理解が深まり、同時に、シミュレーション法の種々の使い方も実践的に身についた。
政清史晃、神田毅	画像処理、コンピュータグラフィックス	総合システム工学実験実習2年、卒業研究5年	実験実習科目では、3次元CGソフトウェアの基本操作を学ぶことによりコンピュータグラフィックスの基本動作を学べる内容を導入した。卒業研究では、医用画像から抽出した臓器のサーフェスレンダリング画像をこのCGソフトウェア上に再構成し、スクリプト言語で手術シミュレーションを行うなどの応用技術を指導している。
園井 康夫	地球大気物理学	5EA「送配電工学」	身近にありながら、学生の知らない架空送電線の「がいし」、「電線」、「ケーブル」等の実物を授業中に見させて理解を深めさせた。
	地球大気物理学	専攻科2年「絶縁設計工学」	架空送電線の特に、絶縁設計の基礎である「内雷(開閉サージ)」と「外雷(直撃雷と逆フラッシュオーバー)」に対する概念をより深く理解させた。
竹内春樹	英語教育、機能言語学	英語1年から4年	英語教育の観点からは、やさしい英語の読み物を学生に読ませる多読指導を行った。機能言語学の観点からは、リーディング指導で、文章の構成や段落の目的を考えさせた。
Simon Humphries サイモン・ハンフリーズ	Doctor of Applied linguistics 応用言語学博士課程	English 1-5 英語1-5年生	Text and Discourse Analysis, and Systemic Functional Linguistics used to help learners essay-writing. Action Research used to analyse and improve classes. Course innovation study used to create new courses based on learners' needs.
今野理喜男	磁性体、超伝導体	専攻科材料物理	Ascroft and Mermin の Solid State Physics(英語の原書)の輪読に役立っている。
	磁性半導体	電気・電子コースの学生の卒業発表会	議論のときに役立っている。

(出典：教育評価室資料)

(分析結果とその根拠理由) 教員の行う研究活動が教育の質の向上に寄与している。教員が研究活動を行ない、学術論文の発表、学会参加等を積極的に行なうことによって教育内容の陳腐化を防止している。産官学共同研究を卒業研究や特別研究テーマに取り上げ実学に適合した教育を学生に提供している。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況) 本校のファカルティ・ディベロップメントとしては新任教員研修会、学科や教科の研究会、公開授業(教員相互による授業参観)等が挙げられる。新任教員は着任後3日間の新任教員研修会を受講する。その中で本校の教育理念、目的、学習教育目標等、本校の組織運営、学生の状況・特色等の説明を受け、授業の実施方法、板書技術、定期考査の実施・成績評価方法等

の指導を受ける。これは特に企業出身者等教育経験・授業経験を持たない新任教員にとっては重要である。また日常の教員としての実践的指導は所属部署の同部屋教員から容易に受けることができる。また毎年定期的実施されている全国高専教員研修会（3日間）に特別な理由のない限りその年の新任教員全員を派遣し、先輩教員の講話、他高専教員との情報交換等によって高専教育の担い手としての動機付け、教育内容改善例を入手する場として効果を上げている。

学科や教科の研究会については、学科長または教科主任を中心として、必要に応じて、適宜開催されており、その場で、教育技術等を話し合い、教育への理解と技術を磨いている。毎年開催されている近畿大学附属学校教育研究会（資料9-2-①-1）には、主として一般教養科目担当教員が研修に参加している。三重県から福岡県にかけて設立されている高校7校、中学校6校、小学校1校及び本校から構成される研究会である。教育技術を学ぶと共に、中学、高校といった学校の違いを超えた情報交換の場ともなっている。

公開授業は、平成17年には、11月に学校長より、専任教員が、すべての教員の授業を参観することという通達が出され、それに従って、教員は行動している。平成18年の公開授業でも、すべての教員が行ったがあらかじめ時間、授業クラスの発表（資料9-2-①-2）があり、それを参観した。授業案（資料9-2-①-3、提出を義務付けてはいない）の要領で授業を行い、その後、参観教員から意見を聞き公開授業結果報告書（資料9-2-①-4）を提出することになっている。

本校はファカルティ・ディベロップメントの一環として、博士号取得のための大学院博士課程での学習、研究を支援している。現在理系5名、文系1名が博士課程に在学して研鑽を積んでいる。また国際学会へ毎年教員が参加し、発表するとともに、最新の研究成果を学んでいる。国際学会参加教員に対しては、学校より旅費の補助がなされている。

資料 9 - 2 - ① - 1

平成 19 年 6 月 6 日  
近畿大学附属福山高等学校中学校

平成 19 年度 近畿大学附属学校教育研究会 開催要項 (予定)

- 主 催 近畿大学附属学校校長会 (大学本部総務部)  
 開催日 平成 19 年 6 月 22 日 (金)・23 日 (土)  
 参加人数 120 名 (うち福山教職員 50 名)  
 会 場 6 月 22 日 (金) 福山ニューキャッスルホテル  
 〒720-0066 広島県福山市三之丸町 8-16  
 TEL (084)922-2121 FAX (084)923-6813  
 6 月 23 日 (土) 近畿大学附属福山高等学校中学校  
 〒720-0835 広島県福山市佐波町 389 番地  
 TEL (084)951-2695 FAX (084)951-3581
- 日 程 6 月 22 日 (金) 福山ニューキャッスルホテル  
 13:30~15:00 校長会  
 15:00~15:30 受付  
 15:30~16:00 全体会・開会式  
 司会者 附属福山高等学校中学校 佐藤 幸男 教頭  
 (1) 開 会 司会者  
 (2) 当 番 校 挨拶 附属福山高等学校中学校 鈴木 忠直 校長  
 (3) 大学代表挨拶 近畿大学 畑 博行 学長  
 (4) 出席者紹介 司会者  
 16:00~17:30 講演会  
 司会者 附属福山高等学校中学校 佐藤 幸男 教頭  
 (1) 前附属高等学校中学校 校長 當仲 將宏 先生  
 「演題：建学の精神と生徒指導への具現化」  
 (2) 閉 会 司会者  
 18:00~20:00 懇親・懇談会  
 司会者 附属福山高等学校中学校 佐藤 幸男 教頭  
 (1) 開 会 司会者  
 (2) 挨拶・乾杯 学校法人近畿大学 清水 由洋 理事・学監  
 (3) 懇親・懇談  
 (4) 閉 会 司会者

平成 19 年 6 月 6 日

- 日 程 6月23日(土) 近畿大学附属福山高等学校中学校  
 9:00~12:00 分科会
- 第1分科会「高校3年間もしくは中学からの6年間を見据えた学力向上の取り組み」について  
 (近畿大学への進学を見据えた取り組み)
- 会 場 3-C (4号館1階)
- 司 会 附属福山高等学校・中学校 石田展一 教諭
- 発表者 附属福山高等学校・中学校 鳥生浩紀 教諭  
 附属福山高等学校・中学校 大江哲子 教諭
- 記 録 附属福山高等学校・中学校 中部幸成 教諭
- 報告者 附属福山高等学校・中学校 東野寛紀 教諭
- 第2分科会「生徒募集の取り組み」について
- 会 場 3-D (4号館1階)
- 司 会 附属福山高等学校・中学校 廣安和子 教諭
- 発表者 附属福山高等学校・中学校 藤井寿久 教諭
- 記 録 附属福山高等学校・中学校 入江洋史 教諭
- 報告者 附属福山高等学校・中学校 藤田修司 教諭
- 第3分科会「いじめ問題」について
- 会 場 2-D (4号館1階)
- 司 会 附属福山高等学校・中学校 大本則夫 教諭
- 発表者 附属福山高等学校・中学校 津田裕矢 教諭  
 附属福山高等学校・中学校 久野由美子 教諭
- 記 録 附属福山高等学校・中学校 北村知之 教諭  
 附属福山高等学校・中学校 金尾祐美 教諭
- 報告者 附属福山高等学校・中学校 小山光子 教諭

※研究授業は行わない

(参考)

- ・「中高一貫校としてのカリキュラム・授業展開について」、「LHRの活用と生徒指導の連携」については校長会レベルテーマとして校長会にて協議
- ・「中学校道徳の在り方」については、講演会の内容として取り扱う

12:10~12:40 全体会

司会者 附属福山高等学校中学校 小野 雄 教頭補佐

- (1) 開 会 司会者
- (2) 分科会報告 各分科会の報告者
- (3) 当番校挨拶 附属福山高等学校中学校 鈴木 忠直 校長
- (4) 次期当番校挨拶 附属新宮高等学校中学校 橋本 昭彦 校長
- (5) 閉 会 司会者

12:50~ 昼食・解散

(出典：平成19年度近畿大学附属学校教育研究会開催要項)

資料9-2-①-2 2006年度 公開授業実施予定 12月分

日付		12月6日	12月7日	12月7日	12月11日
曜日		水	木	木	月
2限	担当者 学年クラス 科目 教室		畑山 3B 物理 311	園田 1C 国語 214	仲森・岡部 2年 実験(電気電子系) 電磁基礎実験室
3限	担当者 学年クラス 科目 教室	大内 4年 国語 N204	鈴木 2B 化学 305		
5限	担当者 学年クラス 科目 教室	竹内 1C 英語 214教室			仲森・汐崎 1年 実験(情報系) CAI室

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料 9 - 2 - ① - 3 英語公開授業案

2006年12月6日(水) 5限

1年Cクラス

担当 竹内春樹

使用教材

Vivid English Course I (第一学習社)

Lesson 7 African Eve: Mother of Human Beings

本授業の目標

1. 文章のテーマの理解
2. 段落構成の理解
3. 名詞の指示関係の理解
4. 文法(間接疑問文、関係代名詞)の理解

授業の展開

項目	時間	内容	ねらい
導入	5分	扉ページの絵について学生に質問	本課の内容への興味付け
展開	35分	Part 1 の音読	
		文章全体のテーマについての質問 Have you ever wondered <u>who the ancestors of modern human beings were?</u>	この話で最も筆者が言いたいことを考える。
		段落で最も重要な文を問い、そこで用いられている名詞の指示関係を質問 (two ideas, The first, The second idea)	トピックセンテンス及び段落構造について考える。
		構文の説明 1 SVO (Oが疑問詞節の場合、間接疑問文) Have you ever wondered who the ancestors of modern human beings were? (Who were the ancestors of modern human beings?) Do you know what this is? (What is this?)	文法理解
		構文の説明 2 関係代名詞(主格) The first was an idea that was based on a study of fossil records. He likes watches that are made in Switzerland.	文法理解
		熟語の学習 that of (The climate of Osaka is milder than that of Hokkaido.) according to (According to today's newspaper, the team won the game.)	熟語
		単語の学習 wonder, ancestors, human beings, be based on, fossil, explained, appear, Neanderthal man, Java man, Peking man, develop, explain, DNA (p.121 参照), professor, so far, doubts	単語
まとめ	5分	学習内容について英語による応答 How many ideas have there been about the beginnings? What was the first idea based on? Did Dr. Wilson believe this idea?	内容の整理

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

資料 9 - 2 - ① - 4 公開授業結果報告書

18 年 12 月 21 日

2006 年度公開授業結果報告書

教員名 竹内春樹

1. 実施日時 12 月 6 日 (水) 5 限

2. 実施クラス 1 年 C クラス

3. 科目名 英語

4. 授業内容 文部省検定教科書を使用しての特にリーディング活動を中心とした授業。授業の目標として、文章のテーマ理解、段落構成の理解、名詞の指示関係の理解、間接疑問文などの文法項目の理解を設定した。ただ単に日本語訳するのではなく、趣旨の理解を目指した。また授業形態として、学生とのコミュニケーション活動を重んじるものとした。

5. 参観教員の意見

長嶋 かづみ (1 時間見学)

「生徒たちが、質問に積極的に、返答していてとても活気がある授業だったと思います。また、文法説明なども例文の出し方がよくて、すごくわかりやすく、私にとってもいい勉強になりました。どうもありがとうございました。」

新田 慶子 (1 時間見学)

「C クラスはおとなしいというイメージがありましたが、1C クラスは非常に元気で活発なクラスだという印象を受けました。先生の質問に対しても答えが飛び交い、質問もしやすい良い状況だったと思います。リーディングの途中で文法の説明を行い、例題で確認していく方法は私も取り入れたいと思いました。ありがとうございました。」

西村 道登 (1 時間見学)

「学習指導、生徒指導共にとてもきめ細やかで大変良い勉強になりました。有難うございました。」

6. 実施教員の感想、今後の抱負

いつも質問の多い、活発なクラスですが、特にこの公開授業は 5 人ほどの学生が、熱心に発言してくれました。普段の授業で他の学生もよく質問する傾向にあります。大きな声で発言しなくても、「先生ちょっと来ていただけますか」と言って、分からないところをたずねてきます。また普段の授業では、列ごとに当て、ほぼ全員に答えさせ、全員参加の授業を心がけています。

各クラスは、積極的なクラス、静かなクラスと、特色があり、そのクラスに応じて、適切な指導が求められると思います。そのようなクラスの特性を考慮しながら、楽しい授業展開ができれば、それが一番望ましいと思います。

学生にはさまざまな学生がいます。勉強に熱心な学生、勉強嫌いの学生などいろいろです。そこで勉強嫌いの学生には、少しでも、机に向かわせるように、熱心な学生には、さらに高いところを目指す指導を心がけてゆきたいです。

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

(分析結果とその根拠理由) ファカルティ・ディベロップメントが適切に実施されている。新任教員研修会、近畿大学附属学校教育研究会、公開授業(教員相互の授業参観)、博士号取得支援などが積極的にかつ組織的に実施されている。

観点 9 - 2 - ②: ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況) 本校では観点 9 - 2 - ①で述べたファカルティ・ディベロップメントや学生



の授業アンケート結果などから継続的に教育の質の向上や授業の改善に取り組んできた。教員は各自の授業の状況を省みて改善目標を立て、学生の授業アンケートに基づく「授業改善計画書」の中に明記している。この中に前回立てた改善目標に対してその達成状況を記載するようにした。資料 9-2-②-1 はその中の例であるが、学生の学習意欲を引き出して不合格者を減らすなど着実に授業改善がなされていることがわかる。

資料 9-2-②-1			
授業改善計画の達成状況			
教員名	科目	改善目標	達成状況
神田毅 政清史晃	工学実験実習2 (情報系)	学生授業アンケートによると、実験レポートの量が多く何を書けばよいかわかりにくいと、多くの学生が感じており、期限内の提出率が6割程度であった。また、実験内容の記述で、自分で要約ができずに資料を単に写してしまう学生が多かった。しかし、この種の訓練は重視したく量も減らしたくない。	記す内容を細かく指定した型を作り、そこに記入していく形式に変えつつ、学生が自ら考えざるを得ない設問を載せる工夫をした。結果として期限内の提出率が8割程度に向上した。
竹内春樹	英語 (1~3年)	英語の授業をおこなっていて、日本語訳の要求が非常に強いと感じた。本来は、英語は英語のまま理解するのが一番望ましいのだが、単に口で、そのように言っても学生の日本語訳への要求状況に変化は無かった。	英語の易しい読み物を訳さずに読むという多読授業を、週当たり1時間が2時間取り入れた。その結果英語学習で、日本語訳が必要と答えた学生の数が減少し、統計処理をおこなったところ、有意な差が生じた (p<.01)。
畑山伸訓	物理 (2,3年)	習熟度別下位クラスの学習意欲の低い学生を講義へ積極的に参加させ、ノートをしっかりとらせること。さらに、各定期テストでの不合格点学生を減らすこと。	教壇を降り1人1人の机を回りながら声をかけ、学生との信頼関係を築けるようにし、講義ノートを毎時間提出させることにした。それらを平常点として加点し、それによって点数を得た達成感で定期試験へ取り組む意欲も向上し、不合格者を減らすことが出来た。
林泰弘	工学概論I	昨年度は、授業内容を自由にノートに取らせ、その内容で成績を評価していたが、重要ポイントがわかりづらく、学生の意欲もなかなか上がらなかった。	今年度は、授業の終わりにクイズ形式で10項目の問題を出すことにした(授業中のメモは参照可)。これによって、重要項目や採点基準が明確になるとともに、楽しみながら勉強できるようになったことで、学習意欲が高まった。
松岡良智	情報処理 I	アンケートによるとPCの理解度が6割程度であった。その原因として、理解できなくなった時点であきらめる学生が多いからである。学生にあきらめない姿勢をつけること。	学生の集中力を上げさせるために、課題点を大幅にアップさせた結果、学生の集中力および授業雰囲気大幅に改善された。そのため、低学力の学生は成績が上がり、授業の進行状況もゆとりをもてるなどの結果が得られた。
仲森昌也	電子回路II	授業中に行う演習課題レポートを提出してしまうと、復習できないので返却してほしいという要望があった。	演習問題を各自2部ずつ配布するか、問題用紙と解答用紙を別にする。
中村信広	機械工作法	昨年度実施の結果は、「テストが難しい」と意見があったが、難易度を下げたり試験問題を事前に公表することができない。このため、次の様に講義を進めることにした。 ①「この部分は試験に出す」と講義中に言う。ただし、出題形式は言わない。 ②重要事項については繰り返し同じことを言う。 ③これまでの試験にあった間違い解答例を言う。 ④問題出題例を言う。	重要ポイントをよく学習することになり、定期試験の平均点が例年より高い値となった。各試験の平均点でこの効果を評価する。
山本広樹	工学実験 (機械4年)	専門科目に習熟度別授業は取り入れていないが、工学実験は班単位で実施するため班分けによって不可能ではない。 そこで、同一実験でありながら、習熟度の低い学生には少しでも授業参加をうながし、かつ学習を放棄しないような、習熟度の高い学生には考え応えのあるような、実験テーマを用意することを目標とした。	ボールを転がす経路を自在に作り楽しむ市販の玩具を実験教材として用い最短時間で転がる経路を求めることをテーマとした。 その結果、玩具への興味や取り組み易さ、最短時間という競技的な要素から、実験作業をサボる学生はほとんどいなくなり、作業に熱心な学生が多くなった。 理論的アプローチと試行錯誤アプローチの両方を許容することで、学習進度の異なる学生へ同一実験テーマを与えることができた。

(出典：教育評価室授業改善達成状況資料)

(分析結果とその根拠理由) ファカルティ・ディベロップメントや学生授業アンケート結果など

を基に授業改善目標を立て着実に実行されている。従ってファカルティ・ディベロップメント活動が教育の質の向上や授業の改善に結びついていると判断される。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 教育の評価を受ける手段として、学生による授業アンケートや教育内容要望調査、保護者による授業参観、有識者からなる外部評価委員による教育評価、公開授業などを行っている。また電子メールを用いて学生や保護者から直接校長に要望や苦情を受け付ける体制が整っている。これらを通して各教員は授業改善計画書を作成し、校長に提出するとともに教育技術を身につけて教育の質の向上及び改善に当たっている。また教員の行う研究活動が教育の質の向上に寄与している。教員が研究活動を行なうことによって教育内容の陳腐化を防止している。学生が卒業研究や特別研究テーマとして産官学共同研究に参画することで実学に適合した教育を学生に提供している。

(改善を要する点) 顕著な教育改善例を全員で共有する取り組みが不足している。

## (3) 基準 9 の自己評価の概要

教育活動の実態を調査するための各種データや資料が収集蓄積されており、評価を適切に実施するための体制が整備されている。各工学科、教科で適時会議が開催され、参加教員の意思疎通が図られ、評価を適切に行うための方策が採られている。

学生の意見を教育に反映されるための取り組みとして学生の授業評価アンケートが実施されており教員がアンケート結果分析や授業改善を盛り込んだ「授業改善計画書」を作成して教育評価室へ提出している。年 2 回のデータ積み上げと年 1 回の教員業績自己評価申告書によって個々の教員の改善状況を学校として把握しており、改善のためのシステムとして機能している。

教育に対する学生の要望を聴取するシステムが整備され、具体的かつ継続的な方策が講じられている。学生の強い要望を受け、コンピュータを使ったデザイン授業や外国語開講、資格取得に焦点を合わせた授業内容等の教育課程の見直しが実施されている。また進学補講といった正規の授業では、カバーしきれない分野の講義・演習を行う体制が完備している。

外部評価委員会を発足し、外部評価委員より適切な評価・アドバイスを頂いて教育の改善を行っている。また保護者の授業参観および地区別保護者懇談会を実施し、授業の状況や学校施設・設備等に関して保護者の立場からの意見聴取を行っている。また学生から学校長直接の目安箱（電子メール）および保護者から学校長へのコメントボックス（電子メール）を設置し意見聴取体制が整い有効に機能している。

教員の行う研究活動が教育の質の向上に寄与している。教員が研究活動を行なうことによって教育内容の陳腐化を防止している。学生が卒業研究や特別研究テーマとして産官学共同研究に参画することで実学に適合した教育を学生に提供している。

新任教員研修会、近畿大学附属学校教育研究会、公開授業（教員相互の授業参観）、博士号取得支援などファカルティ・ディベロップメントが積極的にかつ組織的に実施されている。ファカルティ・ディベロップメントや学生授業アンケート結果などを基に授業改善目標を立て着実に実行されている。

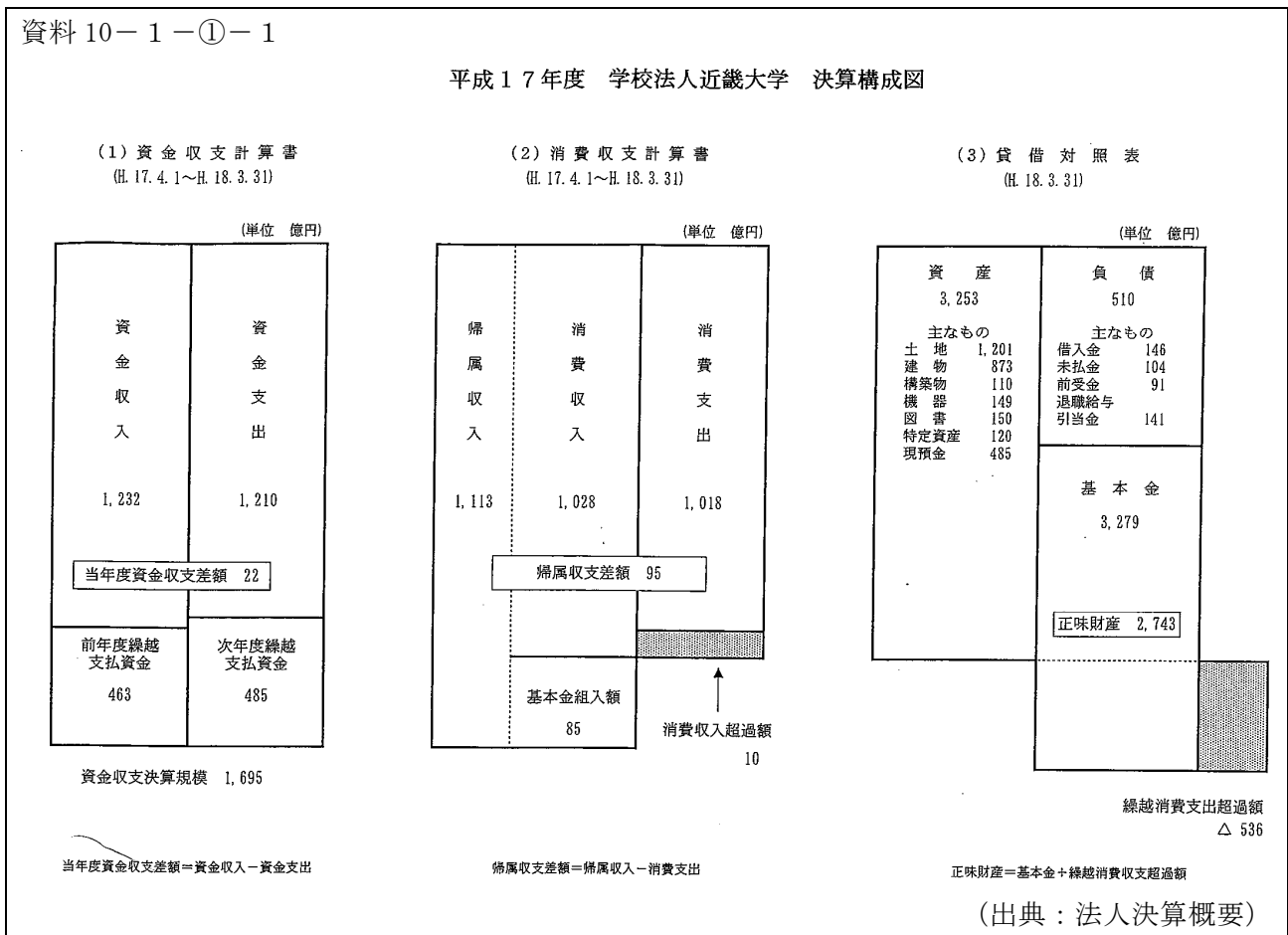
基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。  
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

学校法人近畿大学（以下、法人とする）の「17年度決算構成図」（資料10-1-①-1）「貸借対照表」が示すように、資産3,253億円(内、特定預金・特定資産120億円、現預金485億円)、負債510億円、純資産2,743億円で、自己資金構成比率が84.3%となり、学校法人の財務は健全であると言える。



法人は株式会社格付投資情報センター（R&I社）より<AA->の格付け維持の評価を受け、「格付けの方向性は、これまでの改善傾向を今後も維持する運営方針を想定して安定的とした」と評価している（資料10-1-①-2）。

資料 10-1-①-2



| ホーム | English | サイトマップ |

近畿大学は、株式会社格付投資情報センター(R&I社)から  
下記のとおり、＜AA-＞の格付け維持の評価を受けています。

2006年9月8日

【格付け維持】 近畿大学  
発行体格付け:AA-[格付けの方向性:安定的]

【格付け維持の理由】

西日本では最大規模の学校法人で総在籍者数は5万5000人あまり。大学、高校、中学、小学校などを幅広く運営するほか、3つの附属病院を持つ。法人の中核である近畿大学は本部キャンパスの法・経済・経営・理工・薬・文芸学部をはじめ、医学部、農学部など12学部(短期大学部を含む)を抱え、院生を含む学生数は3万人を上回る。

2006年度の総志願者数は前年度比マイナス9%で、4期連続して減少となった。ただし、志願者を大きく減らしているのはもともと環境が厳しい地域に立地する学部である。経済学部や理工学部で教員による高校訪問を活発化した効果もあって、2006年度は本部キャンパスの学部の志願者数は底堅さを見せている。各附属高校との関係では、2004年度から始めた附属高等学校特別推薦入学試験(学力試験免除)制度を2006年度からはさらに強力で推進し、入学者数を着実に伸ばしている。また2006年度には附属校と法人本部の調整役となる学監を設置するなど、矢継ぎ早に手を打っている。学生募集を下支えするとともに、近畿大学と傘下の学校との一体感の醸成につながるか注視したい。

足元の財務状況は他の法人と比較して良好とはいえないが、新規借入れをせずに余剰金は返済に充てるという方針のもとで有利子負債の圧縮が進んでいる。ただ2007年度以降、耐震補強工事や病院改築など設備投資が膨らむため、財務構成の改善は投資が一段落する2010年度ごろまでやや足踏みしそうだ。格付けの方向性は、これまでの改善傾向を今後も維持する運営方針を想定して安定的とした。

【格付け対象】

発行者:学校法人近畿大学  
名称:発行体格付け  
格付け:AA-(維持)  
格付けの方向性:安定的

[\(株\)格付投資情報センターホームページへ](#) <<  
[近畿大学トップページへ](#) <<

採用情報 |

近畿大学(本部) 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1 TEL (06)6721-2332

学生ログイン 教職員ログイン

Copyright(C) 2006 Kinki University. All Rights Reserved

出典：近畿大学ホームページ <http://ccpc01.cc.kindai.ac.jp/honbu/topics/rank/index.html>

近畿大学工業高等専門学校（以下、本校とする）の「17年度貸借対照表」（資料 10-1-①-3）が示すように、資産14億3千928万円(内、現金預金4千317万円)、負債12億5千3559万円で、企業会計的債務超過が110億963万円あるが、その主たるものは本部債務94億6千848万円、退職給与引当金29億1千873万円である。

資料 10-1-①-3

会計単位：近畿大学工業高等専門学校

貸借対照表

2006 (平成18) 年 3月31日

(単位：円)

資産の部			
科 目 名	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	[ 1,388,544,933]	[ 1,416,286,707]	[ △27,741,774]
有形固定資産	( 1,362,653,566)	( 1,395,984,789)	( △33,331,223)
土地	113,641,800	113,641,800	0
建物	768,669,645	800,667,975	△31,998,330
構築物	93,915,753	96,931,994	△3,016,241
教育研究用機器備品	237,245,430	234,779,703	2,465,727
その他の機器備品	21,403,369	25,535,365	△4,131,996
図書	112,169,333	108,138,229	4,031,104
車輛	15,608,236	16,289,723	△681,487
その他の固定資産	( 25,891,367)	( 20,301,918)	( 5,589,449)
電話加入権	558,008	558,008	0
施設利用権	57,519	63,910	△6,391
長期貸付金	24,380,000	18,880,000	5,500,000
保証金	895,840	800,000	95,840
流動資産	[ 50,735,492]	[ 149,381,639]	[ △98,646,147]
現金預金	43,173,160	22,463,867	20,709,293
未収入金	5,022,332	124,897,431	△119,875,099
短期貸付金	2,160,000	1,180,000	980,000
前払金	380,000	840,341	△460,341
資産の部 合計	1,439,280,425	1,565,668,346	△126,387,921
負債の部			
科 目 名	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	[ 12,442,006,150]	[ 11,625,558,448]	[ 816,447,702]
長期借入金	54,800,000	63,200,000	△8,400,000
退職給与引当金	2,918,728,379	2,311,750,529	606,977,850
本部債務勘定	9,468,477,771	9,250,607,919	217,869,852
流動負債	[ 93,586,900]	[ 324,824,060]	[ △231,237,160]
短期借入金	8,400,000	8,400,000	0
未払金	56,982,654	297,827,613	△240,844,959
前受金	22,300,000	12,450,000	9,850,000
預り金	5,904,246	6,146,447	△242,201
負債の部 合計	12,535,593,050	11,950,382,508	585,210,542
基本金の部			
科 目 名	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	2,433,641,960	2,383,657,008	49,984,952
第4号基本金	73,476,719	72,984,736	491,983
基本金の部 合計	2,507,118,679	2,456,641,744	50,476,935
消費収支差額の部			
科 目 名	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	△13,603,431,304	△12,841,355,906	△762,075,398
消費収支差額の部 合計	△13,603,431,304	△12,841,355,906	△762,075,398
負債の部、基本金の部 及び 消費収支差額の部 合計			
科 目 名	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
負債の部、基本金の部 及び 消費収支差額の部 合計	1,439,280,425	1,565,668,346	△126,387,921

出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

財産目録概略（資料 10-1-①-4）が示す資産の内容は、校地 99,564.59㎡、建物 20,234.69㎡、構築物 97件、図書 4万2122冊、教具・校具及び備品 5,255点、車両 8台などである。

資料 10-1-①-4

平成17年度財産目録概要

平成18年3月31日 現在

種 別		既 設 校 専 用 (㎡)	計 (㎡)	価 額 (円)
土 地	校舎敷地	10,031.50	10,031.50	9,502,033
	体育施設敷地	3,382.12	3,382.12	3,053,010
	屋外運動場敷地	36,448.00	36,448.00	30,405,622
	寄宿舎施設	6,592.97	6,592.97	33,695,586
	職員住宅敷地	381.93	381.93	297,394
	その他	42,728.07	42,728.07	36,688,155
	土地合計	99,564.59	99,564.59	113,641,800
資 産	校舎	2,410.20	2,410.20	219,917,740
	一般校舎	9,763.75	9,763.75	144,142,010
	管理関係・その他	922.22	922.22	39,117,059
	体育施設（遊技場）	1,988.78	1,988.78	88,915,254
	課外活動施設	279.00	279.00	3,968,875
	寄宿舎	4,870.74	4,870.74	272,608,707
	建物合計	20,234.69	20,234.69	768,669,645
構 築 物			93,915,753	
図 書	42,122 冊		112,169,333	
教 具 ・ 校 具 及 び 備 品	5,255 点		258,648,799	
車 輛	8 台		15,608,236	
電 話 加 入 権	11 件		558,008	
施 設 利 用 権			57,519	
運 用 財 産	預 金 ・ 現 金			43,173,160
	長 期 貸 付 金			24,380,000
	未 収 金			5,022,332
	短 期 貸 付 金			2,160,000
	前 払 金			380,000
	保 証 金			895,840
資 産 合 計				1,439,280,425
負 債	固 定 負 債	長期借入金（内、本部債務 9,468,477,771円）		9,523,277,771
		退職給与引当金		2,918,728,379
	流 動 負 債	短期借入金		8,400,000
		前受金		22,300,000
		未払金		56,982,654
		預り金		5,904,246
負 債 合 計				12,535,593,050

出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

（分析結果とその根拠理由）

本校の経営母体である法人の財務状況は、資産 3,253 億円（内、特定預金・特定資産 120 億円、現預金 485 億円）、負債 510 億円、純資産 2,743 億円で、自己資金構成比率が 84.3% にあり、株式会社格付投資情報センター（R&I社）も＜AA-＞と格付し、「安定的」と評価している。

本校の財務状況は、企業会計的債務超過が 110 億 963 万円あるが、その主たるものは本部債務 94 億 6 千 848 万円と退職給与引当金 29 億 1 千 873 万円である。

法人は本校の累積債務を取り立てるといふことはしないが、本校自身の収支状況の改善、近畿大学への編入学、学校の活性化などを判断して予算を決定しているので、法人が廃校を決めない限りにおいて、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる状況にある。

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

「法人17年度決算構成図」(資料10-1-①-1)の「消費収支計算書」を見ると、帰属収入1,113億円、消費支出1,018億円なので、企業会計的には95億円の収入超過にある。

「消費収支の推移」(資料10-1-②-1)の平成17年度についてみると、帰属収入9億2千649万円、消費支出16億3千809万円で、7億1千160万円の支出超過になる。

支出超過額の主たる原因は、退職給与引当金繰入額6億654万円、教育研究経費減価償却額6千656万円、管理経費減価償却額3千70万円で、合計7億382万円になる。

退職給与引当金が通常人件費(教員人件費5億2千369万円、職員人件費7千237万円)より高いのは、平成12年度より早期退職の推進(70%以上の教員人事刷新)による退職優遇制度適用による割増退職金支払いによるものである。

「帰属収入」は、12年度9億5千万円(内、私学退職金財団交付金5億4千万円)だったものが、17年度9億3千万円(同29万円)、18年度予算8億7千万円と改善されていったのは、12年度より行った学校改革によるものである。

資料10-1-②-1

近畿大学工業高等専門学校 消費収支の推移(H12~H18)

		H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18予算
消費収入	帰属収入							
	学生生徒等納付金	309,827,333	330,386,000	366,570,600	408,613,333	499,012,000	563,741,999	530,679,000
	手数料	8,186,600	9,116,000	8,140,100	8,849,300	9,853,000	6,056,500	7,204,000
	寄付金	848,094	11,291,286	8,506,887	10,854,024	0	6,438,405	0
	補助金	73,960,506	127,614,921	205,535,092	239,690,628	239,723,000	260,087,380	270,413,000
	資産運用収入	158,560	797,936	1,782,229	2,605,236	5,076,000	5,762,541	4,470,000
	事業収入	13,030,000	17,669,550	24,798,500	50,993,269	59,510,000	59,966,852	55,670,000
	雑収入	541,451,957	122,217,206	112,813,295	85,653,002	54,044,000	24,435,926	5,506,000
帰属収入計	947,463,050	619,092,899	728,146,703	807,258,792	867,218,000	926,489,603	873,942,000	
基本金組入額	-9,992,256	-8,400,000	-55,353,795	-146,718,556	-390,250,000	-50,476,935	-52,231,000	
消費収入計	937,470,794	610,692,899	672,792,908	660,540,236	476,968,000	876,012,668	821,711,000	
消費支出	人件費	1,895,802,470	1,050,377,940	1,140,046,368	1,202,712,708	1,243,979,000	1,202,710,711	1,181,887,000
	教育研究費	103,898,423	193,324,802	261,403,245	221,280,033	285,988,000	319,684,196	332,874,000
	管理経費	68,704,121	119,642,632	152,948,833	134,682,736	150,637,000	113,933,259	117,958,000
	借入金等利息	1,836,073	1,622,051	1,485,857	1,352,794	1,270,000	1,076,168	1,158,000
	資産処分差額	2,238,146	2,390,664	1,629,957	7,070,946	812,000	683,732	0
	消費支出計	2,072,479,233	1,367,358,089	1,557,514,260	1,567,099,217	1,682,686,000	1,638,088,066	1,633,877,000
消費支出差額	-1,135,008,439	-756,665,190	-884,721,352	-906,558,981	-1,205,718,000	-762,075,398	-812,166,000	
帰属収支差額	-1,125,016,183	-748,265,190	-829,367,557	-759,840,425	-815,468,000	-711,598,463	-759,935,000	
学生数	510	577	674	767	860	908	868	

出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

「学生数と定員充足率」(資料10-1-②-2の3)が示すように、12年度の学生数は510名で定員充足率0.43だったものが、17年度の学生数は908名で定員充足率1.18と改善されている。

「学生納付金収入と給付奨学金」（資料 10-1-②-2 の 4）が示すように、学生納付金収入も 12 年度の 3 億 1 千万円から、17 年度 5 億 6 千万円、18 年度予算 5 億 3 千万円へと改善されている。

特待生の学費減免や給付奨学金の支出も 220 万円(対学費比率 0.7%)だったものが 6 千 4 6 7 万円(同 11.5%)に増加している。

資料 10-1-②-2

学生数と学生納付金収入

1. 学生定員

	1年	2年	3年	4年	4年編入	5年	5年編入	専攻科1年	専攻科2年	合計
H12	120	270	270	270		270				1200
H13	120	120	270	270		270				1050
H14	135	120	120	270		270				915
H15	135	135	120	120		270				780
H16	180	135	135	120		120				690
H17	180	180	135	135		120		18		768
H18	180	180	180	135		135		18	18	846

2. 学費納付金額

	1年	2年	3年	4年	4年編入	5年	5年編入	専攻科1年	専攻科2年
H12	710	560	560	580		580			
H13	520	560	560	580		580			
H14	520	400	560	580		580			
H15	520	400	460	580		580			
H16	520	420	460	730	930	580	780		
H17	520	420	460	730	930	730	780	1,040	890
H18	480	420	460	730	1,020	730	780	1,040	890

3. 学生数と定員充足率

	1年	2年	3年	4年	4年編入	5年	5年編入	専攻科1年	専攻科2年	総学生数	総定員	定員充足率
H12	91	91	73	109	20	146				510	1200	0.43
H13	164	87	89	131	62	106	20			577	1050	0.55
H14	163	157	85	145	62	124	60			674	915	0.74
H15	167	161	157	139	57	143	62			767	780	0.98
H16	171	163	159	145	89	79	54			860	690	1.25
H17	142	152	162	139	84	140	85	4	0	908	768	1.18
H18	154	139	152	142	46	138	83	10	4	868	846	1.03

4. 学生納付金収入と給付奨学金

	1年	2年	3年	4年	4年編入	5年	5年編入	専攻科1年	専攻科2年	学費収入	特待減免額 給付奨学金	対学費奨学 金支給比率
H12	64,610	50,960	40,880	63,220	0	84,680	0	0	0	309,827	2,200	0.7%
H13	85,280	48,720	49,840	75,980	0	61,480	0	0	0	330,385	8,360	2.5%
H14	84,760	62,800	47,600	84,100	0	71,920	0	0	0	366,571	22,470	6.1%
H15	86,840	64,400	72,220	80,620	0	82,940	0	0	0	408,613	33,900	8.3%
H16	88,920	68,460	73,140	105,850	82,770	45,820	42,120	0	0	499,012	46,020	9.2%
H17	73,840	63,840	74,520	101,470	78,120	102,200	66,300	4,160	0	563,742	64,670	11.5%
H18	73,920	58,380	69,920	103,660	46,920	100,740	64,740	10,400	3,560	530,679	84,862	16.0%

出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料



「私立大学等経常費補助金交付額の推移」（資料 10-1-②-3）を見ると、12年度7千367万円だったものが、17年度2億5千968万円、18年度予算2億2千13万円へと増加したのは、学生数増だけでなく、学校改革による教育研究の充実が反映したものである。

資料 10-1-②-3

私立大学等経常費補助金交付額(私学事業団・文部科学省分)の推移(H12~H18)

単位:千円

	補助項目	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度 度予算
一般補助	専任教員等給与費	40,604	63,476	99,853	105,113	101,378	119,511	99,708
	専任教員等給与費私学退職金財団掛金	3,270	5,080	5,537	5,941	7,996	8,132	7,942
	専任職員給与費	6,003	7,638	11,361	16,025	13,470	19,378	16,333
	専任職員給与費私学退職金財団掛金	238	370	367	361	348	353	235
	非常勤教員給与費	871	1,455	3,951	4,585	6,731	7,265	5,893
	教職員福利厚生費(教員分)	2,644	3,673	3,832	3,952	3,988	3,879	4,867
	教職員福利厚生費(職員分)	385	436	434	556	532	577	688
	教育研究経常費	10,988	18,235	29,522	32,465	29,637	32,128	28,750
	厚生補導費	360	653	1,069	1,216	1,087	1,311	1,191
	研究旅費	397	884	1,393	1,466	1,414	309	637
小計	65,760	101,900	157,319	171,680	166,581	192,843	166,244	
特別補助	共同研究経費		1,621	1,696	3,881	1,194	4,934	3,953
	高等教育研究改革推進経費		300	2,500	3,500	19,000		
	大学院基盤整備経費・研究支援						1,407	1,375
	教育・学習方法等改善支援経費		4,200	10,000	11,800	12,400	18,500	12,143
	教員の流動化		528	1,108	3,880	4,435	4,435	1,928
	任期付教員による研究支援				756	252	378	329
	多元的評価支援経費							183
	外国人教員による教育		500	500	500	500		
	アジア諸国語教育				1,500	1,000		
	外国大学等との学生交流							457
	情報通信設備(借入)		4,610	9,100	9,100	9,100	9,100	6,483
	教育研究用ソフトフェア				4,100		4,100	2,465
	外国人留学生の受け入れ				1,043	958	903	786
	インターンシップ推進経費				600	600	600	1,200
	専門高校卒業者の受け入れ			5,000	3,500	4,000	4,000	3,000
	地方の高等教育機関の活性化	7,909	13,238	18,145	17,961	17,383	18,082	18,585
	短期大学専攻科						500	500
	少人数教育の推進				6,000	7,000		
	帰国学生の受入							500
	PCB照明器具		320					
(過年度調整)教育学習方法等改善支援経費			-400					
(過年度調整)共同研究費				-698				
(過年度調整)高等教育研究改革推進経費					-500	-100		
小計	7,909	25,317	47,649	67,423	77,322	66,839	53,887	
合計(交付決定額)	73,669	127,217	204,968	239,103	243,903	259,682	220,131	

出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

外部研究資金の獲得状況は、選択的評価事項Aの資料A-1-②-7の通りで、十分とは言えない。

以上の状況は、法人が経営破綻状況にあった本校に対して財政支援策を打ち出し、早期退職割増金の支払い、老朽施設・設備の改修・更新、新館やスポーツ施設の新設などが実行したこ

とによる。

本校単独では、支出超過の状況にあるが、本部繰入金により収支バランスを保ち、現段階において学生定員は充足しており、法人の財政が健全でかつ本校の廃校を決めない限りにおいて、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる状況にある。

(分析結果とその根拠理由)

法人の財政的基盤は強化されてきており、法人の目的に沿った教育研究活動を、将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を有していると言える。

法人の1会計単位である本校は、学生数増に伴う経常的収入（学生納付金・補助金・寮費収入等）の拡大だけでなく、経常的人件費の抑制を図ってきたが、立地条件などのため、学生数確保のため学費の抑制と給付奨学金制度の充実をして行かなければならず、目的に沿った教育活動を展開しうる経常的収入を単独的に確保することは厳しいと言えるが、法人の財政が健全でかつ本校の廃校を決めない限りにおいて、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる状況にある。

**観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。**

(観点に係る状況)

法人は「予算編成の過程において、各所管の意見が反映され、教育その他の諸活動の計画と一体化し、かつ諸活動のすべての領域を包含するよう留意し、収支の均衡を考慮のうえ、学校法人会計基準に準拠した予算を編成しなければならない」としている。

法人は、5ヶ年計画を毎年各会計単位に提出させている。

5ヶ年予測編成については、経常予算、事業計画予算別に立て、消費収支、資金収支、会計単位年度別に、より具体的な予算化を進めている。

「18年度5ヶ年予測(経常経費概算)」(資料10-2-①-1)は、学費収入、補助金、事業収入などの収入予測を基に、支出予測をたてているもので、「18年度5ヶ年予算(事業計画一覧)」(資料10-2-①-2)は、経常経費以外の新規事業と継続事業計画の一覧である。

(分析結果と根拠理由) 収支に係わる計画が策定され、教職員はじめ関係者に明示している。

資料10-2-①-1

## 平成18年度 5ヵ年予測（経常経費概算）

勘定科目	18年予測	19年予測	20年予測	21年予測	22年予測
学生生徒等納付金収入	524,950,000	542,340,000	763,764,000	770,004,000	770,004,000
特待生免除費	-84,862,500	-79,660,000	-86,415,000	-84,700,000	-84,700,000
手数料収入	5,015,800	6,984,000	10,478,000	10,478,000	10,478,000
寄付金収入	15,000,000	0	0	0	0
補助金収入	245,197,598	270,247,000	239,981,000	239,981,000	239,981,000
資産運用収入	3,437,472	3,320,000	5,075,000	5,075,000	5,075,000
資産売却収入	0	0	0	0	0
事業収入	54,805,275	62,474,000	65,792,000	66,914,000	66,914,000
雑収入	4,121,587	5,312,000	4,686,000	4,686,000	4,686,000
借入金等収入	0	0	0	0	0
貸付金回収収入	2,340,000	2,060,000	720,000	720,000	720,000
収入の部合計	770,005,232	813,077,000	1,004,081,000	1,013,158,000	1,013,158,000
個人研究費	17,935,059	20,090,000	20,090,000	20,090,000	15,311,000
研究助成費	9,881,384	10,000,000	0	0	0
紀要等発行費	217,500	312,000	422,000	422,000	422,000
職員研修費	0	670,000	320,000	320,000	320,000
学生募集費支出	19,737,365	18,556,000	31,134,000	31,134,000	31,134,000
その他目的支出	918,397,259	831,332,000	841,107,000	851,288,000	851,288,000
人件費支出	623,888,624	655,948,000	635,304,000	643,707,000	643,707,000
教員人件費支出	555,368,093	575,954,000	565,672,000	573,265,000	573,265,000
職員人件費支出	68,520,531	79,994,000	69,632,000	70,442,000	70,442,000
教育研究経費（特待免除後）	161,638,574	96,507,000	105,283,000	105,930,000	105,930,000
管理経費支出	52,443,071	58,524,000	73,698,000	74,997,000	74,997,000
借入金等利息支出	1,021,287	928,000	822,000	654,000	654,000
借入金等返済支出	8,400,000	8,400,000	8,400,000	8,400,000	8,400,000
施設関係支出	54,075,052	0	0	0	0
設備関係支出	11,730,651	3,425,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
教育研究機器備品支出	8,929,078	247,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
その他の機器備品支出	289,275	665,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
図書支出	2,512,298	2,513,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
車輛支出	0	0	0	0	0
電話加入権支出	0	0	0	0	0
その他の支出	5,200,000	7,600,000	7,600,000	7,600,000	7,600,000
貸付金支払支出	5,200,000	7,600,000	7,600,000	7,600,000	7,600,000
支出の部合計	966,168,567	880,960,000	893,073,000	903,254,000	898,475,000
収支差額	-196,163,335	-67,883,000	111,008,000	109,904,000	114,683,000

出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

資料10-2-①-2

平成18年度 5か年予算(事業計画一覧)

単位千円

順位	事業名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
1	入試広報事業	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000
2	耐震調査事業	8,804				
3	図書館機能充実事業	3,410	1,496			
4	屋外便所改修工事	2,200				
5	環境実験室新設及び実験機器の購入	17,406				
6	情報系実験室の新設工事	54,000				
7	学生実験計測機器及び情報系計算機の充実事業	2,520	30,450	9,400		
8	専攻科工学実験用及び研究用機器備品の購入事業	1,007				
9	校内ネットワーク設備の改修	12,149	20,807	20,807	20,807	20,807
10	清和寮・淡交寮の小窓付替え事業	1,800				
11	一般教養科教育研究用機器の購入事業	4,131	1,216	4,666	5,315	
12	機械システム工学科実験実習用設備の充実事業	6,515	22,737	17,856		
13	グランド排水対策事業	54,002				
14	体育館照明設備取替え工事	1,000				
15	事務部書類保管用プレハブ倉庫の購入	1,000				
16	ペーパーレス管理システムの構築	2,497	4,000			
17	ダッグアウト設置工事	2,650				
18	新校舎建設(2期)事業	447,300				
19	青葉寮クーラー付け替え事業		3,000	3,000	3,000	
20	校内配電設備修繕工事(第2期)		12,007			
21	グランド用照明増設事業			2,384		
22	クレイコートのおムニコート改修事業			16,500		
23	グランド内トラック設置事業				24,833	
24	歩道設置に伴う整備事業	5,000				
合計		618,587	95,713	74,613	53,955	20,807

継続事業	1	情報センター学生用コンピュータの更新事業	14,410				
	2	学生用ノートパソコンの導入(リース)	13,724	1,737	1,546	1,880	134
	3	学生用ノートパソコンの追加リース	9,995	9,144	9,825	10,823	878
	4	IT化推進プロジェクト事務系ネットワークに係る経費	526	526	526	526	526
合計		38,655	11,407	11,897	13,229	1,538	

出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

観点10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

法人の「消費収支状況の推移」(資料10-2-②-1)は、11年度から17年度決算は消費支出差額が39億円からマイナス11億円であるが、帰属収支差額は89億円から144億円の収入超過にある。

本校の「消費収支状況の推移」(資料10-2-②-2)は、11年度から17年度決算は消費支出差額が12億円から7億円で、帰属収支差額も11億円から7億円の支出超過にある。

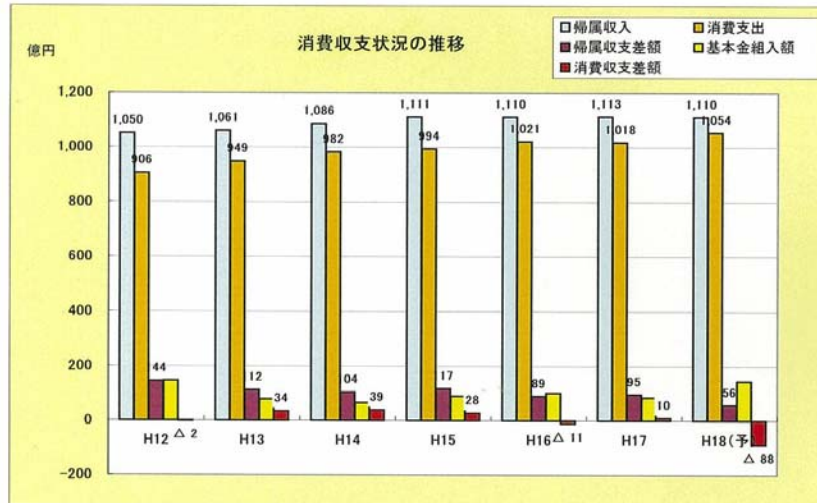
資料10-2-②-1

学校法人近畿大学

12~17年度決算・18年度予算消費収支状況の推移

単位:百万円

区分	帰属収入	消費支出	帰属収支差額	基本金組入額	消費収支差額
H12	104,998	90,525	14,473	14,625	△ 152
H13	106,125	94,870	11,255	7,797	3,458
H14	108,588	98,189	10,399	6,487	3,912
H15	111,129	99,403	11,726	8,918	2,808
H16	111,012	102,067	8,945	10,025	△ 1,080
H17	111,320	101,810	9,510	8,539	971
H18(予)	111,036	105,389	5,647	14,389	△ 8,742



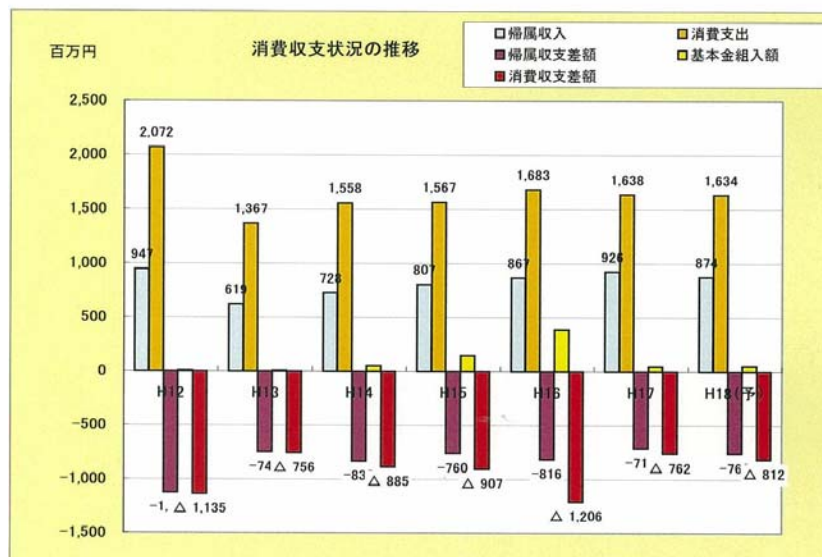
出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

資料10-2-②-2

近畿大学工業高等専門学校 消費収支状況の推移

単位:百万円

区分	帰属収入	消費支出	帰属収支差額	基本金組入額	消費収支差額
H12	947	2,072	-1,125	10	△ 1,135
H13	619	1,367	-748	8	△ 756
H14	728	1,558	-830	55	△ 885
H15	807	1,567	-760	147	△ 907
H16	867	1,683	-816	390	△ 1,206
H17	926	1,638	-712	50	△ 762
H18(予)	874	1,634	-760	52	△ 812



出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

「退職金と退職給与引当金の推移」（資料10-1-②-3）が示すとおり、11年度から17年度の合計金額の推移は12億円から6億円であるから、支出超過の原因はこの退職金と退職給与引当金にあると言えるため、経営破綻しているというものではない。

退職金と退職給与引当金の費用は、学校再構築のためのリストラクチャリングの費用である。

（分析結果とその根拠理由）

法人の支援と主体的努力によって経営しているが、現状のところ学生数も一定確保しており、支出超過にあるが、学校再構築の費用である。

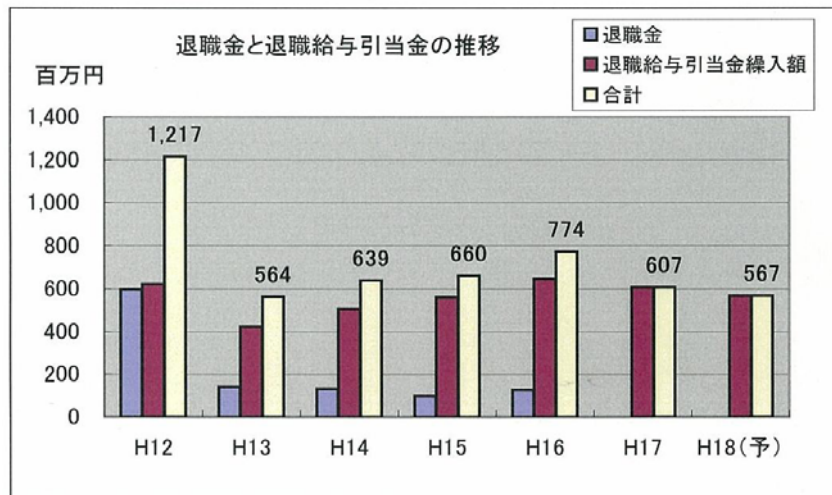
過疎地にある本校の存続については、法人だけでなく、今後、私学事業団や文部科学省の私立大学等経常費補助金での配慮と県の支援が求められる。

資料 10-1-②-3

近畿大学工業高等専門学校  
退職金と退職給与引当金の推移と帰属収支差額

単位:百万円

	退職金	退職給与引当金繰入額	合計	帰属収支差額
H12	596	621	1,217	-1,125
H13	141	423	564	-756
H14	132	507	639	-830
H15	99	561	660	-760
H16	128	646	774	-816
H17	0	607	607	-712
H18(予)	0	567	567	-760



出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

観点10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

教育研究活動に係わる経費については、（資料10-2-③-1）の「教育研究費」を見ると、12年度から18年度(予)に掛けて、8千541万円、1億8千34万円、2億4千723万円、2億413万円、2億3千454万円、2億5千271万円、2億5千927万円と支出を増やしてきている。

資料 10-2-③-1

近畿大学工業高等専門学校 資金収支の推移(H12~H18)

		H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18予算
資金収入	学生生徒等納付金	309,827,333	330,386,000	366,570,600	408,613,333	499,012,000	563,741,999	530,679,000
	手数料	8,186,600	9,116,000	8,140,100	8,849,300	9,853,000	6,056,500	7,204,000
	寄付金	0	10,870,000	4,204,000	0	0	0	0
	補助金	73,960,506	127,614,921	205,535,092	239,690,628	239,723,000	260,087,380	270,413,000
	資産運用収入	158,560	797,936	1,782,229	2,605,236	5,076,000	5,762,541	4,470,000
	事業収入	13,030,000	17,669,550	24,798,500	50,993,269	59,510,000	59,966,852	55,670,000
	雑収入	541,451,957	122,217,206	112,813,295	85,653,002	54,044,000	21,471,303	5,506,000
	借入金等収入							
	前受け金収入	37,080,000	31,840,000	26,040,000	27,380,000	28,800,000	22,300,000	22,800,000
	その他の収入	13,025,428	549,103,027	128,833,703	118,113,716	91,205,782	132,507,018	12,979,332
	他の経理単位からの繰入額	460,501,648	751,806,388	565,004,893	404,577,900	685,184,132	232,559,452	151,018,408
	資金収入調整勘定	-580,082,500	-156,885,000	-141,656,750	-108,448,350	-77,774,000	-31,722,332	-22,300,000
	前年度繰越支払資金	31,000,455	17,126,231	17,995,720	16,445,189	20,063,420	22,463,867	43,173,160
	計	908,139,987	1,811,662,259	1,320,061,382	1,254,473,223	1,614,697,334	1,295,194,580	1,081,612,900
資金支出	人件費	1,671,345,265	750,698,290	744,734,955	724,044,268	724,803,000	596,172,461	614,725,000
	教育研究費	85,406,249	180,342,036	247,234,977	204,134,264	234,536,000	252,712,865	259,268,000
	管理経費	48,218,879	98,839,926	129,270,319	105,792,168	120,117,000	83,235,674	87,078,000
	借入金等利息	1,836,073	1,622,051	1,485,857	1,352,794	1,270,000	1,076,168	1,158,000
	借入金等返済支出	8,400,000	8,400,000	8,400,000	8,400,000	8,400,000	8,400,000	8,400,000
	施設関係支出	30,639,000	20,903,750	73,089,800	295,453,000	50,979,000	7,090,885	12,834,000
	設備関係支出	13,187,475	28,523,034	21,642,747	139,386,397	74,083,000	51,485,744	7,850,000
	その他の支出	41,824,495	1,024,919,108	335,863,556	273,814,306	533,587,334	309,085,277	70,486,900
	資金支出調整勘定	-1,009,843,680	-320,581,656	-258,106,018	-517,967,394	-153,141,000	-57,237,654	-23,919,000
	次年度繰越支払支出	17,126,231	17,995,720	16,445,189	20,063,420	20,063,000	43,173,160	43,732,000
計	908,139,987	1,811,662,259	1,320,061,382	1,254,473,223	1,614,697,334	1,295,194,580	1,081,612,900	

出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

同じく、「施設関係支出」と「設備関係支出」を見ると、12年度から18年度(予)に掛けて、3千64万円と1千319万円(計4千383万円)、2千90万円と2千852万円(計4千943万円)、7千309万円と2千164万円(計9千473万円)、2億9千545万円と1億3千939万円(計4億3千484万円)、5千98万円と7千408万円(計1億2千506万円)、709万円と5千149万円(計5千858万円)、1千283万円と785万円(計2千68万円)という実績を示しており、老朽施設・設備の更新、新館設置、先端機器購入を学生数の増加を考慮に入れ行われてきた。

教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に係わる事業計画執行状況の推移は、(資料10-2-③-2)が示すとおりである。

(分析結果と根拠理由) 12年度以降の教育研究、施設・設備の拡充は、人事刷新と教育研究活動の活性化、学生数増に対する法人の支援であり、教育研究条件の発展を示したものである。

「学校の目的を達成するため、教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に対し、適切な資源配分」がなされてきたと言える。

資料10-2-③-2

平成12年度～平成18年度 事業計画執行状況の推移

単位：千円

		件名	執行額	合計		
一 二 年 度	新規	機械実習用機器備品の購入（ボール盤）	1,680	89,971		
		電気実習用機器備品の購入（太陽電池交流発電機）	2,180			
		測量実習用機器の購入（オートレベル・トータルステーション）	2,360			
		学校案内看板取替え事業	1,064			
		学校名変更に伴う本館正面表示取替え事業	358			
		食堂食器洗浄機の取替え事業	1,900			
		体育館床改修工事	29,700			
		温水ボイラーの取替え事業	750			
		学生募集強化に係る新聞広告及び進学説明会等経費	7,204			
		インターネット導入事業	1,900			
		入試・成績管理業務電算機のプログラム変更について	3,084			
継続	本館1F職員便所の改修	2,400	33,998			
	学生用コンピュータ取替え更新事業	1,393				
一 三 年 度	新規	学生実習用コンピュータのリース	1,479	168,243		
		教務部学籍システムの変更	1,334			
		電気実験用機器の購入（オプト実験システム）	4,305			
		建設システム工学科実験実習用機器の購入	1,820			
		電話交換設備取替え更新事業	441			
		教務部印刷機の購入	1,911			
		学生用机・椅子の購入	6,400			
		食堂空調機の設置事業	2,940			
		自転車置き場の設置	1,200			
		P.C.B使用水銀灯安定器の取替え	12,100			
		体育館外壁及び屋根の塗装工事	18,205			
		淡交寮改修工事	8,190			
		寮食堂厨房の改修工事	4,620			
		食堂屋根及び外壁改修工事	7,245			
		学生寮の受水槽・貯水槽増設工事	15,755			
		情報センターの外壁・屋根改修工事	1,859			
		校内放送設備取替え事業	32,757			
		本館の外壁及び屋上改修工事	30,170			
		継続	学生用コンピュータ取替え更新事業		12,952	2,560
			学生用ノートパソコンの導入			
			学生実習用コンピュータのリース			
十 四 年 度	新規	本館の外壁及び屋上改修工事	50,193	266,876		
		テニスコート増設工事	22,575			
		景雲寮改修工事	87,645			
		電算教育システムの追加設定	924			
		実験棟屋根及び外壁の改修工事	30,135			
		屋外浴場の改修工事	14,385			
		女子便所の改修設置工事	1,640			
		学生用ノートパソコン追加リース	1,277			
		学生用コンピュータ取替え更新事業	32,198			
		学生用ノートパソコンの導入	25,904			
十 五 年 度	新規	清和寮の改修工事	26,561	528,302		
		一般教養科CALLシステムの購入	2,384			
		新校舎の建設	274,881			
		機械システム工学科実験・実習用機器の購入	45,728			
		電気情報工学科実験・実習用機器の購入	20,767			
		建設システム工学科教育研究用機器備品の購入	15,965			
		テニスコート照明取付工事	1,155			
		武道場屋根・外装・床の改修	27,300			
		体育館バスケットボードの取替え	1,322			
		渡り廊下及び学生会室の改修工事	7,539			
		印刷室の改修工事（女子更衣室）	2,625			
		体育館女子トイレの設置工事	1,607			
		運動場照明取付工事	3,969			
		運動場防球ネットの構築工事	4,305			
		投球練習場の設置工事	1,680			
		運動場西側雨天練習場の塗装・ネット貼付工事	1,208			
		情報センターより学生寮への情報ネットワーク拡張工事	5,690			
		学生寮テレビ視聴設備の設置工事	1,628			
		電気情報工学科実験実習用機器備品の購入	1,289			
		機械実験棟実験室の改修工事	497			
		先進的技術研究に対する特別予算について	13,559			
		継続	学生用ノートパソコン追加リース		5,608	33,970
			学生用コンピュータ取替え更新事業			
			学生用ノートパソコンの導入		25,904	
			IT化推進プロジェクト事務系ネットワークに係る経費		1,161	



		件 名	執行額	合計		
十六年度	新規	友朋寮改修工事	8,440	205,974		
		食堂（通学生用）の改修工事	7,250			
		寮食堂の売店への改修工事	2,230			
		校内配電設備修繕工事	49,266			
		一般教養科機器備品の購入	170			
		新校舎付帯設備備品の購入	11,063			
		本館エアコン設置工事	14,212			
		クラブ活動備品の購入	1,873			
		校内アンテナ改修工事	1,382			
		電気情報工学科三相同期発電機の購入	5,615			
		青葉寮2段ベッド買い替え事業	2,603			
		電気情報工学科電力工学実験機器の購入	5,850			
		電気情報工学科情報通信コース新規実験装置の購入	964			
		電気情報工学科半導体実験機器の購入	8,969			
		新校舎シューズボックスの購入	833			
		学生募集広告の掲載	7,045			
		機械システム工学科人工筋肉ロボット実験評価機器の購入	17,982			
		電気情報工学科グラフィックス工学実験機器の購入	1,353			
		継続	学生用ノートパソコン追加リース		7,176	22,204
			学生用コンピュータ取替え更新事業		29,351	
学生用ノートパソコンの導入	22,204					
IT化推進プロジェクト事務系ネットワークに係る経費	143					
十七年度	新規	教室内照明増設工事	6,000	116,569		
		校務用軽トラック買い替え事業	970			
		電気情報工学科実験設備の整備事業	6,512			
		機械系振動実験解析装置購入事業	5,224			
		情報センターネットワークを使った学習システムの導入	2,616			
		教職員用教務ソフト更新事業	815			
		C.A.E.教室空調機器の購入	420			
		電気実験棟実験室修繕工事	2,781			
		コンピュータ制御高電圧試験装置の購入	17,000			
		学校案内改訂事業	2,960			
		建設系土質三軸試験装置の購入	5,660			
		建設実験棟実験室の整備事業	803			
		事務管理職募集広告事業	2,361			
		グラウンドベンチ新築事業	495			
		継続	学生用ノートパソコン追加リース		10,254	22,204
			学生用コンピュータ取替え更新事業		29,351	
	学生用ノートパソコンの導入		22,204			
	IT化推進プロジェクト事務系ネットワークに係る経費		143			
	十八年度	新規	工業高専熊野市道路拡張工事に伴う改修工事		17,623	93,425
			技術教育部・ロボコン屋根改修工事		964	
建設システム工学科専攻科演習室整備			1,133			
体育館照明取替え工事			1,030			
校舎外壁及び床の清掃事業			600			
グラウンド西側造成工事及び屋内競技場施設新設事業			55,000			
学生用ノートパソコン再リース			1,079			
校内ネットワーク及び情報センター機器の更新事業		15,996				
継続						

出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料

観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

法人は、私立学校法第47条、私立学校振興助成法第14条に基づき、財務諸表を作成し、近畿大学ホームページの「近畿大学について」「事業報告（財務の概要）」（資料10-3-①-1）において、資金収支決算総括表、消費収支決算総括表、貸借対照表総括表をPDFファイルで公表している。また学報（資料10-3-①-2）に掲載している。

組合本部に対しては、法人、近畿大学、各会計単位の予決算資料が配布され、説明会が実施されている。

組合支部に対しても、会計単位別予決算説明会が実施されており、会計諸表は事務室、校長室に置かれ、教職員および関係者に閲覧を許可している。

(分析結果とその根拠理由)

法人の財務総括表については近畿大学ホームページ及び学報に掲載されているだけでなく、各会計単位においても予決算説明会を実施し、会計諸表は教職員及び関係者への閲覧を許可している。

資料10-3-①-1

近畿大学 事業報告(財務の概要) 1/1 ページ

 近畿大学 | ホーム | E

[トップページ](#) > [近畿大学について](#) > 事

## Financial Summary 事業報告(財務の概要)

近畿大学では、本学の事業報告(財務の概要)を公表しています。  
以下のリンクからPDF版がご覧になれます。

- [平成17年度 事業報告\(財務の概要\)\(PDFファイル\)](#)
- [平成17年度 資金収支決算総括表\(PDFファイル\)](#)
- [平成17年度 消費収支決算総括表\(PDFファイル\)](#)
- [平成17年度 貸借対照表総括表\(PDFファイル\)](#)
- [平成17年度 監査報告書\(PDFファイル\)](#)

出典：近畿大学ホームページ  
<http://ccpc01.cc.kindai.ac.jp/honbu/menu/about/report/index.html>

観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

監事による財産状況の監査として、5月に監事監査が実施され、担当所管より決算状況について報告がされているとともに、それに関して必要な意見が監事から述べられる。

また、監事には監査法人からも併せて監査における留意事項等の報告がなされ、意見交換が行われるなど連携が図られている。

なお、監査法人による会計監査は、年度当初に策定した監査計画に基づく期中監査、固定資産実査、現金・預金等実査、決算期末監査などを行っている。

(分析結果とその根拠理由)

「学校法人の業務ならびに財産の現状は適正である」という内容の報告が監事から理事会及び評議員会に対して行われている。

上記の通り、「監査結果は適正である」という監査報告書の提出を受けていることから、監査システムは適切に運用がなされている。

今後、監査機能の強化を図るべく、監事の監査を支援するための事務体制及び内部監査組織を整備し、監査法人による会計監査との相互連携努めることが重要である。

資料10-3-①-2

(4) 平成18年6月9日

学 報

第405号

**財 務**

平成17年度決算および平成18年度予算は、下記のとおりです。

平成17年度 資金収支決算総括表

学校法人 近畿大学 (単位 千円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 人件費支出	50,346,510	1 学生生徒等納付金収入	51,130,263
2 教育研究経費支出	38,512,234	2 手数料収入	2,696,422
教育研究経費支出	14,347,618	3 寄付金収入	531,859
医療経費支出	24,164,616	4 補助金収入	9,009,016
3 管理経費支出	4,950,602	5 資産運用収入	392,708
4 借入金等利息支出	309,054	6 資産売却収入	600
5 借入金等返済支出	5,136,087	7 事業収入	1,781,647
6 施設関係支出	5,700,750	8 医療収入	43,403,593
7 設備関係支出	3,432,521	9 雑収入	2,216,305
8 資産運用支出	9,006,500	10 前受金収入	9,062,027
9 その他の支出	14,475,162	11 その他の収入	21,141,520
10 資金支出調整勘定	△10,847,847	12 資金収入調整勘定	△18,101,531
11 次年度繰越支払資金	48,519,384	13 前年度繰越支払資金	46,276,528
支出の部合計	169,540,957	収入の部合計	169,540,957

平成17年度 消費収支決算総括表

学校法人 近畿大学 (単位 千円)

消費支出の部		消費収入の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 人件費	50,780,708	1 学生生徒等納付金	51,130,263
2 教育研究経費	44,609,426	2 手数料	2,696,422
教育研究経費	18,579,550	3 寄付金	677,987
医療経費	26,029,876	4 補助金	9,009,016
3 管理経費	5,701,261	5 資産運用収入	392,708
4 借入金等利息	309,054	6 資産売却差額	473
5 資産処分差額	388,252	7 事業収入	1,781,647
6 散収不能額	20,971	8 医療収入	43,403,593
		9 雑収入	2,227,424
		10 帰属収入合計	111,319,533
		11 基本金組入額合計	△8,539,295
7 消費支出の部合計	101,809,672	12 消費収入の部合計	102,780,238
8 当年度消費収入超過額	970,566		
合 計	102,780,238	合 計	102,780,238

平成17年度 貸借対照表総括表

学校法人 近畿大学 (単位 千円)

資 産 の 部		負 債 の 部 ・ 基 本 金 ・ 消 費 収 支 差 額 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1 固定資産	266,828,588	1 固定負債	25,493,619
有形固定資産	250,604,852	2 流動負債	25,491,368
その他の固定資産	16,223,736	負債の部合計	50,984,987
2 流動資産	58,513,629	1 第1号基本金	320,354,855
		2 第4号基本金	7,583,384
		基本金の部合計	327,938,239
		1 翌年度繰越消費支出超過額	△53,581,009
資産の部合計	325,342,217	負債の部・基本金・消費収支差額の部合計	325,342,217

平成18年度 資金収支予算総括表

学校法人 近畿大学 (単位 千円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
1 人件費支出	52,038,020	1 学生生徒等納付金収入	51,009,909
2 教育研究経費支出	39,519,808	2 手数料収入	3,215,781
教育研究経費支出	16,601,760	3 寄付金収入	1,014,206
医療経費支出	22,918,048	4 補助金収入	8,596,376
3 管理経費支出	5,399,890	5 資産運用収入	430,638
4 借入金等利息支出	265,566	6 資産売却収入	0
5 借入金等返済支出	3,143,330	7 事業収入	2,016,669
6 施設関係支出	7,634,794	8 医療収入	42,222,702
7 設備関係支出	4,146,557	9 雑収入	2,480,558
8 資産運用支出	1,000,000	10 前受金収入	8,686,529
9 その他の支出	14,241,832	11 その他の収入	10,951,572
10 予備費	400,000	12 資金収入調整勘定	△18,374,827
11 資金支出調整勘定	△9,286,803	13 前年度繰越支払資金	48,519,384
12 次年度繰越支払資金	42,266,503		
支出の部合計	160,769,497	収入の部合計	160,769,497

平成18年度 消費収支予算総括表

学校法人 近畿大学 (単位 千円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
1 人件費	52,793,372	1 学生生徒等納付金	51,009,909
2 教育研究経費	45,773,296	2 手数料	3,215,781
教育研究経費	20,971,589	3 寄付金	1,063,253
医療経費	24,801,707	4 補助金	8,596,376
3 管理経費	6,070,180	5 資産運用収入	430,638
4 借入金等利息	265,566	6 事業収入	2,016,669
5 資産処分差額	75,902	7 医療収入	42,222,702
6 徴収不能額	11,249	8 雑収入	2,480,558
7 予備費	400,000	9 掃蕩収入合計	111,035,886
		10 基本金組入額合計	△14,388,655
8 消費支出の部合計	105,389,565	11 消費収入の部合計	96,647,231
		12 当年度消費支出超過額	8,742,334
合計	105,389,565	合計	105,389,565

出典：近畿大学学報第405号（平成18年6月9日）

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 競争原理を導入する形で通常人件費の抑制を行った（退職金、退職給与引当金を除く）。
- ・ 学生定員確保と教育研究環境改善で「私立大学等経常費補助金交付額」を増加させた。

(改善を要する点)

- ・ 過疎地での本校存続のためには、県市の支援をより具体的に取り付ける必要がある。
- ・ 現段階では、学生数の増減等、具体的見通しが立たないため計画的予算は不確定と言える、

## (3) 基準10の自己評価の概要

法人の資産は3,253億円、負債510億円で、2,743億円の純資産があり、財務状況は健全であるが、法人の1会計単位である本校は、資産14億3千928万円、負債12億5千599万円で、110億963万円の債務超過（内、本部債務94億6千848万円、退職給与引当金29億1千873万円）にある。

法人の消費収支は、帰属収入1,113億円、消費支出1,018億円で、95億円の収入超過にあり、収支状況は健全であるが、本校の消費収支は帰属収入9億2千649万円、消費支出16億3千809万円で、7億1千160万円の支出超過にあるが、主たる原因は退職給与引当金繰入額6億654万円と減価償却費（教育研究6千656万円、管理3千70万円）で、勘定科目上の支出超過である。

本校の「教育研究費」は、12年度から18年度(予)に掛けて、8千541万円、1億8千34万円、2億4千723万円、2億413万円、2億3千454万円、2億5千271万円、2億5千927万円と支出を増やしてきている。

本校の施設・設備関係の支出は、12年度から18年度(予)に掛けて4千383万円、4千943万円、9千473万円、4億3千484万円、1億2千506万円、5千858万円、2千68万円と推移している。

12年度以降の教育研究費、施設・設備費の拡充は、学校改革に伴う人事刷新と教育研究活動、学生生活活性化に対する法人の支援である。

本校単独では支出超過の状況にあるが、給付奨学金などを充実させながら学生を確保することによって納付金収入や補助金収入を確保するだけでなく、本部繰入金により収支バランスを保っており、法人の財政が健全でかつ本校の廃校を決めない限りにおいて、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる状況にある。

また、収支に係る計画や予測が策定され、関係者に明示されている。

さらに、学校を設置する法人の財務諸表等がホームページや教職員に公表されており、会計監査も適正に行われている。



基準 1 1 管理運営

(1) 観点ごとの自己評価

観点 11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点にかかる状況) 近畿大学高専の管理運営は、「学校法人近畿大学」の管理運営方針、規則のもとで高専独自の管理運営を行っているので、まず学校法人近畿大学の管理運営を、本校と関わりのある部分を説明する。

学校法人近畿大学の管理運営は、大きくは寄附行為、学則、職制、事務組織規程、職員就業規則、併設学校学則によって、運営されている。

学校法人近畿大学寄附行為は、昭和 26 年 2 月 21 日施行、平成 17 年 4 月 1 日改正となっており(資料 1 1-1-①-1)、その第 4 条に、設置する学校として、短期大学、附属高校などと並んで、(4)工業高専を設置することが記載されている。また第 14 条にて、この法人の業務の決定は、理事会によって行うとある。第 7 条にて、理事は評議員の中から選任したものを含むこと

資料 1 1-1-①-1

第 1 章 寄附行為等(学校法人近畿大学寄附行為)

○学校法人近畿大学寄附行為

(昭和26年2月21日)  
(認 可)

最近改正 平成17年4月1日

第 1 章 総則

第 1 条 この法人は、学校法人近畿大学と称する。

第 2 条 この法人は、事務所を大阪府東大阪市小若江 3 丁目 4 番 1 号に置く。

第 2 章 目的及び設置する学校

第 3 条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従って学校教育を行い、建学の精神に沿って、教育理念である「人に愛され、信頼され、尊敬される人」を育成することを目的とする。

2 この法人は、前項のほか私立学校法第 26 条による事業を行う。

第 4 条 この法人が前条第 1 項に規定する目的を達成するために設置する学校は、次に掲げるものとする。

(1) 近畿大学

法科大学院(法務研究科)

大 学 院(法学研究科、商学研究科、経済学研究科、総合理工学研究科、薬学研究科、文

(3) 近畿大学九州短期大学 生活福祉情報科、保育科、通信教育部(生活福祉情報科、保育科)

(4) 近畿大学工業高等専門学校 総合システム工学科

(5) 近畿大学附属高等学校 全日制課程(普通科、理数科)

**第7条** 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 近畿大学学長
- (2) 評議員のうちから選任された者 2名以上5名以内
- (3) この法人の功労者及びこの法人に関係ある学識経験者のうちから選任された者 4名以上9名以内

**第14条** この法人に理事をもって組織する理事会を置く。

2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。

**第17条** 評議員会は、次に掲げる評議員をもって組織する。

- (1) この法人の設置する短期大学、高等専門学校、附属の高等学校、中学校、小学校、幼稚園及び看護専門学校の学長、校長又は園長
- (2) この法人の設置する学校の教職員のうちから選任された者 12名以上17名以内

**第22条** 第36条から第38条までに規定するもののほか、次に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ、評議員会の意見を聞かなければならない。

- (1) 予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）及び重要な資産の処分に関する事項
- (2) 事業計画
- (3) 合併
- (4) 運用財産中不動産及び積立金の管理に関する事項
- (5) 収益事業に関する重要事項

が記載され、さらに第17条にて、評議員は高専の校長を含むことが記載されている。第22条にては、法人の解散を含む重要事項については、理事長が評議員会の意見をきかなければならないことが記載されている。

近畿大学工業高等専門学校学則においては、第1条にて、「本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」ということが記載されている（資料11-1-①-2）。



資料 1 1 - 1 - ① - 2

第15章 併設学校（近畿大学工業高等専門学校学則）

○近畿大学工業高等専門学校学則

（昭和37年4月1日）

最近改正 平成18年4月1日

本校には、本科と専攻科がある。専攻科に関わる学則は12章にまとめる。

第1章 総則

第1条 本校は、教育基本法の本質にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

職員に関しては、昭和42年1月1日施行、平成17年4月1日改正の学校法人近畿大学職制（資料11-1-①-3）に決められている。第2条に、高専を含む近畿大学学園の職員は、学校法人近畿大学がこれを任命または委嘱することが記載されている。さらに第26条において「近畿大学工業高等専門学校長は、学長の推薦に基づき理事長が任命する。」「教授、その他職員は、校長の推薦に基づいて、又は意見を聞いて任命又は委嘱する。」と定められている。校長等の職務については、第28条に「校長は、校務を掌理し、所属職員を監督する・・・副校長及び校長補佐は校長を補佐する・・・教務主事は、校長の命を受け、教務に関することを掌理する・・・」とあり、さらに第30条に、「工業高専に事務長を置く。必要あるときはその他役職を置く・・・事務長は、理事長又は校長の命を受け、庶務、会計、用度及び施設に関する事務を掌理する・・・」と規定されている

## ○学校法人近畿大学職制

（昭和42年 1 月 1 日）

最近改正 平成18年 4 月 1 日

### 第 1 章 総則

#### （学園）

第 1 条 学校法人近畿大学が設置する次の学校及び施設をもって近畿大学学園と総称する。

- (1) 近畿大学
- (2) 近畿大学短期大学部
- (3) 近畿大学九州短期大学
- (4) 近畿大学工業高等専門学校

第 2 条 近畿大学学園の職員は、学校法人近畿大学がこれを任命又は委嘱する。

第 26 条 近畿大学工業高等専門学校長は、学長の推薦に基づき理事長が任命する。

2 教授、その他職員は、校長の推薦に基づいて、又はその意見を聞いて任命又は委嘱する。

（副校長等）

第 28 条 校長は、校務を掌理し、所属職員を監督する。

- 2 副校長及び校長補佐は、校長を補佐する。
- 3 教務主事は、校長の命を受け、教務に関することを掌理する。
- 4 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関することを掌理する。
- 5 図書館長は、校長の命を受け、図書館の業務を掌理する。
- 6 寮務主事は、校長の命を受け、在寮生の監督指導に関することを掌理する。
- 7 学科長は、校長の命を受け、当該学科の教務を掌理する。

第 30 条 工業高専に事務長を置く。必要あるときはその他役職を置く。

- 2 事務長は、理事長又は校長の命を受け、庶務、会計、用度及び施設に関する事務を掌理する。
- 3 事務職員、現業職員及び看護師は、上司の指揮を受け事務又は現業に従事する。

事務管理に関しては、昭和43年9月1日施行、平成16年4月1日改訂の学校法人近畿大学事務組織規定により定められている（資料11-1-①-4）。第2条2項にて、「各短大その他各附属学校に事務部又は事務室を置く。」と定められ、高専はここに入る。

資料11-1-①-4

第3章 組織・職制（学校法人近畿大学事務組織規程）

## ○学校法人近畿大学事務組織規程

（昭和43年9月1日）

最近改正 平成16年4月1日

**第1条** この規程は、学校法人近畿大学の事務組織及び事務分掌を定めたものである。

**第2条** 次の部・室及び課を置く。

企 画 室

総 務 部 秘書課 総務課 研究助成課 広報課 校友課

2 各短大その他各附属学校に事務部又は事務室を置く。

以上より、高専は、法人と係わる事項の執行のためには、関連部署を通して、理事長決裁を取らなくてはならない。高専の人事採用に関しては、事前に理事長の了解を得た後、面接実施、学長推薦、理事長の任命を受ける。入試に関しても理事長の決済が必要である。人件費支払い等の業務は本部に一元化されており、理事長の決済後に支払いが可能になる。工業高専に完全に任されているのは、日常業務の執行であり、入試・人事・管理・資金・海外出張・IT推進等に関わる重要事項の執行は全て法人本部の了解を取らなくてはならないものとなっている。

以上のように、近畿大学高専の管理運営を理解するには、本校を学校法人が経営していることを理解せねばならない。人事・物品・資金についてだけでなく、教学に関わる重要事項についても校名・学科名変更、学科再編、専攻科設置等、学則変更に関わる事項は、本部事務当局の承認、常勤理事・理事長決裁を得た後、理事会・評議員会の決議を必要とし、教学人事・入試合否等の決裁は近畿大学学長を経て理事長の承認を得る形を取らなくてはならない。

本校の意思決定は、近畿大学学園の意思決定システムに準じながら行われるものだが、改革提案については、校長からの理事長への上申、理事長の了解、校長から近畿大学園事務当局への決裁書提出、関係当局者の合議、常勤理事・理事長承認を経て、前へと進むのである。

高専内部においては、校長以下各部門、委員会組織は、資料11-1-①-5のように定められている。資料では横断的でない委員会省いてある。高専の運営に関する最高意思決定会議は、校長以下、事務長（代理）、副校長、校長補佐による執行委員会であり、日常的な運営は、各部門の長で構成される運営会議で行われる。運営会議では、学科の長、3主事は必ず参加するが、その他の部門の長は必要に応じて参加する。教職員会議では、原則として全教職員が参

加し、主に主要な決定事項の徹底が図られる。委員会の決定事項は校長に承認された後に、学校内部に知らされる。

資料 11-1-1-①-5

委員会名	役割	校長	副校長	事務長	入試、学生担当	校長補佐	専攻科	一般教養科	教務部	学生部	庶務部	進路指導部	図書部	情報処理教育センター	リエゾンセンター	コミュニケーションセンター	国際交流部	技術教育部	企画広報部	研究開発室	教育評価室	保健管理室	カウンセリング室	学習指導室	体育館	人権教育室	学年主任	クラス担任	クラブ顧問
執行委員会	近畿大学高専の最高意思を審議する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運営委員会	近畿大学高専の日常的な業務を審議する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教職員会議	全教職員に重要事項を徹底する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
評価委員会高専部会	大学本部と歩調を合わせ、教員の評価を行う	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業績審査委員会	教員の研究、教育、社会活動、業務に関する業績を審査する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教務委員会	教務に関する事項を、横断的に協議し、校長に具申する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
賞罰委員会	学生の賞罰に関して審議し、校長に具申する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
懲戒委員会	教職員の懲戒処分に関わる事項を審議する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
寮務委員会	寮管理に関わる一切の事項を協議し、校長に具申する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
入試広報委員会	入試制度、入試日程、入学志願者の募集、入試に関わる広報活動、推薦選抜・学力選抜の実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
入試判定会議	入学の進級判定の可否判定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
進級・卒業判定会議	学生の進級判定に関わる事項を審議する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
課外活動入学選考委員会	課外活動特待生、課外活動推薦入学生の選考に関わる事項	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大学推薦判定会議	大学に推薦編入学を希望する学生の推薦可能性を審議し、校長に具申する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
在外研究選考委員会	海外での研究(研究発表)に関してその妥当性を協議し、校長に具申する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
研究費運営委員会	個人研究費、別特研究費、研究助成金に関して調査、妥当性を検討し、校長に具申する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
研究紀要委員会	紀要の編集、発行および論文の募集・審査に関わる事項を審議し、校長に具申する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リエゾン委員会	熊野産官学共同研究検討委員会、高専・熊野民産学協議会等産官学共同に関わる事項	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育評価委員会	教員の教育評価、ファカルティデベロップメントに関わる事項を審議し、校長に具申する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人権教育委員会	人権に関わる事象発生時の処置、地域人権団体との連携に関わる事項	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
修学旅行委員会	修学旅行の企画、手配、学生への説明、修学旅行引率、決算関わる事項を審議し、校長に具申する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
資格取得委員会	資格取得推進の方策を協議し、校長に具申する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学生健保委員会	保健衛生に関する年間行事計画の立案、新入生オリエンテーション、学生の保健衛生研修に関わる事項	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
寮食堂委員会	寮食堂に関する事項を学生の意見も聞きながら協議し、校長に具申する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学科会議	学科内の教育、研究、業務に関わる一切の事項の決議。重要事項は校長に具申する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

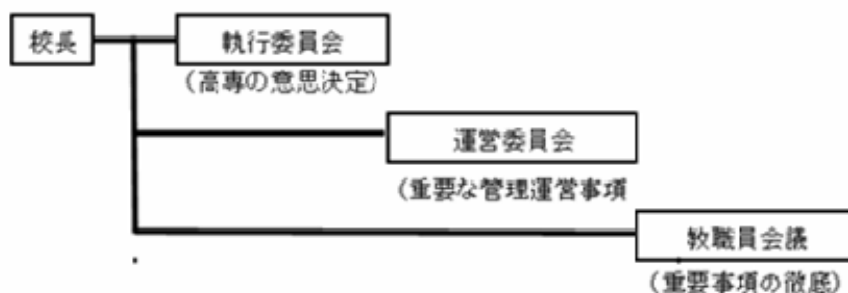
(分析結果と根拠理由) 近畿大学本部との関係で、意思決定方法および校長の役割が明確にされている。高専内部でも、校長以下、各組織、横断的な委員会の役割が明確であり、効果的な意思決定が可能になっている。

観点 11-1-1-②: 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点にかかる状況) 本校では、教育・研究・管理運営に関わる統括責任者である校長が、指導力を発揮できるよう、部・室および委員会を置き、学校運営の効率化を図っている。

校長の指導のもと、学校の管理運営には、校長、科長、主事が主催する学校の運営に関わる委員会、運営のための重要業務を処理するための教務部などの各部門、さらに日常的な事務処理を行う事務組織が関わっている。

資料 1 1 - 1 - ② - 1



資料 1 1 - 1 - ② - 1 に、学校運営に関わる重要事項の審議を校長自身が招集して行う委員会を示す。執行委員会は、事務長（代理）、副校長、校長補佐 2 名が参加する、最高の意思決定のための委員会である。重要な管理運営に関わる事項は、3 主事など部門の長も参加する運営委員会にて行われる。その決定事項は、学内 LAN で全員に伝達されるとともに、重要事項は教職員会議で、直接校長より全員に徹底される。資料 1 1 - 1 - ② - 2 は、執行委員会で人事に関することを決定した議事録例である。また資料 1 1 - 1 - ② - 3 は、運営委員会議事録例である。

資料 1 1 - 1 - ② - 2

平成19年3月8日

人事委員会（校長室）

出席：神野、西、向井、嶋野、濱田（入院のため欠席：中西祐）

議事：出席者全員承認

19年度 教員人事

採用	特任教授	溝口 博幸 (博士・50)
	特任教授	久貝 克弥 (博士・48)
	特任准教授	倉林 有 (博士・35)
	特任講師	渡辺 志 (修士・36)
	助 教	小西 大亮 (学士・28)
採用予定 昇格	准 教 授	上田 透 (修士・41)
	特任講師	栢野 智裕 (修士・27)
	助 教	園田 紀子 (学士・26)
任用替	准教授	山本 広樹 (博士・39)

機械システム工学科 (8)

上席教授A 奥田 昇也 (博士・52) 機械システム工学科長・進路指導主事補

- - -

資料 1 1 - 1 - ② - 3

平成19年2月10日

運営会議報告

日時：2月9日（金）16：30～

出席：神野、西、向井、熊笠御堂、中西弘、青木、中西祐

(1) 45周年記念誌作成委員会

(ア) 事業としては「記念誌」のみとするが、熊野祭などを「45周年記念」と冠する。

(イ) 委員構成

- ① 学内：大内
- ② 学外：古久保

(ウ) 内容

①理事長・学長、②建学史料室、③現元教職員、OB、学生、④私立高专協会関係、⑤近畿・全国高专関係、⑥外部評価委員関係、⑦学園祭、⑧スポーツクラブ関係、⑨技術系クラブ関係、⑩文化系クラブ関係、⑪研究室・研究活動紹介、⑫国際交流、⑬寮生活、⑭学生会活動、⑮保護者会・後援会、⑯支援システム

(2) 19年度人事

— — — — —

(3) 表彰

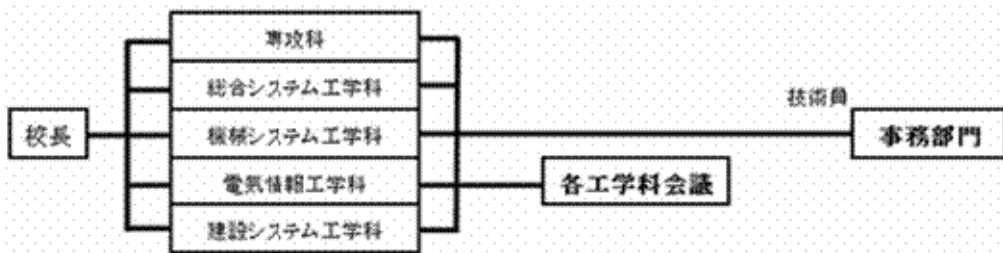
(ア) 学生（優秀選手表彰）

- ① 敷根唯：日本陸連、三重県、県教育委員会、県体育協会、県陸上競技連盟
- ② 橋本将大：県教育委員会

— — — — —

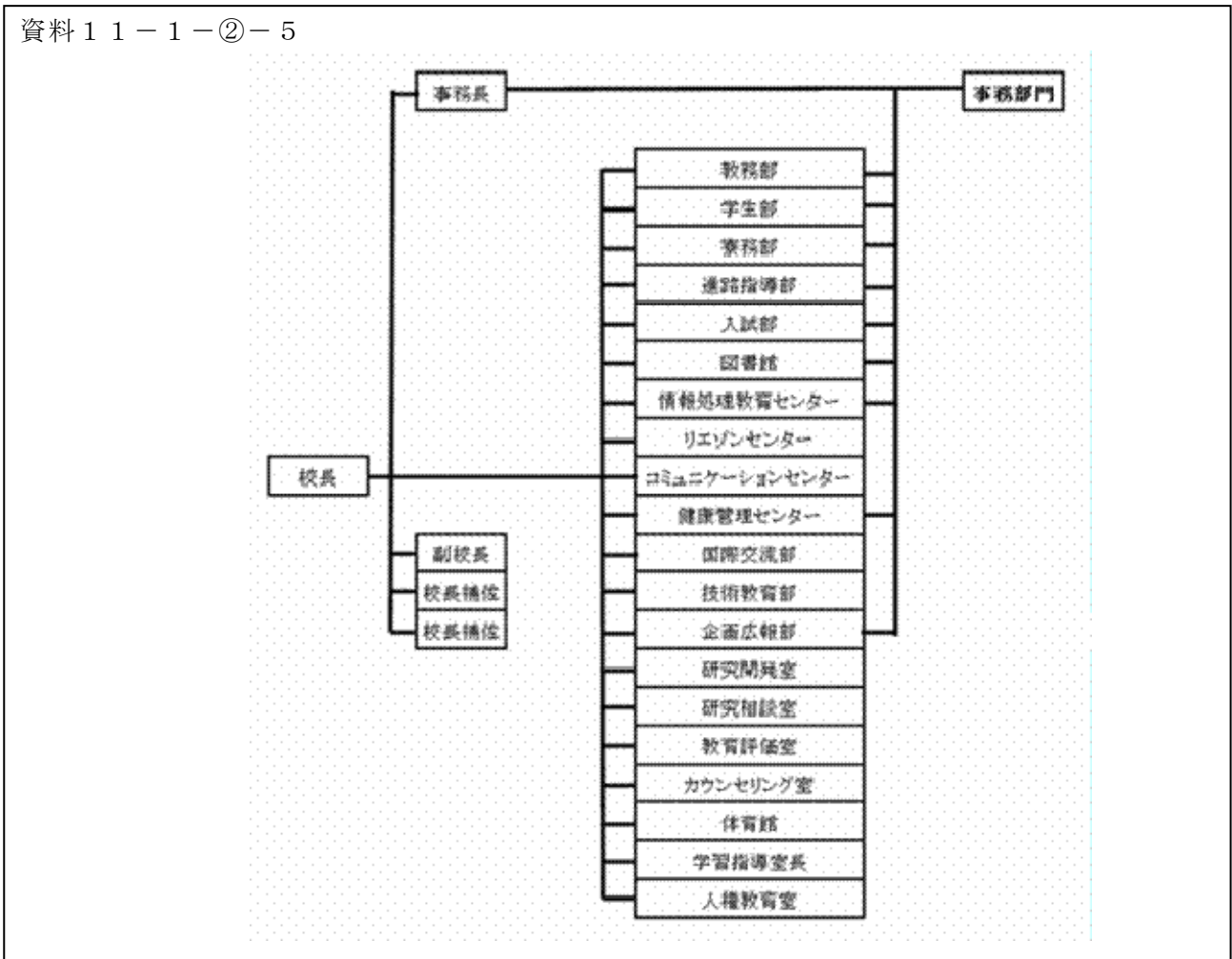
資料 1 1 - 1 - ② - 4 には、校長以下各学科組織を示す。専攻科も含む各学科に関する事項の審議は、各学科会議にて行われる。

資料 1 1 - 1 - ② - 4



学校運営のための重要業務を処理するため、副校長、校長補佐2名とともに、教務部、学生部、寮務部、進路指導部、入試部、図書館、情報処理教育センター、リエゾンセンター、コミュニケーションセンター、健康管理センター、国際交流部、技術教育部、企画広報部、研究開発室、研究相談室、教育評価室、カウンセリング室、体育館、学習指導室、人権教育室が設置されている（資料 1 1 - 1 - ② - 5）。また事務長（代理）を通じた事務部門も、校長に帰属しており、日常的な事務業務を行う事務部を管理している。一方事務部門には、教務部など事務部門以外に所属しているものもいて、当該の日常業務を行っている。

資料 1 1 - 1 - ② - 5

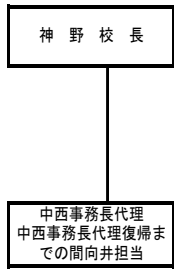


資料 1 1 - 1 - ② - 6 には近畿大学工業高等専門学校事務分掌表を示す。事務担当者は、教員兼務の管理職のほか、専任職員（技術員含む）、嘱託職員、契約職員、定時職員によって構成されている。平成 19 年度は、専任職員 3 名、嘱託職員 2 名、契約職員 10 名、定時職員 5 名というスリムな組織で運営している。

資料 11-1-②-6

19年度 事務部 職務分掌表

近畿大学工業高等専門学校事務部



総務 <中西>	○ 湊 ○ 濱田 ○ 森岡 ○ 上 ○ 羽根 ○ 山中 ◇ 池田 ◇ 伊東リエ	校長業務等に関する事項(中西・池田・湊) 経常費補助金に関する事項(濱田・上) 補助金(特別補助)に関する事項(濱田・上) 諸規定の改廃に関する事項(湊・森岡) 教職員(専任・非常勤)の服務に関する事項(湊・森岡) 人事・給与に関する事項『人事・給与支給』『給与控除』(湊・森岡) 教職員の福利厚生に関する事項(山中) 予算・決算に関する事項(中西・濱田・筒井・森岡) 官公庁への申請・届出・報告に関する事項(中西・森岡・伊藤豊・谷口) 文部科学省・学位授与機構に関する事項(中西・嶋野・谷口) 公文書および決裁書などの整理保管に関する事項(湊・森岡) 公印の保管・使用に関する事項(湊・森岡) 外部評価委員会に関する事項(中西・西・嶋野・谷口)
会計 <濱田>	○ 上 ○ 湊 ○ 羽根	予算・決算に関する事項(中西・濱田・筒井・森岡・上・羽根) 現預金、有価証券の出納に関する事項(濱田・上・羽根) 特別会計に関する事項(預貯金等会計管理)(濱田・上・羽根) 経常経費の請求・支払に関する事項(濱田・上・羽根) 研究費(中西・西・中村・濱田・筒井・上) 職員研修費に関する事項(濱田・上) 科研費・共同研究・受託研究に関する事項(中西・西・中村・濱田・上) 教職員の出張に関する事項『国内旅費』『海外旅費』(中西・中村・溝口・湊) 学費、寮費等学生納付金に関する事項(濱田・湊・上) : 教務部・学生部・入試部 郵便切手等の出納に関する事項(羽根)
管理 <筒井>	○ 山中 ○ 湊 ○ 濱田 ○ 森岡 ○ 中門 ○ 伊藤康弘 ◇ 伊東リエ ◇ 濱中	学校固定資産の管理、保守、購入等に関する事項(筒井・山中) 物品・消耗品等の調達に関する事項(筒井・山中) 防災・危機管理に関する事項(筒井・五十石・濱田・森岡・伊藤康) 自動販売機の維持管理に関する事項(筒井・山中) 施設設備の使用、貸与に関する事項『体育施設』(辻本・筒井・山中) 『他の施設・備品』(筒井・山中) 経常費補助金に関する事項(筒井・山中) 個人研究費等に関する事項(筒井・山中) 学生購入物品に関する事項(倉本・筒井・山中) 売店・食堂に関する事項(熊笠御堂・筒井・山中) 施設設備の管理・営繕に関する事項(筒井・伊藤康・中門・濱中) 予算・決算に関する事項(筒井・山中) 寮食堂に関する事項(岸・筒井・山中) 学校敷地内の清掃、整備に関する事項(森岡・中門・伊藤康・伊東リエ) 整備計画に関する事項(中西・筒井・森岡)
庶務 <中西>	○ 湊 ○ 森岡 ○ 伊藤康弘 ○ 中門 ◇ 伊東リエ	来客の受付・案内に関する業務(伊東リエ…2時以降は案内板を出す) 郵便物・宅配の受付、管理に関する事項(伊東リエ・池田・湊) リエゾン業務(アカデミックセミナー)に関する事項(青木・森岡) 後援会、保護者会・同窓会に関する事項(熊笠御堂・倉本・森岡・羽根) 儀式、式典諸行事に関する事項(筒井・伊藤豊・濱田・森岡・伊藤康・山中) 教員給茶室管理(伊東リエ)
教務 <嶋野>	○ 谷口 ○ 湊	教務に関する事項(嶋野・伊藤豊・林・谷口) 学習指導要録等の保管に関する事項(伊藤豊・谷口・湊) 公開講座に関する事項(青木・森岡・谷口・羽根) 入学試験願書・入学手続きに関する事項(伊藤豊・谷口・湊) 学生への各種証明に関する事項(湊・谷口・羽根) 学生への奨学金に関する事項(畑山・谷口)
入試・広報 <向井>	○ 湊 ○ 谷口	学生募集に関する事項(向井・大内・森岡・湊・谷口・伊藤) 入試広報に関する事項(入試部・企画広報室)『入試部』(向井・大内・森岡・伊藤) 高専新聞・雑誌に関する事項『企画広報室』(大内・重村)
情報 <村松>	○ 政清 ○ 大家 ◇ 元屋敷	情報処理教育センター業務に関する事項(村松・大家) 学生貸与ノートパソコン管理に関する事項(本田・大家・元屋敷) 情報ネットワークの構築に関する事項(政清・大家)
図書館 <今井>	◇ 鍋割	図書館業務に関する事項
技術員 <村田圭・山本広ほか>	○ 黒崎 ○ 中井	機械システム工学科実習指導 電気情報工学科実験指導 施設メンテナンス
進路指導部 <村田圭>	○ 村田圭 ◇ 山本恵	企業情報データ打ち込み 大学等進路指導資料作成
健康管理センター <和田>	○ 木村	救急看護 結核予防費補助金に関する事項 日本体育学校健康センターに関する事項 学生・教職員の健康管理に関する事項 学生健保互助会会計決裁処理に関する事項 学生健保共済会に関する事項
寮務部 <岸>	○ 伊藤康 ○ 中門 ◇ 浜中	寮生郵便物・宅配の受付、管理に関する事項(濱中・伊藤康・中門) 寮施設設備の管理・営繕に関する事項(岸・筒井・伊藤康・中門・濱中) 寮生自転車管理(伊藤康)
学生部 <熊笠御堂>	○ 筒井 ○ 上 ○ 羽根	クラブ活動補助費に関する事項(松尾・筒井・上・羽根) 熊野際に関する事項(上田・上・羽根) 大会出場補助に関する事項(松尾・上・羽根)

※<太字>=事務主担当者

\*将来的には事務職員は全部署の業務に精通する体制を目指す



過疎化、少子化の僻地にある近畿大高専の生きる道は、優秀教員採用による高度化と共に、人件費の抑制を中心とした経費節減を図り、学費を軽減しながら、教育研究活動の活性化を図ることにある。事務部門をスリム化した一方で、一部の教員は、教育を犠牲にしない程度に管理的な事務的業務も行っている。教員が参画することにより、たとえば国際交流、入試・広報などの業務では、事務員とのコミュニケーションロスもなく、より効果的な戦略、実行が可能になっている。また教員自身の給料も国立高専並みに抑えて、その分を研究助成金にまわすことにより、教員の研究への意欲を高めている。

(分析結果と根拠理由) 非常に厳しい人事体制にあるが、公正な人件費配分や競争的環境づくりによって、今まで以上に生き活きと働く環境づくりが構築されてきており、「管理運営のための組織並びに事務組織が学校の目的を達成するために適切な機能を果たしている。」と言える。

#### **観点 1 1 - 1 - ③：管理運営の諸規定が整備されているか。**

(観点にかかる状況) 近畿大高専には、数千頁に及ぶ近畿大学学園例規集(資料 1 1 - 1 - ③ - 1)が備えられており、例規集の中には高専独自のもの(資料 1 1 - 1 - ③ - 1 の第 15 章)もあり、学園全体に適用されるものもある。資料には、第 1 章から第 3 章までしか示していないが、その後第 4 章 庶務から、第 5 章 人事・給与、第 6 章 研究・研修、第 7 章 財務、第 8 章 施設・管理、第 9 章 教務、第 10 章 学生、第 11 章 図書館、第 12 章 共同利用等、第 13 章 研究所等、第 14 章 通信教育、第 15 章 併設学校、第 16 章 その他 と続く。

資料 1 1 - 1 - ③ - 1

目 次 (第 1 章 寄附行為等)

〔目 次〕

第 1 章 寄附行為等

○学校法人近畿大学寄附行為	51
○常勤理事に関する規程	78
○名誉理事に関する規程	79
○顧問に関する規程	80
○近畿大学名誉学長に関する規程	81

第 2 章 学 則

○近畿大学学則	201
○近畿大学大学院学則	392
○近畿大学法科大学院学則	488
○近畿大学留学生別科規程	526
○近畿大学短期大学部学則	559
○近畿大学九州短期大学学則	617
○近畿大学九州短期大学別科学則	631

(高等専門学校、各高等学校、各中学校、小学校、各幼稚園、看護専門学校の学則は、第15章に収録)

第 3 章 組織・職制

○学校法人近畿大学職制	901
○学校法人近畿大学事務組織規程	928
○近畿大学大学協議会規程	1016
○学部長会議規程	1018
○事務部長会議規程	1019

(分析結果と根拠理由) 近畿大高専には、法人全体共通のもの及び高専独自の「管理運営の諸規定」が整備されている。

観点 1 1 - 2 - ①：外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点にかかる状況) 平成 16 年に、外部評価委員会を設置することを決定し、外部評価委員会規定を設けた(資料 1 1 - 2 - ① - 1)。委員の任期は 1 年(再任可)であり、平成 18 年度

の外部評価委員は、資料11-2-①-2のようにになっている。また平成19年の2月7日には、教務関連に関する外部評価委員会を実施し、その結果を平成18年度の「外部評価委員会報告書」として小冊子にまとめた。

資料11-2-①-1

○ 近畿大学工業高等専門学校外部評価委員会規程

制定 平成16年10月1日

(趣旨)

第1条 近畿大学工業高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し必要な事項は、この規程の定めるところによる。

(委員)

第2条 委員会の委員は、人格識見が高く、かつ、近畿大学工業高等専門学校の振興発展に関心と理解のある学外者のうちから、校長が選考した若干名とする。

2 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選とする。

3 委員長の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員会の開催)

第4条 委員会は、近畿大学工業高等専門学校の校長の求めに応じて開催する。

(検証項目)

第5条 教育・研究評価に関する検証項目は、次の事項とする。

- 一 教育理念・目標に関すること
- 二 教育活動に関すること
- 三 学生生活に関すること
- 四 学生寮に関すること
- 五 研究活動に関すること
- 六 国際交流に関すること
- 七 産学連携に関すること
- 八 その他委員会が必要と認める事項

2 管理運営評価に関する検証項目は、次の事項とする。

- 一 社会との連携に関する事
- 二 学校運営に関する事
- 三 学校経営に関する事
- 四 将来計画に関する事
- 五 施設整備に関する事
- 六 自己点検・評価体制に関する事
- 七 その他委員会が必要と認める事項

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

(出典：近畿大学工業高等専門学校内部資料)

### 資料1 1-2-①-2

#### 3 外部評価委員会委員会構成

(敬称略、五十音順)

委員長	東 市郎	北海道薬科大学教授
副委員長	興地 斐男	大阪大学名誉教授
教務部会		
部会長	東 市郎	
委員	江藤 剛治	近畿大学教授
委員	興地 斐男	
委員	小野 正行	近畿大学産業理工学部学部長
委員	小畑 力人	和歌山大学副学長・理事
委員	河上 敢二	熊野市長
委員	四方 修	(株)一富士債権回収 社長
委員	辻 ミチ子	京都市歴史資料館評議員
委員	徳田 昌則	東北大学名誉教授
委員	原野 幸康	日本高等教育評価機構専務理事
委員	室津 義定	大阪府立大学名誉教授

#### 地域部会

委員	朝尾 高明	後援会会長
部会長	河上 敢二	
委員	谷川 醸太郎	吉野熊野新聞社長
委員	内藤 平美	同窓会会長
委員	倉谷耕一郎	紀南中学校長会会長
委員	西田 健	紀宝町長
委員	本山 拓哉	保護者会会長

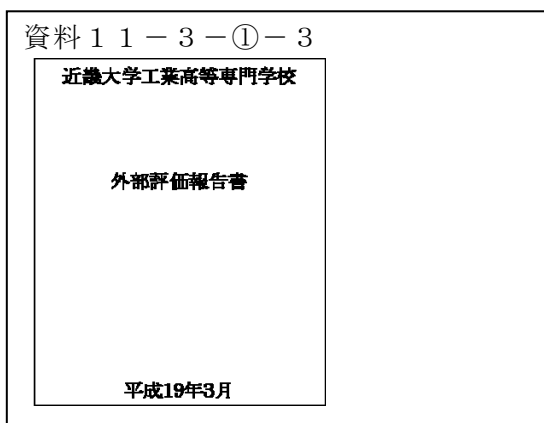
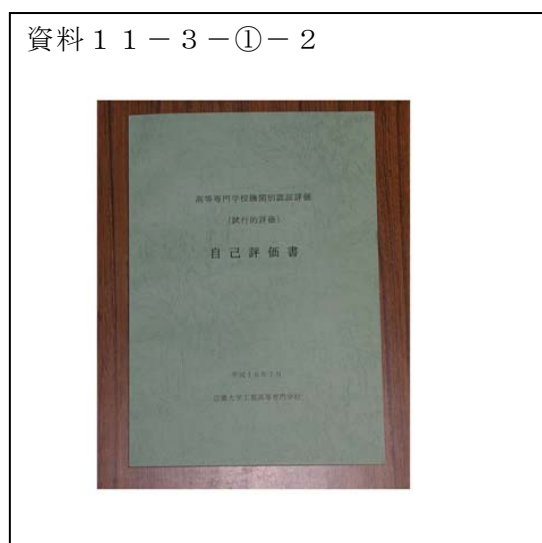
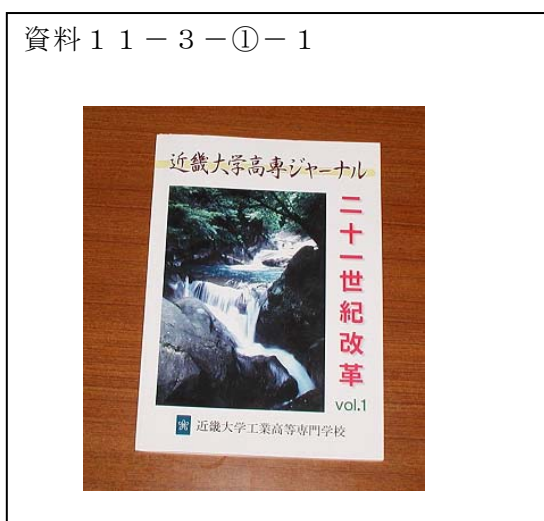
(出典：平成18年度外部評価報告書)

外部評価の中で指摘された提言に関しては、できるものから実行に移している。たとえば、「女性教員増にも配慮してほしい」という指摘に対して、平成19年度より専任で1名、非常勤講師・寮監で1名、さらに女性の非常勤講師を授業外でも図書館に配置し、女子学生を中心とした種々の相談にも対応してもらうことにした。

(分析結果と根拠理由) 外部評価を実施している。評価結果を平成18年度外部評価報告書としてまとめた。その中で指摘された提言に対しては、直ちに着手可能なものは実行に移した。

**観点11-3-①：自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。**

(観点にかかる状況) 資料11-3-①-1の「近畿大高専ジャーナル21世紀改革」、平成16年度の自己評価書(資料11-3-①-2)、平成17年度の自己評価およびそれに基づく平成18年度の外部評価(資料11-3-①-3)と、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備等の総合的な状況に係わる分析を継続的に行っている。それらは、「近畿大高専新聞(資料11-3-①-4)」、あるいはホームページ上(<http://www.ktc.ac.jp/>)などで公開している。



(分析結果と根拠理由) 「近畿大高専ジャーナル21世紀改革」、「近畿大高専自己評価書」、「近畿大高専外部評価書」、「近畿大高専新聞」等において、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備等の総合的な状況に係わる分析及び改革の状況が公表されている。平成16年度においては、大学評価・学位授与機構高等専門学校機関別認証評価委員会による「試行的評価」を受けた。平成18年度には、「自己評価書」作成後「外部評価」を受けた。

**観点11-3-②：評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。**

(観点にかかる状況) 評価結果は、評価を受ける本学内担当者から校長を通じて学校内で直ちに周知され、検討される体制が整っている。資料11-3-②-1には、平成18年度の外部評価を受けた場合に、外部評価委員長から評価・提言を受け、それを直ちに校長を含め関係者が検討会を行うとした、学校内のメール案内を示す。このようにすぐに検討を始めるとともに、校長も参加することから、必要な場合には運営会議、執行部会も開催後、可能な改善策は直ちに実行に移されることになる。また「近畿大高専ジャーナル21世紀改革」や「近畿大高専新聞」に報告されている改革前と改革後の内容は、「具体的な改善を行うシステムが整えられ、実際に機能している」ことを示している。

資料11-3-②-1

差出人：西 謙二(生産システム(専攻科)) 2007/4/14(土) 11:43  
宛先：神野 稔, 西 謙二, 向井 康恩, 嶋野 彰夫, 熊埜御堂 茂, 岸 純男, 今井 健一, 村田 圭治, 中西 祐啓, 大内 清司, 竹内 春樹, 林 泰弘, 鈴木 隆, 神田 毅, 畑山 伸訓, 荒賀 浩一

(これは、認証評価の各基準担当の先生と、3主事、林先生に送付しています)  
下記のように、外部評価報告書案(東委員長作成)の読合せ検討会を行いますので、ご参集ください。

日時：4月17日(火) 16:30-  
場所：校長室

それまでに、添付の報告書に目を通しておいってください。

以上

報告書1(東).rtf (application/rtf) 詳細 105 KB  
終わりに(東).doc (application/msword) 詳細 32 KB

(出典：近畿大学工業高等専門学校イントラネット画面)

(分析結果と根拠理由) 評価を受けた場合に、評価担当の教員から校長を含めてすぐに検討を行うシステムが機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 予算規模が1千億円を超える近畿大学園という組織ではあるが、理事長による現場責任者の任命、トップと現場責任者とのラインによる合意形成と本部決裁システムによる承認の整合性を図ることによって、トップダウンにより、効率的な管理運営システムを構築している。

(改善を要する点) 該当なし。

## (3) 基準11の自己評価の概要

近畿大学の管理運営は寄附行為、学則、職制、事務組織規程、併設学校学則等によって運営されており、意思決定方法および校長の役割が明確にされている。本校内部においても、校長以下、各組織、横断的な委員会の役割が明確であり、効果的な意思決定が可能になっている。

学校運営のための業務は校長の下、副校長、校長補佐2名と各校務分掌組織が行い、学科に関する事項の審議は学科会議にて行われる。管理運営上の重要事項は運営委員会や執行委員会の審議を経て、学内イントラネットまたは教職員会議を通じて全教職員に徹底されるシステムとなっている。

管理運営の諸規定は数千頁に及ぶ近畿大学学園例規集に収められており、法人全体共通のもの及び本校独自の「管理運営の諸規定」が整備されている。

外部評価委員会制度を制定し、18名からなる外部評価委員による外部評価委員会を平成18年度に実施した。評価結果を外部評価報告書としてまとめ、その中で指摘された提言のうち直ちに着手可能なものは実行に移した。自己点検・評価に関しては「近畿大高専ジャーナル21世紀改革」、「近畿大高専自己評価書」、「近畿大高専新聞」等において、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備等の総合的な状況に係わる分析及び改革の状況が公表されている。評価結果は評価担当の教員から校長を通じて教職員に周知されすぐに検討を行うシステムが機能している。